

滝沢村文化財調査報告書第2集

# 湯舟沢遺跡

(第2分冊)

昭和61年9月

滝沢村教育委員会  
岩手県文化振興事業団  
理窟文化財センター  
トーメン住宅開発株式会社

滝沢村文化財調査報告書第2集

# 湯舟沢遺跡

(第2分冊)

昭和61年9月

滝沢村教育委員会  
財 岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター  
トーメン住宅開発株式会社

題 字

滝沢村教育長 高 濱 善太郎

# 総目次

## (第1分冊)

発刊のことば	
序	
例言	
調査に至る経過と調査要項	21
調査の方法	24
村内の遺跡	33
地形・地質	35
2区	39
3区	97
4区	503

## (第2分冊)

5区	25
6区	257
7区	439
8区	475
9区	705
10 N 区	727
10 S 区	763
鑑定・分析	807



## 5 区本文目次

I. 調査区地形概観……………29	I. 遺構……………163
II. 検出遺構と遺構内出土遺物……………29	(1)縄文・弥生時代竪穴住居址……………163
1. 縄文・弥生時代竪穴住居址……………29	(2)弥生時代竪穴住居址……………164
2. 炉址中・焼土構……………95	(3)炉址・焼土遺構……………164
3. ビット……………104	(4)ビット……………164
4. 埋設土器……………105	(5)埋設土器……………165
III. 遺構外出土遺物……………106	2. 遺物……………165
1. 土器……………106	(1)土器……………165
2. 土製品……………117	(2)土製品……………165
3. 石器……………138	(3)石器……………165
4. 石製品……………142	(4)石製品……………166
IV. まとめ……………163	

## 5 区表目次

表1 円盤状土製品一覧表……………166	表11 石器・石製品一覧表(6)……………176
表2 縄文・弥生時代竪穴住居址一覧表 167	表12 石器・石製品一覧表(7)……………177
表3 土器一覧表(1)……………168	表13 石器・石製品一覧表(8)……………178
表4 土器一覧表(2)……………169	表14 石器・石製品一覧表(9)……………179
表5 土器一覧表(3)……………170	表15 石器・石製品一覧表(10)……………180
表6 石器・石製品一覧表(1)……………171	表16 石器・石製品一覧表(11)……………181
表7 石器・石製品一覧表(2)……………172	表17 石器・石製品一覧表(12)……………182
表8 石器・石製品一覧表(3)……………173	表18 石器・石製品一覧表(13)……………183
表9 石器・石製品一覧表(4)……………174	表19 石器・石製品一覧表(14)……………184
表10 石器・石製品一覧表(5)……………175	

## 5 区図版目次

<p>第1図 5区遺構配置図……………27</p> <p>第2図 VII Lc - 1住居址・VII Lc - 2 住居址……………31</p> <p>第3図 VII Lc - 1住居址出土遺物(1) ……32</p> <p>第4図 VII Lc - 1住居址出土遺物(2) ……33</p> <p>第5図 VII Lc - 2住居址出土遺物(1) ……35</p> <p>第6図 VII Lc - 2住居址出土遺物(2) ……37</p> <p>第7図 VII Lc - 3住居址 ……38</p> <p>第8図 VII Lc - 3住居址出土遺物 ……39</p> <p>第9図 VII Ld住居址・出土遺物 ……41</p> <p>第10図 VII Le - 1住居址 ……43</p> <p>第11図 VII Le - 1住居址出土遺物(1) ……45</p> <p>第12図 VII Le - 1住居址出土遺物(2) ……46</p> <p>第13図 VII Le - 1住居址出土遺物(3) ……47</p> <p>第14図 VII Le - 2住居址・出土遺物(1) ……49</p> <p>第15図 VII Le - 2住居址出土遺物(2) ……51</p> <p>第16図 VII Lf住居址・出土遺物 ……53</p> <p>第17図 VII Lg住居址・出土遺物 ……55</p> <p>第18図 VII Lk住居址・出土遺物(1) ……57</p> <p>第19図 VII Lk住居址出土遺物(2) ……58</p> <p>第20図 VII Mn住居址・出土遺物 ……60</p> <p>第21図 VII Mb - 1住居址・出土遺物(1) ……………63</p> <p>第22図 VII Mb - 1住居址出土遺物(2) ……64</p> <p>第23図 VII Mb - 2住居址・出土遺物 ……66</p> <p>第24図 VII Mc住居址・出土遺物……………68</p> <p>第25図 VII Md - 1住居址・出土遺物(1) ……………70</p> <p>第26図 VII Md - 1住居址出土遺物(2) ……71</p>	<p>第27図 VII Md - 2住居址・出土遺物 ……73</p> <p>第28図 VII Me住居址・出土遺物(1)……………75</p> <p>第29図 VII Me住居址出土遺物(2)……………76</p> <p>第30図 VII Mf - 1住居址・出土遺物(1) ……78</p> <p>第31図 VII Mf - 1住居址出土遺物(2) ……79</p> <p>第32図 VII Mf - 2住居址・出土遺物 ……81</p> <p>第33図 VII Mg住居址・出土遺物 ……84</p> <p>第34図 VII Na - 1住居址・出土遺物(1) VII Ne - 1住居址……………86</p> <p>第35図 VII Na - 1住居址出土遺物(2) VII Ne - 1住居址出土遺物……………87</p> <p>第36図 VII Na - 2住居址・出土遺物……………89</p> <p>第37図 VII Ne - 2住居址・出土遺物……………93</p> <p>第38図 VII Ng住居址状遺構・出土遺物…94</p> <p>第39図 炉址・焼土遺構(1) ……100</p> <p>第40図 焼土遺構(2) ……101</p> <p>第41図 焼土遺構(3) ……102</p> <p>第42図 焼土遺構出土遺物(1) ……103</p> <p>第43図 焼土遺構出土遺物(2) ……104</p> <p>第44図 VII Mf ビット・出土遺物 ……105</p> <p>第45図 VII Ld埋設土器 ……106</p> <p>第46図 5区遺構外出土遺物(1) ……118</p> <p>第47図 5区遺構外出土遺物(2) ……119</p> <p>第48図 5区遺構外出土遺物(3) ……120</p> <p>第49図 5区遺構外出土遺物(4) ……121</p> <p>第50図 5区遺構外出土遺物(5) ……122</p> <p>第51図 5区遺構外出土遺物(6) ……123</p> <p>第52図 5区遺構外出土遺物(7) ……124</p> <p>第53図 5区遺構外出土遺物(8) ……125</p>
--	---

第54图	5区遺構外出土遺物(9)	126	第70图	5区遺構外出土遺物(5)	147
第55图	5区遺構外出土遺物(10)	127	第71图	5区遺構外出土遺物(6)	148
第56图	5区遺構外出土遺物(11)	128	第72图	5区遺構外出土遺物(7)	149
第57图	5区遺構外出土遺物(12)	129	第73图	5区遺構外出土遺物(8)	150
第58图	5区遺構外出土遺物(13)	130	第74图	5区遺構外出土遺物(9)	151
第59图	5区遺構外出土遺物(14)	131	第75图	5区遺構外出土遺物(10)	152
第60图	5区遺構外出土遺物(15)	132	第76图	5区遺構外出土遺物(11)	153
第61图	5区遺構外出土遺物(16)	133	第77图	5区遺構外出土遺物(12)	154
第62图	5区遺構外出土遺物(17)	134	第78图	5区遺構外出土遺物(13)	155
第63图	5区遺構外出土遺物(18)	135	第79图	5区遺構外出土遺物(14)	156
第64图	5区遺構外出土遺物(19)	136	第80图	5区遺構外出土遺物(15)	157
第65图	5区遺構外出土遺物(20)	137	第81图	5区遺構外出土遺物(16)	158
第66图	5区遺構外出土遺物(21)	143	第82图	5区遺構外出土遺物(17)	159
第67图	5区遺構外出土遺物(22)	144	第83图	5区遺構外出土遺物(18)	160
第68图	5区遺構外出土遺物(23)	145	第84图	5区遺構外出土遺物(19)	161
第69图	5区遺構外出土遺物(24)	146	第85图	5区遺構外出土遺物(20)	162

## 5区写真図版目次

写真図版1	5区空中写真・近景	187	写真図版9	VII Lg 住居址	195
写真図版2	VII Lc-1 住居址	188	写真図版10	VII Lk 住居址	196
写真図版3	VII Lc-2・VII Lc-3 住居址 .....	189	写真図版11	VI Mn 住居址	197
写真図版4	VII Lc-3・VII Ld 住居址 .....	190	写真図版12	VII Mb-1 住居址	198
写真図版5	VII Ld・VII Le-1 住居址 .....	191	写真図版13	VII Mb-2 住居址	199
写真図版6	VII Le-1・VII Le-2 住居址	192	写真図版14	VII Mc 住居址	200
写真図版7	VII Le-2 住居址	193	写真図版15	VII Md-1 住居址	201
写真図版8	VII Lf 住居址	194	写真図版16	VII Md-2・VII Me 住居址 .....	202
			写真図版17	VII Me・VII Mf-1 住居址 .....	203
			写真図版18	VII Mf-1・VII Mf-2	

	住居址	204	写真図版42	5区遺構内出土遺物04	228
写真図版19	VII Mg・VII Na - 1 住居址		写真図版43	5区遺構内出土遺物05	229
	.....	205	写真図版44	5区遺構外出土遺物(1)	230
写真図版20	VII Na - 1・VII Ne - 1		写真図版45	5区遺構外出土遺物(2)	231
	住居址	206	写真図版46	5区遺構外出土遺物(3)	232
写真図版21	VII Ne - 1・VII Na - 2		写真図版47	5区遺構外出土遺物(4)	233
	住居址	207	写真図版48	5区遺構外出土遺物(5)	234
写真図版22	VII Na - 2・VII Ne - 2		写真図版49	5区遺構外出土遺物(6)	235
	住居址	208	写真図版50	5区遺構外出土遺物(7)	236
写真図版23	VII Ne - 2・VII Ng 住居址・		写真図版51	5区遺構外出土遺物(8)	237
	VII Lg 炉址	209	写真図版52	5区遺構外出土遺物(9)	238
写真図版24	焼土遺構(1)	210	写真図版53	5区遺構外出土遺物00	239
写真図版25	焼土遺構(2)	211	写真図版54	5区遺構外出土遺物01	240
写真図版26	焼土遺構(3)	212	写真図版55	5区遺構外出土遺物02	241
写真図版27	焼土遺構(4)	213	写真図版56	5区遺構外出土遺物03	242
写真図版28	焼土遺構(5)・ピット・		写真図版57	5区遺構外出土遺物04	243
	埋設土器	214	写真図版58	5区遺構外出土遺物05	244
写真図版29	5区遺構内出土遺物(1)	215	写真図版59	5区遺構外出土遺物06	245
写真図版30	5区遺構内出土遺物(2)	216	写真図版60	5区遺構外出土遺物07	246
写真図版31	5区遺構内出土遺物(3)	217	写真図版61	5区遺構外出土遺物08	247
写真図版32	5区遺構内出土遺物(4)	218	写真図版62	5区遺構外出土遺物09	248
写真図版33	5区遺構内出土遺物(5)	219	写真図版63	5区遺構外出土遺物00	249
写真図版34	5区遺構内出土遺物(6)	220	写真図版64	5区遺構外出土遺物01	250
写真図版35	5区遺構内出土遺物(7)	221	写真図版65	5区遺構外出土遺物02	251
写真図版36	5区遺構内出土遺物(8)	222	写真図版66	5区遺構外出土遺物03	252
写真図版37	5区遺構内出土遺物(9)	223	写真図版67	5区遺構外出土遺物04	253
写真図版38	5区遺構内出土遺物00	224	写真図版68	5区遺構外出土遺物05	254
写真図版39	5区遺構内出土遺物01	225	写真図版69	5区遺構外出土遺物06	255
写真図版40	5区遺構内出土遺物02	226	写真図版70	5区遺構外出土遺物07	256
写真図版41	5区遺構内出土遺物03	227			

## 6 区本文目次

I. 調査区地形概観	261	IV. まとめ	367
II. 検出遺構と遺構内出土遺物	261	1. 遺構	367
1. 縄文時代竪穴住居址	261	(1)縄文時代竪穴住居址	367
2. 平安時代竪穴住居址	284	(2)平安時代竪穴住居址	368
3. 竪穴状遺構	296	(3)竪穴状遺構	369
4. 焼土遺構	301	(4)焼土遺構	369
5. ピット	306	(5)ピット	369
6. 陥し穴状遺構	311	(6)陥し穴状遺構	370
7. 埋設土器	320	2. 遺物	372
III. 遺構外出土遺物	322	(1)土器	372
1. 土器	322	(2)土製品	373
2. 土製品	342	(3)石器	373
3. 石器	343		

## 6 区表目次

表 1. 縄文時代竪穴住居址一覧表	367	表 9. 石器一覧表(5)	378
表 2. 平安時代竪穴住居址・竪穴状遺構 一覧表	368	表10. 石器一覧表(6)	379
表 3. ピット一覧表	371	表11. 石器一覧表(7)	380
表 4. 陥し穴状遺構一覧表	371	表12. 石器一覧表(8)	381
表 5. 石器一覧表(1)	374	表13. 石器一覧表(9)	382
表 6. 石器一覧表(2)	375	表14. 石器一覧表(10)	383
表 7. 石器一覧表(3)	376	表15. 石器一覧表(11)	384
表 8. 石器一覧表(4)	377	表16. 石器一覧表(12)	385

## 6 区図版目次

第1図	6区遺構配置図	259	第19図	X Qi 住居址	290
第2図	XI Ri 住居址・出土遺物	262	第20図	X Qi 住居址出土遺物(1)	291
第3図	XII Th - 1 住居址・出土遺物(1)	265	第21図	X Qi 住居址出土遺物(2)	292
第4図	XII Th - 1 住居址出土遺物(2)	266	第22図	X Qn 住居址・出土遺物(1)	294
第5図	XII Th - 1 住居址出土遺物(3)	267	第23図	X Qn 住居址出土遺物(2)	295
第6図	XII Th - 1 住居址出土遺物(4)	268	第24図	XI Qb 住居址	297
第7図	XII Th - 1 住居址出土遺物(5)	269	第25図	XI Qb 住居址出土遺物	298
第8図	XII Th - 1 住居址出土遺物(6)	270	第26図	XII Tg 竪穴状遺構	299
第9図	XII Th - 2 住居址・出土遺物(1)	274	第27図	XII Ue 竪穴状遺構	300
第10図	XII Th - 2 住居址出土遺物(2)	275	第28図	焼土遺構(1)	302
第11図	XII Th - 2 住居址出土遺物(3)	276	第29図	XII Tk - 2 焼土遺構出土遺物	303
第12図	XII Th - 2 住居址出土遺物(4)	277	第30図	焼土遺構(2)	304
第13図	XII Tk 住居址・出土遺物	279	第31図	XII Se - 2 ビット出土遺物	306
第14図	XII S/ 住居址・出土遺物	280	第32図	ビット(1)	307
第15図	XII Sf 住居址・出土遺物	282	第33図	XII Se - 4 ビット出土遺物	308
第16図	XII Sg 住居址・出土遺物	283	第34図	ビット(2)	310
第17図	X P/ 住居址	285	第35図	陥し穴状遺構(1)	313
第18図	X P/ 住居址出土遺物	288	第36図	陥し穴状遺構(2)	314
			第37図	陥し穴状遺構(3)	317
			第38図	陥し穴状遺構(4)	318
			第39図	陥し穴状遺構(5)	319
			第40図	埋設土器	321
			第41図	6区遺構外出土遺物(1)	330
			第42図	6区遺構外出土遺物(2)	331
			第43図	6区遺構外出土遺物(3)	332
			第44図	6区遺構外出土遺物(4)	333
			第45図	6区遺構外出土遺物(5)	334
			第46図	6区遺構外出土遺物(6)	335

第47図	6区遺構外出土遺物7)	336	第60図	6区遺構外出土遺物20)	354
第48図	6区遺構外出土遺物8)	337	第61図	6区遺構外出土遺物21)	355
第49図	6区遺構外出土遺物9)	338	第62図	6区遺構外出土遺物22)	356
第50図	6区遺構外出土遺物10)	339	第63図	6区遺構外出土遺物23)	357
第51図	6区遺構外出土遺物11)	340	第64図	6区遺構外出土遺物24)	358
第52図	6区遺構外出土遺物12)	341	第65図	6区遺構外出土遺物25)	359
第53図	6区遺構外出土遺物13)	342	第66図	6区遺構外出土遺物26)	360
第54図	6区遺構外出土遺物14)	342	第67図	6区遺構外出土遺物27)	361
第55図	6区遺構外出土遺物15)	349	第68図	6区遺構外出土遺物28)	362
第56図	6区遺構外出土遺物16)	350	第69図	6区遺構外出土遺物29)	363
第57図	6区遺構外出土遺物17)	351	第70図	6区遺構外出土遺物30)	364
第58図	6区遺構外出土遺物18)	352	第71図	6区遺構外出土遺物31)	365
第59図	6区遺構外出土遺物19)	353	第72図	6区遺構外出土遺物32)	366

## 6区写真図版目次

写真図版1	空中写真	389	写真図版14	焼土遺構(1)	402
写真図版2	空中写真・6区近景	390	写真図版15	焼土遺構(2)	403
写真図版3	XI Ri・XII Th - 1 住居址	391	写真図版16	焼土遺構(3)・ピット(1)	404
写真図版4	XII Th - 1・XII Th - 2 住居址	392	写真図版17	ピット(2)	405
写真図版5	XII Th - 2 住居址	393	写真図版18	ピット(3)	406
写真図版6	XII S I・XII T k 住居址	394	写真図版19	ピット(4)	407
写真図版7	XIII S f 住居址	395	写真図版20	陥し穴状遺構(1)	408
写真図版8	XIII S g 住居址	396	写真図版21	陥し穴状遺構(2)	409
写真図版9	X P I 住居址	397	写真図版22	埋設土器・作業風景	410
写真図版10	X Qi 住居址	398	写真図版23	6区遺構内出土遺物(1)	411
写真図版11	X Qi・X Qn 住居址	399	写真図版24	6区遺構内出土遺物(2)	412
写真図版12	XI Q b 住居址	400	写真図版25	6区遺構内出土遺物(3)	413
写真図版13	XII T g・XII U e 竪穴状遺構	401	写真図版26	6区遺構内出土遺物(4)	414
			写真図版27	6区遺構内出土遺物(5)	415

写真图版28	6区遗構内出土遺物(6) ……416	写真图版39	6区遺構外出土遺物(8) ……427
写真图版29	6区遺構内出土遺物(7) ……417	写真图版40	6区遺構外出土遺物(9) ……428
写真图版30	6区遺構内出土遺物(8) ……418	写真图版41	6区遺構外出土遺物(10) ……429
写真图版31	6区遺構内出土遺物(9) ……419	写真图版42	6区遺構外出土遺物(11) ……430
写真图版32	6区遺構外出土遺物(1) ……420	写真图版43	6区遺構外出土遺物(12) ……431
写真图版33	6区遺構外出土遺物(2) ……421	写真图版44	6区遺構外出土遺物(13) ……432
写真图版34	6区遺構外出土遺物(3) ……422	写真图版45	6区遺構外出土遺物(14) ……433
写真图版35	6区遺構外出土遺物(4) ……423	写真图版46	6区遺構外出土遺物(15) ……434
写真图版36	6区遺構外出土遺物(5) ……424	写真图版47	6区遺構外出土遺物(16) ……435
写真图版37	6区遺構外出土遺物(6) ……425	写真图版48	6区遺構外出土遺物(17) ……436
写真图版38	6区遺構外出土遺物(7) ……426	写真图版49	6区遺構外出土遺物(18) ……437



## 7 区本文目次

I. 調査区地形概観	442	IV. まとめ	461
II. 検出遺構と遺構内出土遺物	442	1. 遺構	461
1. 平安時代竪穴住居址	442	(1) 平安時代竪穴住居址	461
2. 焼土遺構	445	(2) 焼土遺構	461
3. ビット	448	(3) ビット	461
III. 遺構外出土遺物	449	2. 遺物	461
1. 土器	449	(1) 土器	461
2. 石器	453	(2) 石器	462

## 7 区表目次

表1 7区出土縄文・弥生土器一覧表	463	表3 7区石器計測一覧表	464
表2 7区出土土器器一覧表	463		

## 7 区図版目次

第1図 7区遺構配置図	441	第7図 7区遺構外出土遺物(1)	455
第2図 XIII Uo住居址	442	第8図 7区遺構外出土遺物(2)	456
第3図 XIV Uc住居址・出土遺物	444	第9図 7区遺構外出土遺物(3)	457
第4図 焼土遺構	446	第10図 7区遺構外出土遺物(4)	458
第5図 焼土遺構出土遺物	448	第11図 7区遺構外出土遺物(5)	459
第6図 XIII Uoビット	448	第12図 7区遺構外出土遺物(6)	460

## 7区写真図版目次

写真図版 1	XIII Uo・XIV Uc 住居址	467	写真図版 5	7区遺構外出土遺物(2)	471
写真図版 2	焼土遺構(1)	468	写真図版 6	7区遺構外出土遺物(3)	472
写真図版 3	焼土遺構(2)・ピット	469	写真図版 7	7区遺構外出土遺物(4)	473
写真図版 4	XIV Uc 住居址・焼土遺構出土 遺物・7区遺構外出土遺物(1)	470	写真図版 8	7区遺構外出土遺物(5)	474

## 8 区本文目次

I 地形と地質	481	IX Gd - 1 配石遺構	510
1. 地形	481	IX Gd - 2 配石遺構	511
2. 基本層序	481	VIII Hi - 1 配石遺構	511
II 発見された遺構と遺物	485	VIII Hi - 2 配石遺構	511
1. 竪穴住居址	485	VIII Ho 配石遺構	511
VIII Gd - 1 竪穴住居址	485	VIII Hm 配石遺構	511
VIII Gd - 2 竪穴住居址	487	VIII Hn 配石遺構	511
VIII Gf - 1 竪穴住居址	489	IX Hb 配石遺構	511
VIII Gf - 2 竪穴住居址	491	IX Hf 配石遺構	512
VIII Gn 竪穴住居址	492	IX Hg 配石遺構	512
2. 柱穴列	494	8. IX Ib 堆積層	512
VIII Go 柱穴列	494	9. 遺構外出土遺物	550
3. 焼土遺構群	496	(1) 土器	550
(1) 各焼土遺構	496	第I群土器	550
(2) 各焼土遺構出土遺物	497	第II群土器	550
4. 炉址出土遺物	500	第III群土器	551
(1) 遺構	500	第IV群土器	551
(2) 炉址出土遺物	500	第1類土器	551
5. 埋設土器遺構群	501	第2類土器	555
(1) 遺構	501	第3類土器	556
(2) 出土遺物	503	第4類土器	557
6. ビット群	504	第5類土器	558
(1) 遺構	504	第6類土器	558
(2) 出土遺物	504	第7類土器	575
7. 配石遺構	509	第8類土器	575
VIII Gf 配石	510	第V群土器	575
VIII Gh 配石	510	第VI群土器	575
VIII Gj 配石	510	第1類土器	576
VIII Gk 配石	510	第2類土器	576

第3類土器	576	(5)石器	605
第4類土器	593	A. 石鏃	605
第5類土器	593	B. 石錐	606
第6類土器	593	C. 石匙	606
第VII群土器	593	D. 搔器	606
(2)小型ミニチア土器	594	E. 石斧	607
小型土器	594	F. すり石・凹石・敲石	608
ミニチア土器	597	G. 石皿・台石	608
(3)土製品	597	H. 石刀	608
1. 足形付土製品	597	I. その他の石製品	608
2. 土偶	598	III まとめ	625
3. 動物形土製品	598	1. 遺構	625
4. 腕輪形土製品	598	(1) 竪穴住居址	625
5. 環状土製品	599	(2) 柱穴列	625
6. 耳飾	599	(3) 焼土遺構	626
7. ボタン状土製品	599	(4) 炉址	626
8. 鐙型土製品	599	(5) 土器埋設遺構	626
9. 三角形土板	600	(6) ビット	626
10. 土鍾	600	(7) 配石遺構	627
11. 円盤状土製品	600	2. 遺構外出土遺物	631
12. その他の土製品	604	(1)土器	631
(4)占錢	604	(2)石器	632

## 8 区 表 目 次

第1表 VII Gd - 1 竪穴住居址柱穴計測値一覽	485	第4表 VII Gf - 2 竪穴住居址柱穴計測値一覽	492
第2表 VII Gd - 2 竪穴住居址柱穴計測値一覽	487	第5表 VII Gn 竪穴住居址柱穴計測値一覽	493
第3表 VII Gf - 1 竪穴住居址柱穴計測値一覽	489	第6表 VII Go 柱穴列各柱穴計測値一覽	494

第7表	N区焼土遺構計測値一覧	496	第19表	土偶計測表	598
第8表	S区焼土遺構計測値一覧	496	第20表	動物形土製品計測表	598
第9表	N区石田炉計測値一覧	496	第21表	腕輪形土製品計測表	599
第10表	N区ピット計測値一覧	505	第22表	環状土製品計測表	599
第11表	S区ピット計測値一覧	505	第23表	耳飾計測表	599
第12表	N区フラスコピット計測値一覧	505	第24表	ボタン状土製品計測表	599
第13表	S区フラスコピット計測値一覧	505	第25表	舞形土製品計測表	600
第14表	N区溝状遺構計測値一覧	505	第26表	三角形土板計測表	600
第15表	S区溝状遺構計測値一覧	505	第27表	土鏝計測表	600
第16表	遺構外出土土器計測値一覧	591	第28表	円盤状土製品計測表	604
第17表	小型土器・ミニチュア土器計測表	594	第29表	古銭計測表	605
第18表	足形付土製品計測表	598	第30表	8区遺構外出土土器計測値一覧	610
			第31表	竪穴住居址計測値一覧	625

## 8 区 図 版 目 次

第1図	遺構配置図(1)N区	477	第11図	配石及び遺物集中地点	513
第2図	遺構配置図(2)S区	479	第12図	N区焼土遺構	514
第3図	基本層序(1)N区	482	第13図	N区ピット	515
第4図	基本層序(2)S区	483	第14図	VIII Go 柱穴列・N区炉址・埋設土器遺構	516
第5図	VIII Gd - 1・VIII Gd - 2 竪穴住居址	486	第15図	N区焼土遺構(1)	517
第6図	VIII Gd - 1・VIII Gd - 2 竪穴住居址出土遺物	488	第16図	N区焼土遺構(2)	518
第7図	VIII Gf - 1・VIII Gf - 2 竪穴住居址	490	第17図	N区焼土遺構(3)	519
第8図	VIII Gf - 1 竪穴住居址出土遺物	491	第18図	N区フラスコピット・溝状遺構	520
第9図	VIII Gn 竪穴住居址	493	第19図	N区ピット(1)	521
第10図	VIII Gn 竪穴住居址出土遺物	495	第20図	N区ピット(2)	522
			第21図	N区ピット(3)	523
			第22図	N区ピット(4)	524

第23図	N区ビット(5)	525	構出土遺物	547	
第24図	S区フラスコビット・溝状遺構・埋設 土器遺構・焼土遺構	526	第46図	堆積層	548
第25図	S区ビット(1)	527	第47図	堆積層上出土遺物	549
第26図	S区ビット(2)	528	第48図	遺構外出土遺物土器(1)	552
第27図	S区ビット(3)	529	第49図	遺構外出土遺物土器(2)	553
第28図	配石	530	第50図	遺構外出土遺物土器(3)	554
第29図	VIII Gf 配石遺構	531	第51図	遺構外出土遺物土器(4)	559
第30図	VIII Gh 配石遺構・VIII Gj 配石遺構 .....	532	第52図	遺構外出土遺物土器(5)	560
第31図	VIII Gk 配石遺構・IX Gd-1 配石遺 構	533	第53図	遺構外出土遺物土器(6)	561
第32図	IX Gd-2 配石遺構・VIII Hi-1 配石 遺構	534	第54図	遺構外出土遺物土器(7)	562
第33図	VIII Hi-2 配石遺構・VIII Ho 配石遺 構	535	第55図	遺構外出土遺物土器(8)	563
第34図	VIII Hm 配石遺構・VIII Hn 配石遺構・ IX Hb 配石遺構	536	第56図	遺構外出土遺物土器(9)	564
第35図	IX Hf 配石遺構・IX Hg 配石遺構 .....	537	第57図	遺構外出土遺物土器(10)	565
第36図	N区ビット出土遺物(1)	538	第58図	遺構外出土遺物土器(11)	566
第37図	N区ビット出土遺物(2)	539	第59図	遺構外出土遺物土器(12)	567
第38図	N区ビット出土遺物(3)・焼土遺構出 土遺物(1)	540	第60図	遺構外出土遺物土器(13)	568
第39図	N区焼土遺構出土遺物(2)	541	第61図	遺構外出土遺物土器(14)	569
第40図	N区焼土遺構出土遺物(3)	542	第62図	遺構外出土遺物土器(15)	570
第41図	N区焼土遺構出土遺物(4)	543	第63図	遺構外出土遺物土器(16)	571
第42図	N区炉址出土遺物	544	第64図	遺構外出土遺物土器(17)	572
第43図	N区埋設土器遺構出土遺物	545	第65図	遺構外出土遺物土器(18)	573
第44図	S区ビット・焼土遺構出土遺物 .....	546	第66図	遺構外出土遺物土器(19)	574
第45図	S区焼土遺構出土遺物・埋設土器遺 構出土遺物	547	第67図	遺構外出土遺物土器(20)	577
			第68図	遺構外出土遺物土器(21)	578
			第69図	遺構外出土遺物土器(22)	579
			第70図	遺構外出土遺物土器(23)	580
			第71図	遺構外出土遺物土器(24)	581
			第72図	遺構外出土遺物土器(25)	582
			第73図	遺構外出土遺物土器(26)	583
			第74図	遺構外出土遺物土器(27)	584
			第75図	遺構外出土遺物土器(28)	585
			第76図	遺構外出土遺物土器(29)	586

第77図	遺構外出土遺物土器⑩	587	第89図	遺構外出土遺物石器(3)	615
第78図	遺構外出土遺物土器⑪	588	第90図	遺構外出土遺物石器(4)	616
第79図	遺構外出土遺物土器⑫	589	第91図	遺構外出土遺物石器(5)	617
第80図	遺構外出土遺物土器⑬	590	第92図	遺構外出土遺物石器(6)	618
第81図	遺構外出土遺物小型・ミニチア土器 (1)	595	第93図	遺構外出土遺物石器(7)	619
第82図	遺構外出土遺物小型・ミニチア土器 (2)	596	第94図	遺構外出土遺物石器(8)	620
第83図	遺構外出土遺物土製品(1)	601	第95図	遺構外出土遺物石器(9)	621
第84図	遺構外出土遺物土製品(2)	602	第96図	遺構外出土遺物石器⑩	622
第85図	遺構外出土遺物土製品(3)	603	第97図	遺構外出土遺物石器⑪	623
第86図	遺構外出土遺物古銭	604	第98図	遺構外出土遺物石器⑫	624
第87図	遺構外出土遺物石器(1)	613	参考図版 1		629
第88図	遺構外出土遺物石器(2)	614	参考図版 2		630
			参考図版 3	遺跡別石器組成(1)	635
			参考図版 4	遺跡別石器組成(2)	636

## 8 区写真図版目次

写真図版 1	航空写真	641	写真図版10	N区焼土遺構	650
写真図版 2	N区全景	642	写真図版11	N区ピット(1)	651
写真図版 3	VIII Gd - 1・VIII Gd - 2 竪穴住 居址	643	写真図版12	N区ピット(2)	652
写真図版 4	VIII Gf - 1・VIII Gf - 2 竪穴住居 址	644	写真図版13	N区ピット(3)	653
写真図版 5	VIII Gn 竪穴住居址・炉址	645	写真図版14	N区ピット(4)	654
写真図版 6	N区炉址	646	写真図版15	S区フラスコピット・溝状遺構・ 焼土遺構	655
写真図版 7	N区炉址・埋設土器遺構	647	写真図版16	S区ピット	656
写真図版 8	N区埋設土器遺構	648	写真図版17	N区配石遺構・遺物出土状況(1)	657
写真図版 9	N区フラスコピット・溝状遺構	649	写真図版18	N区配石遺構・遺物出土状況(2)	658
			写真図版19	堆積礫	659
			写真図版20	竪穴住居址出土遺物	660

写真図版21	N区ピット・焼土遺構出土遺物 (1) ……………	661	写真図版44	遺構外出土遺物土器⑩ ……	684
写真図版22	N区ピット・焼土遺構出土遺物 (2) ……………	662	写真図版45	遺構外出土遺物土器⑪ ……	685
写真図版23	N区炉址・埋設土器遺構出土遺物 ……	663	写真図版46	遺構外出土遺物土器⑫ ……	686
写真図版24	S区ピット・焼土遺構・その他の遺構出土遺物 ……	664	写真図版47	遺構外出土遺物土器⑬ ……	687
写真図版25	遺構外出土遺物土器(1) ……	665	写真図版48	遺構外出土遺物土器⑭ ……	688
写真図版26	遺構外出土遺物土器(2) ……	666	写真図版49	遺構外出土遺物土器⑮ ……	689
写真図版27	遺構外出土遺物土器(3) ……	667	写真図版50	遺構外出土遺物土器⑯ ……	690
写真図版28	遺構外出土遺物土器(4) ……	668	写真図版51	遺構外出土遺物土器⑰ ……	691
写真図版29	遺構外出土遺物土器(5) ……	669	写真図版52	遺構外出土遺物土器⑱ ……	692
写真図版30	遺構外出土遺物土器(6) ……	670	写真図版53	遺構外出土遺物土器⑲ ……	693
写真図版31	遺構外出土遺物土器(7) ……	671	写真図版54	遺構外出土遺物小型・ミニチア土器(1) ……	694
写真図版32	遺構外出土遺物土器(8) ……	672	写真図版55	遺構外出土遺物小型・ミニチア土器(2) ……	695
写真図版33	遺構外出土遺物土器(9) ……	673	写真図版56	遺構外出土遺物小型・ミニチア土器(3)・古銭 ……	696
写真図版34	遺構外出土遺物土器⑩ ……	674	写真図版57	遺構外出土遺物土製品(1) ……	697
写真図版35	遺構外出土遺物土器⑪ ……	675	写真図版58	遺構外出土遺物土製品(2) ……	698
写真図版36	遺構外出土遺物土器⑫ ……	676	写真図版59	遺構外出土遺物土製品(3) ……	699
写真図版37	遺構外出土遺物土器⑬ ……	677	写真図版60	遺構外出土遺物石器(1) ……	700
写真図版38	遺構外出土遺物土器⑭ ……	678	写真図版61	遺構外出土遺物石器(2) ……	701
写真図版39	遺構外出土遺物土器⑮ ……	679	写真図版62	遺構外出土遺物石器(3) ……	702
写真図版40	遺構外出土遺物土器⑯ ……	680	写真図版63	遺構外出土遺物石器(4) ……	703
写真図版41	遺構外出土遺物土器⑰ ……	681			
写真図版42	遺構外出土遺物土器⑱ ……	682			
写真図版43	遺構外出土遺物土器⑲ ……	683			



## 9 区本文目次

I. 調査区地形概観	708	IV. まとめ	718
II. 検出遺構と遺構内出土遺物	708	1. 遺構	718
1. 平安時代竪穴住居址	708	(1) 平安時代竪穴住居址	718
2. ビット	711	(2) ビット	718
3. 陥し穴状遺構	711	(3) 陥し穴状遺構	718
III. 遺構外出土遺物	713	2. 遺物	719
1. 土器	713	(1) 土器	719
2. 石器	715	(2) 石器	719

## 9 区表目次

表1 9区石器一覧表	715	表3 9区出土縄文土器一覧表	719
表2 陥し穴状遺構一覧表	718	表4 9区出土土土器一覧表	719

## 9 区図版目次

第1図 9区遺構配置図	707	第4図 ビット・陥し穴状遺構	712
第2図 XIII Oe 住居址	709	第5図 9区遺構外出土遺物(1)	716
第3図 XIII Oe 住居址出土遺物	710	第6図 9区遺構外出土遺物(2)	717

## 9 区写真図版目次

写真図版1 XIII Oe 住居址	723	写真図版4 9区遺構外出土遺物(2)	726
写真図版2 ビット・陥し穴状遺構	724		
写真図版3 XIII Oe 住居址出土遺物・ 9区遺構外出土遺物(1)	725		

## 10N区本文目次

I 地形と地質 .....	731
1. 地形 .....	731
2. 基本層序 .....	731
II 発見された遺構と遺物 .....	732
1. 竪穴状遺構 .....	732
2. 焼土遺構 .....	736
3. 遺構外出土遺物 .....	737
III まとめ .....	750

## 10N区表目次

第1表 IX J/ 竪穴状遺構ビット計測値一覧 .....	732
第2表 VII Nk 竪穴状遺構ビット計測値一覧 .....	734
第3表 10N区遺構外出土石器一覧 .....	748

## 10N区図版目次

第1図 10N区遺構配置図 .....	729
第2図 10N区基本層序 .....	731
第3図 IX J/ 竪穴状遺構・出土遺物 .....	733
第4図 VII Nk 竪穴状遺構・出土遺物 .....	735
第5図 IX Nc 焼土遺構 .....	736
第6図 10N区遺構外出土遺物 (1) .....	741
第7図 10N区遺構外出土遺物 (2) .....	742
第8図 10N区遺構外出土遺物 (3) .....	743
第9図 10N区遺構外出土遺物 (4) .....	744
第10図 10N区遺構外出土遺物 (5) .....	745
第11図 10N区遺構外出土遺物 (6) .....	746

第12图	10N区遺構外出土遺物 (7)	747
第13图	10N区遺構外出土遺物 (8)	748
第14图	10N区遺構外出土遺物 (石器) (9)	749

## 10N区写真図版目次

写真図版 1	10N区航空写真	753
写真図版 2	VIII Nk 竪穴状遺構・IX J/ 竪穴状遺構	754
写真図版 3	IX J/ 竪穴状遺構	755
写真図版 4	10N区遺構内出土遺物	756
写真図版 5	10N区遺構外出土遺物 土器(1)	757
写真図版 6	10N区遺構外出土遺物 土器(2)	758
写真図版 7	10N区遺構外出土遺物 土器(3)	759
写真図版 8	10N区遺構外出土遺物 土器(4)	760
写真図版 9	10N区遺構外出土遺物 石器	761

## 10S区本文目次

I. 調査区地形概観	766	IV. まとめ	789
II. 検出遺構と遺構内出土遺物	766	1. 遺構	789
1. 平安時代竪穴住居址	766	(1) 平安時代竪穴住居址	789
2. 竪穴状遺構	768	(2) 竪穴状遺構	789
3. 焼土遺構	771	(3) 焼土遺構	789
4. 陥し穴状遺構	775	(4) 陥し穴状遺構	790
III. 遺構外出土遺物	775	2. 遺物	790
1. 土器	775	(1) 土器	790
2. 石器	780	(2) 石器	790
3. 土製品	789	(3) 土製品	791
		(4) 石製品	791

## 10S区表目次

表1 10S区出土土器一覧表	792	表2 10S区出土石器一覧表	793
----------------	-----	----------------	-----

## 10S区図版目次

第1図 10S区遺構配置図	765		774
第2図 XIII Lb 住居址・出土遺物	767	第7図 10S区遺構外出土遺物(1)	782
第3図 XIII Ld 住居址・XII Nk 竪穴状遺構・出土遺物(1)	769	第8図 10S区遺構外出土遺物(2)	783
第4図 XII Nk 竪穴状遺構出土遺物(2)	770	第9図 10S区遺構外出土遺物(3)	784
	770	第10図 10S区遺構外出土遺物(4)	785
第5図 焼土遺構(1)	773	第11図 10S区遺構外出土遺物(5)	786
第6図 焼土遺構(2)・XII Oi 陥し穴状遺構		第12図 10S区遺構外出土遺物(6)	787
		第13図 10S区遺構外出土遺物(7)	788

## 10 S 区写真図版目次

写真図版 1	空中写真・作業風景 ……797	写真図版 6	10 S 区遺構外出土遺物(2) ……802
写真図版 2	XIII Lb・XIII Ld 住居址 ……798	写真図版 7	10 S 区遺構外出土遺物(3) ……803
写真図版 3	XIII Ld 住居址・XII Nk 竪穴状遺構・焼土遺構(1) ……799	写真図版 8	10 S 区遺構外出土遺物(4) ……804
写真図版 4	焼土遺構(2)・XII Oi 陥し穴状遺構 ……800	写真図版 9	10 S 区遺構外出土遺物(5) ……805
写真図版 5	10 S 区遺構内出土遺物・遺構外出土遺物(1) ……801	写真図版 10	10 S 区遺構外出土遺物(6) ……806

## 鑑定分析目次

湯舟沢遺跡出土弥生土器の靨痕 .....	809
土器胎土の岩石学的方法による分析結果 .....	819
湯舟沢遺跡出土土器について（蛍光X線による分析結果） .....	841
湯舟沢遺跡の植物珪酸体分析 .....	845
花粉分析 .....	865
湯舟沢遺跡より出土した木炭の樹種について .....	867
湯舟沢遺跡より出土した自然流木の樹種について .....	873
湯舟沢遺跡3区出土火山灰の蛍光X線分析 .....	877
足は心の器（湯舟沢遺跡で発掘された土板によせて） .....	879
滝沢村・湯舟沢遺跡の足形付土製品について .....	883
放射性炭素年代測定結果 .....	889

5 区

略 号	Y H 5
調査面積	4,000 m <sup>2</sup>
調査機関	(財)岩手県埋蔵文化財センター

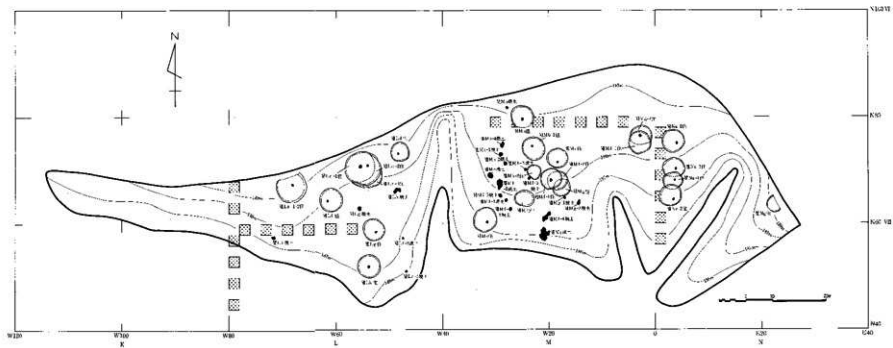


図120 5区遺跡平面図



## I. 調査区地形概観

調査区は、湯舟沢遺跡の北側に位置しており、東西方向に連なる丘陵の南面と南流する沢の間に舌状に発達した段丘面上に載っている。丘陵南面からは小沢が幾筋か入り、沢を境に西側に3区、南西側に4区、南流する沢を隔てた南側に10区がある。遺構は3区寄りの西側縁辺部、中央部、東側の3地域に分布している。

基本土層は隣接する3区とほぼ同様である。全体的にⅠ～Ⅱ層は縁辺部で薄層となり、沢へ続いている。

## II. 検出遺構と遺構内出土遺物

5区で検出された遺構は、縄文時代竪穴住居址23棟、弥生時代竪穴住居址1棟（VII Lk 住）、焼土遺構19基、ピット1基、埋設土器3基である。

### 1. 縄文・弥生時代竪穴住居址

#### VII Lc-1 住居址（第2図・写真図版2）

位置 西地区緩斜面のほぼ中央北寄りに位置し、西にはVII Le-1・e-2住居址が、東にはVII Ld住居址がある。北側は道路を挟んで、台地（湯舟沢遺跡1区）へ続く傾斜地となる。

検出 II層の中段において、白黄色火山灰の不整形な広がりとして検出されている。形態・規模 本遺構は、検出状況や遺物の出土状況及び炉のあり方から考えて、重複する東側のVII Lc-2住居址の床面を僅か埋め戻し、西側へ大きく拡張させて構築した住居址と思われる。VII Lc-2住居址の壁とし検出した東側の壁が、本遺構の壁であったと考えられるので、第2図の検出された全体形を本遺構とし以下の記述をすすめる。平面形は金んだ楕円形状を呈し、床面規模は6.0m×5.7mを測る。

埋土 東西の埋土断面に重機による転圧箇所が見られるが、自然堆積である。大きく4層に分けられ、上位から堅く締まった淡黄色火山灰、やや締まる黒～黒褐色砂質土、明色で締まる黒褐色砂質土、遺物と炭化物を多く含む黒色シルト質土で構成される。

壁 II層下位～III層下位に構築されている。壁高は、北壁60cm・西壁30cm・南壁25cm・東壁45cmである。床 北半はIII層中～下位に、南半はIII層中にある。平坦であるが僅かに南へ緩い下り勾配を呈し、やや締まっている。柱穴 柱穴状のピットが計16基検出されている。口径30cm前後、深さは30cm～60cmであり、壁の近くに配置されるものや炉と壁の間にあるもの等である。

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>
口径 cm	30×28	30×30	25×23	25×25	28×25	29×27	30×28	30×25
深さ cm	56	30	25	29	29	34	24	24

P.No	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>
口径 cm	27×27	27×24	33×30	34×27	29×28	30×28	32×31	35×27
深さ cm	30	27	30	60	33	35	30	40

柱穴配置を、炉を中心とする対称形として考えてみると、P<sub>1</sub>-P<sub>3</sub>-P<sub>7</sub>-P<sub>12</sub>の台形状配置、P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>-P<sub>8</sub>-P<sub>9</sub>-P<sub>13</sub>-P<sub>16</sub>の偏平な六角形状配置が想定されるが、明確ではない。

炉 住居地の中央からやや西寄りに円形石囲炉がある。炉の使用面はVIIc-2住居地の炉より5~6cm高い。大、小14個の安山岩質垂直角礫を埋置させたもので、炉の中央部は備か掘り窪められている。規模は外径100cm×90cm・内径70cmを測る。焼土の形成は良好で、厚さは最大8cmに及び焼成も良く堅く締まっている。

遺物 (第3図1~8・第4図9~38・写真図版29・40)

VIIc-2住居地の炉の検出以後は、本住居地の中央部から西側にかけ出土したものをVIIc-1住居地出土遺物として登録し処理したものである。

土器 (1~19) 床面出土のものは3・5・8・10である。3は小形鉢形土器で体部は直線的に外傾し立ち上がり、肩部が僅か張り出し頸部で窄み口縁が外反する器形である。頸部に1条の沈線が施され、口頸部は無文で体部には斜縄文(LR)が施文される。胎土に粗砂を多く含む焼成の悪い土器である。5・10は外面が丁寧に磨かれた小形鉢形土器で、5は球状を呈するもの、10は疑似十字文が施文されるものである。10の口縁内側には1条の沈線が巡る。8は口縁部に磨消しが施される鉢形土器で、体部には斜縄文(LR)が施文される。外面には煤が付着している。

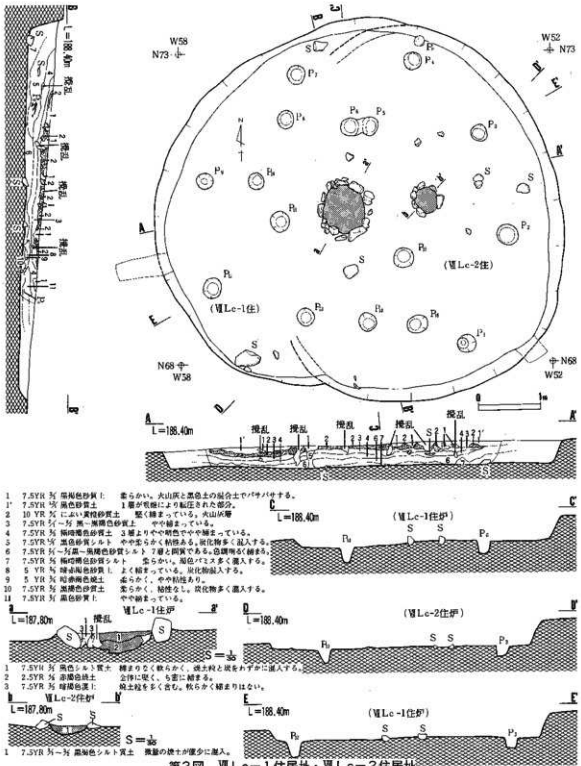
1・12~14・16は平行沈線、連続刺突、雲形文をもつ鉢形土器、17・18は平行沈線をもつ深鉢形土器、2は無文の壺、6は雲形文が施文される皿である。9は捻り瘤状の突起を上・下にもつ注口部、7・19は口縁に磨消しが施される鉢形土器である。4は本住居地出土遺物として処理されたが、体部に貼瘤及び沈線により矢羽根状の文様を構成する第IV群に含まれる土器であり、柱穴検出の際に床面下位から出土したと思われるもので、VIIc-3住居地に関する土器であろう。

石器 (20~38) 石鏃 (20~25)、尖頭石器 (26)、撻削器類 (27・29)、不定形石器 (30~35)、磨石 (36・37)、石皿 (38) が出土している。床面出土のものは21・23・29・32・36・38である。

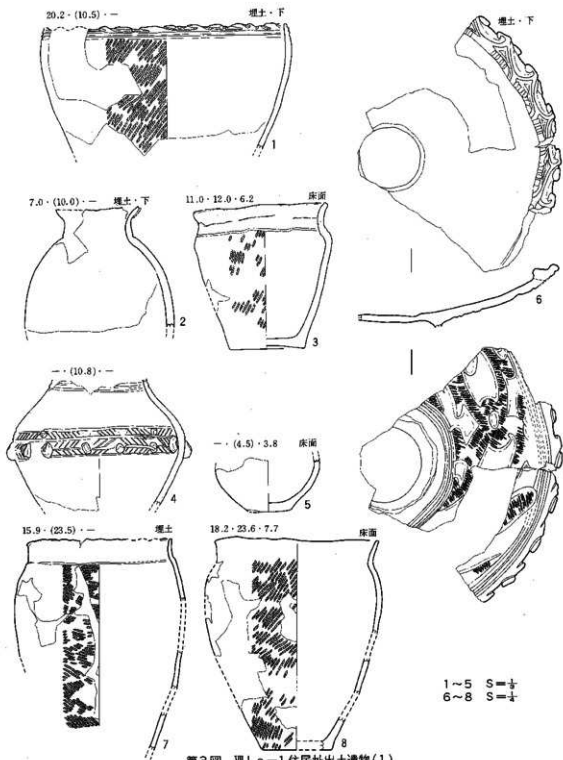
石鏃は、有茎で平坦基のもの (20)、尖基のもの (22)、無茎で平坦基のもの (21)、円基のもの (20)、円基のもの (23・24) 及び尖頭鏃 (25) がある。22は周縁からの浅い剝離加工で表裏の中央部に一次加工面が大きく残るものである。

26は非対称形を呈する尖頭状石器、28・29は一辺から、27は両辺から加工調整が施される撻削器類である。36・37は自然礫の一面に滑らかな磨面をもつ磨石であり、38は片面使用の大形の石皿である。

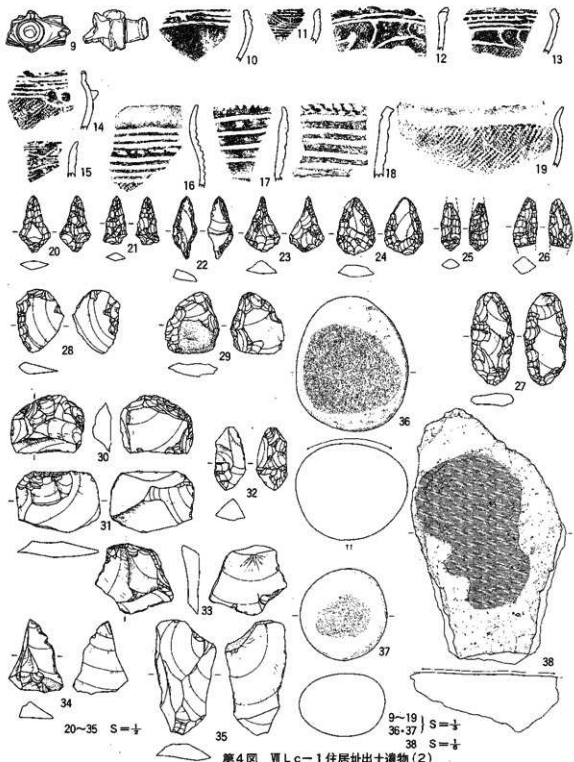
本住居地の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代晩期中葉~後葉に位置づけられるもの



第2図 VLc-1住居址・VLc-2住居址



第3圖 W Lc-1住居址出土遺物(1)



と考えられる。

#### VII Lc - 2 住居址 (第2図・写真図版3)

**位置** 西地区の北東寄りに位置し、VII Lc - 1 住居址と重複しその下位にある。**検出** 当初本住居址の存在が予見されず、炉址の検出により遺構の存在が判明した。なお、上位のVII Lc - 1 住居址はII層中位で火山灰の不整な広がりによって検出されている。形態・規模 検出が上記のとおりであり、明確な形態と規模は不明である。検出された北東～南壁から推測すると約5.7 m×4.5mの槽門形と思われる。**埋土** 上位住居址(VII Lc - 1 住)の埋土で占められる。

**壁** 北東壁～南壁はII層下位～III層中位に構築されている。壁高は、北東壁60cm・東壁40cm・南壁20cmを測る。床 III層上位～中位にあり平坦で、やや締まっている。**柱穴** 前記のVII Lc - 1 住居址に記載された柱穴状ピットうち、中央から東寄りの数基が本住居址の柱穴に概当するものであろうが、主柱穴及びその配置は明らかではない。**炉** 円形石囲炉である。規模は外径60cmを測り、10～20cmの垂角礫が7個南東の一部が開いた形状に埋置されてある。焼土の形成は中央部で厚くレンズ状を呈しており、最大10cmの厚さに及ぶ。色調は赤褐色を呈し堅く締まっている。

#### 遺物 (第5図1～18・第6図19～33・写真図版30・40)

本住居址の炉の検出後は、中央部から東側寄り出土した遺物は本住居址の遺物として取り上げ登録処理したのであるが、VII Lc - 1 住居址に伴う遺物が大半を占めるとと思われる。

**土器** (1～18) 13・15・18が埋土下位～床面一括出土、他は埋土中～下位からの出土である。4は北壁寄りから横位の状態で出土した鉢の完形品である。底部から緩く立ち上がり胴部は球形に近い膨らみをもち、頸部から直立する口頸部は上部で僅かに外傾する。

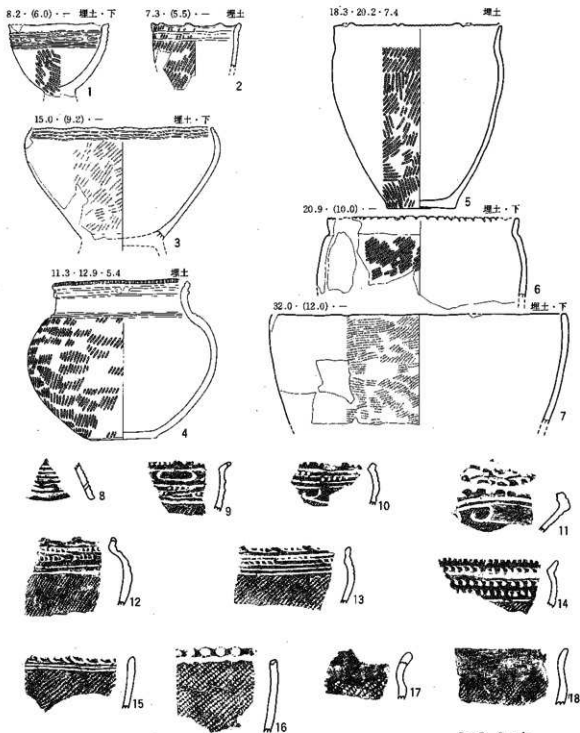
口頸上部に疑似I字文が、頸部下端には沈線が、口唇部には連続刻み文が施されている。また口縁内側にも沈線が巡り、胴部には斜縄文(LR)が施される。焼成は良く、茶褐色を呈している。

1・3は台付鉢形土器で、1は小形のものである。口縁部文様は平行沈線が多用され、部分的に断点をもち疑似I字文様を表出する。8は台付鉢の脚部で沈線が多用され円孔をもつ。2は小突起口縁をもつ小形の土器である。

9～13・15は縄文晩期中葉に位置づけられる土器で平行沈線、連続刻み、雲形文等をもつ鉢の口縁部片である。

5～7・16～18は粗製土器で、5は小突起を、6は連続刻みを口縁上端にもち口頸部が無文となる。7は内湾する深鉢形土器、16は口唇部に指頭状の圧痕をもつもの、17は山形突起口縁をもつもの、18は口頸部に磨消しが施されるものである。

**石器** (19～33) 石鏃 (19)、播削器類 (20・23)、不定形石器 (21・22・24～27)、磨製石斧



第5图 W Lc-2住居址出土遗物(1)

5~7 S=+

1~4 S=+

8~18 S=+

(28・29・31)、敲石(30)、石皿(32・33)が出土している。床面からは26～29・32、炉の直上からは33が出土している。石鏃は石錐状を呈するもので、尖頭が鋭くつくり出されている。

20・23は一側縁に両面加工調整または二側縁に片面加工調整し刃部をつくる掻削器類である。21・22・24～27は不定形石器で、使用痕をもつもの(21・24)、片面に粗い加工が施されるもの(22・26)、使用痕及び抉入状の加工をもつもの(25)などである。

28・31は石質が同じで形態の酷似する磨製石斧である。31は刃部から体部にかけて打撃剝離状の破損を呈している。29はVII Lc-1住、c-2住から出土したものが接合したものである。穂のつくり出しはなく、横断面は楕円形を呈している。30は棒状鏃の上、下端を機能面とする敲石である。

32・33は、整形加工のされた石皿で、32は周りに縁をつくり出すもの、33は底部に丸みをもつ小形の中高石皿である。

本住居地の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代晩期中葉～後葉に位置づけられるものと考えられ、重複する住居地との新旧関係を考慮すると晩期中葉の可能性が大きい。

#### VII Lc-3 住居地(第7図・写真図版3・4)

位置 西地区緩斜面の北東寄りに位置し、VII Lc-1・c-2住居地とはほぼ重複し、その下位にある。南にはVII Lg 住居地がある。検出 VII Lc-1・c-2住居地のダメ押しによって検出されている。形態・規模 北半部を掘り過ぎ、全体の形態・規模は不明であるが、残存する壁等からは平面形は歪んだ楕円形状を呈し、約5.5m×6.5mの規模と推測される。

埋土 VII Lc-1・c-2住居地の床面下20cmが本住居地の埋土である。炭化物が混入する黒色砂質土で構成される。壁 II層下位～III層中位に構築されている。壁高は、西壁45cm・南壁30cm・東壁50cmである。床 III層下位にあって、平坦である。炭化粒が多く散在するが、特に締まりはみられない。

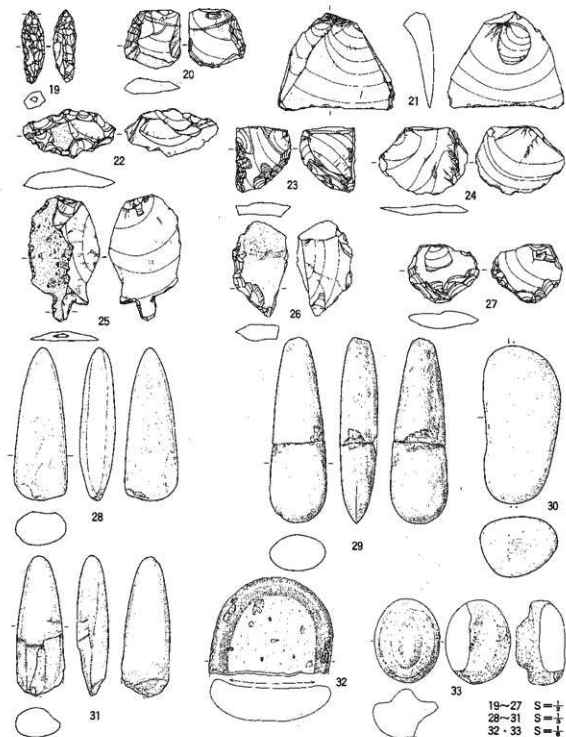
柱穴・周溝 検出されていない。炉 住居地の中央からやや南寄り及び西寄りに地床炉が2基ある。炉1は床面下を10cmほど掘り窪め構築している。焼土は径70cmの円形に広がり、焼土の形成は良好でその厚さは最大8cmに及ぶ。炉2は焼土が50cm×40cmの不整形に広がり、焼土の形成は微弱である。

#### 遺物(第8図1～19・写真図版31・40)

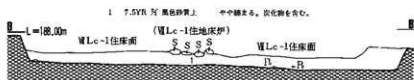
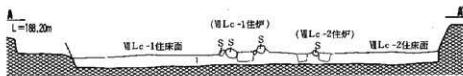
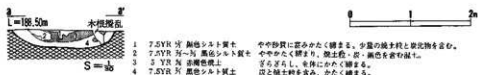
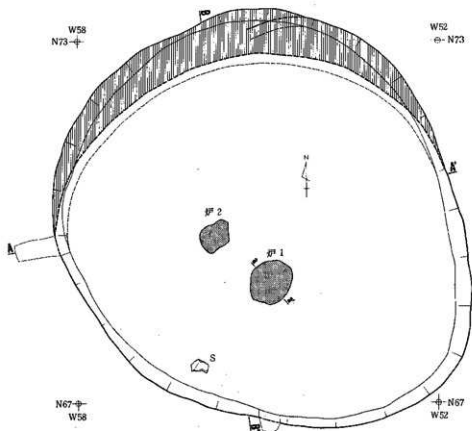
土器(1～11) 7・11が床面から、他は埋土からの出土である。7は異なる縄文原体を横位、斜位に脈絡なく回転文様させ、羽状縄文風な文様を描き出すものである。焼成は良く、外面に煤が付着している。胎土には石英砂及び金雲母が僅かに混入する。

11は粗製土器の口縁部片で、口縁が内湾気味を呈し肥厚する口唇部が内削りされている。地

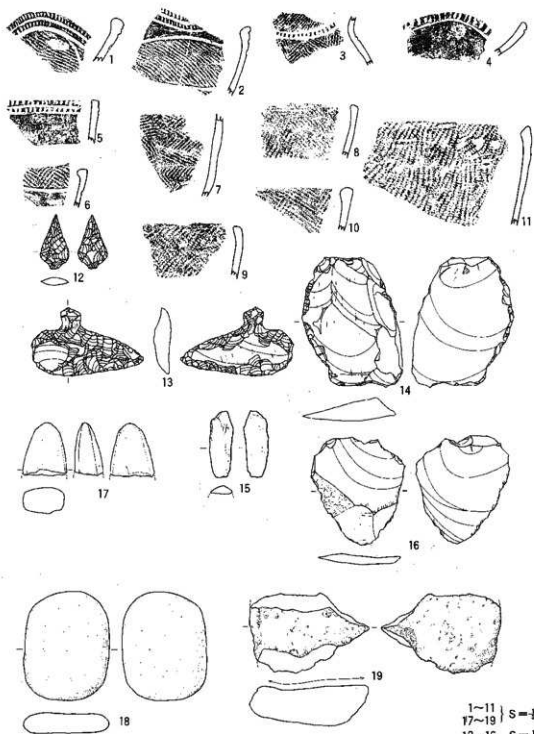




第6图 WLC-2住居址出土遺物(2)



第7図 住Lc-3住居址



第8图 VI Lc-3住居址出土遺物

文は縦走縄文(LR)である。胎土には石英砂が多く混入し焼成は良好である。多量の煤が付着している。1～5は口縁上部または頸部に縦位の連続刻みをもつもの(第IV群8類)で、1・2・4は波状口縁を呈しており、1・2は口唇部が肥厚する。3は壺形土器、5は平縁鉢形土器である。3・6・8～10は羽状縄文が施文され、6・10は口唇部肥厚しており、6には磨消し手法が施されている。

**石器**(12～19) 石鏃(12)、石匙(13)、搔削器類(14)、不定形石器(16)、磨製石斧(15・17)、磨石(18)、石皿(19)が出土している。床面出土のものは16だけである。

石鏃は有茎鏃で、僅かにつくり出される基部は平坦基状を呈す。石匙は横形の非対称形のもので、一端を尖頭刃状につくり出される。14は凸刃状の搔削器類で、鋭利な側縁に両面から加工調整し刃部をつくるものである。16は使用痕をもつ不定形石器である。17は磨製石斧の基部で、15は磨製石斧の破片であり、表面及び破損面に磨面をもつものである。18は表裏に磨面をもつ扁平な方形の磨石、19は片面使用の石皿の欠損品である。

本住居址の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期中葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Ld 住居址(第9図・写真図版4・5)

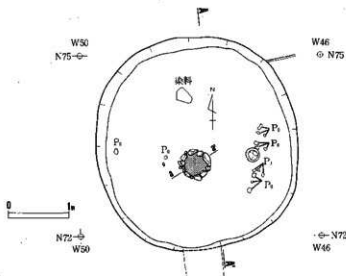
**位置** 調査区の中央部を東西に分断する沢の西側斜面上に位置し、南西約2.5mにVII Lc 住居址が隣接している。**検出** ダム押しの特レンチ掘りで石囲炉の一部が検出されたもので、検出面はIII層中位である。**形態・規模** 長径3.25m×短径3.05mの円形を呈し、南壁側の一部はトレンチで削平されている。

**埋土** シルト質土の3層に大別される。1層は埋上の大部分を占める黒褐色土で全体に炭化物を含み、2層は壁際に堆積し、ブロックで黒褐色土が混入し、3層は明褐色砂質土で構成されている。**壁** 壁高は東壁15cm・西壁24cm・南壁14cm・北壁21cmを測る。床からの壁の立ち上がりは北壁側を除いて急傾斜を示している。

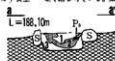
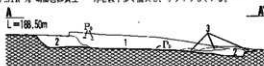
**床** ほぼ平坦で、遺構中央部から東壁際に径2.5m～3mの範囲で炭が混在する堅い踏みしめ部分が認められる。**柱穴** 東壁寄りに小ピットP<sub>1</sub>(口径20cm×20cm、深さ21cm)があるものの、位置的に遺構に伴う柱穴かは明らかではない。**周溝** 検出されていない。

**炉** 石囲炉で遺構中央部から南寄りに位置し、規模は径50cmの円形を呈している。使用の礫は長さ6cm～17cmの方形と長方形があり、10cmほど掘り込んで据えてある。礫は火熱で赤色変化を生じ、全体に脆くなっている。焼土はレンズ状に8cmほど形成され、堅く締まっている。

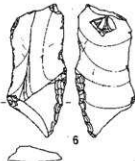
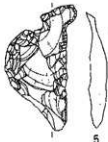
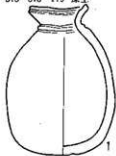
**その他** 北壁寄りの床上5cmから赤褐色顔料と思われるものが径27cm×20cm、厚さ0.5cmで台形状に敷在している。



- |   |   |
|---|---|
| <p>1 7.5YR 5/ 黒褐色土 柔らかく粘りあり。灰化物混入する。</p> <p>2 7.5YR 5/ 黒色土 柔らかく粘りあり。ブロック状に黒褐色土混入する。</p> <p>3 7.5YR 5/ 暗褐色砂質土 浮石较多く盛りし、ササザラしている。</p> | <p>1 7.5YH 5/ 均一黒～黒褐色土 やや締まっている。灰土と黒褐色土の混合土。</p> <p>2 5 YR 5/ 暗赤褐色土 堅く締まっている。粘りあり。</p> <p>3 7.5YR 5/ 灰色シルト質土 堅く締まっている。炭屑の付土粒混入する。</p> |
|---|---|



3.3・8.3・1.9 座上



第9図 ⅤLd住居址・出土遺物

1・5・6 S=1  
2・4・7 S=1

遺物 (第9図1～7・写真図版31・40)

土器 (1～4) 1の壺形土器及び2・3の鉢形土器の破片が床面から出土している。1は西壁際から横位の状態で出土した完形の小形無文壺である。頸部が強く締まり徳利状の器形である。口縁部と頸部に2条の沈線が走り、器表はミガキが施され丹が塗られている。丹は大半が剥落し、器表は暗褐色を呈している。

2・3は横位平行沈線を口縁部にもつもので、2は小突起口縁で、突起に刻みが施されている。4は磨消しが施される土器の体部片である。

石器 (5～7) 石匙 (5)、搔削器類 (6)、凹石 (7) が出土している。5・6が床面から出土している。石匙は左右非対称形の縦形のもので、表裏の2面からの刃部加工で鋸歯状の粗い刃部を造り出す。6は縦長剣片のやや肉厚な先端の一侧縁に表裏から加工し鋸歯状を呈する刃部を造り出し、鋭利な側縁には使用痕が見られるものである。

7は三角形の両輝石安山岩の表裏二面の中央部に凹みをもつもので、表面は径2.5cm、深さ4mm位の凹凸ある皿状の凹みを呈し、裏面は楕円状のごく浅い凹みを呈している。

本住居址の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代晩期中葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Le-1 住居址 (第10図・写真図版5・6)

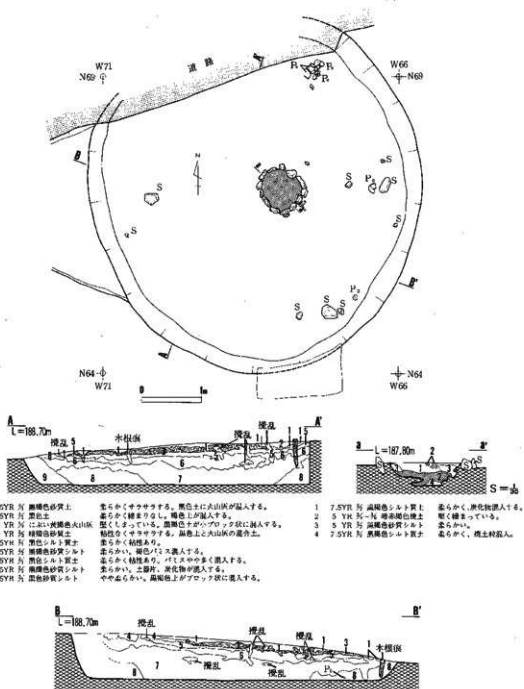
位置 西地区の緩斜面上に位置し、遺構配置のなかでは最も西端にある。VII Le-2 住居址と重複し、その上位にある。検出 II層上位でよい黄褐色火山灰の不整形な広がりによって検出されている。形態・規模 住居址の北側一部が道路下にあるため、詳細な規模は不明であるが、検出された床面や壁等から推測すると、5.1m×5.5mの円形～楕円形を呈すると考えられる。埋土 木根による攪乱がみられるが、自然堆積で5層に大別される。上位から火山灰が混入する黒褐色砂質土、によい黄褐色火山灰、黒色土、黒褐色土及び黒色土で構成される。

壁 壁の立ち上がりは60度～80度の角度で外傾する。壁はVII Le-2 住居址と重複する面もあるが、全体に脆く柔らかい。壁高は、西壁74cm・西壁74cm・南壁34cm・東壁50cmを測る。

床 下位のVII Le-2 住居址の堆積土が床面となり、平坦であるが特に締まりは認められない。土器8・14、石器51が壁際から出土している。柱穴 下位の住居址で11基の柱穴及び柱穴状のピットが検出されているが、そのうちの数基が本住居址の柱穴と推測されるが、明らかではない。

貯蔵穴・周溝 検出されていない。

炉 住居址のほぼ中央に円形の石囲炉がある。炉石は長さ10cm～20cm・厚さ5cm～10cmの安山岩質亜角礫の15個で埋置されており、火熱による赤色変化がみられる。炉は中央部を僅かに



第10図 VII Le-1 住居址

掘り込んで構築され、使用面は床面より7cm～8cm低い。規模は外径85cmを測り、焼土の焼成は悪く柔らかく脆い。焼土の厚さは最大8cmを測る。

遺物（第11図4～27、第12図28～46、第13図47～53・写真図版31・32・40・41）

土器（4～27） 台付鉢（8・11・14）、鉢破片（16・21）が床面から出土している。他は埋土中～下位出土のものである。台付鉢8・11・14は平縁であり、8・14は大小を別にすれば文様、器面の調整、胎土、焼成が類似するものである。8は北東壁、14は東壁近くから正立していたものが土圧で潰れた状況で出土している。これらの台付鉢には浮彫風な疑似工字文が口縁部、脚部あるいは体部に施文され、口縁内側には沈線が巡るものである。

8・14は体部が浅鉢状に緩く立ち上がり口縁部で直立する器形で、内外面は丁寧にミガキ調整される。14の脚部には円孔が穿かれており、体部の3カ所に補修孔をもっている。11は底部からの立ち上がりは8・14に比較しやや強く、頸部で大きく屈曲し口縁が45度位に外傾する。体部下半には横走縄文（LR）が施される。内外面の調整と焼成は良い。色調は明褐色である。

5は2個1対状の小突起を口縁にもつ台付鉢で、口縁部が直立する。疑似工字文を口縁部と脚部下半にもち、体部に無節斜縄文（Lr）が施される。内面調整がなされ、焼成も良い。

6は小形無文の壺形土器で口縁上部に8・14に似る施文がなされ、外面はミガキ調整される。15は小突起をもち沈線により工字文が施文されるもの、16は平行沈線をもつもの、21は沈線、刺突を施文後にナデ調整するものである。9は口縁部が僅か締まる小形の鉢で口縁部に平行沈線をもち、胎土に小礫や粗砂を含む。焼成は良い。13は刻みをもつ小突起口縁の鉢で、外面に煤が付着し暗褐色を呈している。

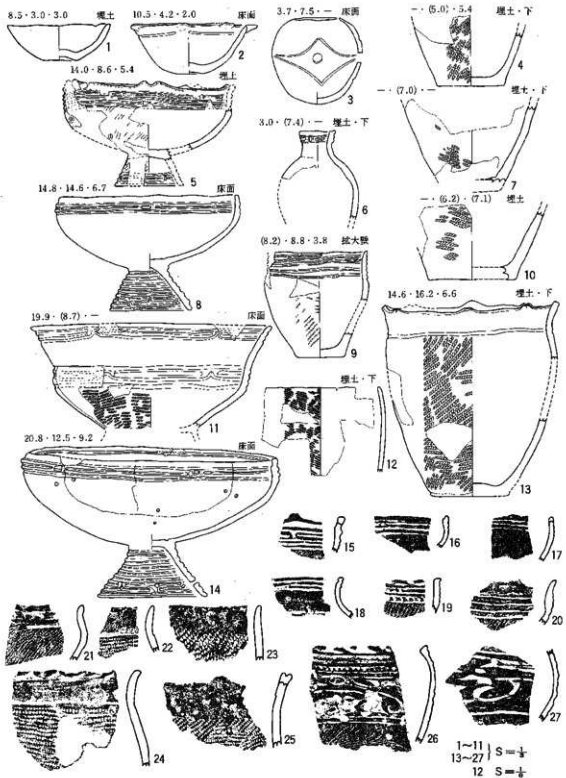
石器（28～53） 石鏃（28・29）、石匙（30）、搔削器類（31～34・37・38）、不定形石器（35・36・39～46）、磨製石斧（47・48）、磨石（49）、石皿（50・51・53）、石刀（52）が出土しているが、床面出土のものは47・48・50・53である。

石鏃は有茎で尖基のもの（28）、柳葉形のもの（29）であり2点とも周縁から丁寧な加工調整が施されるが、一面の中央部に一次加工面を残す。石匙は横形で非対称形を呈するもので、刃部は片面加工調整され直刃状につくられる。31～34は小形剥片の1側縁又は2側縁に刃部を造り出す搔削器類で、32・34には折断面があり破損品であろう。37は1辺の表裏を加工調整し刃部をつくるもの、38はやや厚みのある縦長剥片の先端に凸刃状の刃部を造るものである。

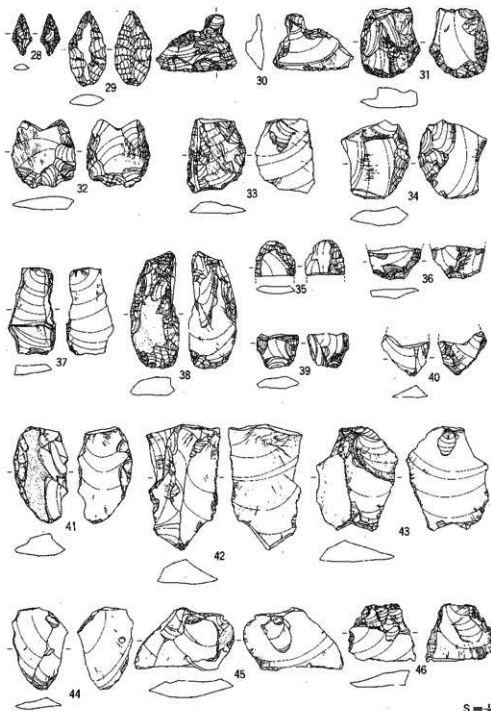
35・36・39・40は剝離加工された刃部をもつ搔削器類の破損した小片であろう。41～46は鋭利な側縁に局部的に加工調整を施すものまたは使用痕をもつもので、削器としての機能をもつ剥片であろう。47・48は側面に稜をつくる磨製石斧の基部で、先端が薄く丸味を呈するもの（47）、尖るように造られるもの（48）である。49は角に丸味をもつが、全面に磨面をもつ直方体状の石器である。



5 区

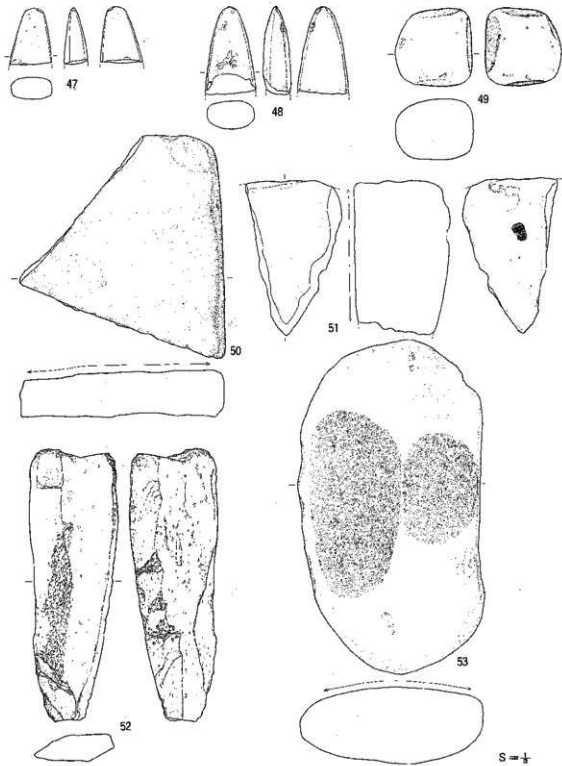


第11图 VII Le-1 住居址出土遺物(1)



S-1

第12圖 VII Le-1 住居址出土遺物(2)



第13图 VI Le-1 住居址出土遺物(3)

50・51は石皿の欠損品で、51は裏面にやや深みのある凹がつくられている。52は埋土上位から出土したもので、石刀の未完製品であろう。表裏に多数の打痕を有するものである。53は床面出土のもので、東壁際から14と共に出土している。偏平楕円体状の礫の表面の2カ所に、緩い傾斜をもつ磨面をもつ石器である。

本住居地の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代晩期後葉に位置づけられるであろう。

#### VII Le-2 住居址 (第14図・写真図版6・7)

**位置** VII Le-1住居址と重複し、その下位に位置する。**検出** 上位のVII Le-1住居址の炉を精査した際に本遺構の炉を検出し判明した。**形態・規模** 平面形はVII Le-1住と同様、北側の一部が道路下にあるため全体の形態と規模は不明であるが、検出された壁から推測すると、平面形はほぼ円形であろう。検出された床面規模は5.5m×5.3mを測る。

**埋土** 埋土の主体はVII Le-1住居址の床面下の黒褐色シルト質土である。炭化物が混入しわずかに締まる程度である。

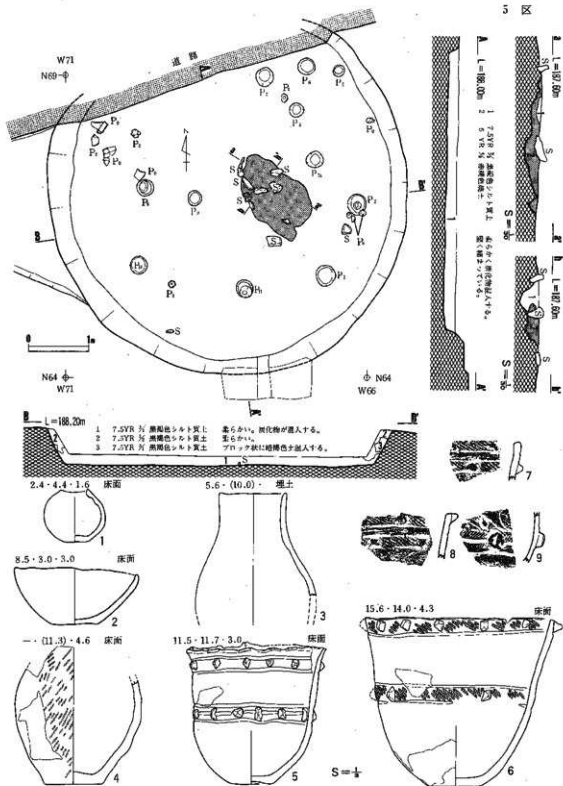
**壁** II層下位～III層下位に構築され、壁は60度位に外傾し立ち上がる。壁高は(VII Le-1住居址の検出面までの高さ)は、西壁90cm・南壁48cm・東壁68cmを測る。床 III層の下位にあってほぼ平坦で全体にやや締まっている。**柱穴** 床面下約10cmで柱穴状の小ピットが11基検出されている。これらのピットの配置及び規模から、柱穴としてP<sub>2</sub>-P<sub>8</sub>-P<sub>9</sub>、P<sub>11</sub>またはP<sub>2</sub>-P<sub>7</sub>-P<sub>9</sub>-P<sub>11</sub>の四角形の配置が考えられるが、明確ではない。

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>
口径cm	34×30	25×25	26×23	20×20	20×20	25×25	28×28	18×18	27×27	28×28	28×25
深さcm	15	47	25	32	20	46	34	26	45	29	29

**炉** 住居址の中央からやや東壁寄りに円形石囲炉がある。焼土は炉及び炉の南東側に大きく広がり140cm×80cmの楕円形状の広がりを呈している。炉石の配置は北側に大きく開き、炉の周辺部に火熱により赤色変化した礫が数個散在することから、炉の原形はほぼ完全な円形石囲炉であったと思われる。焼土は炉の中央部、南側の炉石下部及び炉の南側にと厚く形成され、色調は赤褐色を呈し堅く締まっている。焼土の厚さは最大10cmに及ぶ。

**遺物** (第11図1～3、第14図1～9、第15図10～21・写真図版31～33・41)

**土器** (11-1～3、1～11) 11-1・14-3・9・10が埋土から、他は床面出土のものである。器種はミニチュア土器(14-1)、小形無文の浅鉢形土器(11-1・2、14-2)、小形鉢形土器(11-3)、壺形土器(14-3・4)、鉢(5・6)、深鉢(10・11)である。小形の浅鉢形土器は上げ底のもの(11-1・2)と平底があり、11-2は口縁部に7個の横位に突き出る突起をもち、頸部に一条の沈線が巡る。小形鉢(11-3)は明瞭な底部のつくり出しはなく球形を呈し座り



第14回 ⅤLe-2住居址・出土遺物(1)

の不安定なものである。体部中央に沈線による菱形文が施され、その中央に円孔をもっている。外面は丁寧にナデ調整される。14-3は無文の長頸壺、4は楕円体状を呈する器厚の厚い壺形土器の体部である。

5・6は瘤状突起が口縁部及び体部に貼付けられる鉢形土器で、5は小さい上げ底の底部から緩く立ち上がり体部がほぼ直立し、短い口縁が僅かに外反する。口縁には内側に刻みをもつ小突起が貼付けられる。体部は無文で横位に貼瘤を巡らし、その上・下端に沈線を施している。

6も5とほぼ同様の意匠であるが、平縁で体部が全体的に外に開く器形で貼瘤帯には縄文が施文される。

7・8は帯縄文上に貼瘤をもつもの、9は貼瘤に縦位の刻みが施されるものである。10・11は靫製深鉢形土器の口縁部へ体部片で、10は口縁部付近で内溝を呈するものである。共に外面に煤が付着している。11は縦走縄文(LR)が施文される。

石器(12~21) 石鏃(12)、石匙(13~15)、石錐(17)、不定形石器(18)、敲石(16)、磨石(19・20)、石皿(21)が出土している。床面出土のものは16・19・20・21であり、他は埋土下位からのものである。12は先端がわずかに破損した有草尖基鏃である。周縁から表裏に丁寧に加工調整を施すもので、鏃身と茎部は鈍角を呈する。石質は珪質泥岩である。

石匙は縦形のもの(13)、横形のもの(14・15)がある。片面加工調整によりつくり出され、13・14はほぼ左右対称形のものである。17は全周から加工調整される石錐で菱形状偏平の柄をもつもので、刃部は長く薄手でその断面は偏平菱形である。先端は丸味を持ち磨滅している。石質は玉ずいである。18は小形剥片の周縁から、主として表面加工調整を施し隅丸長方形状につくりだされる。16は玉ずいの石核の側面に敲打痕をもつもので石器等の加工用具と思われる。19・20の磨石は2面に滑らかな磨面をもつものである。

石皿21は石質が石英安山岩で、両面に使用面をもつ。火熱を受け赤色変化し、一部表面が剥落している。

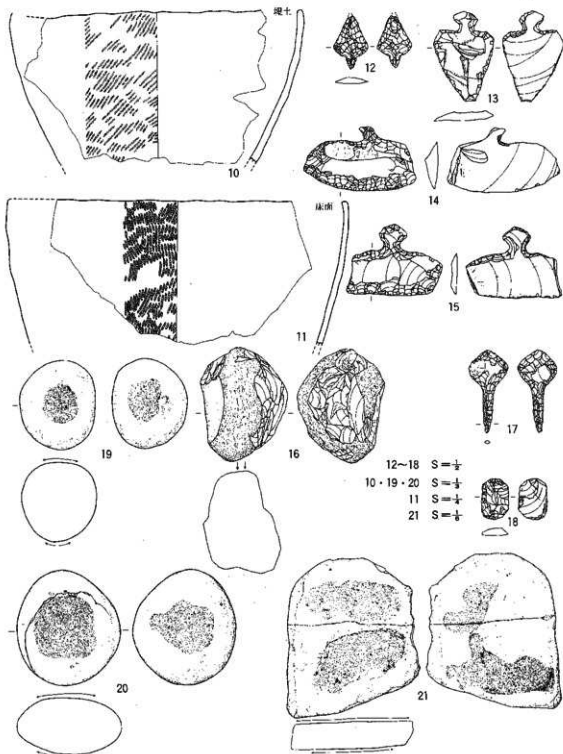
本住居址の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期後葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Lf 住居址(第16図・写真図版8)

位置 調査区西側の緩斜面上に位置し、北西3mにVII Le 1~2住居址、北東3mにVII Lc 1~3複合住居址が隣接している。検出 隣接する住居址が検出されたII層中では遺構の輪郭は不明で、土層観察用のトレンチ下部で地床炉の一部がかかったことによって遺構の確認がされたものである。形態・規模 長径4.2m×短径3.75mの南北方向に長径を呈す楕円形である。

埋土 炭が全体に混入する黒色シルト質土で構成され、2層に大別できる。埋土上部は堅く

5 区



第15图 VI Le-2住居址出土遺物(2)

縮まり、下部にいくにしたがって柔らかくなり、炭や焼土粒の混入が多くなる。壁床からの立ち上がりはわかるものの上場は曖昧な力所もある。壁高は東壁50cm、西壁82cm、南壁70cm、北壁83cmを測る。

床 III層下部～IV層を床面とし、南壁側と北壁側では20cmの比高がある。ほぼ平坦で柔らかい。床上には広い範囲で焼土と炭が散布することから焼失家屋と考えられる。柱穴 ビットは  $P_1 \sim P_3$  が検出されたものの位置的に柱穴とはなりえない。 $P_1$  と  $P_2$  は壁際に位置し、埋土の状態も同様であることから、入り口に関する何らかの施設とも考えられる。

炉 地床炉が遺構中央部からやや南西寄りに位置し、規模は長径75cm×短径65cmの不整形を呈す。焼

P.No	$P_1$	$P_2$	$P_3$	$P_4$	$P_5$
口径cm	25×16	34×21	18×16	18×15	16×15
深さcm	22	38	29	10	12

土はブロック状に2.5cm～3cm形成されている。周溝 検出されていない。

遺物 (第16図1～11・写真図版33・41)

土器 (1～6) 鉢形土器が床面から、3が埋土上位から、他は埋土中～下位からの出土である。

鉢形土器は口縁部の欠損したもので、体部はほぼ球形を呈している。体部の上部及び下部に沈線を巡らし文様帯を区画し、その文様帯には曲線沈線で縄文帯と無文帯を分け、木葉状の文様を推出する。縄文帯には羽状縄文が充填されている。無文帯及び内面は丁寧にナデ調整される。文様帯の上部、下部にも横位の羽状縄文が施文される。焼成は良く、色調は暗赤褐色を呈している。1は羽状縄文が横位に施文される深鉢である。

2は鉢形土器の底部で、体部には無節斜縄文(Lr)が施文され、内面は丁寧なナデ調整が施されている。3は断面の湾曲した蓋状を呈する土製品で上部が欠損している。内面に竹管刺突文が、中央には集中し周縁には放射状に施されている。胎土に粗砂や石英砂を多く含み焼成は良い。厚さ4～5mmで、暗褐色を呈している。4～6は粗製土器の口縁部片で、4は口縁部が肥厚し、横位の羽状縄文が施文される。

石器 (7～11) 石匙(8)、不定形石器(7・9)、打製石斧(10)、石皿(11)が出土している。すべて埋土中からの出土である。8は横形石匙で握みが1方に片寄る非対称形であり、尖頭刃状の先端をつくりだすものである。10は基部の欠損した打製石斧である。刃部の平面形態はやや丸味をもち凸刃状を呈す。縦断面は楔形で先端はやや丸味をもっている。石質は角閃石英安山岩である。11は石皿の破損品で表裏に使用面をもつもので、石質はやや硬質な両輝石安山岩である。

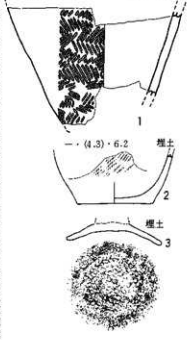
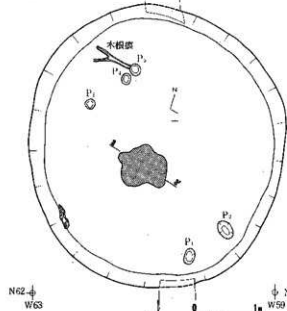
本住居址の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期中葉に位置づけられるものと考えられる。



W63  
N67

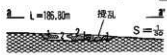
W59  
N67

5 区  
埋土・上-下

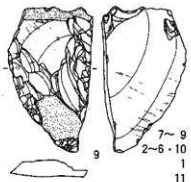
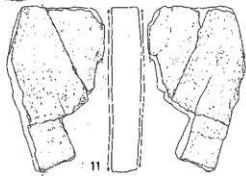
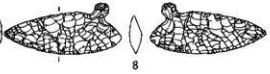
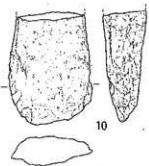


N62  
W63

N62  
W59



- 1 7.5YR 5/1 黒色シルト質土 やや強く締まり、少量の炭土粒・炭化物混入する。  
2 7.5YR 4/1 黒色シルト質土 やや柔らかく、炭化物・炭土が混入する。



- 7~9 S=1/2  
2~6・10 S=1/4  
1 S=1/8  
11 S=1/8

第16図 ⅧLf住居址・出土遺物

#### VII Lg 住居址 (第17図・写真図版9)

**位置** 西地区の南東寄りに位置する。南にVII Lk 住居址、北にはVII Lc-1～3の住居址がある。検出 II層下位において、灰黄色細粒浮石(火山灰)の混入する暗色部として検出されている。形態・規模 平面形は円形を呈し、その規模は径3.7mを測る。埋土 自然堆積で2層に大別される。上部の1層は灰黄色細粒浮石(火山灰)の混入する黒色土で層厚は最大で10cmを測る。下部(2層、3層)は黒色シルト質土で構成され、埋土の主体をなし層厚は約25cmを測る。本層は炭化物等の混入や、締まりによって2分される。埋土下位～床面にかけ出土している炭化物はナラと鑑定されている。

**壁** II層下位～III層下位にあって、床面から約70度外傾し立ち上がる。壁高は、北壁で60cm・西壁で30cm・南壁で28cm・東壁で35cmを測る。床 III層中位～III層下位に構築されている。ほぼ平坦で締まっている。床面に焼土及び炭化物が散在しており、焼失家屋と思われる。

**柱穴・周溝** 検出されていない。

**炉** 南東寄りに石囲炉が1基ある。大小10個の安山岩質の亜角礫を東側と西側に埋置し構築している。炉の規模は外径で90cm×55cmを測る。焼土は一部擾乱を受けているが、形成は良好で堅く締まっている。

#### 遺物 (第17図1～17・写真図版33・41)

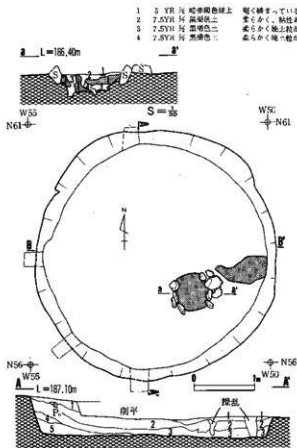
**土器 (1～8)** 床面出土のものはない。1は小形無文の浅鉢形土器であり、三角波状を呈する口縁が頸部で屈曲し外側に開くものである。2・3は小形鉢形土器で、2は無文で体部中央に膨らみをもち口縁はほぼ直立する器形である。内外面は粗いナデ調整が施されている。

3は小山形口縁をもつ鉢で、山形頂部に刻みをもち口唇部及び口縁内側には沈線が施される。体部には横位縄文(LR)が施文され、体上部に沈線が変形工字文を描き、その後にはナデ調整を加えるものである。内面は丁寧にミガキが施されている。器厚は4mm、色調は暗赤褐色である。

4は2個1対の瘤状突起をもつもので、口縁上部の平行沈線間に連続刺突文が施される。5～8は粗製鉢または深鉢形土器の口縁部片で、5・7・8は口縁部に磨消しが施されている。7・8には口縁に突起があり、8には部分的に横位縄文が施文される。

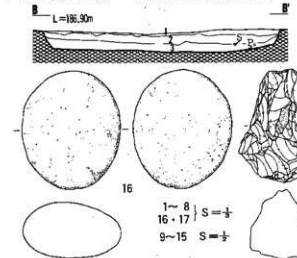
**石器 (9～17)** 石鏃(9・10)、尖頭石器(11)、搔削器類(12)、不定形石器(13～15)、石核(17)、磨石(16)が出土している。13が床面から、他は埋土中～下位からの出土である。9は有茎鏃で、鏃身の幅が狭く先端が鋭く尖るものである。11は石錐状の先端をつくり出すもので表裏に一次加工面が残る。12は一側縁の表裏に浅い剝離加工を施し、直刃状の刃部をつくる。17は玉髓の石核である。16は偏平楕円状の表裏に滑らかな磨面をもつものである。

本住居址では、遺構の所属時期を明確にし得る遺物は出土していないが、埋土から出土した土器が縄文晩期(第V群土器)のものであることから考えると、縄文時代晩期に属すると思わ



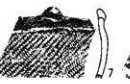
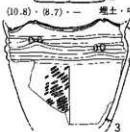
- 1 7.5YR 同 黄褐色土
- 2 7.5YR 同 黄褐色土
- 3 7.5YR 同 黄褐色土
- 4 7.5YR 同 黄褐色土
- 5 7.5YR 同 黄褐色土

素早くパキパキし、炭化物、灰白色火山灰を含む。  
 中に結ぶまり、多数の炭化物土粒を含む。  
 2層より堅く締まる。F30ノット状に硬直した山灰を含む。  
 中に結ぶまり、炭素の炭化物を含む。  
 全体に堅く締まり、炭素の炭化物を含む。



(9.2)・2.4 - 埋土・中

8.5・7.9・6.3 埋土・下



5 区



第17図 VII Lg住居址・出土遺物

れる。

#### VII Lk 住居址 (第18図・写真図版10)

**位置** 西地区の南に小さく張り出す地形のほぼ中央に位置する。北にはVII Lg 住居址がある。南側は湿地帯となり、沢が東流している。**検出** II層中位において、淡黄色細粒浮石(火山灰)の円形の広がりによって検出されている。検出面と湿地との比高は約1.5mである。

**形態・規模** 平面形は円形を呈し、その規模は径3.9mを測る。**埋土** 自然堆積であり、3層に大別される。上位は淡黄色浮石(火山灰)で構成され、レンズ状に堆積し堅く締まっている。層厚は約20cmある。最上部は黒色土が混入し暗色を呈す。埋土中位は黒褐色砂質土で構成され、やや締まっている。層厚は10cm~15cmである。下位は黒~黒褐色シルト質土で構成され柔らかい。層厚は壁際で35cm、中央部で15cm位である。

**壁** II層中~III層下位にある。床面から60度~70度位で外傾し立ち上がる。壁高は北側で高く60cm、南側では約40cmである。床 III層下位に構築されており、平坦で締まっている。

**柱穴** P<sub>1</sub>~P<sub>6</sub>の6基が検出されている。主柱穴は平面配置からP<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>と思われる。P<sub>5</sub>は他の3基に比較して浅いので、P<sub>6</sub>と共に補助的な柱穴とも考えられる。

**炉** 住居址のほぼ

中央に、土器埋設炉  
が1基ある。炉の周

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>
口径cm	27×23	22×19	25×24	22×20	21×18	19×18
深さcm	38	15	40	41	11	22

辺に大小8個の直角礫が埋置されており、火熱によって赤変している。礫は、北側に2個、南側に6個の配置で、西側と東側は大きく開いている。礫を含めた規模は約75cm×65cmを測り、その内側に焼土・炭化物が広がり、埋設土器の周辺部が特に焼成が顕著で焼土の形成は厚さ7cmに及ぶ。

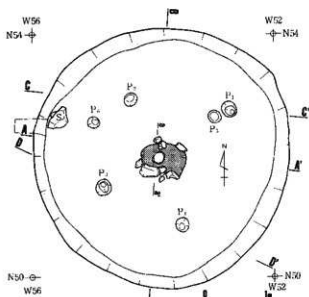
**遺物** (第18図1~5、第19図6~17・写真図版33・34・41)

**土器** (1~11) 4が炉埋設土器、10が床面出土、他は埋土中~下位からの出土である。

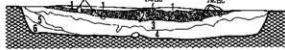
4は深鉢形土器の底部で大きく歪みを呈している。地文は原体(LR)が横、斜めと脈絡なく回転施文される。胎土には小礫及び多量の砂粒を含み、火熱により明褐色~赤褐色を呈し、器表はざらざらしている。10は鉢形土器と思われるものの破片で、短い口縁が直立し内側に一条の沈線が巡る。文様は横位沈線が施文されるが、器表が剥落しており文様の詳細は不明である。

1・6~9は工字文または変形工字文をもつ縄文晩期後葉(第V群5類)の土器片である。1は台付鉢の脚部、6は小突起口縁をもつ小形鉢である。

2~5は鉢形土器で、2は丸味をもつ小形のもので頸部に一条の横位沈線が巡る。3・5は



A L=186.70m



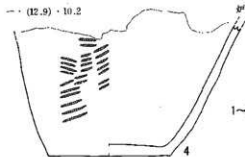
- |    |                   |                         |
|----|-------------------|-------------------------|
| 1a | 10 YR 5/ 濃い黄褐色砂質土 | 火山灰に黒色土の小ブロック混入。結まっている。 |
| 1b | 10 YR 5/ 暗褐色砂質土   | 結まっている。火山灰と黒色土の混合土。     |
| 2  | 10 YR 5/ 濃い黄褐色火山灰 | 1a層より白色で堅く結まっている。       |
| 3  | 7.5YR 5/ 黒褐色砂質土   | やや結まっている。炭化物がわずかに混入する。  |
| 4  | 7.5YR 5/ 黒色シルト質土  | 柔らかく結まりなし。              |
| 5  | 7.5YR 5/ 黒褐色シルト質土 | 柔らかい。4層より褐色である。         |
| 6  | 7.5YR 5/ 黒色シルト質土  | 柔らかく結まりなし。              |



C L=186.00m

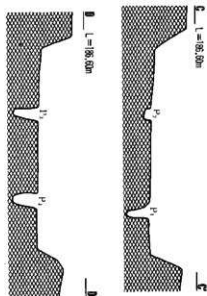


- |   |                   |                         |
|---|-------------------|-------------------------|
| 1 | 7.5YR 5/ 黒褐色シルト質土 | 柔らかく結まりなし。炭・灰土粒が少量混入する。 |
| 2 | 7.5YR 5/ 黒褐色シルト質土 | やや結まる。多くの炭と土粒が混入する。     |
| 3 | 2.5YR 5/ 赤褐色焼土    | 炭体に柔らかく炭化物がわずかに混入する。    |



1~5 S=1/2

第18図 VII k住居址・出土遺物(1)



--- (6.2)・4.3 埋土

--- (3.1)・5.4 埋土・中一ト

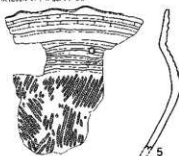


埋土・中一ト

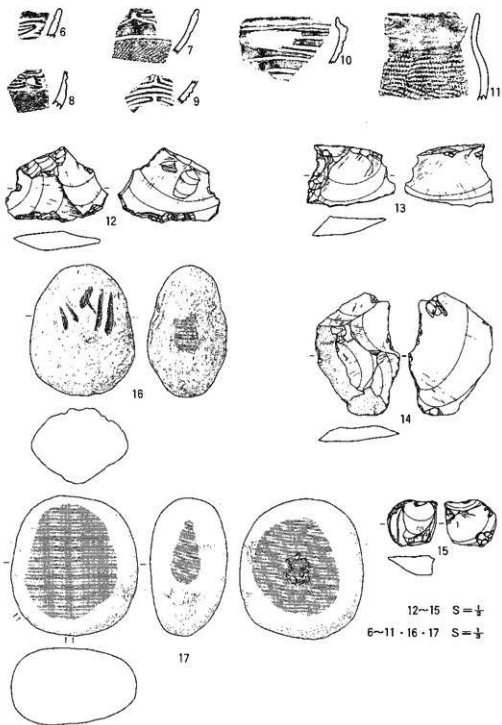


3

埋土



5



第19図 VII k 住居址出土遺物(2)

口縁～体部の破片であり、小波状口縁をもち頸部で強く締め口縁が外反し、3の体部は全体に丸味をもち、5は体部上半に最大径をもつものである。3は口縁が無文で、頸部から体部上半は横位平行沈線が、体部下半は縄文施文後に斜位の沈線が施され、さらに頸部には斜めからの刺突文が付加される。体部には苜状の粘土貼付をもち、一部剥落している。

5は横位平行沈線が多用されるもので、沈線施文の際の押し引きの痕が見られる。頸部に方形の刺突が付加される。地文はLRの原体により施文されている。3・5の内面は丁寧にナデ調整されている。内側に煤が付着する。11は体部に横走縄文(LR)が施文され、外面に煤が付着している。

石器(12～17) 播削器類(12)、不定形石器(13～15)、砥石(16)、磨石(17)が出土している。17が床面から、他は埋土からの出土である。17は偏平な自然礫を用いたもので、表裏に滑らかな磨面をもち、裏面の中央には打痕の複合により浅い凹みを呈している。側面には擦痕及び打痕をもつ。16は多孔質で、軽石状の阿蘇石・安山岩・熔岩を用いた砥石である。表面中央部に深さ5mm位の小さな凹みと数条の浅い溝状の痕跡をもつ。側面には小さな磨面がある。12は一側縁にやや粗い加工調整が施される横刃状の播削器類である。

本住居址の所属する時期は、出土遺物、火山灰の堆積等から縄文時代晩期末葉弥生初頭に位置づけられるものと考えられる。埋土下位出土遺物に弥生土器の要素を強くもつ土器が含まれていることから、弥生時代初頭と位置づけた。

#### VI Mn 住居址(第20図・写真図版11)

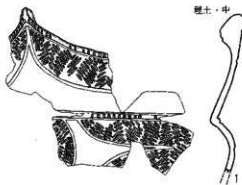
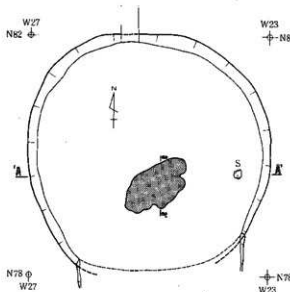
位置 中央部の北西寄りに位置し、北側は道路を挟んで台地のやや急な斜面となる。南にVII Mb-1・VII Mb-2住居址がある。検出 分布調査時の試掘によって、遺構の南側が大きく攪乱を受けていたが、II層の中段で円形の暗色部として検出されている。形態・規模 傾斜下方の一部が削平されているが、平面形はほぼ円形を呈し、規模は径3.9mを測る。埋土 大きく2層に分けられる。上位は炭化物の混入するやや柔らかい黒色土、下位は柔らかい黒色シルト質土で構成される。層厚は上位が約10cm、下位は15cm～20cmである。

壁 II層下位～III層下位にあって、床面から60度位に外傾し立ち上がる。壁高は北壁40cm・東壁・西壁は約30cmある。床 北半はIII層下位、南半はIII層上位にある。ほぼ平坦であるが、特に締まりはなくやや柔らかい。柱穴・ピット・周溝 検出されていない。

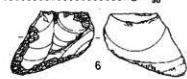
炉 住居址中央やや南寄りに地床炉が1基ある。焼土は120cm×65cmの釜んだ椀形形状に広がり、焼成は良好で堅く締まっている。焼上の形成は最大9cmに及ぶ。

#### 遺物(第20図1～11・写真図版34・41)

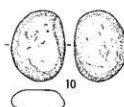
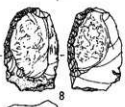
土器(1～5) 深鉢形土器と思われるものの体部片(3)が地床炉上面から、他は埋土中



- 1 7.5YR 弱 黒褐色土 赤らかく粘性あり、炭化物混入する。  
 2 7.5YR 弱 黒褐色土 赤らかく粘性があり、炭化物混入する。  
 3 7.5YR 弱 黒褐色土 L層片とブロック状の褐色土混入する。  
 4 7.5YH 弱 黒白土 赤らかい。ブロック状に黒褐色土混入する。  
 5 7.5YR 弱 褐色土
- 1 5 YR 弱 赤褐色土 堅く締まっている。  
 2 7.5YR 弱 暗褐色砂質土 わずか焼成を受けている。  
 3 7.0YR 弱 黒褐色砂質土 赤らかく締まりのし、炭土混入する。
- L=189.10m  
 L=188.85m  
 S=1/30



1・6~10 S=1/2  
 2~5・11 S=1/3



第20図 VIMn住居址・出土遺物



からの出土である。3は櫛歯状沈線により「8」字状の文様を描くもので、内面は丁寧にナデ調整されている。胎土に砂粒が多量に混入し、器厚は約7mmである。火熱による赤色変化のためであろう、色調は明褐色を呈している。1は埋土中位から出土した大波状口縁を呈する土器である。体部は丸味をもち、頸部で強く窄み口縁が外傾し立ち上がる器形であり、波状頂部は瘤状に肥厚する。沈線により縄文帯・無文帯を区画し、縄文帯には同一原体により羽状縄文を施す。口縁部上端及び頸部には連続刻文が施文される。図に掲載はないが、同一個体と思われる体部片に2個1対のヒレ状突起がある。2は小波状口縁の深鉢と思われるもので、口頸部に平行沈線及び沈線内凹文が施文される。4は網目状文が施文されるもの、5は口縁部に磨消しが施されるもので大ききな補修孔がある。

石器(6~11) 床面出土のものはない。9が埋土上位から、他は埋土中~下位からの出土である。掘削器類(6~8)、尖頭石器(9)、磨石(11)、石製品(10)である。6は表面の2側縁から加工を施し尖頭状の刃部をつくり出し、7は片面加工により直刃状の刃部をつくり出すものである。8は片面加工により左右の2側縁に刃部をつくるもので刃部は鋭利である。9は表裏の加工調整で尖頭状につくり出されるものである。10は偏平な楕円形状を呈する石製品で、全面が滑らかに磨かれている。石質は玉髄である。11は角棒状の自然礫の2面に局部的な磨面をもつものである。

本住居址は出土遺物等から縄文時代後期前葉~中葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Mb-1 住居址 (第21図・写真図版12)

位置 中央部平坦地の北西寄りに位置する。西側15mには湧水があり、小さな沢が南流する。南にVII Mb-2住居址、北にはVI Mn住居址が隣接する。検出 II層中位で、淡黄色細粒浮石(火山灰)の広がりによって検出されている。形態・規模 平面形は円形を呈し、その規模は径3.7mを測る。埋土 5層に大別される。上位から順に、1層は火山灰の混入する黒色砂質土で層厚5cmである。2層は火山灰(十和田a火山灰と鑑定分析されている)で堅く締まっている。層厚は約10cmである。3層は炭化物の混入する暗褐色シルト質土で堅く締まり10cm~15cmの層厚である。4層は黒色シルト質土で柔らかい。15cm~20cmの層厚である。5層は少量の炭化物を含む黒~黒褐色シルト質土で構成され柔らかく層厚は20cm~30cmである。4層と5層の間にやや堅く締まった暗赤褐色焼土があり、本住居址の上位に重複するように住居址(弥生時代)が構築されていた可能性があるが、明確にし得なかった。

壁 II層~III層下位にあって、床面から60度~70度で外傾し立ち上がる。壁高は、北側で高く北壁75cm、南壁で60cmを測る。床 北半はV a層上位、南半はIII層下位に構築されている。平坦で締まっている。柱穴 柱穴と思われるピットが2基検出されている。2基は炉を挟んで

東西に配置される。P<sub>1</sub>は口径25cm×18cm・深さ47cm、P<sub>2</sub>は口径21cm×19cm・深さ17cmである。

ビット 南壁寄りに小ビットP<sub>3</sub>がある。平面形は円形で、断面形は方形を呈し、口径33cm×30cm・深さ30cmを測る。底部は平坦である。埋土はV層土と黒色土の混合土で柔らかく粘性がある。遺物は出土していない。

炉 住居地の中央からやや北西寄りに、亜角礫が配置される炉が1基ある。角礫は6個あり火熱によって赤色変化しており、長さ10cm～15cm・幅5cmほどの扁平な安山岩である。数個は埋め込まれており、同様な礫が数個床面に散在することから、炉の原形は石囲炉であった可能性が高い。焼土、炭化物が径60cmの範囲に広がり、焼土の形成は厚さ8cmに及ぶ。焼成は良く堅く締まっている。

遺物 (第21図1～10、第22図11～20・写真図版34・41)

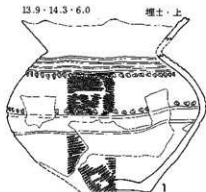
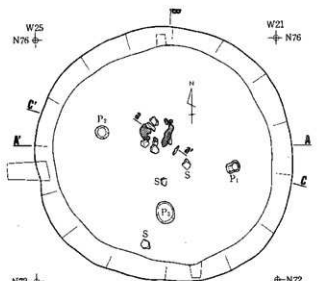
土器 (1～10) 壺形土器 (1)、蓋状の土器 (2)、その他破片が出土しているが床面出土のものはない。1・2・8・9が埋土上位から、他は埋土下位からのものである。

1・9は弥生式土器である。1は口縁部上端が破損したもので、平縁か波状口縁かは不明である。胴中央部に最大径をもち、無文の口縁は「く」の字状に強く外反しする。胴上部に4条の、中央部に2条の平行沈線を巡らし、沈線に沿って連続刺突文を施す。沈線は口唇部及び口縁内側上部にも施される。地文は、横走縄文 (LR) で、胎土には金雲母を含み、色調は赤褐色を呈している。9は鉢形土器の口縁部片で、口唇部に連続刻みをもつ。平行沈線が多用され、口縁内側にも1条の沈線をもち、口縁上部に連続刺突文が施されている。2は弥生式の蓋形土器と思われるもので、原体の横位、縦位回転施文により斜縄文 (LR) が施される。内面は荒いナデ調整がなされている。胎土には粗砂や石英砂が多く混入し焼成は良い。色調は黒褐色～暗褐色である。8は羊歯状文が施される鉢形土器である。

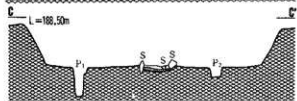
3～6は口縁上部または体部に2段の連続刻目文をもつもので、口縁部は肥厚し内湾又は直立する。3・5は波状口縁で羽状縄文が、6は平縁で斜縄文が施文される。4・7は沈線で区画された幅広い磨消し帯をもち、地文には斜縄文が施される。3～7は胎土に石英砂を多く含み、器面に化粧粘土が用いられ赤褐色～黄褐色を呈している。10は内湾する深鉢形土器で外面に多量の煤が付着している。

石器 (11～20) すべて埋土からの出土で、石匙 (11)、搔削器類 (12)、不定形石器 (13～17)、石核石器 (18)、石皿 (19・20) である。

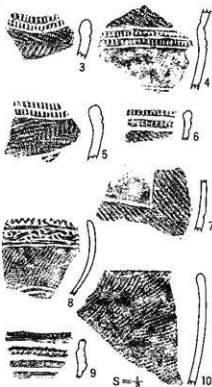
石匙11は縦形のもので握みが一方に片寄ってつくられた左右非対称形を呈し、主に片面加工によって刃部がつくられる。12は平行する側縁に刃部をもつ複刃状の搔削器類である。13～17は不定形石器で、13は楕円形を呈する厚手の剥片に打撃加工を施し、一部に粗い刃部をつくり出すものである。他は側縁又は先端部に使用痕、微細加工痕をもつものである。18は石核の一



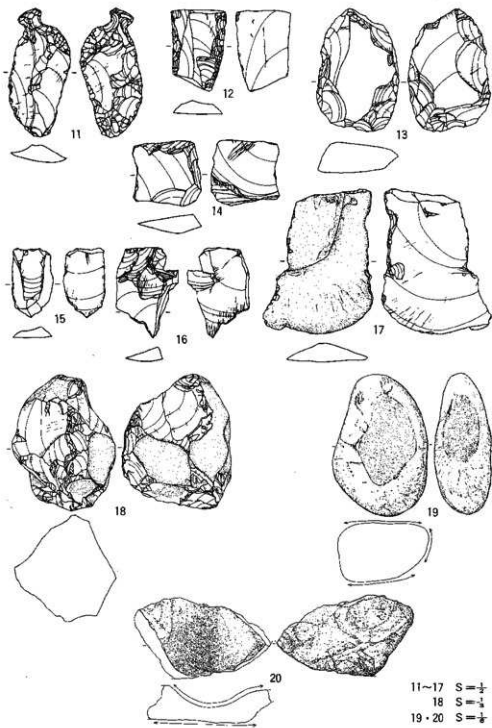
- 1 7.5YR 弱 黒色砂質土 堅く締まり、目層上が多く侵入する。粘りなくサラサラする。  
 2 10 YR 弱-弱 濃い黄褐色火山灰 全体に硬くヤフクツする。  
 3 7.5YR 弱 暗褐色シルト質土 堅く締まり、灰-粘土粒を全体に含む。  
 4 7.5YR 弱 黒色シルト質土 やや強く、炭素質の炭化物を含有する。  
 5 7.5YR 弱 黒色シルト質土 4層と同程度の締まりで、少量の炭化物を含む。  
 6 7.5YR 弱-弱 黒色シルト質土 5層に類似し、やや締まっている。  
 7 7.5YR 弱 黒色シルト質土 5層に類似し、硬く締まっている。  
 8 7.5YR 弱 暗褐色シルト質土 6層と類似し、硬く締まっている。  
 9 7.5YR 弱-弱 黄褐色シルト質土 粘りなくやわらかく粒が混入する。  
 10 5 YR 弱 暗褐色粘土 全体に堅く締まり、やや粘りあり。  
 11 5 YR 弱-弱 暗褐色粘土 やや締まっている。灰土に褐色土が混入。



- 1 7.5YR 弱 黄褐色砂質土 やや締まっている。灰土が混入する。  
 2 7.5YR 弱 暗褐色粘土 よく締まっている。  
 3 2.5YR 弱 暗褐色土 おおむね硬質を受けている。  
 4 7.5YR 弱-弱 黄褐色土 堅く締まりなし。  
 5 7.5YR 弱-弱 黄褐色土 締まっている。灰土が混入する。  
 6 5 YR 弱 暗褐色粘土 堅く締まっている。やや炭成を受けている。



第21図 ⅤMb-1 住居跡・出土遺物(1)



第22图 VII Mb-1 住居址出土遺物(2)

面に打撃加工を施し粗い稜をつくり出しその稜の部分を機能部位とする石器で、敲く、潰すなどの打撃機能が考えられる。

19・20は石皿で、19は表面の中央部に石皿としての機能面（磨面）をもち、僅かに湾曲する。側面にも緩く湾曲する磨面がある。裏面の磨面は粗く小さな凹凸をもつ。20は両面使用のもので、表面は大きく内湾し滑らかである。裏面は数個の内湾する磨面が複合している。

本住居地の所属する時期は、埋土下位の出土遺物から縄文時代後期中葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Mb - 2 住居址（第23図・写真図版13）

位置 遺構が密集する調査区中央部の南緩斜面上に位置している。北側1mにVII Mb - 1住居址、東側0.5mにVII Mf - 1住居址が隣接している。検出 IV層上面で検出されている。形態・規模 北側壁は一部に掘りすぎがあるものの、長径2.84m×短径2.64mのやや歪む円形を呈する。埋土 黒褐色砂質土を主体とする4層に細分される。1層と2層は埋土の大部分を占め、ブロック状に暗褐色土が混入する。上部は堅く締まり、下部にいくにしたがって柔らかくなる。3層は黒色シルト土で炭化物が多く混入している。4層は壁際に堆積し、砂質土がブロック状に混入する黒褐色土である。壁 平均して深さ50cm前後を測り、床から110度の勾配で外傾をする。床 V層上面にあり、木根等の攪乱があるもののほぼ平坦である。柱穴 ビットは6基検出され、P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>が位置的に遺構に伴う主柱穴と考えられる。P<sub>6</sub>は地床炉の切り

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>
口径cm	26×24	26×25	14×12	20×12	13×12	36×30
深さcm	41	48	4	28	14	28

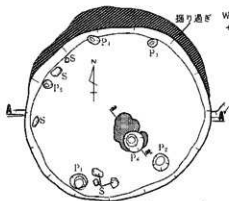
合い関係から、遺構よりも古いビットである。周溝 検出されていない。

炉 地床炉が遺構中央部南東寄りに位置している。焼土は径44cm×30cmの不整形を呈し、層厚4cm前後を測る。

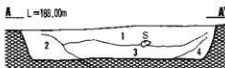
#### 遺物（第23図1～13・写真図版34・35・42）

土器（1～8） 床面から8が、他は埋土中～下位からの出土である。8は櫛歯状文が施文されるもので、外面に煤が付着している。1は口縁に小山形突起をもち、ほぼ直立する器形のもの、2・4・5は波状口縁で外反するもの、3は平縁で複合口縁のものである。これらには縄文施文後に沈線が施され、1には渦巻状またはS字状文及び長楕円文が、2・4には曲線文が描かれ、5には帯縄文が構成される。4の波状頂部の表裏には3ヶの原体圧痕が押捺される。3は網目状文が施される。6は体部が内湾し口縁が緩く外反する深鉢形土器で、沈線により口縁部文様帯を区画し原体圧痕及び沈線により口縁に平行する2段の長方形の区画文を描き、原体圧痕の交差部にボタン状の貼付をもつものである。7は深鉢の体部片で沈線により帯縄文が

W25  
N71



掘り過ぎ W21  
N71



- 1 7.5YR 灰褐色砂質土 下位は柔らかく炭化物混入する。  
2 7.5YR 灰褐色砂質土 柔らかく腐まりなし。  
3 7.5YR 褐色シルト質土 柔らかく腐まりなし。炭化物多く混入する。  
4 7.5YR 褐色シルト質土 やや腐まっている。砂質土がブロック状に混入する。

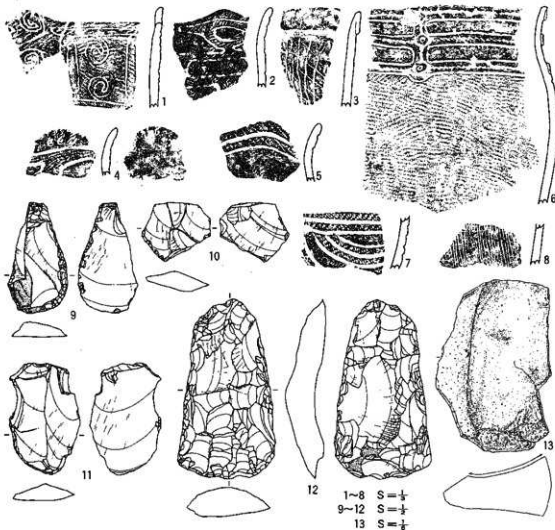


N68  
W25



N68  
W21

- 1 7.5YR 灰褐色シルト質土 やや腐っており、炭七粒を含む。  
2 7.5YR 灰褐色シルト質土 柔らかい。V層土がブロック状に混入する。  
3 7.5YR 灰褐色シルト質土 褐色土に灰褐色土が混入し、やや腐まっている。  
4 7.5YR 灰褐色シルト V層土が混入したもので柔らかい。



- 1~8 S = 1/4  
9~12 S = 1/2  
13 S = 1/2

第23図 ⅧMb-2住居址・出土遺物

構成される。

石器 (9~13) 播削器類 (9)、石ペラ状石器 (12)、不定形石器 (10・11)、石皿 (13) が出土している。9・13が床面からの出土である。9は片面加工調整により曲刃状の刃部をつくる播削器類である。12は周縁からの打撃加工でつくられ、下辺の刃部及び側縁の一部に押圧剝離調整を施すものである。石皿は機能面が12cm×25cmと広く滑らかな曲面を呈し、表面の片側に縁りをつくり出すものである。

本住居地の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期前葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Mc 住居址 (第24図・写真図版14)

位置 調整区中央部平坦地のほぼ中央に位置する。至近にはVII Mb-1住居址、VII Mf-1・f-2住居址がある。検出 二次検出時のトレンチ掘りにおいて土層の落ち込み、及びIII層上位で暗色の円形プランとして検出されている。形態・規模 平面形はほぼ東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、その規模は3.7m×3.4mを測る。埋土 単層でブロック状に褐色土が混入する黒色シルト質土で構成される。層厚は約20cmである。

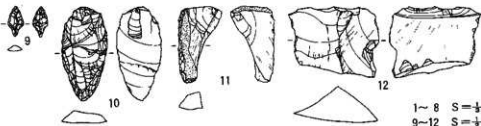
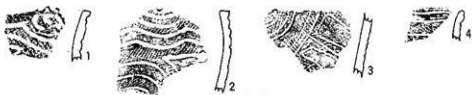
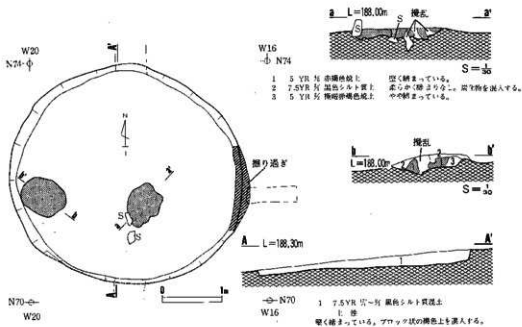
壁 東壁の一部を掘りすぎ、消失している。壁はIII層上位～中位にあり、壁高は、北壁で20cm・西壁で30cm・南壁で20cmを測る。床 III層中に構築されやや締まっており、炭化物がわずかに散在する。ほぼ平坦であるが北から南に向かって緩い下り勾配を呈している。柱穴・周溝 検出されていない。

炉 住居址中央からやや南壁寄りに角礫が1個埋置される炉がある。焼土は60cm×50cmの円形状に広がり、焼土の形成は最大15cmに及ぶ。焼成は良好で赤褐色を呈し堅く締まっている。西壁際に現地性の焼土が検出されているが、床面レベルよりわずかに上位にあるもので、住居が廃棄された後の焼土遺構と思われる。

#### 遺物 (第24図1~12・写真図版35・42)

土器 (1~8) 床面出土のものはなく、3が西壁際の焼土から、5が埋土中から、他は床面近くの埋土下位からの出土である。1~3は沈線により、帯縄文を構成または磨消し帯を区画するもので縄文後期前葉の特徴をもつ。1・2は波状口縁のもので、波状頂部上端に1は3つの刻みを、2は1つの刻みが施される。5は口縁が肥厚し、二列の連続刻み文をもち体部には羽状縄文が施文されるものである。器表には化粧粘土が用いられ石英砂が多く混入する。4・8は平行沈線が施文されるもの、6は無文の口縁が大きく外反し、頸部に原体疔痕が施されるものである。

石器 (9~12) 石鏃 (9)、播削器類 (10・11)、不定形石器 (12) が出土している。9・



第24図 W16住居址・出土遺物



10は床面出土のものである。9は小形の有冚尖基礎で、周縁から丁寧に加工調整されている。石質は黒曜石で、重さは0.3gと軽量である。

10・11は片面加工調整により刃部をつくるもので、10は木葉状を呈する尖頭刃状のもの、11は直刃状のもので刃部角は50～60度と大きい。

本住居地の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期前葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Md - 1 住居址 (第25図・写真図版15)

**位置** 東側の埋没沢の先端近くに位置する。VII Md - 2 住居址と一部重複し、VII Md - 2 住居址を切っている。東にはVII Na - 2 住居址がある。**検出** 南半部は二次検出時に、焼土及び床面出土遺物等によって検出されている。北半部の検出面はII層下位相当である。**形態・規模** 検出作業時に掘り過ぎ、南側壁の大部分を消失しているので正確さを欠くが、平面形はほぼ円形を呈していたと思われる。床面規模は径4m位であろう。**埋土** 2層に分けられる。上位はII層十起源の暗褐色砂質土で構成され、締まっている。層厚は10～15cmである。下位は柔らかい黒褐色シルト質土で構成され、層厚は約20cmである。埋土下部から床面にかけ焼土が検出されている。**壁** 壁高は、北壁で40cm・西壁と東壁では20cmを測る。70度位に外傾し立ち上がる。

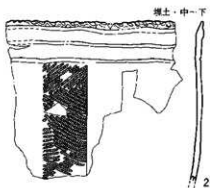
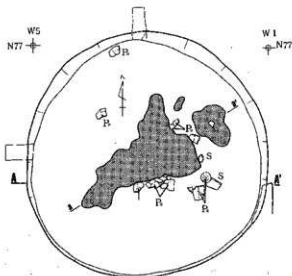
**床** III層の中心～下位に構築され、炭化物が散在し平坦で締まっている。床面直上で土器片を覆うように、住居址中央部に大きく広がる現地性の焼土がある。焼土は、70cm×50cmの不整形を呈するもの及び2m×1.5mの三角形状を呈するもので、南西側では焼土の形成及び焼成が顕著で堅く締まっている。厚さは最大10cmを測る。北東側では焼土の形成は悪く柔らかい。この焼土は住居が焼失した際に、上壁にあった土塊が火熱によって形成されたものであろうか。**柱穴・炉** 検出されていない。

本遺構は柱穴・炉が検出されていないもので、堅穴状遺構の範疇に入れるべきものであろうが、形態・規模が住居址状であること、底面がしっかり構築されていること等から住居址として分類し記述した。

#### 遺物 (第25図1～4、第26図5～13・写真図版35・42)

**土器 (1～6)** 3～6は埋土下部～床面にかけ出土している。1は床面に近い埋土からの出土である。

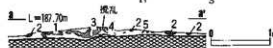
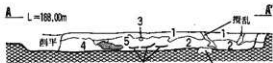
3～6は破片として焼土の下位から出土している深鉢形土器で、口唇部に連続刻目が、口縁部には4～7条の横位沈線が施されている。口縁は5がやや外反し立ち上がり、他のものはほぼ直立するもので、3はやや強い肩部の張り出しをもつ。地文は原体(LR)の横、斜回転施文による斜行又は横走縄文である。これら深鉢形土器の底部は出土していない。2も同様の深鉢



N73 〇  
W5

- 1 7.5YR 5/6 暗褐色砂質土
- 2 7.5YR 5/1 黒～暗褐色シルト質土
- 3 7.5YR 5/4 黒褐色砂質土
- 4 7.5YR 5/ 黒褐色砂質土
- 5 7.5YR 5/ 褐色砂土

埋まっている。  
下段はより暗色で柔らかく粘性あり。  
柔らかく粘性なし。  
柔らかい。粘土粒混入する。  
柔らかく粘り強い。



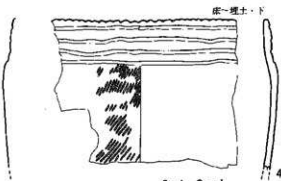
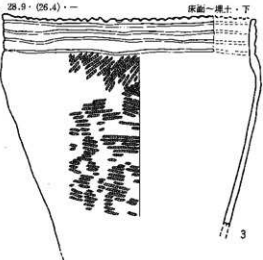
- 1 5 YR 5/6 赤褐色～暗赤褐色砂土
- 2 5 YR 5/ 暗赤褐色砂土
- 3 7.5YR 5/ 暗褐色シルト質土
- 4 5 YR 5/ 暗褐色シルト質土
- 5 7.5YR 5/1 黒～暗褐色シルト質土

黒く埋まっている。  
柔らかい。黒色土が混入する。  
柔らかく、粘土粒多量に混入する。  
やや粘まっている。粘土粒混入。  
柔らかく粘り強い。

9.8・11.7・7.8 埋土

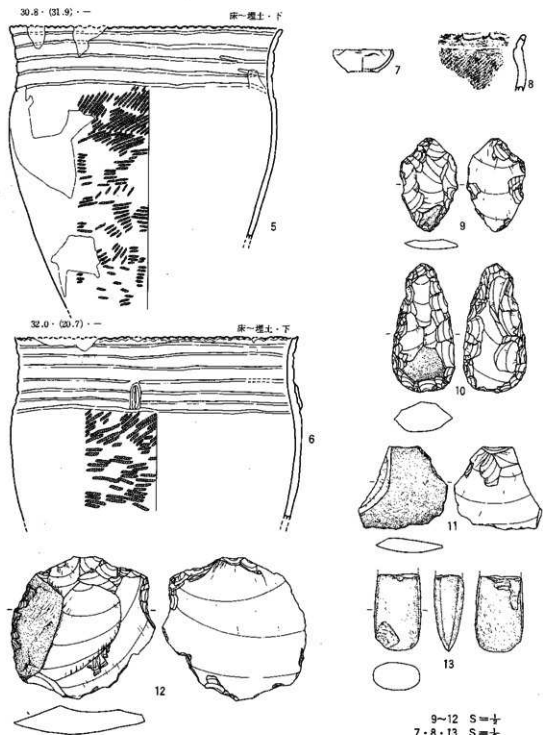


N73 〇  
W1



2~4 S = 1/2  
1 S = 1/4

第25図 VII Md-1 住居・出土遺物(1)



第26図 VII Md-1 住居址出土遺物(2)

形土器の破片で、口縁には3条の沈線が巡り、口唇部の刻みは斜位に施される。地文は3と同様で体上部には横回転、その下位は縦回転により縄文(LR)が施文される。外面には多くの煤が付着している。

1は楕形の土器である。正立して出土している。口縁には刻みをもつ小突起があり、頸部と底部の径が同程度で胴部は算盤珠のような形状を呈す。肥厚する口縁は外反し立ち上がり、内面には僅かな段差が作り出される。文様は浮彫風に施され、口縁及び体部には横長の長楕円文が横位に配置され、胴部では楕円文を包むように曲線隆帯が施文される。底面も同様の文様が施される。胴部上半は丁字状の文様が展開する。表面及び口縁内側は丁寧にナデ調整されている。

石器(9~13) すべて床面出土のものである。播削器類(9・12)、石ペラ状石器(10)、不定形石器(11)、磨製石斧(13)である。

9は周縁から加工を施し、尖頭状につくられるもので、上端には基部状のつくり出しをもつ。10は肉厚な燧石製の周縁から表裏に加工調整を施すもので、12は扁平な大形割片の一端縁の表面に加工調整を施し凸刃状の刃部をつくるものである。13は頭頂部の欠損した磨製石斧で側面には稜をつくり出し、刃部は凸刃状を呈している。

本住居地の所属する時期は、出土遺物から縄文時代晩期中葉に位置づけられるものと考えられる。

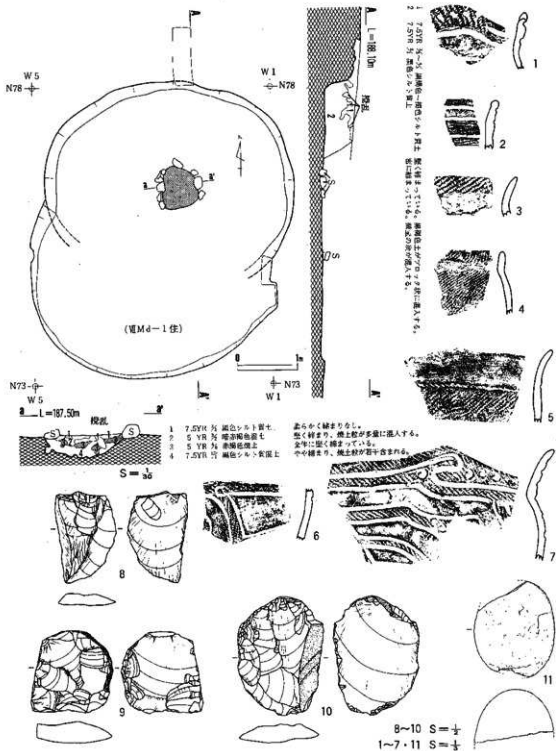
#### VII Md-2 住居址 (第27図、写真図版16)

位置 調査区東部の南緩斜面上に位置し、東方約2mにVII Na-2住居址がある。検出 VII Md-1住居址の北壁側床面精査中において、石囲炉が壁際から検出されたことにより、2棟の住居址が重複していることが判明したものである。重複の新旧関係は本遺構が切られていることから(新) VII Md-1住居址→(旧) VII Md-2住居址となる。形態・規模 南壁側の輪郭は重複し不明であるが、長径3.8m×短径3mのやや垂む楕円形を呈すと考えられる。

埋土 北壁側の土層観察ではVII Md-1住居址の埋土層位とほぼ同様である。1層は黒褐色土がブロック状に混入する黒褐色～褐色シルト質土である。2層は炭の混入する黒色シルト質土で構成されている。壁 南壁側を除く壁高は東壁35cm、西壁40cm、北壁56cmを測る。床からの立ち上がりは110度前後の勾配で外傾をする。

床 ほぼ平坦で柔らかい。VII Md-1住居址との床面の比高差はなくほとんど同じである。また、炉址の上面3cmに焼土が広い範囲で散布することから焼失家屋の可能性もある。柱穴・周溝 いずれも検出されていない。

炉 石囲炉で遺構のほぼ中央に位置し、規模は80cm×80cmの南側が開口するコ字状を呈している。北側の石の一部は欠落がある。焼土の形成は5cmほどで、締まりはなく柔らかい。



第27図 VMd-2住居址・出土遺物

遺物 (第27図1~11・写真図版36・42)

土器 (1~7) 3が床面から、他は埋土下位から出土したものである。

3は口縁が外反し、頸部に磨消しが施されるものである。地文は斜縄文(LR)である。1・5・7は波状口縁を呈し、口縁が外反するもので、1は波状頂部に4個の刺突をもつ。5は口縁部が磨消しされ、頸部に原体圧痕が施されるもの、7は口縁が「く」の字状に強く外反するもので曲線沈線により帯縄文を構成し磨消帯が区画され、山形口縁部及び帯縄文上には渦巻状の刺突が加飾される。6も7と同様の文様が施文される。

2は平行沈線をもつもの、4は小形鉢形土器で斜行縄文(LR)が施文されるものである。

石器(8~11) 不定形石器(8~10)、磨石(11)が出土している。11が床面からのものである。不定形石器は側縁に使用痕をもつもの(8・10)、外湾する側縁に敲打痕をもつもの(9)である。11は磨石の破損品である。

本住居地の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期前葉に位置づけられるものと思われる。

#### VII Me 住居址 (第28図・写真図版16・17)

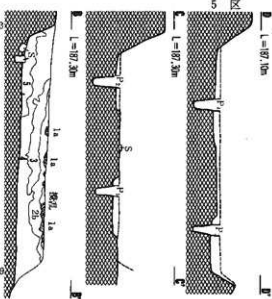
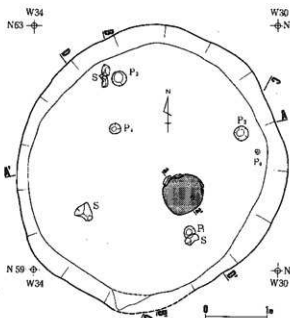
位置 中央部南西端の段丘縁に位置する。南側は湿地帯となり沢が東流している。北東にはVII Mb-2住居址がある。検出 II層上位において、にぶい黄褐色火山灰の不整形な広がりによって検出されている。検出面と湿地帯の比高は約2.5mを測る。形態・規模 侵蝕により南側一部が消失しているものの、平面形はほぼ円形を呈し、その規模は径4.0m×3.7mを測る。

埋土 自然堆積であり、5層に大別される。上位から、1層はにぶい黄褐色火山灰がまばらに堆積する。堅く締まっており層厚は最大10cmを測る。2層はわずかに火山灰混入する暗褐色土で、柔らかい。10cm~20cmの層厚である。3層は炭化物混入する黒色土で、柔らかく粘性がある。中央部で厚く15cm~25cmの層厚である。4層は極暗褐色土で、炭化物、土器片が混入する。壁際で厚く堆積し層厚は15cm~40cmを測る。5層は壁際に堆積する暗褐色土でやや締まっている。ブロック状に黒褐色土が混入する。

壁 II層~III層下位に構築され、床面から50度~70度の角度で外傾し立ち上がる。東側の壁面が軟弱で崩れやすい所がみられるものの、全般に堅く締まっている。壁高は北東側で高く、東壁60cm・北壁50cm・西壁30cmを測る。床 III層下位にあって、平坦で全般に堅く締まっている。流れ込みと思われる角縁が4個検出されている。

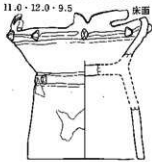
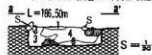
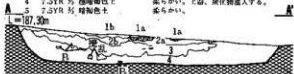
柱穴 床面下15cmにおいて、P<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>の柱穴状ピットを4基検出している。P<sub>1</sub>は炉近くに、P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>は壁寄りに、P<sub>4</sub>はやや壁

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
口径cm	17×16	21×20	23×20	16×16
深さcm	28	37	18	33



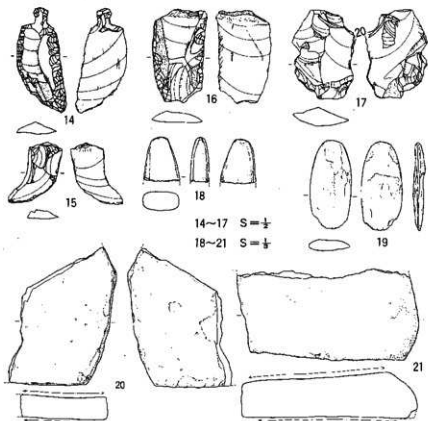
- 1a 10 YR 5/ に近い黄褐色火山灰
- 1b 7.5YR 5/ 黄褐色砂質土
- 2a 7.5YR 5/ 暗褐色土
- 2b 7.5YR 5/ 暗褐色土
- 3 7.5YR 5/ 褐色土
- 4 7.5YR 5/ 暗褐色土
- 5 7.5YR 5/ 暗褐色土

- 1 7.5YR 5/ 黄褐色土
- 2 7.5YR 5/ 暗褐色土
- 3 7.5YR 5/ 暗褐色土
- 4 7.5YR 5/ 暗褐色土
- 5 9 YR 5/ 暗褐色地上混土
- 6 7.5YR 5/ 暗褐色シルト質土



第28図 WMe住居址・出土遺物(1)

S=1



第29図 VII Me住居址出土遺物(2)

から離れ配置している。深さ、バランス等から支柱穴として、 $P_1-P_2-P_4$ の三角形の配置が考えられるが、明確ではない。

炉 住居址中央からやや南東壁寄りに、亜角礫が4個配置される炉が1基ある。ほぼ円形で外径80cmを測る。径10cm~15cm、厚さ5cm前後の偏平な礫が、東側、北側に各2個埋置されており、火熱による赤色変化が見られる。炉の中央部が大きく攪乱されており、石囲炉であった可能性もあり、炉の周辺を精査したが礫の抜き取り痕は検出されなかった。炉の中央部は焼土粒、炭化物の混入する黒褐色上で、炉の下部と南東側に焼成の悪い暗褐色焼土がわずかに残存している程度である。

遺物(第28図1~13、第29図14~21・写真図版36・42)

土器(1~13) 1が床面から、2~9が埋土中~下位から、10~13が埋土上位から出土している。1は高台付の香炉形土器で、上部が欠損したものである。器面はナデ調整がされ、体部及び台上部に横位沈線を施し、その沈線に沿って貼瘤を配列させる。体部の上半に空Lが施される。2~4は沈線により帯縄文が構成され、縄文帯上に角錐状の貼瘤をもつもので、3・



4は壺形土器である。2の口縁上端の貼瘤には刻みが施される。5は2と同様の刻みをもつ瘤状の突起をもつもの、6は球状の貼瘤に縦位の刻みをもつものである。7・8は沈線により帯縄文及び磨消し帯を構成するものである。10～13は埋土上位出土の弥生式土器で、10は鉢形土器、11はVII Mb-1住居址の埋土出土の壺形土器の体部片と思われるもの、12・13は丹塗りの壺形土器の破片である。

石器(14～21) 石匙(14)、搔削器類(16)、不整形石器(15・17)、磨製石斧(18・19)、石皿(20・21)が出土している。石皿20が床面から、他は埋土下位からの出土である。

石匙は縦形のもので、片面から加工調整が施され尖頭刃状の先端をつくり、刃部は直刃状で鋭利につくり出されている。16は偏平な縦長剥片の平行する側縁から表面に加工調整が施される複刃状の搔削器類である。側縁は凸刃状を一方は直刃状を呈す。磨製石斧は、18が稜をつくり出す石斧の頭頂部、19は偏平な楕円状の局部磨製の石斧で稜のつくり出しのないもので、刃部が破損している。石質は18は凝灰岩、19は軟質な淡緑色凝灰質千枚岩である。

20・21は両面に使用面をもつ石皿の欠損品である。緩く湾曲する面が、より滑らかである。21は火熱による赤色変化が見られる。

本住居址の所属する時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉に位置づけられるものと考えられる。

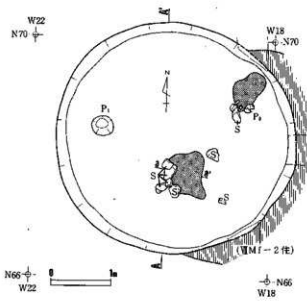
#### VII Mf-1住居址(第30図・写真図版17・18)

位置 調査区中央域のほぼ中央に位置する。VII Mf-2住居址と一部重複し、VII Mf-2住居址を切っている。至近にはVII Mb-2住居址、VII Mc住居址がある。検出 粗掘りの際の土層断面においてII～III層土の落ち込み及びIII層中位で円形暗色部として検出されている。形態・規模 平面形はほぼ円形を呈し、その規模は径3.8mを測る。埋土 表土も含め4層に分けられる。上位から順に、1層は表土で黒褐色砂質土によって構成され柔らかく締まりはない。2層はII層土で暗褐色砂質土によって構成され締まっている。3層は黒～黒褐色砂質土で構成され、埋土の主体をなし、中央部で厚く層厚は約30cmを測る。4層は黒色シルト質土で壁際に堆積する。

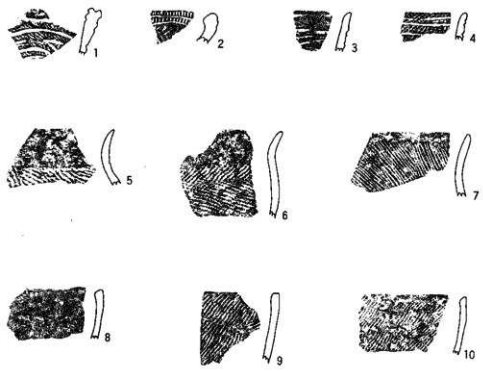
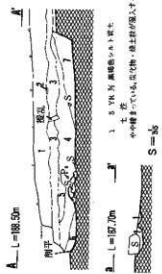
壁 III層中において、床面から直立気味に外傾し立ち上がる。壁高は25cm～15cmである。床 III層中位～下位に構築されている。平坦でやや締まっている。北東壁近くに、炭化物、焼土粒が混入する黒褐色土が60cm×40cmの範囲に広がっている。柱穴 床面下10cmで、西壁寄りに柱穴状ピットが1基検出されている。口径35cm×32cm、検出面からの深さは50cmを測る。

周溝 検出されていない。

炉 中央南壁寄りに垂角竈が配置される炉が1基ある。竈は安山岩で西側に6個、東側に1



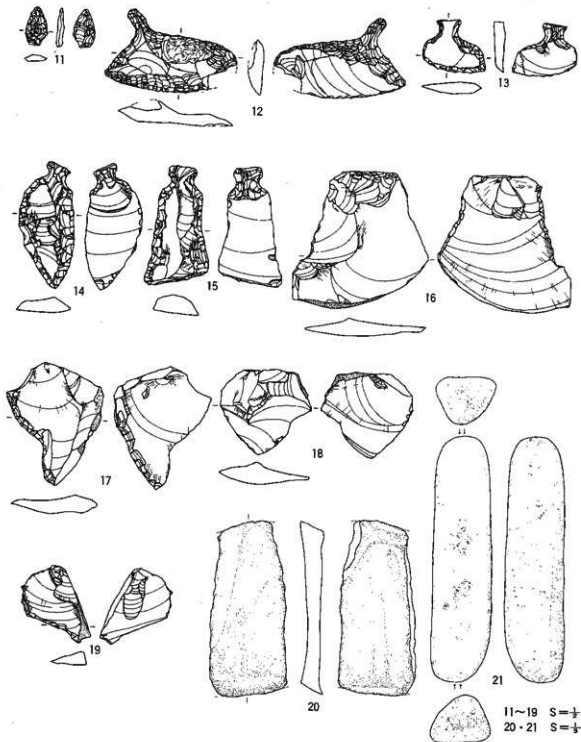
- 1 7.5VR 片 黒色砂岩上  
小片断である。
- 2 10.VR 片 黒色砂岩上  
小片断である。
- 3 7.5VR 片 黒色砂岩上  
小片断である。
- 4 7.5VR 片 黒色砂岩上  
小片断である。
- 5 7.5VR 片 黒色砂岩上  
小片断である。
- 6 7.5VR 片 黒色砂岩上  
小片断である。
- 7 7.5VR 片 黒色砂岩上  
小片断である。



第30図 VMf-1 住居址・出土遺物(1)

S=土

5 区



第31圖 VII Mf-1 住居址出土遺物(2)

個配置されている。その間に炭化物の混入する焼土が僅かに広がっている。焼土の形成は悪い。

#### 遺物 (第30図1~10、第31図11~21・写真図版37・42)

土器 (1~10) 2~5、8~10が床面から、他は埋土下位から出土している。2は口唇部が肥厚し内削りされるもので、口縁部上端に2条の連続刻文をもつ。胎土に粗砂、石英砂を多く含み、器表には化粧粘土が貼られ暗赤褐色を呈す。3は口唇部が内削りされ、頸部に粗い沈線状の磨消しが施される。他に口唇部が内削りされるもの8・10がある。4は平行沈線をもつもの、5は無文の口縁が「く」の字状に外反し頸部に原体圧痕をもつものであり、体部縄文(Lr)は縦回転施文される。8は櫛歯状文をもつものである。9・10は斜縄文(LR)が施され、10には外面に煤が付着している。埋土出土の1・6・7は、1は鉢巻状突起の頂部に刺突をもつもの、6は原体(Lr)の回転を違えて羽状縄文を表出するもの、7は捺糸文が施されるものである。

石器 (11~12) 石鏃1点(11)、石匙4点(12~15)、搔削器類2点(16・17)、不定形石器2点(18・19)、石皿1点(20)、磨石類1点(21)が出土しており、床面出土のものは11~14・17~19で、他は埋土下位からの出土である。

1は黒曜石の小形石鏃である。平基状を呈し、一側縁に茎部のつくり出しと思われる抉入が施される。石匙は横形(12・13)と縦形(14・15)で、横形のは擠みが一方に片寄り、刃部は片面加工調整によってつくり出される。13は一端に尖頭刃状の尖りもっている。

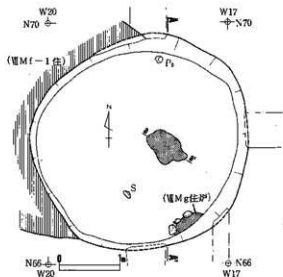
縦形石匙は、14が非対称形で木葉状を呈し加工調整は周縁から表面に施される。器面の状況から尖端部及び直刃状刃部が機能部位であろう。15は対称形で長方形を呈するもので、加工調整は2側縁及び肉厚な端部にも施される。刃部角は大きく45°以上である。16・17は大形の剝片の2側縁に刃部をつくる複刃状搔削器類である。

20は小形の縦長を呈する石皿で、表裏のほぼ全面を使用面とするもので、縦く縦方向に内湾する。21は三角柱状の自然礫を利用したもので、上端・下端に敲打痕をもち、平坦面に磨面をもつものである。さらに、磨面をもつ面の2カ所に小さな凹みが数個集中しつくられる。

本住居地の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期中葉に位置づけられるものと考えられる。

#### VII Mf - 2 住居地 (第32図・写真図版18)

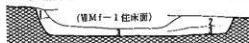
位置 調査区中央平坦地のほぼ中央に位置する。VII Mf - 1 住居地、VII Mg 住居地と一部重複し、VII Mf - 1 住居地に切られ、VII Mg 住居地を切っている。検出 西側はVII Mf - 1 住居地の床面下で検出されている。東側の検出面はIII層の上位である。形態・規模 西壁上部がVII Mf - 1 住居地に切られているが、平面形はほぼ円形を呈している。床面規模は径3.4mを測る。埋土



5 区

- 1 7.5YR 与 高褐色砂質土 やや締まっている。炭化物・フロッツ状の火山灰混入する。
- 2 7.5YR 与 高褐色砂質土 やや締まっている。炭化物のすく混入する。
- 3 7.5YR 与 褐色シルト質土 やや締まり、粘性あり。炭化物が多く混入する。

A L=188.0cm

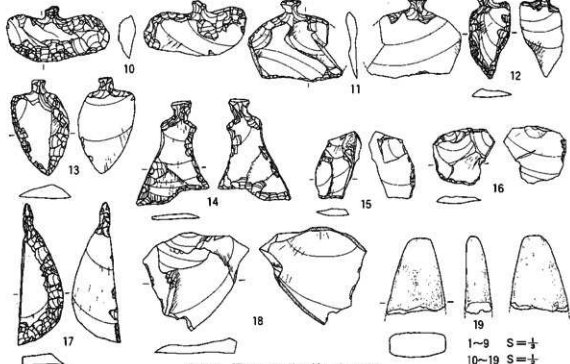
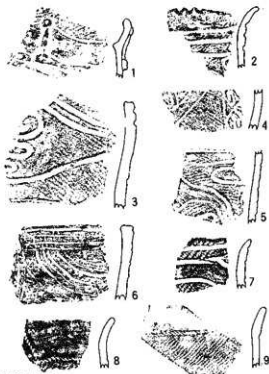


B L=187.4cm



S=1/2

- 1 5 YR 与 極暗赤褐色粘土 柔らかく締まりなし。
- 2 7.5YR 与 黄一灰褐色シルト質土 柔らかい。炭化物・焼土粒が混入する。
- 3 5 YR 与 高褐色シルト質土 柔らかい。焼土粒が多く混入する。



1~9 S=1/2

10~19 S=1/2

第32図 Mf-2住居址・出土遺物

2層に分けられる。上位は炭化物が混入する黒褐色砂質土、下位は炭化物がやや多く混入する黒色シルト質土で構成される。

壁 III層上位～下位にある。壁高は、北壁45cm・西壁10cm・南壁25cm・東壁40cmを測る。床面から60度位に緩く外傾し立ち上がる。床 東側はIII層下位に、西側はIV～Va層に構築されている。ほぼ平坦であり、やや締まっている。柱穴・周溝 検出されていない。

炉 住居地の中央やや東寄りに地床炉が1基ある。炉の中央部が大きく攪乱を受け、焼上粒・炭化物が70cm×45cmの不整形に広がっている。東西両端に残存する焼土は、厚さ2cm～3cmで、焼成悪く締まりはない。

#### 遺物 (第32図1～19・写真図版37・43)

土器 (1～9) 床面出土のものではなく、すべて埋土中～下位から出土の鉢・深鉢である。

1は小波状口縁を呈するもので、波状頂部に数個の刻みをもつ。口縁内側には隆体状の膨らみが横位に巡る。口縁部に粘土隆体、ボタン状突起をもち、口縁部無文帯を区画する。内外面に多量の煤が付着している。2・7～9は口縁が外反するもので、2・7は平行沈線が施文され、2の波状頂部には刻みが施される。8・9は口縁部が無文で、原体側面斤痕が施される。

3～5は沈線文が横位または縦位に展開するもので、3は波状口縁を呈し垂下するS字状の施文をもつ。3・4は斜縄文(LR縦回転)が施文された後に沈線が施されるが、5は充填縄文が施されている。6は粗めの種歯状の沈線が横位、斜位に施されるもので、外面調整は殆どなされない反面、内側は丁寧に調整される。焼成は悪い。

石器 (10～19) 石匙6点(10～14・17)、不定形石器3点(15・16・18)、磨製石斧1点(19)が出土している。全て埋土中～下位からの出土である。横形の石匙(10・11)は中央に握みをつくり出す左右対称形のもので、片面加工調整により10は凸刃状に、11は直刃状に刃部がつくられる。縦形石匙(12～14・17)は、12・13が木葉状を呈する左右対称形のもので刃部は周辺からの表面加工調整によりつくられる。14・17はやや特異な形状を呈しているが、素材の形状を上手に利用して石匙につくりあげたものであろう。14は右辺及び左辺の表裏から刃部加工を施し曲刃状の刃部をつくり、下辺の両側には尖った先端をつくり出している。17は1側縁の表面から丁寧に加工調整がなされ、凸刃状につくり出すものである。切片にやや厚みがあり、11・14に比較し刃部角は45度と大きめである。15～18は1側縁に僅かな刃部加工が施されるものである。

19は磨製石斧の基部で、薄手で扁平なものである。側縁に稜をつくり、基部の頂部は平坦につくられる。

本住居地の所属する時期は、重複する遺構の新旧関係、出土遺物等から縄文時代後期前葉以降に位置づけられると考えられる。

## VII Mg 住居址 (第33図・写真図版19)

**位置** 遺構が集中する調査区中央部の南緩斜面上に位置している。検出 VII Mf - 2 住居址の床面精査中において、配石炉が南壁際から検出されたことにより、住居址が重複することが確認されたものである。2棟の新旧関係は、本遺構が切られていることから(新)VII Mf - 2 住居址→(旧)VII Mg 住居址となる。形態・規模 北東壁側の一部は遺構が重複するために不明であるが、残存する南辺と北辺から長径3m×短径2.8mの円形を呈すと推定される。

**埋土** 2層に大別される。上層の1層は黒褐色砂質土で炭化物を若干混入している。下層の2層は炭化物を多く混入する黒色シルト質土で構成されている。壁 北壁を除く壁高は東壁27cm・西壁20cm・南壁10cmを測り、床面から120度前後の勾配で外傾している。床 全体に柔らかく、ほぼ平坦である。柱穴・周溝 いずれも検出されていない。

**炉** 遺構中央部南東寄りに石を3個埋置した配石炉があり、規模は長径100cm×短径80cmの不整円形を呈している。使用の石は長さ12cm~16cm、幅8cm前後の亜角礫であり、内1個は凹石を転用している。焼土の形成は8cmほどあり、全体に堅く締まっている。

## 遺物 (第33図1~14・写真図版37・43)

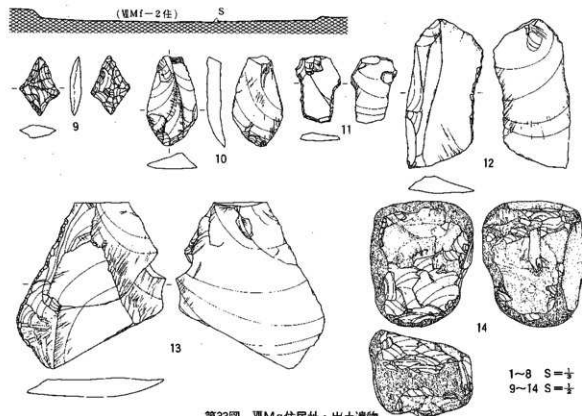
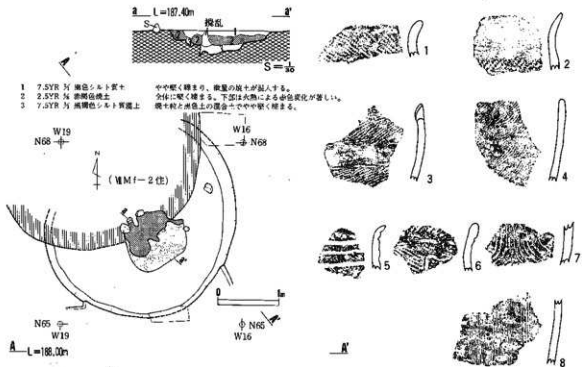
**土器** (1~8) 床面出土のものではなく、すべて埋土中~下位から出土の鉢・深鉢である。口縁部が外反するもの(1・2・5・6)、内湾するもの(3・4)がある。2は口縁部が横ナデされ無文で、口唇部が薄手となる。5・6は沈線が施されるもので、6は波状口縁である。3は口縁に小突起をもち、体部に磨消しが施される。体部片(7・8)は櫛歯状文が施文されるものである。1~4には煤が付着し、2の胎土には石英砂が多く含まれている。

**石器** (9~14) 石鏃(9)、搔削器類(10・12・13)、不定形石器(11)、敲石(14)が出土している。全て埋土下位からの出土である。石鏃は周縁から表裏に丁寧な加工調整が施され菱形を呈する。10は湾曲する縦長剥片の先端部に、2側縁から表面に加工調整し、尖頭状の刃部をつくり出すもの、12・13は鋭利な側縁に剝離の浅い加工調整を施し、曲刃状の刃部をつくるものである。14は四角形を呈する硬質泥岩の3側面に敲打痕をもつ石器である。重さは620gある。

本住居址の所属する時期は、重複する遺構の新旧関係、出土遺物等から縄文時代後期前葉に位置づけられるものと考えられる。

## VII Na - 1 住居址 (第34図・写真図版19・20)

**位置** 東地区の地形が南側に小さく張り出す緩斜面上の中央部に位置する。VII Ne - 1 住居址と一部重複し、VII Ne - 1 住居址に切られている。検出 当初本住居址の存在が予見出来ず、VII Ne - 1 住居址の精査途中で、北側の壁が脆く遺物が出土することから試掘したところ、土層の落ち込み及び炉の検出があつて判明した。形態・規模 南側がVII Ne - 1 住居址に切られてい



第33図 W19Mg住居址・出土遺物



るため正確さを欠くが、北半の壁等から判断すれば径3.8m前後のほぼ円形を呈するものと考えられる。埋土 黒色土の単層である。やや柔らかく炭化物、褐色浮石がわずかに混入する。層厚は20cmを測る。

壁 III層上位に構築され、壁の立ち上がりは70度前後の勾配で外傾する。壁面はやや締まっている。壁高は、北壁30cm・西壁25cmを測るが、東側は沢へ続く斜面のため低く僅か数cmを測るだけである。床 III層中位に掘込まれ

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
口径cm	17×17	17×17	16×18	18×20
深さcm	13	17	22	22

た平坦な床であるが、全体に柔らかい。炉周辺に流れ込みと思われる角礫が検出

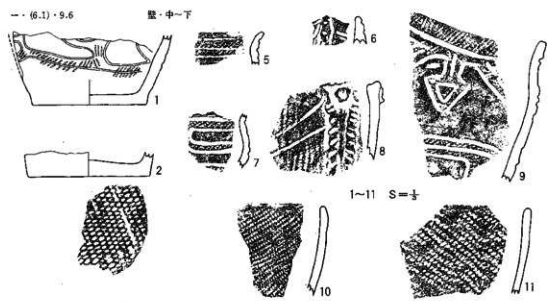
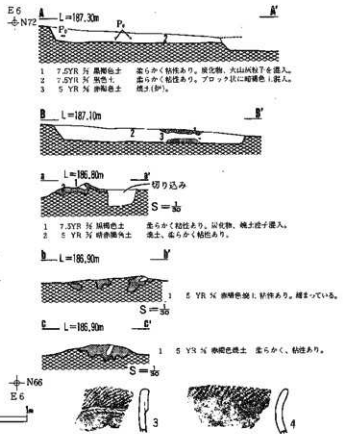
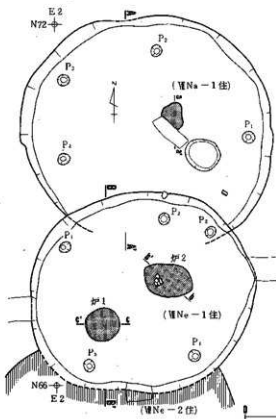
されている。柱穴 床面下20cmで、柱穴状の小ピット4基を検出している。検出された4基は本住居址の柱穴と考えられ、4本柱の構築とも思われるが、重複するVII Ne-1住居址で検出されているP<sub>2</sub>を加えた5本柱の構築であった可能性が高い。ピット 炉の南東側に円形のピットが1基検出されている。規模は開口部60cm×64cm・深さ36cmを測る。断面形は長方形を呈している。埋土は炭化物及び浮石の混入する黒色土と黒褐色土で構成される。埋土の状況から本住居址の廃絶後のものと思われる。

炉 やや北東壁寄りに地床炉が1基ある。炉の東端に径15cmほどの礫が配置され火熱により赤色変化している。石囲炉とも考え、精査したが炉石の抜き取り痕は認められなかった。焼土は一部擾乱を受けており、残存する広がりには56cm×46cmの範囲であり、焼土の形成は最大10cmに及ぶが、焼成は悪く柔らかく脆い。

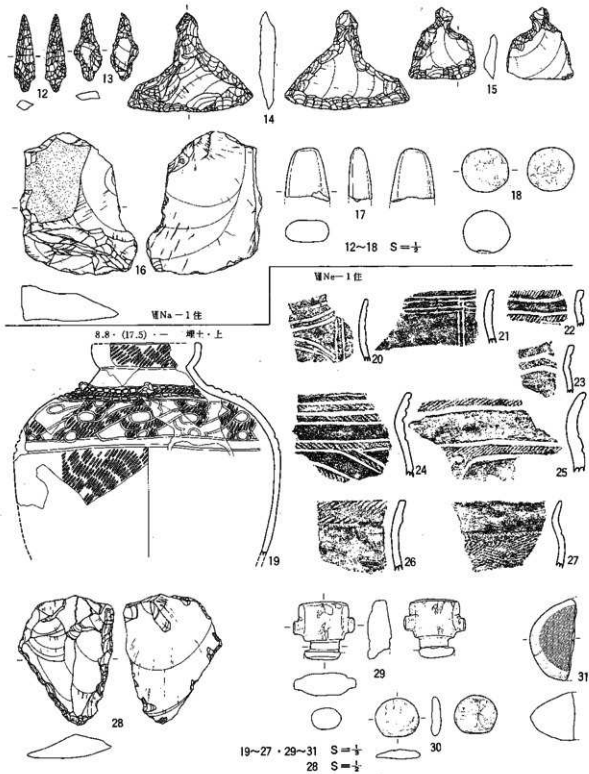
遺物 (第34図1~11・第35図12~18・写真図版37・38・43)

土器 (1~11) 8が床面から、3・11は地床炉から、10はピット埋土中から出土している。他は住居址埋土中〜下位からの出土である。8は口縁に台形状突起をもつ深鉢形土器である。突起の上面に、口縁に平行して棒状工具による押圧が施される。突起直下にはボタン状の粘土の貼付及び垂下する2本の粘土降帯をもち、その降帯には連続刺突文が施される。体部には縦走縄文(RL斜回転)が施文され、その後斜位の平行沈線が加飾される。内面は丁寧にナゲ調整がなされる。外面には多量の煤が付着している。胎土には砂粒を多く含み厚手で器厚は約8mmである。3は小波状を呈する複合口縁のもので、無文の頸部には、口縁に施文したと同じ原体(LR)の圧痕をもつ。11はやや内湾を呈す深鉢形土器である。火熱によって器表は変化しザラザラし色調は明褐色を呈している。地文はLR縦回転による斜縄文である。10は内湾する深鉢形土器で、内面はナゲ調整され、斜縄文(LR)を地文とするものである。

1・2は深鉢形土器の底部で、1は沈線で縄文帯を区画しその後充填縄文が施文される。2は底部に網状痕をもつものである。4・5は口縁部が「く」の字状に外反し、4は頸部に磨消しが施され、5は平行沈線により帯縄文を構成する。7も5と同じ文様を表出し、一部に磨



第34図 VNa-1住居址・出土遺物(1)・VNe-1住居址



第35图 Ⅷ Na-1 住居址出土遺物(2) · Ⅷ Ne-1 住居址出土遺物

消帯をもつ。6は小山形口縁をもつもので、口縁頂部の下位に円形刺突文をもつ。9は大波状口縁を呈する深鉢形七器で、沈線により文様を構成し、かつ磨消し縄文帯を区画するものである。鋸状の文様の周辺部に竹管刺突文が施されている。

石器 (12~17) 石鏃2点 (12・13)、石匙2点 (14・15)、不定形石器1点 (16)、磨製石斧1点 (17) の出土で、床面からのものは13で他は埋土中〜下位からの出土である。石鏃は有茎鏃で、12は周縁からの加工調整が丁寧に施される鏃身の長いもの、13は表裏の中央部に一次加工面を大きく残すもので、鏃身の両側は内湾を呈し基部のつくり出しもやや粗雑である。石匙は横形のものである。14は握みを中央にもち、左右がほぼ対称形に近いものである。握みには挟り込みをもたず棒状につくり出され先端が尖っている。周縁の表裏から加工調整が施され、刃部は直刃状を呈し両端は尖頭刃状につくられる。15は小形の台形状を呈する石匙で、表面の周縁から主に加工調整される。16は自然面をもつ大形剥片の鋭利な一側縁に調整痕をもつ不定形石器である。17は磨製斧の頭頂部 (基部) である。磨き出しによって、側面に稜がつくり出されている。

石製品 (18) 床面から出土している。全体がほぼ球形を呈し、一部に剝落があるが表面は滑らかに磨れている。最大径は2.5cmで重量は約20g、石質は流文岩質凝灰岩である。

本住居の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代後期初等〜前葉に位置づけられるものと考えられる。

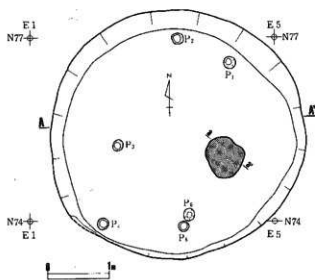
#### VII Na - 2 住居址 (第36図・写真図版21・22)

位置 東地区の、舌状に南側に地形が張り出す箇所を基部に位置する。南にVII Na - 1 住居址が、西にはVII Md - 1・d - 2 住居址がある。検出 Ⅲ層の中位相当において炉の検出によって判明した。形態・規模 平面形は円形を呈し、炉は南東壁寄りに配置される構築である。規模は径3.8m×3.65mを測る。埋土 木根等による攪乱があるものの、自然堆積の様相を示し、上位から黒色砂質土、浮石の混入する黒褐色砂質土、炭化物の混入する黒色シルト質土で構成される。

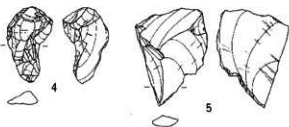
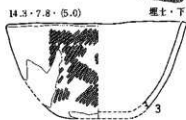
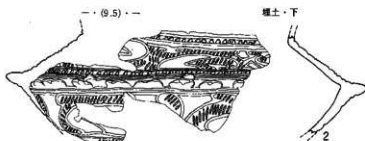
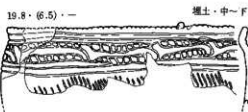
壁 壁高は、北壁58cm・西壁40cm・東壁20cmを測る。南側は検出時に削平し僅か5cm〜8cmを残すだけである。壁の立ち上がりは60〜70度位に外傾する。床 Ⅲ層の中位〜下位にあって、ほぼ平坦である。南半部がやや柔らかく、北半部に締まりがみられる。

柱穴 床面下約10cmにおいて柱穴と思われる小ピットを6基検出している。規模は径16〜20cm、検出面からの深さ

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>
口径cm	20×18	19×16	18×16	16×16	18×16	19×18
深さcm	19	26	18	22	18	18



- 4.0かい、  
中心部まで、アワク状に黒色土層が入る。  
埋込が多く、埋立は部分的に土層が入る。  
埋込が多く、埋立は部分的に土層が入る。  
埋込が多く、埋立は部分的に土層が入る。  
埋込が多く、埋立は部分的に土層が入る。
- 7.5YR 黄褐色土
  - 7.5YR 黄褐色砂質土
  - 7.5YR 黄褐色土
  - 7.5YR 黄褐色土
  - 7.5YR 黄褐色土



第36図 VII Na-2 住居址・出土遺物

は18~26cmを測る。主柱穴の配置としては、壁際のP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>-P<sub>4</sub>の4本柱または南北方向のP<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>もしくはP<sub>1</sub>-P<sub>4</sub>の2本柱などの配置が考えられるが、明確にされていない。

炉 南東壁寄りに地床炉が1基ある。焼土の広がりは60cm×62cmの歪んだ方形状を呈し、焼成による赤色変化に乏しく柔らかい。焼土の形成は最大12cmを測る。焼土下位は炭化物の混入する柔い黒色シルト質土である。

遺物(第36図1~5・写真図版38・43)

土器(1~3) 床面出土のものはない。1は鉢形土器で平行沈線で文様帯を区画し、浮彫風の羊歯状文を施文するしている。2は注口土器と思われるもので体部の屈曲部に2個1対状の突起をもち、器面には雲形文が展開する。3は小形の鉢形土器で底部からほぼ直線的に外傾し立ち上がる器形を呈す。地文は斜縄文(LR)が施され、内面は丁寧にミガキ調整されている。

石器(4・5) 不定形石器が埋土から2点出土している。

木住居址の所属する時期は、床面出土遺物なく明確にされないが埋土出土遺物に含まれる土器が縄文晩期のものであることから、晩期に所属する可能性が大きい。

#### VII Ne-1 住居址(第34図・写真図版20・21)

位置 東地区の舌状に南側に小さく張り出す尾根状地形のほぼ中央に位置し、VII Na-1・VII Ne-2住居址と一部重複する。遺構の新旧関係は本遺構はVII Na-1住居址より新しく、VII Ne-2住居址より古い。検出 II層において、におい黄橙色火山灰の不整形な広がりによって検出されている。形態・規模 平面形は東西方向に長軸を持つ楕円形を呈す。規模は3.5m×3.1mを測る。埋土 2層からなる。上位は炭化物・浮石粒・火山灰の混入する黒褐色であり、下位は埋土の主体をなす黒色シルト質土で、炭化物と浮石粒が混入する。

壁 壁はIII層中に構築されており、70度前後の角度で外傾し立ち上がる。全体に締まりがみられるものの堅くはない。壁高は、北

壁26cm・西壁11cm・東壁10cmを測る。

南側の一部はVII Ne-2住居址に切られ数センチを残すだけである。

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>
口径cm	14×17	15×18	14×17	18×18	13×18
深さcm	23	21	17	26	30

床 III層中であって平坦であり、全体的にやや締まっている。柱穴 床面下10cmで、柱穴状の小ピットが5基検出されている。いずれも壁寄りに位置する。規模及び配置から、木住居址の柱穴と思われるが、P<sub>2</sub>は重複するVII Na-1住居址の柱穴の可能性が高い。ピット・周溝 検出されていない。

炉 地床炉が2基検出されている。炉No1は、遺構中央から南西寄りにあり焼土及び焼土粒は径55cmほどの円形に広がる。焼土の厚さは最大14cmに及ぶが、全体に黒色土が混入し柔らか

く締まりはない。炉No 2は、やや北東寄りに位置し焼土及び焼土粒は75cm×55cmの楕円形状に広がり呈するが、焼土の形成は悪く断面に部分的に認められる程度である。

遺物 (第35図19~31・写真図版38・43)

土器 (19~27) 床面出土のものは27で、19は埋土上位から、他は埋土中～下位からの出土である。27は粗製土器で口縁は無文で頸部には原体圧痕が施され体部には脈絡なく縄文(LR)が施される。内面は丁寧に横ナデ調整が施される。器厚は6mmで赤褐色を呈す。

19は埋土上位出土の縄文晩期大洞C<sub>2</sub>式の壺形土器である。無文部はミガキが施されているが細砂を多く含み、ザラザラした感じのする土器で色調は黒褐色である。20~26は口縁部が外反し、20・23は波状又は山形突起を有するものである。20・21は無文口縁に平行沈線を縦～横位に施すもの、22~26は平行沈線及び磨消帯により帯縄文を構成するもの、26は頸部に磨消しがほどこされるものである。

石器・土器製品 (28~31) 掘削器類 (28)、石刀 (29)、円盤状石製品 (30)、磨石 (31) が出土している。30・31が床面から、28は埋土中から、29は埋土上位からの出土である。28は偏平な縦形剥片の2側縁の表面に刃部加工を施すものである。29は石刀の頭部である。方形を呈し、左右に耳状の突出部をつくり出し頭部と刀身の間に括れをもつ。表面に文様はなく、表面調整の擦痕が見られる。石質は淡緑色凝灰質千枚岩である。30は薄手の自然礫の周縁にわずかに磨き加工を施したものである。31は大きく破損したもので、平坦な面に磨面をもつものである。石質は30が暗緑色粘板岩、31が両輝石安岩である。

本住居地の所属する時期は、重複する遺構の新旧関係や出土遺物から縄文時代後期前葉に属すると思われる。

VII Ne - 2 住居址 (第37図・写真図版22・23)

位置 東地区の舌状に南側に張り出す地形の南端に位置し、北側はVII Ne - 1 住居址と一部重複し、VII Ne - 1 住居址を切っている。検出 II層の黒褐色土中で炉の検出があって精査した結果住居址と判明した。形態・規模 平面形はほぼ円形を呈す。規模は径3.7mを測る。埋土 埋土は上位の黒色～暗褐色砂土と下位の黒色シルト質土で構成される。いずれも柔らかく炭化物、浮石粒が多く混入する。自然流入による堆積と思われる。

壁 III層上位にあり、床面から50度前後に緩く外傾し立ち上がる。壁高は、西壁35cm・南壁

P.No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>
口径cm	17×18	16×17	17×17	14×15	20×20
深さcm	18	19	15	22	23

18cm・東壁12cmである。北側のVII Ne - 1 住居址を先に精査したため、北壁は計測不能となった。床 III層中位に構築され、全体的にやや柔らかい。床面は殆ど凹凸なく全体に北から南へ約10

cmの高低差をもって傾斜する。

柱穴 床面下約10cmで、柱穴状の小ピットを5基検出している。いずれも壁寄りに配置するものである。P<sub>3</sub>が他に比較して浅いものであるが、これら5基の小ピットは本住居址の柱穴と思われる。柱穴配置としてはP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>-P<sub>4</sub>-P<sub>5</sub>の長方形またはP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>-P<sub>4</sub>-P<sub>5</sub>の台形状が考えられる。

炉 南東壁寄りに地床炉が1基ある。焼土は55cm×35cmの楕円形状に広がり呈している。東側が大きく攪乱を受けており、中央から西側に赤褐色～暗赤褐色焼土がわずかに残存する。焼成は悪く、一部炭化物が混入し柔らかい。焼土の厚さは最大6cmを測る。

遺物 (第37図1～16・写真図版38・39・43)

土器 (1～6) 床面出土のものはない。1～5は縄文晩期の半精製鉢形土器で、1は口縁～底部まで一部復元されたもので口唇部に連続刻みをもち、平行沈線で区画された口縁部文様帯には緩い斜行沈線が施されその上下に刺突が施される。2・3・5も同様の文様をもち、2・3には文様帯に瘤状の突起が貼付けされる。4は平縁のもので半歯状文が施される。6は小波状を呈し口縁が「く」の字状に外反するものである。

石器 (7～15) 搔削器類 (8・9)、不定形石器 (7・10)、凹石 (11)、磨石類 (12～14)、独鈷石 (15) が出土している。8・9・11・12・15が床面出土のものである。

8は形態が石べら状を呈するもので、周縁から表裏交互の押圧剝離加工を施している。摩擦状況から幅広い先端部及びその側縁を機能部位とするものであろう。9は小形剝片に表面加工調整し刃部をつくるものである。

11は偏平楕円体を呈する多面使用の凹石である。表裏には摺鉢状の凹みを、一側面には浅皿状の凹みをもち、もう一方の側面及び上下端の側面には摺痕をまた下端には敲打痕をもつ。表面と裏面は滑らかであり磨石として併用されたものであろう。12は長さ10cmほどの楕円体状の磨石で3面に磨面をもつもの、13は長さ5cm位の小形のもので全面が滑らかにつくり出され、上下端に僅かな打痕をもつ。14は偏平な湾曲する円形状の磨石で表裏に磨面をもつものである。

15は独鈷石状の形態で、全体は湾曲を呈し両端が擦り出しによってつくられたものと思われ、中央部が括れを呈している。

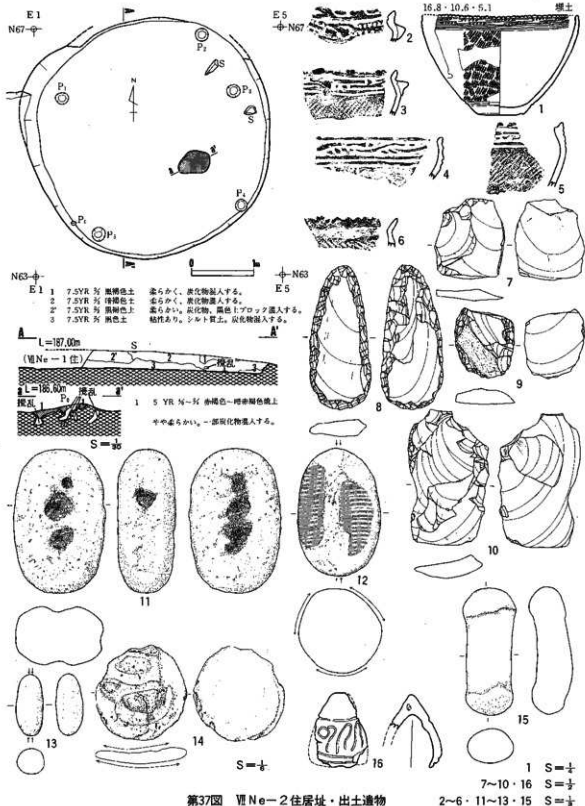
土製品 (16) 16は鏝形土製品で埋土中から出土している。上端に小孔をもち上半部、下端に沈線が横位に巡りその間に曲線が施文されるものである。

本住居址の所属する時期は、出土遺物等から縄文時代晩期に位置づけられるものと思われる。

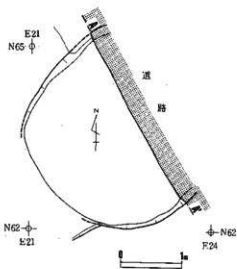
## VII Ng 住居址 (第38図・写真図版23)

位置 調査区東端の南西に伸びる尾根の最上部に位置する。本遺構の南東側と北西側は沢に





第37図 VII Ne-2住居址・出土遺物



第38図 Ⅷ Ng住居址状遺構・出土遺物



向かう急斜面であり、北側は道路を隔て台地の斜面となる。検出 Ⅲ層の褐色土中で、半円状を呈する黒色土の広がりとして検出されている。形態・規模 住居址の北半部が道路下にあるため詳細は不明であるが、床と壁面から推定すると径3m前後の円形～楕円形を呈すると思われる。埋土 最上部に人為堆積層が認められるが、その下位は自然堆積の様相を呈す。埋土下部は炭化粒の混入する黒褐色～暗褐色砂質土で構成される。

壁 壁高は、北壁23cm・南東壁19cmを測るが、傾斜下方の南東側では残存する壁高は5cm前後である。なお、道路から床面までは115cmを測る。床 Ⅲ層の褐色砂質土中に構築されており、多少の凹凸も見られるが全体としては平坦で堅く締まっている。床面全般に炭化物が散在している。柱穴・炉・ピット いずれも検出されていない。

本遺構は柱穴・炉が検出されておらず、竪穴状遺構に分類すべきものと思われるが、床面がしっかりしていること道路下部に炉址の存在する可能性もあり、あえて住居址と分類し記述した。

遺物 (第38図1～2、写真図版39)

土器 (1・2) 深鉢形土器の破片1・2が埋土下位から出土している。平行沈線が施され、1は口縁上端が内側から削がれ、外面から指頭状圧痕が施されるものである。2は横走気味の縄文(LR)が施されるものである。

本遺構の所属する時期は、床面からの出土遺物はないが縄文時代晩期に位置づけられる可能性があると思われる。

## 2. 炉址・焼土遺構

5区では炉址1基、焼土遺構19基の計20基が検出されている。地域別には中央部で15基、西側地区で5基検出されている。

### VII Lg 炉址 (第39図・写真図版23)

本遺構は石囲いの炉址である。西地区の東中央部に位置し、北側5mにはVII Lc-1住居址、南東側2mにはVII Lg住居址がある。II層中位で検出されている。大小11個の安山岩質の亜角礫がほぼ円形に埋置されており、規模は外径60cm×55cm・内径40cmを測る。炉址周辺には炭化物粒が僅か散在するものの、炉内には焼土の形成が認められなかった。

炉址周辺から縄文後期の土器片がわずか出土しているが、遺構と直接関連する遺物がなく時期不明である。

### VII Lh 焼土 (第39図・写真図版24)

西地区の東寄りに位置する。東側に湧水があり、小さな沢が南流している。北側6mにVII Ld住居址、北西側4mにはVII Lc-3住居址がある。III層中位で検出されている。焼土は大小2カ所に広がり、西寄りの大きい方は東西に長く160cm×50cmの不整形を、小さい方は25cm×20cmの長方形を呈す。焼土の形成は東側で厚く、最大10cmに及び強く締まっている。中央から西寄りでは暗赤褐色焼土と暗褐色土の混合土で、柔らかく締まりはない。

遺物 (第43図12・写真図版39) 浅い摺鉢状を呈する小形石皿である。中央部の深さは1.5cmほどで、使用面には小さな凹凸があるが全体的に滑らかである。火熱を受け赤色変化している。石質は多孔質の両輝石安岩熔岩である。

本遺構は、所属時期を判定し得る遺物がなく時期不明である。

### VII L/ - 1 焼土 (第39図・写真図版24)

西地区の東南端に位置する。東側には小さな沢が南流し、南側には湿地帯が広がっている。西側5mにはVII Lk住居址、北側6mにはVII L/ - 2焼土がある。III層上位で検出されている。焼土は25cm×20cmに広がり不整形を呈す。焼土の形成は中央で最厚く12cmに及ぶ。焼成は暗赤褐色で強く締まっている。焼土付近から縄文後期の土器片が出土しているが、遺構に直接結びつくものはなく時期は明確でない。

### VII L/ - 2 焼土 (第39図・写真図版28)

西地区の南東寄りに位置し、東側3mには沢が南流している。西側4mにVII Lg住居址、南側

6 mにはVII L1-1 焼土がある。III層の上位で検出されている。焼土は20cm×20cmの広がりを持ち不整形を呈す。焼土は中央で厚く最大6 cmに及ぶ。色調はにぶい赤褐色で柔らかく締まりがない。VII L1-1 焼土同様に遺構周辺で縄文後期の土器片が多く出土しているものの、直接関連するものがなく時期は明確でない。

#### VII Li 焼土 (第39図・写真図版24)

西地区の中央部南端に位置し、南側には湿地帯が広がっている。北東7 mにVII Le-1 住居址がある。III層上位で検出されている。湿地帯との比高は約2 mある。分布調査時の試掘によって北西部が損壊されている。残存する焼土の広がり、東西に長く90cm×50cmで不整形を呈す。焼土の形成は中央で最大7 cmに及ぶ。焼成はややよく、暗赤褐色で締まっている。遺物は出土していない。

#### VI Mn 焼土 (第39図・写真図版24)

中央平坦地の北西端に位置する。至近にVI Mn 住居址がある。III層の中部で検出されている。焼土は50cm×35cmほどの楕円形状に広がり、焼土の形成は最大で8 cmを測る。焼成は良好で、暗赤褐色を呈し堅く締まっている。遺物は出土していない。

#### VII Mb-1 焼土 (第39図・写真図版25)

中央平坦地の北西寄りに位置する。至近にVII Mb-2・b-4 焼土が、東側4 mにはVII Mb-1 住居址がある。II層の下位で検出されている。80cm×75cmのほぼ円形に広がり、焼土の形成はレンズ状を呈し厚さは最大13cmに及ぶ。焼成は良好で、赤褐色を呈し非常に堅く締まっている。

本遺構の時期を判定し得る遺物はなく、時期不明である。

#### VII Mb-2 焼土 (第39図・写真図版25)

中央部の北西寄りに位置する。北側3 mにVII Mb-1 焼土が、東5 mにはVII Mb-1 住居址がある。II層下位で検出されている。焼土の広がり、70cm×65cmの円形状を呈す。西側で焼土の形成が厚く、ややレンズ状を呈す。厚さは最大6 cmを測る。焼成は良く暗赤褐色で堅く締まっている。遺物は出土していない。

#### VII Mb-3 焼土 (第40図・写真図版25)

中央部平坦地のほぼ中央に位置する。至近にVII Mb-2 住居址、VII Mf-3 焼土がある。III層

上位で検出されている。焼土は45cm×40cmの範囲に広がり不整形を呈す。焼土の形成は約6cmに及び、におい赤褐色を呈し堅く締まっている。

遺物(第42図1~4・写真図版39・43) 深鉢形土器(1)、小形の凹石(2)、不定形石器(3)、石製品(4)が出土している。1は焼土の東側周辺から破片として出土し、一部復元されたものである。体部はほぼ直立し立ち上がり頸部で僅か締まり口縁が僅かに外反する。口縁は小波状を呈し、頸部に磨消しが施されている。焼成は良く堅緻で、色調は明褐色を呈している。外面に煤が付着している。

2は石質が流紋岩質中粒凝灰岩で、一面の3カ所に浅い凹みをもち片面及び側面には浅い溝状の痕跡があり、砥石としての機能を併せもつ石器である。3は槌柄器類の破損品であろうか。表面の周縁から丁寧な加工調整が施される。4は楕円形状を呈する石製品で表面に磨きが施されている。

本遺構は出土遺物から、縄文時代後期に所属すると思われるが、時期の詳細は不明である。

#### VII Mb-4 焼土(第40図・写真図版28)

中央部のやや北西寄りに位置する。東側4mにVII Mb-1住居址が、南2mにはVII Mb-1焼土がある。II層の下位で検出されている。焼土の広がりは100cm×70cmの南北に長い楕円形状を呈す。焼土の形成は西側部分で厚く、最大8cmに及ぶ。焼成は良好でにおい赤褐色を呈し、堅く締まっている。遺物は出土していない。

#### VII Me 焼土(第40図・写真図版25)

中央部の西寄りに位置する。至近にVII Mf-2焼土が、南側6mにはVII Me住居址がある。II層の下位において検出されている。焼土は大きく攪乱を受けており、焼土及び焼土粒が110cm×80cmの楕円形状に広がっている。断面では焼土が小ブロック状に観察され、焼成はやや良く暗赤褐色を呈し堅く締まっている。

遺物(第42図5、第43図13・14・写真図版39・43) 石鏃(5)、磨石(13)、石皿(14)が出土している。石鏃は無茎の凹基鏃である。周縁から丁寧な加工調整され鏃身は外高する。石質は黒曜石である。13は扁平な楕円体を呈するもので、表裏に滑らかな磨面をもつ。側面には整形の際のものか、数カ所に擦痕が見られる。14は両面使用の石皿の欠損品である。使用面は大きく凹みを呈しており側面は円形状に整形される。石質は13が阿禰石安山岩、14が阿禰石安山岩熔岩である。

#### VII Mf - 1 焼土 (第40図・写真図版28)

中央部の南西寄りに位置し、南西側3mにVII Me 住居址、東側2mにはVII Mf ビットがある。II層の中段で検出されている。焼土は大小2カ所に広がり、大きい方は30cm×20cmの台形状を、小さい方は20cm×15cmの楕円形状を呈している。焼土の形成は1cm～2cmと薄く、火熱による赤色変化をわずか受けた程度である。遺物は出土していない。

#### VII Mf - 2 焼土 (第40図・写真図版26)

中央部の西寄りに位置し、至近にVII Me 焼土とVII Mf - 5 焼土がある。III層上位において検出されている。焼土及び焼土粒が2.0m×1.2mの広範囲に広がり、北寄りに径20cm位の安山岩質角礫が埋置されている。焼土の形成は礫の周辺で厚く最大14cmに及ぶ。焼成は良く、色調は暗赤褐色を呈し堅く締まっている。遺物は出土していない。

#### VII Mf - 3 焼土 (第40図・写真図版26)

中央部のほぼ中央に位置する。至近にVII Mb - 2 住居址、VII Mb - 3 焼土がある。II層の下位で検出されている。焼土の広がり方は35cm×27cmの不整形を呈し、焼土の形成は最大4cmに及ぶ。色調は赤褐色であるが、黒色土が小ブロック状に混入しやや締まりなく柔らかい。

遺物 (第42図8・写真図版43) 不定形石器8が出土している。

#### VII Mf - 4 焼土 (第40図・写真図版26)

中央部の南寄りに位置する。南側3mにはVII Mj 焼土がある。II層の下位で検出されている。焼土の広がり方は、北東-南西方向に長い1.9m×0.5mの不整形を呈す。北側には炭化物が広い範囲に散在している。焼土の形成は南西側で厚さ15cm位に及び堅く締まっている。北東側では焼土とII～III層土の混合土となっており、締まりなく柔らかい。遺物は出土していない。

#### VII Mf - 5 焼土 (第41図・写真図版26)

中央部の南西寄りに位置し、至近にVII Mf - 1・f - 2 焼土が、南西側3mにはVII Me 住居址がある。II層下位で検出されている。焼土は径75cm位の円形状に広がり、焼土の形成は最大18cmに及ぶ。焼成による赤色変化は顕著でなく、色調は極暗赤褐色である。

遺物 (第42図6・7・写真図版39) 土器体部片が出土している。6は平行沈線が施文されるもので、第46図4の土器に酷似するものである。内面はナデ調整され、縦走縄文(RL斜回転)を地文にもつ。7は地文に斜行縄文(Lr)をもつものである。

本遺構は、縄文時代後期初頭に所属するものと思われる。

## VII Mf - 6 焼土 (第41図・写真図版27)

中央部の南西寄りに位置する。北東にVII Mf ピット、南西4mにはVII Me 住居址がある。II層の下位で検出されている。焼土の広がり70cm×55cmの楕円形状を呈す。焼土は2層に分けられ、上位は焼土と黒褐色土の混合土で柔らかく8cm~12cmの厚さを測る。下位は赤褐色を呈し、焼成は良く堅く締まっており厚さは最大7cmに及ぶ。

遺物 (第42図9・写真図版43) 横形の石匙1点が出土している。三角形状を呈し擠みが中央からわずかに片寄ってつくり出される。主に表面加工調整によりつくられ、両端は尖頭状を呈す。刃部は鋭く直刃状を呈す。石質は珪質泥岩である。

## VII Mg - 1 焼土 (第41図・写真図版27)

中央部のやや東寄りに位置し、VII Mg 住居址の南側にある。南東側3mにVII Mg - 2 焼土がある。II層の中位で検出されている。焼土の広がり70cm×40cmの南北に長い楕円形状を呈す。焼土の形成は厚さ6cmに及ぶ。焼成は良く、赤褐色を呈し堅く締まっている。焼土上部に、焼土粒が多く混入する黒褐色土がある。遺物は出土していない。

## VII Mg - 2 焼土 (第41図・写真図版27)

中央部のやや南東寄りに位置する。北西側4mにVII Mg 住居址がある。III層の中位で検出されている。焼土の広がり60cm×30cmの不整形を呈し、焼土の形成は厚さ5cmに及ぶ。焼成は悪く、色調は暗赤褐色で柔らかく締まりはない。焼土下部は擾乱され、焼土粒と炭化物混入する黒褐色土である。遺物は出土していない。

## VII Mj 焼土 (第41図・写真図版27)

中央部の最大端に位置する。南側は比高2.5mの崖となり、崖下には湿地帯が広がり沢が東流している。II層下位で検出されている。焼土の広がり、やや東西に長い2.7m×2.2mの不整形を呈す。焼土上面及び焼土内から炭化材が出土している。これらの炭化材の樹種は栗・ナラと鑑定されている。焼土中央の下部に、大小9個の安山岩質鋭角礫が50cmの間隔で、ほぼ平行に配置されている。焼土の形成は中央部で厚く最大13cmを測る。焼成は良く、色調は赤褐色で堅く締まっている。上位は擾乱を受け焼土と黒色土の混合土である。

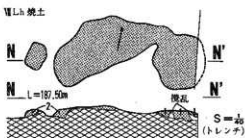
遺物 (第42図10・11・写真図版39・43) 11は凸刃状の搔削器類で、火熱により表裏が剥落している。石質は珪質泥岩である。10は三角形の断面をもつ礫の側縁に磨面をつくるものである。石質は流紋岩質凝灰岩である。

WLg 炉址



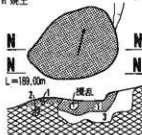
- 1 7.5YR 5/6 黒褐色シルト質土 柔らかく灰色土が混入する。
- 2 7.5YR 5/6 黒色シルト質土 やや堅く締まり土層上に陥凹する。

WLh 焼土



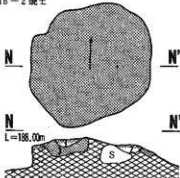
- 1 5 YR 5/6 暗赤褐色焼土 堅く締まり、脆性である。
- 2 7.5YR 5/6 暗褐色土 焼土と暗褐色土の混合土。

WMa 焼土



- 1 5 YR 5/6 暗赤褐色焼土 堅く締まっている。
- 2 7.5YR 5/6 暗褐色砂質シルト 柔らかく粘りある。焼土が混入する。
- 3 7.5YR 5/6 暗褐色砂質シルト やや堅く締まっている。焼土が混入する。

WMb-1 焼土



- 1 7.5YR 5/6 暗褐色砂質土 柔らかく締まりなし。炭化物、焼土わずかに混入する。
- 2 7.5YR 5/6 暗褐色砂質土 やや堅く締まり、粘りある。
- 3 7.5YR 5/6 暗赤褐色焼土 堅く締まっている。

WLi-1 焼土



- 1 5 YR 5/6 暗赤褐色焼土
- 2 7.5YR 5/6 暗褐色土

堅く締まっている。暗褐色土混入する。  
柔らかく粘りあり。

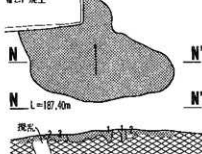
WLi-2 焼土



- 1 5 YR 5/6 暗赤褐色焼土
- 2 5 YR 5/6 暗褐色土

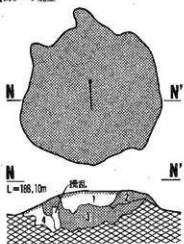
粘りなくヤラヤラする。暗褐色土混入する。  
柔らかく粘りあり。炭化物混入する。

WLi 焼土



- 1 5 YR 5/6 暗赤褐色焼土 締まっている。
- 2 5 YR 5/6 暗赤褐色焼土と砂質 焼土と褐色土の混合土。
- 3 7.5YR 5/6 暗褐色砂質土 締まっている。

WMb-1 焼土



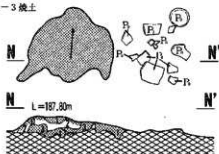
- 1 7.5YR 5/6 暗褐色砂質土 堅く締まっている。炭化物焼土粒が混入する。
- 2 5 YR 5/6 暗赤褐色焼土 堅く締まっている。粘りなし。
- 3 5 YR 5/6 赤褐色焼土 目層上の焼成土で堅く締まっている。
- 4 7.5YR 5/6 暗褐色砂質土 堅く締まっている。焼土粒が混入する。



第39回 炉址・焼土遺構(1)

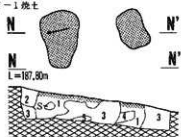


WMb-3 焼土



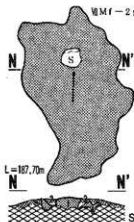
- 1 5 YR ㊦ 暗赤褐色焼土 焼土が黒色土が混入し空く結まっている。
- 2 7.5YR ㊦ 黒色シルト質土 赤らかく結まりなし。微量の焼土が混入する。
- 3 5 YR ㊦ 紅赤褐色焼土 空く結まっている。

WMf-1 焼土



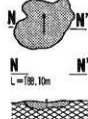
- 1 7.5YR ㊦ 暗暗褐色土 赤らかい。炭化物、焼土粒が混入する。
- 2 7.5YR ㊦ 黒褐色土 赤らかい。炭化物、焼土粒が混入する。
- 3 7.5YR ㊦ 黒色土 赤らかい。炭化物、焼土粒が混入する。
- 4 7.5YR ㊦ 赤褐色土 赤らかい。炭化物混入する。
- 5 7.5YR ㊦ 暗暗褐色土 赤らかい。炭化物混入する。

WMf-2 焼土



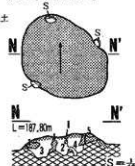
- 1 5 YR ㊦ 暗赤褐色焼土 空く結まっている。やや粘りある。
- 2 7.5YR ㊦ 黒褐色砂質土 赤らかく結まりなし。炭化物、焼土粒が混入する。

WMf-3 焼土



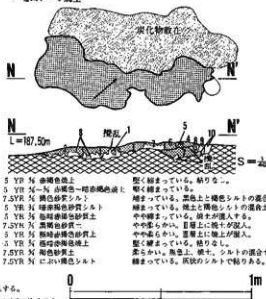
- 1 5 YR ㊦ 赤褐色焼土 赤らかく焼土がブロック状に混入する。

WMed 焼土



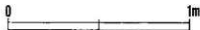
- 1 5 YR ㊦ 暗赤褐色焼土 空く結まっている。粘りなし。
- 2 5 YR ㊦ 暗赤褐色砂質土 赤く結まりなし。焼土粒と黒色土の混合土。
- 3 7.5YR ㊦ 暗褐色砂質土 赤く結まりなし。焼土粒が混入する。
- 4 7.5YR ㊦ 黒褐色砂質土 赤く結まりなし。わずかに、焼土粒が混入する。
- 5 7.5YR ㊦ 暗褐色砂質土 赤く結まりなし。焼土粒が混入する。

WMf-4 焼土

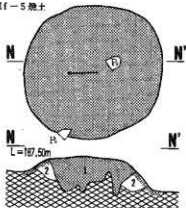


- 1 5 YR ㊦ 赤褐色焼土 空く結まっている。粘りなし。
- 2 5 YR ㊦ ㊦ 赤褐色暗赤褐色土 赤く結まっている。
- 3 7.5YR ㊦ 褐色砂質シルト 結まっている。黒色土と褐色シルトの混合土。
- 4 5 YR ㊦ 暗赤褐色砂質シルト 結まっている。焼土と褐色シルトの混合土。
- 5 5 YR ㊦ 暗赤褐色砂質土 赤く結まっている。焼土が混入する。
- 6 7.5YR ㊦ 黒褐色砂質土 やや赤らかい。目撃上に焼土が混入。
- 7 5 YR ㊦ 暗赤褐色砂質土 やや赤らかい。目撃上に焼土が混入。
- 8 5 YR ㊦ 暗赤褐色焼土 空く結まっている。粘りなし。
- 9 7.5YR ㊦ 暗褐色砂質土 赤らかい。焼土、焼土、シルトの混合土。
- 10 7.5YR ㊦ 暗褐色シルト 結まっている。灰褐色シルトで粘りある。

第40回 焼土遺構(2)

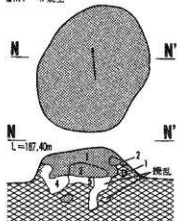


VMf-5 焼土



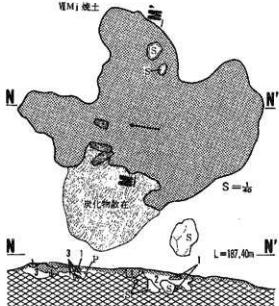
- 1 5 YR 弱褐色焼土 やや締まっている。粘りなし。
- 2 7.5YR 黄褐色砂質シルト やや締まっている。粘りある。

VMf-6 焼土



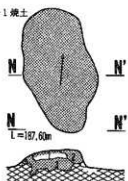
- 1 5 YR 弱褐色焼土 柔らかく締まりなし。炭化物混入する。
- 2 5 YR 赤褐色焼土 堅く締まっている。粘りなし。
- 3 5 YR 黄褐色砂質土 柔らかく締まりなし。焼土、褐色土の混合土。
- 4 5 YR 黄褐色砂質シルト 堅く締まっている。上位が炭化で炭化灰化。

VMj 焼土



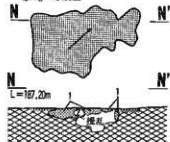
- 1 2.5YR N 赤褐色焼土 堅く締まっている。
- 2 3 YR 緑赤褐色砂質土 柔らかく粘りなし。焼土と褐色土の混合土。
- 3 7.5YR 黄褐色砂質土 柔らかく締まりなし。焼土が混入する。
- 4 5 YR 弱褐色焼土 堅く締まっている。
- 5 5 YR 弱赤褐色焼土 柔らかく締まりなし。焼土と多くの炭化物混入する。
- 6 7.5YR 黄褐色砂質土 やや締まっている。焼土混わずが混入する。
- 7 7.5YR 黄褐色砂質土 堅く締まっている。焼土粒が微量混入する。

VMg-1 焼土

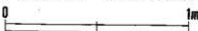


- 1 7.5YR 黄褐色シルト質土 堅く締まり、ブロック状に焼土混入する。
- 2 7.5YR 黄褐色シルト質炭土 やや締まっている。焼土粒が多く混入する。
- 3 5 YR N 赤褐色焼土 堅く締まり、褐色土が微量混入する。

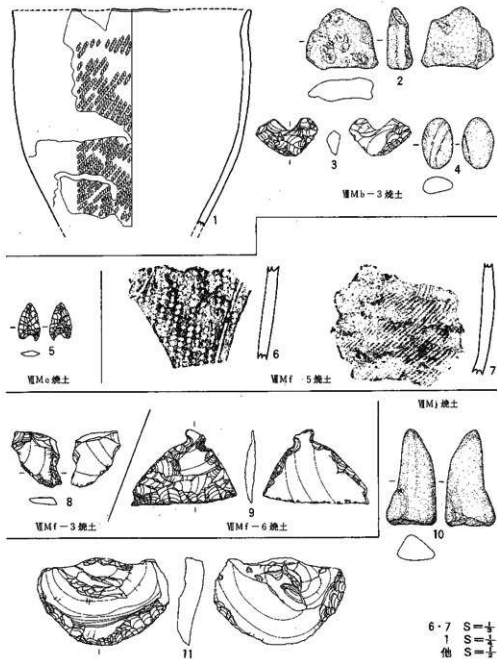
VMg-2 焼土



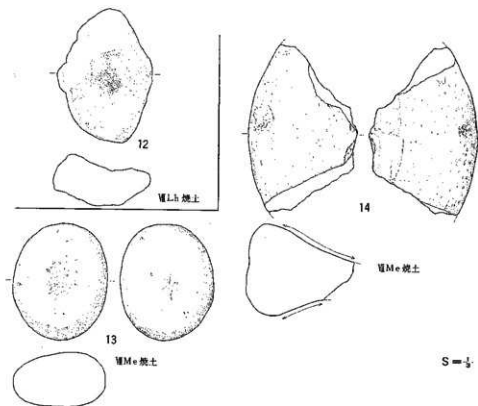
- 1 2.5YR 弱赤褐色土 柔らかく、締まりなし。
- 2 0 YR 黄褐色土 やや粘りある。炭化物が混入する。



第41図 焼土遺構(3)



第42図 焼土遺構出土遺物(1)



第43図 焼土遺構出土遺物(2)

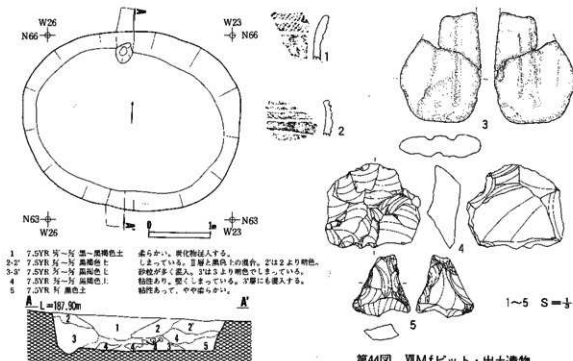
### 3. ピット

5区では、調査区中央部でやや規模の大きいピットが1基検出されている。

#### VII Mf ピット (第44図・写真図版28)

中央平坦地の南西寄りに位置する。北にはVII Mb - 2 住居址、南西にはVII Me 住居址がある。II層の上位で検出されている。平面形は東西方向に長軸をもつ楕円形で、断面形は横長の台形状を呈す。規模は開口部径3.6m×2.9m・底部径3.1m×2.3m・深さは50cm~60cmを測る。壁はII層下位~III層下位にあって、70度位の角度で外傾し立ち上がる。底部はV層上位に構築され、北壁際に小さな窪みがあるが、全体的にはほぼ平坦で締まっている。

埋土は大きく3つに分けられる。第1は埋土上位の中央部に堆積する1・2層で、炭化物の混入する黒~黒褐色砂質土で構成される。第2は上位壁際に堆積する3・4層で、II層起源の浮石が多く混入する黒褐色砂質土で構成される。第3は、不自然な堆積を示す埋土下位の土層



第44図 VII Mfピット・出土遺物

で黒〜黒褐色砂質土により構成される。縮まりは一樣ではない。

#### 遺物 (第44図 1〜5・写真図版39・43)

埋土中からの出土で、底面からの出土遺物はない。1・2は土器口縁部片で、横位沈線が施されるものである。1は口縁が外反するもので、頸部が磨消しされる。2は沈線が多様され、口縁が内湾する。石器類は、3が砥石、4は石核、5は不定形石器である。3は石質が白色細粒凝灰岩で脆く欠損している。両面に溝状の使用痕をもつ。一面には幅7mm・深さ3mm〜4mmで底面が丸味をもつ2条の溝が、一方の面には3条の溝があり中央のものが5mm〜6mmと深く両側の2条はごく浅い。4は流紋岩質凝灰岩の石核で、5は石質が同じで、一側縁に加工調整痕をもつ不定形石器である。なお、埋土中から4・5と同質の剥片が10数片出土しているが、接合はされていない。本遺構の所属する時期は不明である。

#### 4. 埋設土器

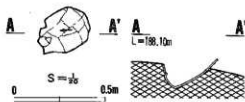
##### VII Ld埋設土器 (第45図・写真図版28)

調査区西地区の東端に位置し、VII Ld住居址から東2mの距離にある。III層の中位で検出されている。土器はIII層の中〜下位に口縁部を東方向きにした、正立斜位の状態にあるが明確な掘り込みは認められていない。土器の上半の一部は検出の際に損壊している。

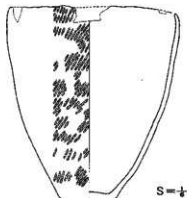
遺物 (第45図・写真図版39) 粗製の深鉢形土器である。底部から内湾気味に立ち上がり、

口縁部は内湾し窄む形状を呈す。地文は単節斜縄文 (LR横回転) が施され、内面はナデ調整される。外面の一部に煤が付着している。土器の内部からの出土品はない。

土器は、胎土か焼成地文などから縄文時代後期に属するものと思われる。



27.8・32.1・8.7



第45図 VII Ld埋設土器

### III. 遺構外出土遺物

5区の遺構外出土の遺物は、土器、土製品、石器、石製品からなる。

#### 1. 土器

5区出土の土器は、時期的には縄文時代中期～晩期及び弥生式の土器であり、出土量はダンボール箱で40箱ほどで、8区と3区に次いで多い。その中では、縄文時代後期のものが最も量的に多く、次いで縄文時代晩期のものである。

土器の分類は、他の区と同様に時期毎とし、さらに文様、施文方法等の特徴により細分した。

5区出土の土器は以下のとおりである。

第III群 (縄文時代中期) 第IV群 (縄文時代後期) 第V群 (縄文時代晩期) 第VI群 (縄文土器で時期不明の粗製、無文土器等) 第VII群 (弥生土器)

第III群土器 (第46図1・2、第53図62～69・写真図版44・51)

本群は縄文時代中期の土器であり、3類に区分した。

1類 縦位の磨消し縄文をもつもの (第46図1・第53図62～64・写真図版44・51)

沈線で区画された磨消し縄文が主とし縦位に展開されるもので、一部にはアルファベット文字状の文様をもつものがある。器體は、深鉢形、鉢形土器であり、小形と思われるもの (64)

もある。磨消し縄文帯の展開及び文様構成は、長楕円形磨消し文が等間隔に縦の展開をみせるもの(1)、J字状又は逆L字状に施文されるもの(2・52)、一部U字状を呈するもの(63)がある。

1は大形の深鉢形土器の体部である。体部には大きな膨らみをもち樽状を呈す。縦位の平行沈線が全面に施され、その間に長楕円磨消し文が施される。地文は原体LRを斜め回転させた横走縄文で、内面は丁寧に調整されるが胎土に細砂を多く含み焼成が脆くザラザラした感じの土器である。2は体部がほぼ直立し円筒状を呈し、口縁が緩く外反する器形で、口唇部が肥厚する。復元されたのは一部分であり文様の展開に明確さを欠くが、口縁部に磨消しをもち体部には沈線によりJ字状又は逆L字状の複合した区画を施し、その内部を磨消しするものである。地文は1と同様横走縄文である。

### 2類 臚状の突起をもつもの(第53図65・66・写真図版51)

体部片2点である。器面に粘土隆帯を貼り臚状の突起をつくるもので、65は地文が充填縄文的施文方法で、臚の下位は斜縄文(RL)、横の箇所は横走縄文(RL)が施される。胎土に微細な石英砂を含み焼成は良い。66は曲線隆帯で磨消し帯を区画し、臚状の文様が表出されるもので65の突起とは異にするものである。隆帯内部に斜縄文(LR)が充填される。粗砂を多く含み、粗雑な感じのする土器である。

### 3類 区画された刺突文帯をもつもの(第53図67~69・写真図版51)

67は大形深鉢であろう。口縁内側に深めの刻み(沈刻)を施し、2重状の口唇部をつくるもので、口縁に対し縦方向に曲線的に、横方向には直線的に展開する粘土隆帯を貼付け、磨消し帯と刺突帯を区画する。刺突は楔状を呈している。地文はRLの斜縄文である。68は沈線で刺突帯を区画するもの、69は沈線でJ字状の磨消し文を構成し、その箇所に刺突を施すものでボタン状の粘土貼付をもつ。3点は共に内面調整が丁寧になされ、焼成は良い。

## 第IV群土器(第46図3~8、第47図、第53図70~88、第54図~第56図・写真図版44・45・51~54)

本群は縄文時代後期に属する土器を一括したものである。5区では最も出土量の多いものであるが、口縁~底部まで復元されたものはなく、一部接合されたものが10点ほどで他は全て破片である。器種は殆どが深鉢形土器で、壺形土器が数点含まれる。文様等の特徴により、以下のように10類に区分した。

### 1類 連鎖状文をもつもの(第46図3、第53図70~77・写真図版44・51)

山形口縁のもの、小突起をもつもの、平縁のものがある。粘土隆帯を貼付け刺突または刻みを施し連鎖状文をつくるものである。3は山形口縁をもち、頸部で屈曲し口縁が外反する形状である。無文帯の口頸部に、山形口縁頂部を始点とし連鎖状文が施される。刺突は蹄状を呈し

ている。地文は大柄な斜縄文 (RL) が施文される。70・71は平縁で連鎖状文の始点の口唇部上端に円形刺突をもつ。70にはボタン状の突起が貼付けされる。72～74・77は山形小突起をもち、72・74にはボタン状突起が貼付けされる。突起頂部に上方から刺突 (73)、刻み (77) が施されるものもある。隆帯に施される刺突は、73が竹管刺突、77は縄文末端によるものである。

76は山形口縁頂部に刻みをもつもので、隆帯が渦巻状に貼付けされ、大柄な刻みが施される。76・77は粗砂を多く含み、粗雑な感じのする土器である。75は隆帯をもたないもので連鎖状文とは言い難いが、沈線を施すことにより隆帯様の盛り上がりをつくり、そこに連続刺突を施し連鎖状風の文様を表出していることから本類に含めたものである。

### 2類 円形刺突十沈線文をもつもの (第53図78～84・写真図版51)

無文の口縁部及び口唇部に円形の刺突が施され、口縁に平行又は縦位方向に沈線が展開されるものである。78・79は小山形状の口縁の頂部上端に指頭状の圧痕をもつもので、78は頂部真下の刺突が貫通している。78・79は共に口唇部は肥厚する。80・83は小突起口縁を、81・84は緩い波状口縁を、82は台形状と思われる突起口縁をもつもので、口唇部上端に刺突をもつもの (82・83・84)、口縁表面に2個の刺突を縦位にもつもの (83・84) がある。沈線による文様の展開は、口縁に平行するもの、縦に展開するものが併用されるものであろう。84は口縁部文様と体部文様が明瞭に区画される。79・83は焼成が悪く黄褐色を呈するが、他は焼成も良く内面も丁寧に調整される。

### 3類 区画された口縁部文様帯をもつもの (第46図4、第53図85～88、第54図89～92、第55図113・写真図版44・51～53)

口頸部に横位平行沈線を施し無文帯を区画し、その無文帯部に隆帯及び沈線を付加し主として長方形の区画をつくるものである。長方形の区画には斜行沈線や横円文をもつものがある。

一部復元されたもの1点(4)で、他は破片である。口縁には小波状を呈するもの (4・85・87・91)、平縁のものがあり、口頸部の外反するものが多い。

4は体部上半に最大径をもつ深鉢形土器で、頸部で僅か締まり小波状を呈す口縁は外傾し立ち上がる。波状頂部から体部にかけて粘土隆帯が垂下し、口頸部に長方形の無文帯を区画する。波状頂部付近及び隆帯には刻みが施され、隆帯下端にはボタン状の突起をもつ。体部には、2条の円弧状沈線により木葉様の文様が構成される。地文には単節縄文 (RL) が横・斜回転により施される。焼成は良いが、砂粒が多く脆い感じのする土器である。

85～87・89は縦位の沈線で長方形の区画をつくるもので、85は口縁上部に刻み頸部にボタン状の突起をもつ。87は胎土、焼成、施文が2類土器に酷似するもので焼成がやや悪く褐色を呈し、口縁に平行する長横円文をもつ。89は三角形の区画をつくるものである。113も類似する文様が構成される。90は円弧状沈線で区画するものである。142は90に類似する点もあるが本類



に含まれるものか疑問である。91は口頸部に無文帯をもたず、斜縄文施文後に楷円文が施文されるものである。

#### 4類 S字状の沈線文をもつもの(第47図13、第54図93~96・写真図版45・52)

沈線によってS字状の曲線文が縦位に施文されるものである。13は頸部の強く締まった小形の壺形状を呈する土器である。体部下半は丸味をもつが中央部で屈曲し直線的にしまり、頸部で強く屈曲し無文の口縁部が外湾気味に立ち上がる。口縁は小波状を呈し、口唇部に深めの沈線が巡らされる。体部上半にも深めの沈線により4箇所に通巻文を上下に配置しS字状の文様を構成し、その間には横位の沈線及び連続刺突が数段に亘って施文される。焼成は良く、明褐色を呈している。93・94は波状を呈する大形の深鉢の破片で垂下する曲線文が施されるもの、95・96は小波状もしくは小山形口縁もつ鉢の口縁部片で、95は3条の沈線により蛇行曲線文が、96は2条の沈線によりS字状文が施文されるものである。内面調整が丁寧になされ、焼成も良いが、96はやや軟質な感じのする土器である。

#### 5類 曲線沈線文、磨消し帯または無文帯が全面に展開するもの(第46図5~8、第47図9~12、第54図97~112・114、第55図117~126・135・写真図版44・45・52・53)

5区出土の土器の中では最も多いもので、縄文時代後期居住址が集中する中央城(VIII区)からの出土が多い。本類は後期初頭に位置づけられ十腰内I式に比定されるものであろう。

##### A 曲線沈線文が展開するもの(97~107・110)

沈線によって通巻状、波頭状など曲線文が施文されるものである。口縁の形状は、緩く外湾するもの、直線的に立ち上がるもの、短い口縁が外反するものがあり、小波状のもの(100)、台形状の突起をもつもの(98・103・110)、小突起をもつもの(99)がある。

地文をもたず沈線のみが施文されるもの(97・99・100・103・104・110)と地文をもつものがあり、前者には台形状口縁突起に口縁に平行する押圧が施されるもの(103・110)があり、さらに103には台形突起部に上方から刺突が付加される。地文をもつものには磨消し手法が用いられるものがある。102は地文に網目状文をもつもので、口縁上部に磨消しが施される。98は頸部に原体側面圧痕をもつもの、106は斜縄文施文後に沈線が施されるもの、105には磨消しが施されるものである。107は透し入りの脚部と思われるもので、下端に横位沈線をもち亘つ曲線沈線文が施文される。地文はなく焼成は良い。

109は胎土・焼成が、99・106に似るもので、口縁に平行する粘土隆帯をもち、楷円沈線文が施文されるもの、111・112は沈線文が緩く横位の展開をみせるものである。分類上本類に最も近いものと思われる。

##### B 沈線に区画された磨消し帯(または無文帯)が全面に展開するもの(5~12・114・117~125)

沈線により区画された磨消し縄文帯が横位の展開を基調とし、体部の全面に施されるものである。12が平縁である以外、余て大なり小なりの波状口縁を呈し口縁は外反するものが殆どである。復元されたものとみると、肩部の張り出しをみせるもの(5)、体部に強い膨らみをもつもの(7)、体部上半に最大径をもち口頸部が締まり口縁が直立するもの(9・12)、頸部でわずかな締まりをみせ口縁が外傾するもの(11)など様々である。

磨消し帯の展開は、数段にわたり施されるもの(5)、「コ」の字状の角形の区画みせるもの(6)、「コ」の字状の区画がくずれ緩く弧状を描くもの(7)、小区画が多用されるもの(9・11)及び幅の広い無文帯をもち、波状を呈する帯縄文が横位に展開するもの(10・12)がある。これらの文様帯の変化と共に口縁部上部の文様が変化をみせ、平行沈線をもつもの(8・9・114)、円弧文が施されるもの(6・7・119~125)などがある。118は口縁が内湾を呈するもので、波状頂部に刻みが施されている。

#### 6類 平行沈線が多用されるもの(126~136)

口縁に平行して沈線が多用されるもので、5類同様に縄文後期初頭に位置づけられ、十腰内I式に比定されるものであろう。波状口縁頂部は三角形の尖りをみせ、波状頂部に鉢巻状の沈線が付加されるものが多くみられる。口縁が外反するのは前類と同様であるが、磨消し帯は横位に展開され、平行沈線により帯縄文風な文様構成をもつ。

鉢巻状の沈線をもつものは126・128・130・131で、126は表面にも沈線をもつ。130・131は口唇部にも縄文が施される。133は口縁が不均衡な波状を呈するもの、127は小円状の刺突が連続して施される。

#### 7類 平行沈線+弧状沈線が施文されるもの(第47図14、第55図137~141・写真図版45・53)

大波状口縁のもの、耳状突起をもつもの、平縁のものがある。内外面の調整が丁寧になされ焼成も良い。14は大波状口縁を呈し体部は直線的に外傾し立ち上がり口縁部が緩く内湾する形状である。口縁部、体部には沈線により幅広い縄文帯と無文帯を区画し、縄文帯には平行沈線で帯縄文を割付けしその後平行沈線間を弧状沈線で連結し長楕円状の文様構成をつくる。波状頂部直下の沈線上に円形刺突が付加される。地文は斜縄文(LR)であり、焼成良く暗赤褐色を呈している。137・138は口縁上端に耳状突起をもつもので、137は大形で湾曲を呈し、突起のつけ根の口唇部に指頭状圧痕をもつ。138は突起近くの口縁上部に鐘状の突起がつくられる。139は波状頂部の下位に円弧状沈線をもつもので、他のものに比較し焼成悪く黄褐色を呈しザラザラしてある。140は平縁と思われる鉢で口縁は肥厚する。平行沈線間には、向きあう弧状沈線が懸垂する。141も同類の土器の破片と思われる。

#### 8類 帯縄文、磨消し縄文、刻み列をもつもの(第47図15・16、第56図143~162・写真図版45・54)

**A 帯縄文または横位、縦位の磨消し（無文帯）をもつもの（15・16・155～158）**

15は大波状口縁で、口縁は強く外傾するものであるが全体の形状は不明である。口縁上部に波状口縁に平行する沈線を施し、縄文帯を構成し縄文（RL）を充填させる。焼成よく内外面は丁寧に調整される。16・155は小突起口縁をもち横位羽状縄文（RL—LR）が施文される。16は縄文施文後に磨消しが施されるもの、155は沈線で縄文帯を区画するものである。157は口縁上端にも沈線が施される鉢である。156・158は沈線で区画された磨消し帯をもつ深鉢で、地文は横回転による斜縄文を全面に施し、その後同じ原体を縦回転に施文し羽状縄文を構成するものである。155～158には石英砂が多く含まれている。

**B 磨消し及び刻み列をもつもの（第56図143～154、159～162・写真図版54）**

波状口縁を呈するものが大半であり、波状のものは口縁上部が肥厚し内削りされるか、または平らにつくられるものが多い。平縁のものは外傾し立ち上がり、口唇部の肥厚はみられない。刻み列は口縁上端に沿って1～2列施され、同様の刻みが頸部にも施されるもの（143・150・151・152）がある。文様の展開は破片であるため不明であるが、143にみられるような横の展開がなされるものであろう。文様の各部は、沈線により三角形又は楔状の区画をつくり磨消しを施すものが大半である。地文は斜縄文、羽状縄文である。143は羽状縄文が充填されるもの、144・146は斜縄文、152・154は縦位の羽状縄文をもつものである。159～162は無文で、162は口縁内側に刻みが施れる2個の貼瘤をもつ。石英砂が多く混入するものは143・145～149・159で、151は粗砂や長石が多く含まれている。

**9類 貼瘤をもつもの（第56図163～172・写真図版54）**

本類は体部に貼付の瘤状突起をもつもので、十腰内V式又は宮戸II式に比定されるものを一括した。全て破片で器形に分かるものはない。口縁の形状には、平縁のもの、突起をもつもの、波状突起をもつものがある。体部の貼瘤には、小豆状に小さいもの、角錐状に突き出るもの、平坦で刻みが施されるものなど様々であるが縄文帯上に配置される。文様は沈線で区画される帯縄文が多い。施文の順位は、幅のある横位の帯縄文のものは沈線→貼瘤→縄文であり、幅の狭いものは貼瘤→縄文→沈線の順で施されるものが多い。

平縁のもの（169～172）では口縁上部の貼瘤には、横方向からの刻み（押圧）をもつもの（170・171）と上方から刻みが施されるもの（169・170）がある。突起及び波状突起をもつもの（163～168）では、突起の内側に刻みが施されるもの（165・166・167）がある。173～175の土器も本類に属するものであろう。

**10類 入組文が施文されるもの（第56図176～178・写真図版54）**

本類は縄文後期末葉の土器であり、十腰内VI式に比定されるものであろう。3点は深鉢形土器の口縁部片である。山形等の突起をもち平行沈線により横位の文様展開を示し沈線の交換部

に入組文が構成されるものである。いずれも斜縄文(RL)が施され、胎土に粗砂を多く含んでいる。

第V群土器(第48図17~26、第49図27~35、第57図179~213、第58図214~248・写真図版46・47・55・56)

5区では第IV群土器に次いで出土量の多いものであるが、口縁部から底部まで復元されたものは1点で、多くは破片である。器種として深鉢形、鉢形、台付鉢形、壺形、小形の鉢形土器がある。口縁部文様帯のあるものを主として選択した関係であろう、中形の鉢が多くみられる。文様等の特徴により、5類に細分した。

1類 入組三叉文が施文されるもの(第48図17、第57図179~191・写真図版46・55)

大洞B式に比定される土器を一括した。入組三叉文が2段に亘り施文されるもの(17・191)と、2~3条の平行沈線で口縁部文様帯を区画し一段のみ施文するものに大別される。前者は精製鉢形土器で、口縁に2個1対の突起をもつ。後者には粗製深鉢と、丁寧なつくりの小形鉢(183・188~190)がある。口縁部や口唇部のつくり出しには平縁のもの(179~183)、口唇部に刻みをもつもの(184~187)、突起をもつもの(188~190)がある。

2類 羊歯状文、列点状文の連続刻目文をもつもの(第48図18・20・21、第57図192~207・写真図版46・55)

本類は、大洞B-C式に比定される土器を一括した。器形の大小、つくりの粗精があるものの、大半は鉢形土器である。体部と口縁部の形状は多種多様であるが、一部の精製土器を除き多かれ少かれ煤が付着している。平縁のもの(193・196)はごく少く、殆どが口唇部に2個1対の突起または連続刻みをもち、口頸部や体部上半には太めの沈線により羊歯状文、唐草風文様、あるいは連続刻みにより列点状の文様を浮彫的に施文する。文様帯は丁寧にナゲ調整される。

18は短い口縁が直立する鉢形土器で、口縁上端に小突起及び連続刻みをもち、横位2条の沈線で文様帯を区画し大柄な列点文及び羊歯状文が施文される。20は楕円体状の膨らみをもつ鉢で、頸部で屈曲する。口縁部には大腿骨文風の文様が施文される。192・193・195は口縁上部にK字状の文様をもち、その下位に192は連点状文の刻みが、195は波状とも思える種やかな羊歯状文が施される。21は羊歯状文が退化し平行線及び連続刻みが施文されるもので、201~207も羊歯状文の退化した一連の文様をもつ土器であろう。

3類 平行沈線+列点文、雲形文をもつもの(第48図19・23、第49図30、第57図208~213、第58図214~218・写真図版46・47・55・56)

口縁上端に、2個1対状のつくり出しもみられるが、殆どのものが連続刻みをもち、口縁部文様帯を1~2条の横位沈線で区画し列点文を施文する。体部には雲形文または斜縄文が施文

される。本類は大洞C<sub>1</sub>式に比定されるものであろうが、一部大洞B—C式の要素を強くもつもの(217)も含んでいる。

19は台付鉢形土器と思われるもので口唇部には連続刻みをもち、刻み文は斜位に施される。地文として斜縄文(RL)が施文され、その後軽くナデ調整される。外面は褐色、内面は黒褐色で丁寧に調整される。23は口縁がわずかに内傾する鉢形土器で、2個1対状の突起をもち列点文状の刻みが横一線に展開する。

裏形文が施文されるもの(208~213)は鉢形土器であるが、破片であるため文様の展開等は不明である。

**4類 平行沈線、平行する雲形文、山形突起をもつもの(第48図22・24、第49図27・29、第58図219~236・写真図版46・47・56)**

本類は大洞C<sub>2</sub>式に比定されるものであろう。

**A 平行沈線が多用されるもの(27・29・219~230)**

3~8条の横位平行沈線が口頸部や体部に施されるもので、平線のもの(219・230)は少なく、口縁部や口唇部に刻み又は押圧が施されるものが多い。刻みや押圧は、口唇部に上方から施すもの(220・221・226・229)と、斜めからまたは横から口縁に施すものとに大別される。

27は捻り瘤状の突起をもつ無文小形壺、29は小波状口縁の鉢であるが縄文が捩糸文状であり本類より新しい時期に属する可能性がある。

219は小形鉢で口唇部に刺突をもつもの、220は肩部の張り出す鉢である。230は平行沈線中央部に一列の連鎖状の刻みをもつもので、内外面に多量の煤が付着し、黒褐色をしている。

**B 山形または小突起口縁をもつもの(24・231~236)**

24は大小山形の口縁突起をもつ、肩部が僅かに張り出す形状のもので、突起部には三角形状の陰刻をもち、頸部には連続する刻みが施される。体部には帯縄文が横位に巡りその下位には磨消しが施されるが破損しているため詳細な文様等は不明である。内外面は丁寧に調整され、焼成が良く色調は灰褐色である。

231~236は口縁の長短はあるが外傾を呈し、嘴状突起をもつ(231)、2個1対状の突起をもつ(232・234・235)、刻みある山形突起をもつ(233)、口唇部に刻みをもつ(231・235・236)などの変化がある。沈線は口頸部に1~2条ほど用い、さらに口唇部に付加するもの(232・234)、口縁内側にもつもの(231・233・235・236)などがある。232の内面には多量の煤が、233の内面全体にタール状の付着物がみられる。235は沈線を施し浮彫風の疑似工字文が、236も同様の文様が施文される。第48図33~35は小波状を呈するもので、本類に供う半精製の土器であろう。

**5類 工字文、疑似工字文等が施文されるもの(第48図25・26、第49図28・31、第58図237~248・写真図版46・47・56)**

本類は大洞A～A'式に比定されるものを一括した。器種として鉢形、壺形、台付鉢がある。鉢形土器の口縁には、小突起状のつくりをもつもの(28)、小突起のもの(244)、大形の突起をもち突起に加飾するもの(237・243・247)、平縁のもの(241・245)などがみられる。文様は平行沈線を基調とし横位に展開し、沈線間を連結し工字文を、隆帯に刻みを施し疑似工字文を、または沈線を完全に施さず瘤状の盛り上がりを施し工字文に類似した文様を描き出す。

25は嘴状及び2個1対の口縁突起をもち頸部はくびれ口縁が外反する鉢形土器で、体部には浮彫風の工字文が横位に展開するものである。口縁内側及び口唇部に沈線をもつ。地文はもたず、色調は暗褐色である。26は波状口縁を呈する台付鉢と思われるもので、口縁部は無文で丁寧なナデ調整され、体部文様帯を沈線で区画し変形工字文を施す。地文はLRの斜線文である。口縁内側には口縁に平行する波状を呈する沈線及び横位に巡る2条の沈線をもつ。色調は明褐色で焼成がやや脆い感じのする土器である。

237は口縁に刻みをもつ台形状の突起及び2個1対状の突起をもち、その直下に三角形の陰刻が施される。体部は沈線が多用され、疑似工字文が施される。内外面はミガキが施されており、丁寧なつくりの土器で暗赤褐色をしている。238も胎土、焼成、色調の酷似するものである。239・240は壺形土器の体部片で細砂が多く混入するもので、色調が黒褐色のものである。243・247は突起に押圧又は刺突が施されるもので、口唇部に沈線をもつ。237～248の口縁内側には一条の沈線が巡る。これらの土器の中で、大洞A'式に比定されるものは26・245～247であろうか。

#### 第VI群土器(第50図36～第52図61、第59図249～第60図297・写真版48～50・57・58)

本群は縄文土器で所属する時期が不明なものを一括した。器種として、深鉢、鉢、小形の鉢、浅鉢、壺がある。口縁の形状は、平縁のものが大半を占めるが、小波状のもの、刻みをもつもの、複合口縁のものがある。

##### 1. 深鉢形・鉢形土器

便宜上、口径15cm以上のもの及び口縁部片について記述する。

A 口頸部に沈線や磨消し等の加飾が施されるもの 口頸部には沈線や原体側面圧痕の施文及び縄文磨消し(又は無文帯の展開)や複合口縁の組合せ等により諸々の変化をみせる。磨消しは、口縁上部に施されるもの(36・38・42・50・51・275～289)と、頸部に施されるもの(39～41・269～271・290～295)に分けられる。磨消し帯は沈線または原体圧痕で区画するもの、区画の施文をもたず直接磨消しされるものがある。これらの土器群は、磨消し帯で口頸部が外傾したり、外反したりの変化をもつ。

36は体部上半から内傾し窄み口頸部がほぼ直立する形状であるが破片のため正しく復元されなかった可能性がある。縄文時代中期の要素をもつ土器である。体部には複節の縹糸文が施文

される。明褐色で器厚は10mm位と厚いものである。38は底部から外傾し立ち上がり、頸部でさらに外反する器形で、小波状口縁のものである。体部には無節横走縄文、底部には木葉痕をもつ。42は頸部で僅か締まる以外38に似る器形を呈し、口頸部の上下に2列の原体圧痕をもつ。39・40・51は器形が類似し、39・40は口縁上部に帯縄文をもち体部には縦方向の回転により縄文が施される。41はやや薄手の土器で口頸部に2条の沈線をもち磨消し帯を区画し、口縁上部に帯縄文が表出される。50は口唇部に連続刻みをもつもので、器形、焼成、胎土は縄文時代晩期にみられるものに似る。258は網目状文、260は燃糸文、262は太めの櫛歯状文が施文されるものである。

**B** 口頸部に沈線等の加飾をもたないもの      いわゆる粗製の深鉢や鉢、または無文の鉢である。

口縁部は多くが平縁で、器形又は口縁部の形状は、外傾するもの、体部上半で直立し口縁がわずかに内湾するもの、頸部で僅かくびれ口縁が外反するものなどがある。地文としては斜縄文の他に羽状縄文、櫛歯状文、網目状文がみられる。46は頸部で僅か締まる形状で、地文は前段反燃りと思われるものである。48は口径が広く体部下半が強く窄むものである。

44・249～256は羽状縄文をもつもので横位羽状、縦位羽状がある。249は口唇部が内削りされるもの、254・255は肥厚するものである。253以外、石英砂を多く混入する。

263～268は櫛歯状文及び線引き文のものである。

## 2. 小形の鉢・その他の土器

口径15cm未満の鉢、浅鉢、壺、小形土器及び体部片、底部等について記述する。

復元された小形の鉢等はごく少数である。37は体部に膨らみをもち、頸部で緩く締まり口縁が外反する。沈線、原体側面圧痕で文様帯を区画し、横位の沈線長楕円文を施す。49・52は直線的に外傾し立ち上がるもので、49は横走縄文(LR)が施される。53は口頸部に磨消しが施される。56～61は無文のもので、58は浅鉢で底部に円形沈線をもち、57は4波状をもつ小形の鉢で内外丁寧にミガキ調整されている。59は7波状の口縁突起をもち、体部下半に膨らみをもつものであるが、座りが不安定な小形土器である。器面調整は粗雑である。60は器面調整の良い壺の下半部である。259は複節の網目状文、261は不均等に施文される燃糸文である。

## 第VII群土器 (第61図298～317・写真図版59)

本群は弥生式土器を一括したものである。反転実測が可能な程度に接合されたもの1点で、他は全て破片である。文様等の特徴により3類に細分した。

### 1類 沈線により施文されるもの (第61図299～314・316・317・写真図版59)

**A** 変形工字文をもつもの (300・303～306・313)  環の口縁部、体部片及び高環脚部であ

る。深めの沈線により大柄な文様が施文されるもので、初現期の変形工字文に比較すると、簡略化された文様に思える。器面調整は丁寧で、丹塗りのものが多い。

坏の口縁部(300・303・304)は、口縁上部に1~2条の、内側には1条の沈線をもち、体部には磨消し縄文が施される。303・304は同一個体であろう、同じ文様が2段に施される。いずれも丹塗りであり縄文部に多く残存している。地文は300がLr、303・304がRLで、縄文施文後ナデ調整される。

体部片(305・306)は口縁とほぼ同様の文様構成のもので、305は地文の方向に脈絡性を欠くもので、充填縄文(LR)と思われる。丹は見られない。306は丹塗りで、胎上や焼成からは307と同一個体と思われる。地文はLRである。脚部(313)は焼成がやや悪く黄褐色をしている。内面は粗い調整である。

**B 平行沈線をもつもの(307~312・314)** 坏の口縁部、壺の口縁部及び高坏脚部である。

上記のAと同様、太めの沈線により施文される。314の脚部は焼成悪く黄褐色であるが、他は焼成よく、器面調整が丁寧になされている。口縁部片には横位沈線が巡る。312は壺の口縁部であろう。縄文(LR)施文後にナデ調整され、平行沈線は浅く施され、口縁内側には線を引いただけの極く浅い沈線が巡る。丹塗りのものは307・311・312であり、地文をもつものでLRのものは307・308・314で、Lrのものは309である。

**C 曲線文をもつもの(299・301・302)** 同一個体と思われる丹塗りの坏の口縁部片である。口縁は波状を呈し、波状頂部に刻みをもつ。器面には、口縁に平行する沈線、曲線沈線など数種類の沈線を巧みに配置し幾何学的文様を構成し、部分的に磨消しが施される。口縁内側には2条の沈線が巡る。地文は横走縄文(LR)で、内外面の調整は丁寧になされ焼成も良い。

**D 鋸歯状文をもつもの(316・317)** 小形と思われる土器の破片である。平行沈線の上下に沈線により鋸歯状の文様を描き出すもので、地文には斜縄文(LR)が施文され、その後ナデ調整が加えられる。胎土に粗砂が多く混入し、焼成は悪く色調は褐色である。

**2類 刺突文をもつもの(第61図315・写真図版59)**

1点の出土である。薄手の口縁部片で、口縁部の上下2箇所には2条の沈線を施しその間に歪んだ「八」の字状の刺突を連続施文する。外面には煤が付着し黒褐色であるが、内面は明褐色をしており丁寧に調整されている。

**3類 縦走縄文が施文されるもの(第61図298・写真図版59)**

口頸部片で全体の器形は不明であるが、体部に緩い膨らみをもつものであろう。頸部は緩く括れ、口縁が外傾し立ち上がる形状の平縁鉢形土器である。口唇部は平坦につくられ、擦糸文風の縦走縄文が整然と施文される。口縁上部及び頸部下半には綾絡文が横位に加飾される。胎土には精選された粘土が用いられ、焼成良く色調は明褐色である。



### 底部圧痕について（第62図318～339、第63図340～357）

遺構出土の土器底部の圧痕には、網代痕（318～344）、木葉痕（345～354）、笹の葉圧痕（355～357）がある。

網代痕のものは、335・344を除いて四ツ目編みと呼ばれるものである。網目にみられる個々の形状には、318に代表されるものと338に代表されるものでは大きな差異がある。前者の圧痕は楕円形状又は円形を呈し深めであるが、後者のものは方形で浅めである。これは、条の素材及びその加工の程度に大きな違いがあるためだろう。338の群は、樹皮状のもの薄手で、且つその幅を整えた条を用いて編んだものの圧痕であろう。

335は、経の条の一段おきに、別の条を用いて、経と緯の条を絡ませたものであろうか。344は二本超え一本溜り（草間俊一 1974）の編み方のものである。笹の葉痕のものは、数枚の葉を重ねて用いられたものであろう。

### 2. 土製品（第64図1～14、第65図1～9・写真図版60）

遺構外からミニチュア土器、鐙形土製品、土偶、土器円蓋状土製品等が出土している。

#### A ミニチュア土器（第64図1・2）

1は丸底状を、2は平底を呈するもので、底部に体部と別の粘土を接合させつくられる。1は接合部を外面からナデ調整し器面に括れを呈す。内面調整も丁寧である。2は内外に粗い調整を施すが接合部が外面に残るものである。1は焼成良いが2は焼成悪く褐色を呈して脆い。

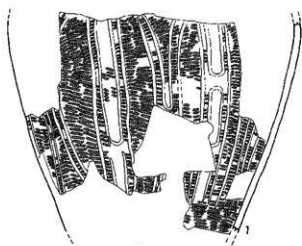
#### B 鐙形土製品（第64図5）

横断面は偏平な楕円形を呈するものである。中央上端に小孔を穿ち、表裏の周縁及び下端の縁に沈線を巡らせ、その中に円形刺突を曲線状または渦巻状に連続施す。内外の調整は丁寧になされている。焼成は良く明褐色である。長さ5.2cm・幅4.5cm・厚さ3.0cmである。

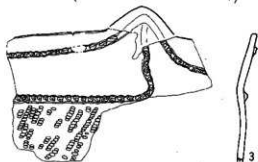
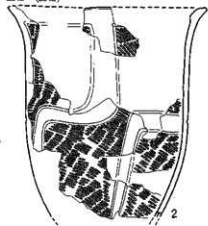
#### C 土偶（第64図7～10・12・14）

7は獣面土偶の一種であろう。長頸で顔面部にあたるカ所には粘土を2本交差させ貼付けし左右に各2ヶの刺突を施す。外面調整、焼成は良好である。8は横位上向きに、VII区III層上位から出土したもので、右脚と右肩部が大きく欠損している。右腕は体部と出土を異にしたが接合されている。下腹部が大きく膨らみ刺突が施されるが、全体のつくりと比較し肩と腕が左右に大きく張り出し、斜傾する顔面が写実風に表現され独特な雰囲気を感じ出している。丸味をもつ顔面には粘土貼付により目、鼻、口が誇張され、唇には刻みが施される。脚と腕には縄文が施文されており、焼成は良く表面調整も良くなされている。

9は人体の胴部を模してつくられたものであろう。腕にあたる部位が欠損している。中心に円孔が貫通しているのみで、表面の調整は粗雑である。10は平坦なつくりの蓋状土偶の胸部で、中央に縦位1列の刺突をもち、乳房は突起状の尖りを呈している。12は土偶左脚と思われるも



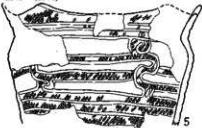
22.2 · (23.2) · -



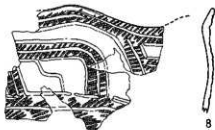
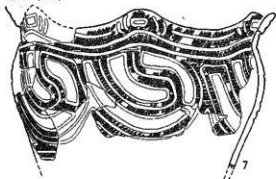
30.3 · (16.7) · -



22.1 · (13.4) · -

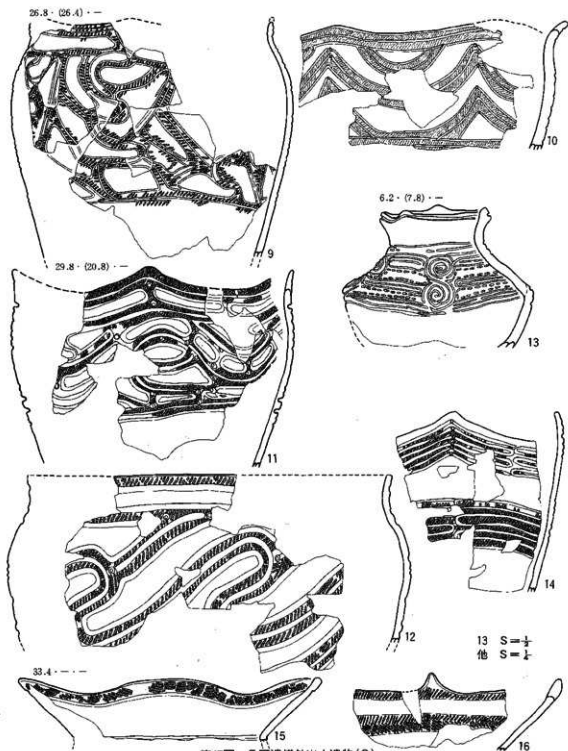


29.8 · (17.5) · -

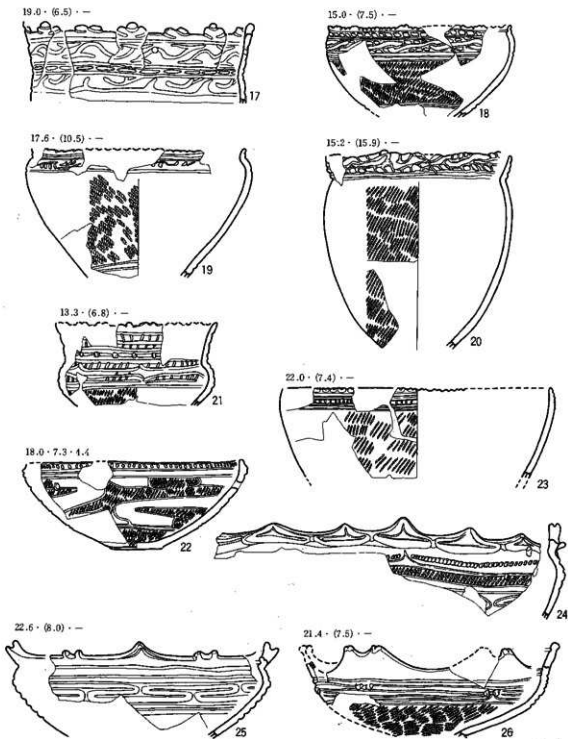


S-1

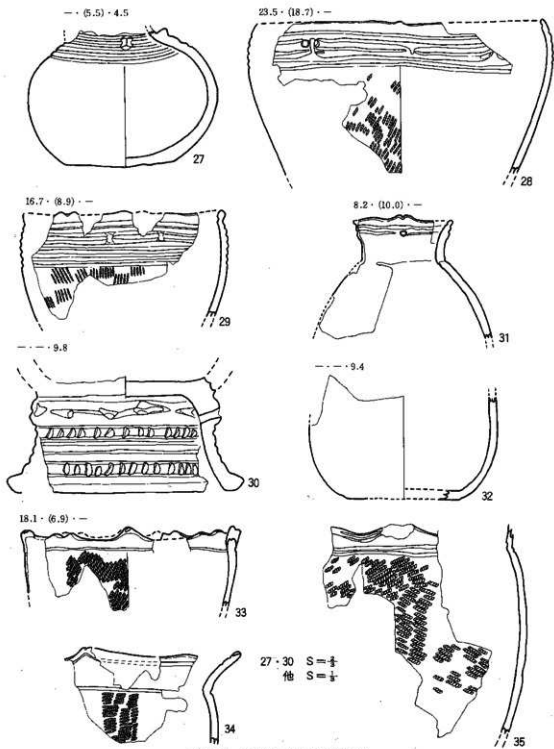
第46图 5区遗構外出土遺物(1)



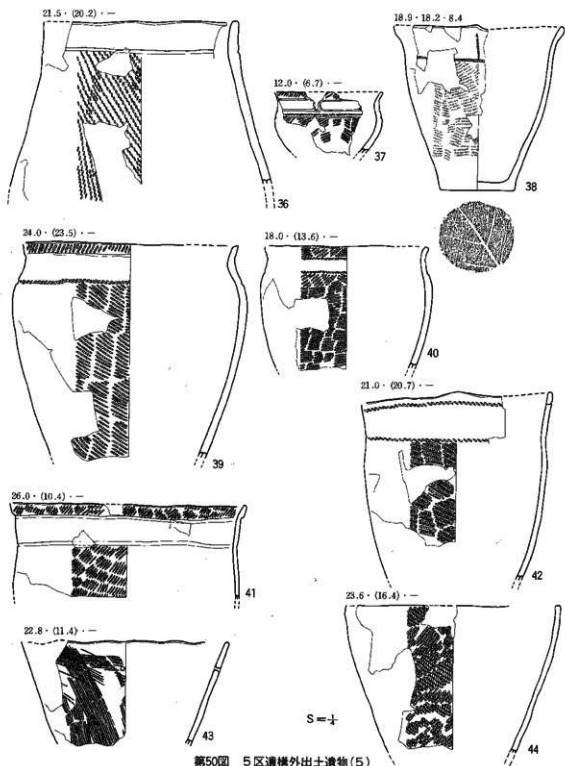
第47图 5区遺構外出土遺物(2)



第48图 5区遺構外出土遺物(3)

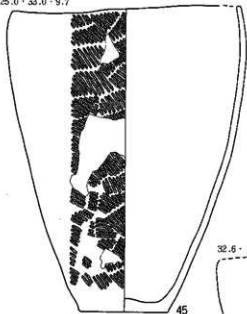


第49图 5区遺構外出土遺物(4)



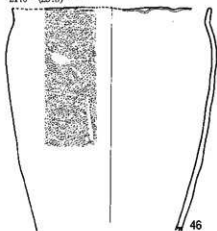
第50图 5区遺構外出土遺物(5)

25.0 · 33.0 · 9.7



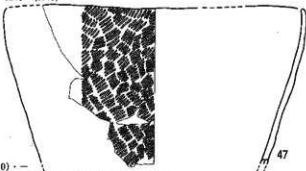
45

21.6 · (25.5) · -



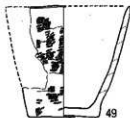
46

32.5 · (17.6) · -



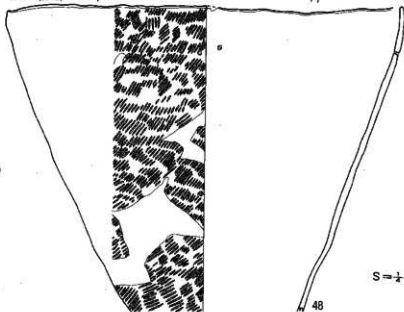
47

13.5 · 12.2 · 7.7



49

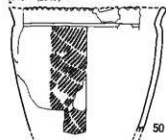
43.4 · (33.0) · -



48

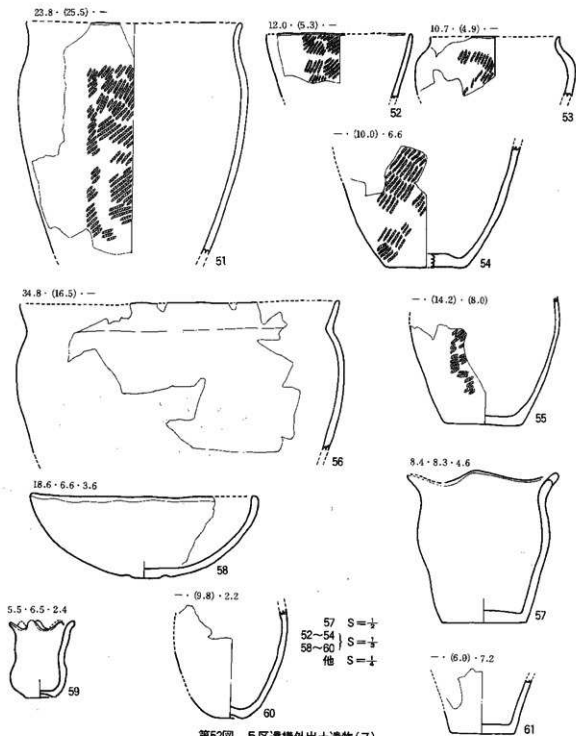
S=1

17.0 · (13.7) · -



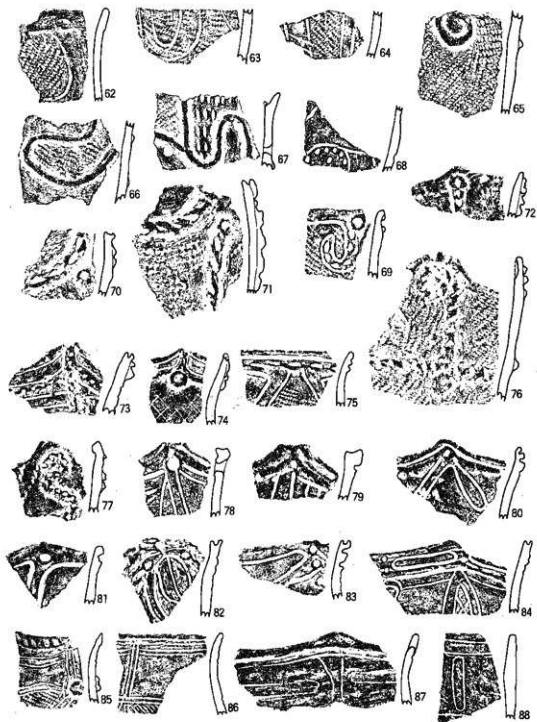
50

第51图 5区遺構外出土遺物(6)



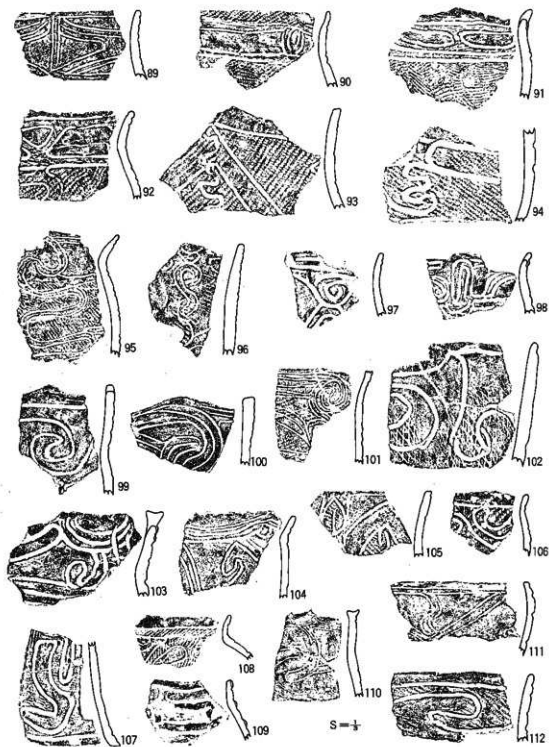
第52图 5区遺構外出土遺物(7)



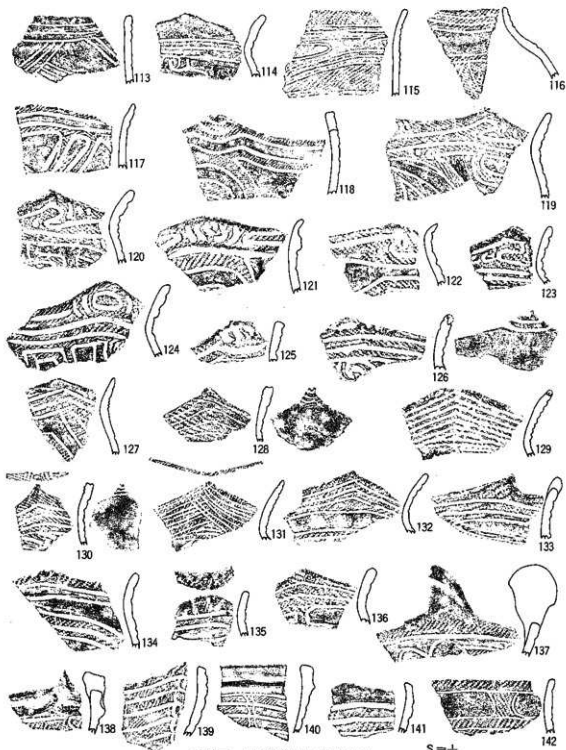


第53图 5区遺構外出土遺物(8)

5-1

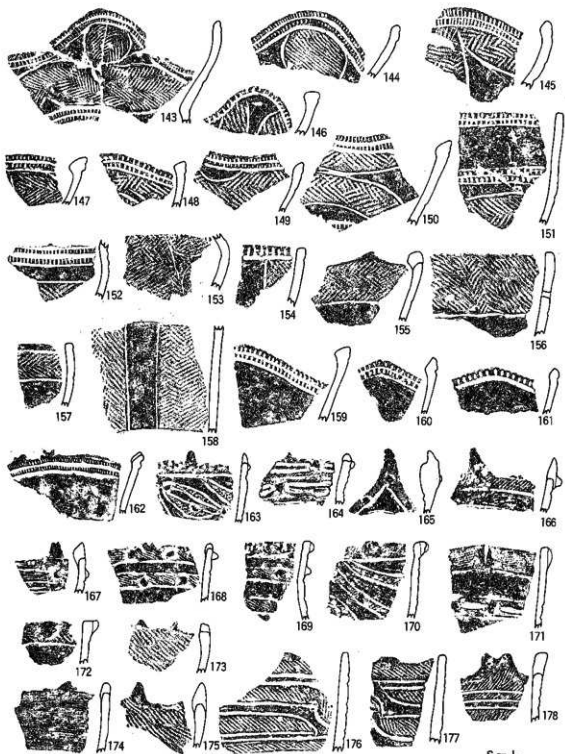


第54图 5区遗物外出土遗物(9)



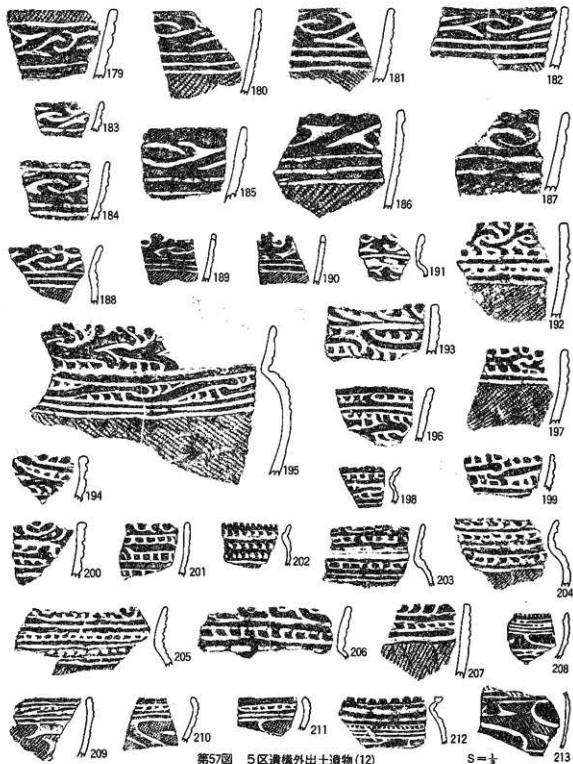
第55图 5区遺構外出土遺物(70)

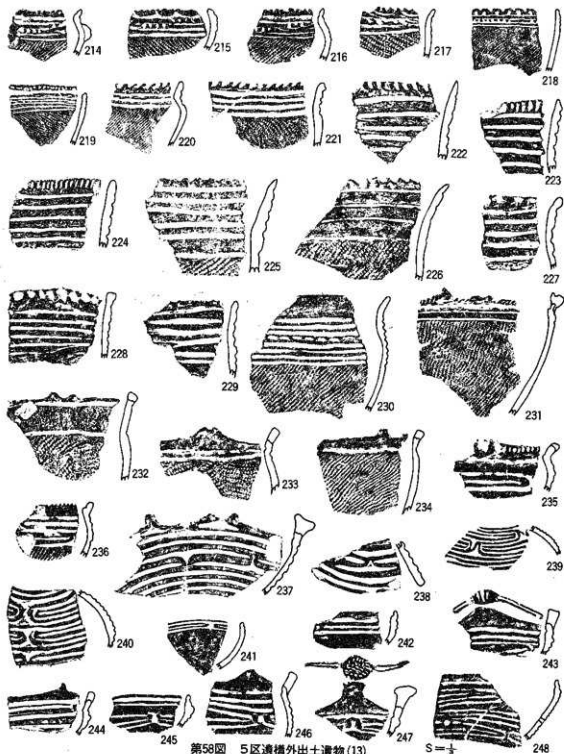
S=十



第56图 5区遺構外出土遺物(11)

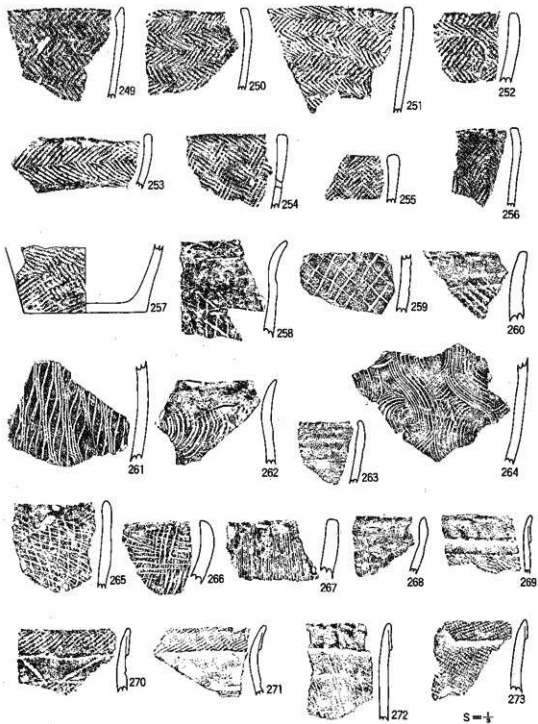
S=土



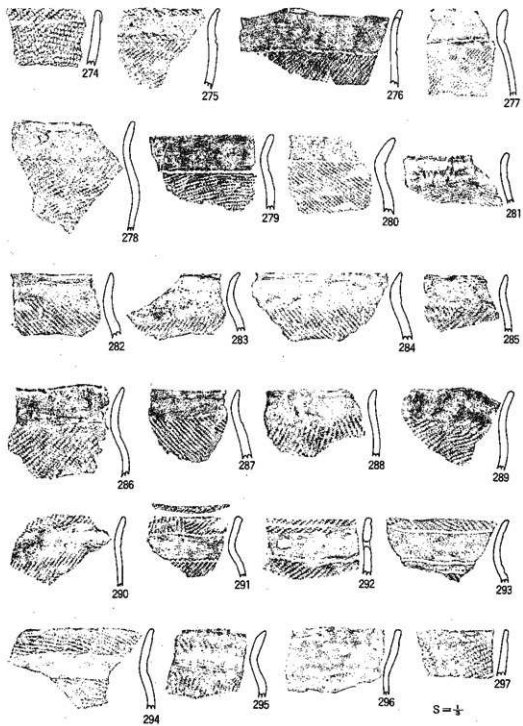


第58图 5区遺構外出土遺物(13)

S =  $\frac{1}{4}$

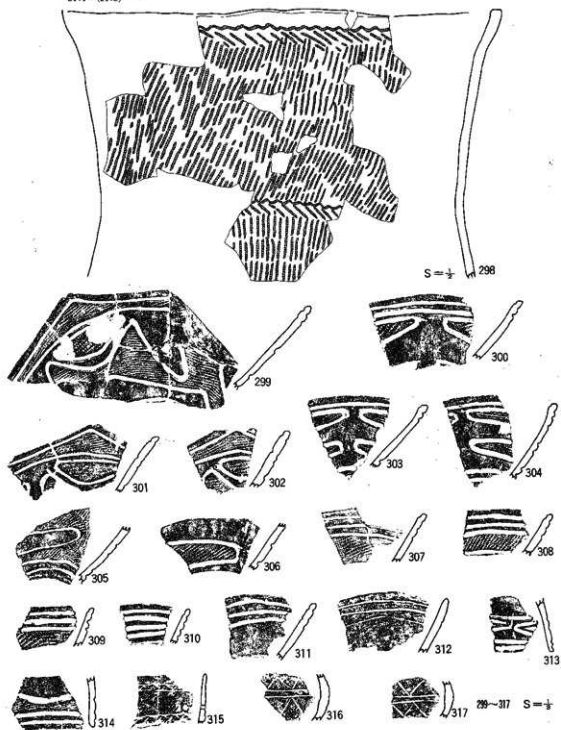


第59图 5区遺構外出土遺物(14)

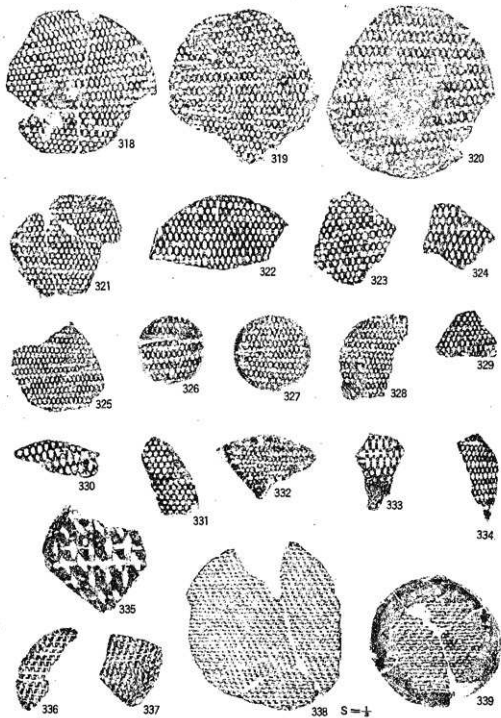


第60图 5区遺構外出土遺物(15)

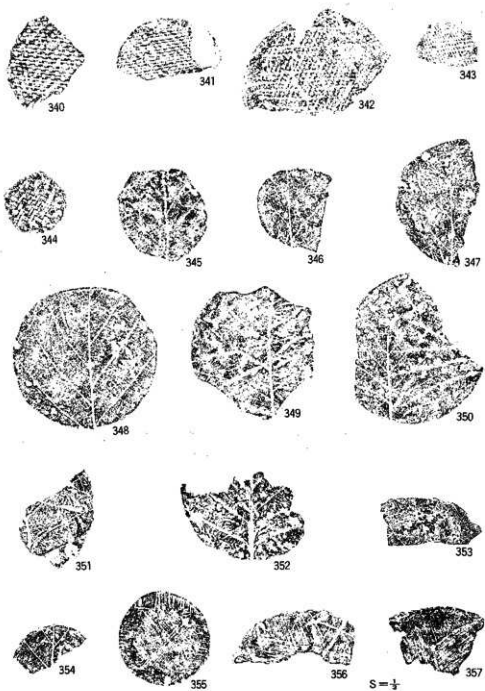




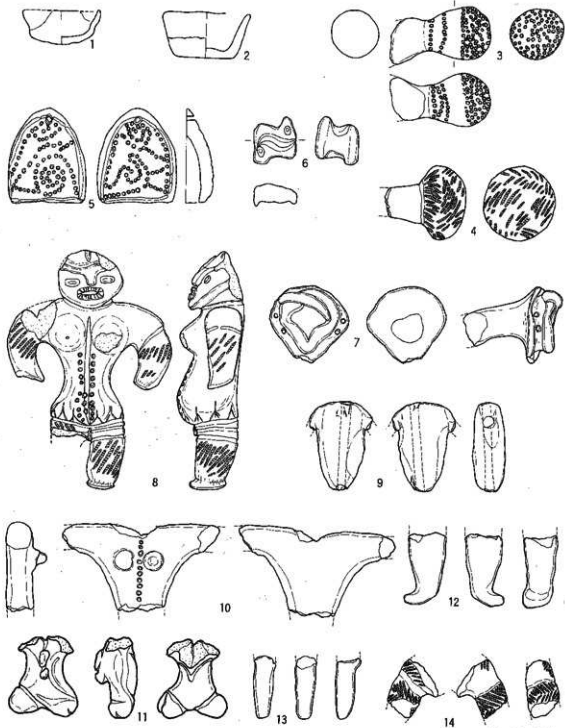
第61图 5区遺構外出土遺物(16)



第62圖 5区遺構外出土遺物(17)

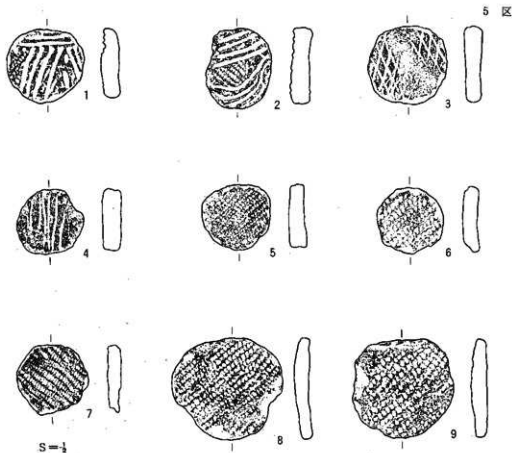


第63图 5区遺構外出土遺物(18)



第64图 5区遣構外出土遺物(19)

11 S=厘米  
他 S=寸



第65図 5区遺構外出土遺物(20)

ので、足のつくりをもつ。14は土偶の肩部であろうか。羽状縄文が施されている。

D その他の土製品 (第64図3・4・6・11・13)

3は楕円体状の場所に小円形刺突が多数施されるもので、肥っ手とも言える形状のものである。4は球体状の膨らみをもつもので、最大径をもつ箇所を境に羽状縄文(RL-LR)が施文される。胎土には石英砂を多く含んでいる。6は中央部に括れを呈し、表面に刺突、沈線文をもつ小形の土製品、11は2個1対状のつくりをもつもので縄文時代晩期の土器の突起の破片であろうか。13は長さ約3cmで剥落痕をもつもので、土器の突起と思われるものである。

E 円盤状土製品 (第65図1～9・写真図版60)

縄文土器破片を人為的に打ち欠いている。形態は円形ないし不整円形を呈し、大きさは1～7が径3.6cm～4.5cm、8と9は径5.5cm前後である。周縁の一部に磨き痕があるのは1・2・4・8・9である。口縁部破片を利用したものは9で、他はすべて体部の破片である。単節の斜縄文LRが多く、1と2は沈線文様、3は網目状撫糸文である。これらの土器は文様などから縄文時代後期に属するものと考えられる。

### 3. 石器

5区の遺構外から出土の石器等は、石鏃17点、石匙16点を含め剥片石器類が221点で、磨製石斧30点を含め礫石器類は91点である。以下器種毎に記述する。

#### I 石鏃 (第66図1～17・写真図版61)

17点の出土である。基部のつくりには各種みられるが、大半は有茎鏃に属するものである。

A 三角形を呈するもの(1) 鏃身の長いもので、側縁は不均等な長さを呈している。周縁からの表面加工調整は丁寧になされ、基部は内湾を呈す。

B 有茎鏃のもの(2～15) 14・15の2点を除き対称形につくられ、側縁は9・10が内湾するが、他は直線的又はわずかに外湾するものである。基部の作り出しは、長めに突出し尖るもの(2・6・8・9・10)、長めに突出し平坦なもの(3・7・14)、短く突出し平坦なもの(4・5)、関節部にわずかに挟りを施し幅のある基部をつくるもの(11・12)、関節部の挟り込が大きく内湾状を呈し、短く突出した基部をつくるもの(13)など多様である。

C 尖基鏃のもの(16・17) 形態は錐状に長めにつくられるもので、16は尖頭が丸味を呈し、全体の形状は棒状を呈するものである。17は尖頭が鋭く尖り、断面は菱形状を呈するものである。

#### II 石匙 (第66図18～28、第67図29～33・写真図版61・62)

縦形のもの11点、横形のもの5点の出土である。

A 縦形のもの(18～28) 形状及び刃部のつくり出しも様々であるが、握みを中心として、左右が対称形に近いものA<sub>1</sub>、非対称形のものA<sub>2</sub>の2種に区分した。

A<sub>1</sub> 左右が対称形に近いもの(19～21・26～28) 形状は木葉状のもの、三角形状のもの、円及び楕円形状のものがある。刃部の加工調整は2側縁の表面から施し尖った先端をつくるもの(19～21)と、周縁から片面加工調整により丸味をもつ刃部をつくるもの(26～28)とがある。19・20は中央部に厚みあるもので、21に比べ刃部角が大きい。19は足の長い剝離が中央部に達し、表面の全面が加工調整される。26～28は周縁から片面加工調整され、刃部角が70～80度と大きく、掻器としての機能を持つものである。握みには挟入するほどの加工は施されず、柄に挿着したものであろうか。

A<sub>2</sub> 左右非対称形のもの(18・22～25) 形状は長方形のもの、木葉状のもの、糸瓜状に長いものなどであり、刃部の加工調整は一側縁に施されるもの(22)、2側縁に施されるもの(23・24)、周縁に施されるもの(18・25)がある。

18は薄手の縦長剥片の表面から細かい剝離加工調整を行い、周縁に刃部をつくるもの、22は片面加工調整により凸刃状につくるもの、23・24は先端部まで加工調整され尖頭刃状につくる

ものである。

25は片面の加工調整により先端に丸味を呈するものである。

B 横形のもの(29~33) 握みのつくり出す位置により、B<sub>1</sub>とB<sub>2</sub>の2種に区分した。

B<sub>1</sub> つまみをほぼ中央部につくるもの(29~32) 29は台形状を呈し、周縁から表面加工調整により鋭利な刃部をつくるものである。30は表裏の加工調整により尖った握みをつくり出し、刃部は凸刃状につくるもの、31は石質が玉髓のもので、表裏加工で凸刃状の刃部をつくるものである。32は半製品とも思えるもので、握みを僅かにつくり出し、鋭利な側縁に調整を局部的に施すだけのものである。中央に摩滅や刃こぼれ状の痕跡をもつが、使用頻度の高いことによるものとは思われない。

B<sub>2</sub> つまみが一方に片寄ってつくるもの(33) 握みがわずかに片寄ってつくり、表裏加工調整により鋭い先端をもつ尖頭刃状のものである。

### III 石錐(第67図34~41・写真図版62)

34・35が棒状錐、36~38は基部をもつ石錐、39~41は先端を尖らせ刃部とするものである。

### IV 尖頭石器(第67図42~50・写真図版62)

2側縁または周縁に加工が施され、尖頭状の先端をつくるもので石鏃や搔削器類に分類されないものを一括した。周縁から加工調整され楕円形状、三角形状につくり出されたもの(42~44・49)、2側縁から加工され鋭い先端をつくるもの(45~48)などがある。45・50は欠損品と思われる。

### V 搔削器類(第67図51・52、第68図、第69図、第70図・写真図版62・63)

搔器、削器等を一括し搔削器類とした。鋭利な側縁に連続調整加工が施されるものも、一部含まれる。刃部の形状等によりA~Eの5種に区分した。

A 直刃状のもの(51~59・63) 縦長状削片の平行する側縁の1辺に刃部をつくるもの、直線状の側縁に刃部をつくるものがある。55・56は裏面に刃部加工するもの、53・54は自然面をもつ薄手の削片の1辺に微細加工調整が施された削器である。

B 横刃状のもの(60~62・64) 横長削片の1辺に刃部をつくるもので、押圧剝離は浅く形状を整える程の加工はみられない。

C 曲刃状のもの(65~76) 刃部の形状が曲線状のものであり、刃部が外湾するもの、内湾するものがある。加工調整は、表裏から施されるもの(65・67)、裏面からのもの(68・72・73)があり、75・76は内湾する側縁の表面に加工調整を施し刃部角を大きめにつくり出す。

D 複刃状のもの(77~90) 平行する側縁に加工するもの、周縁から加工するもの、隣り

あう2辺に加工するものがある。77の1側縁には微細加工調整が施され、80・88の打点の対辺にはやや粗めの加工がなされる。84は周縁から表面に丁寧な加工調整がなされるもので、2辺は刃部角が大きく1辺は30度位と鋭利になる。

**E 尖頭刃状のもの (91~96)** 2側縁に刃部加工し、尖頭状の先端をつくるものである。

93は厚みのある剥片の表面に周縁から加工調整するもの、91・94~96は先端に加工調整が施されるもの、92は表面及び裏面から刃部加工されるものである。

#### **VI 鋸歯状石器 (第71図97・98・写真図版63)**

97は形態からすると、半円状打製石器に属するものであろう。打撃加工により直刃状に粗く且つ鋭い鋸歯状の刃部をつくり出している。98は2辺の裏面に粗い押圧剝離加工により鋸歯状の刃部をつくるものである。

#### **VII 石ペラ状石器 (第71図99~101・写真図版63)**

形状がヘラ状のもので、三角形または長方形で先端に刃部をつくるもの (99・100)、楕円形状で先端を含む側縁に加工調整を施しわずか尖らせるもの (101) である。

#### **VIII 不定形石器 (第71図102~112、第72~76図、第77図201~216・写真図版63・64~66)**

加工調整が局部的に施されるもの、使用痕をもつもの、搔削器の欠損品、小剥片のものなど一括した。局所の加工及び使用痕は、剥片の鋭利な側縁にもつものが大半で、削器としての機能をもつものであろう。112は挟入部をもち2個の鋭い尖り出しをもつもの、124・151・187・212は錐状の尖り出しをつくるもの、126・149・162には先端側縁には搔器的な刃部角の大きなくくり出しをもつ。

196~202は周縁または側縁から加工調整を施し方形、楕円形状に整えるもので、搔器、小形石ペラ状石器、楔形石器等に分類されるものもあろうと思われる。

#### **IX 石核、石核石器 (第77図217~220・写真図版66)**

217は母岩、219・220は石核、218は石核の稜部に連続打撃痕をもつものである。

#### **X 異形石器 (第77図221・写真図版66)**

珪質泥岩を素材とするもので、周縁から表裏に丁寧な加工調整がなされ左右対称につくられる。左右の一端が斜方に突出し中央部は括れを呈すものである。計測値は、長さ1.5cm・幅2.1cm・厚さ0.3cm・重さ0.6gである。



## X I 小形磨製石斧 (第78図1~4・写真図版67)

石づめ様の小形の磨製石斧である。1~3は長さが3.2~5.3cmで両面及び側面が丁寧に研磨され側面に稜を造り出す。1・3は側縁がほぼ直線的に開き刃部が広がるもの、2は側縁が外湾し、中央幅より刃部が狭くなるものである。刃部の形状は1・2が平刃状を、3は曲刃状を呈す。

## X II 磨製石斧 (第78図5~15・第79図16~30、写真図版67)

欠損しているものが多く、且つ基部上端に敲打痕をもつもの、磨石として転用されたものがある。7・8・30は局部磨製のもの、9~20・28は刃部を欠損するもの、21~27・29は基部を欠損するものであり、28・29は磨石転用のものである。大半のものは側面に明瞭な稜の造り出しをもつが、表裏の研磨により僅かに造られるもの(7・8)、棒状を呈し稜が造られないもの(16・30)がある。刃部の形状は、27がやや平刃状を呈するが、他は円刃状又は曲刃状の丸味をもつ。基部の形状には、平坦なもの(5・6・9・10)、丸味をもつもの(7・8・11・12・14・15)、尖るもの(13・16~20・28)がある。

## X III 打製石斧 (第80図31~33・写真図版67)

3点はいずれも欠損品であり、断面が楕円形を呈する棒状のもの(31)、又はそれに類する肉厚な断面をもつものである。31は基部上端に敲打痕をもつもの、32は基部が尖るもの、33は蛤状の断面をもつ曲刃状の刃部をもつものである。

## X IV 石鈹状石器 (第80図34・写真図版68)

打撃加工によって造られた鈹状の石器である。左右がほぼ対称で、上半中央に方形の基部をもち、刃部は半円状に造られる。刃部先端には加撃によると思われる大きな剥落がある。石質は石刀等にみられる淡緑色凝灰質千枚岩である。重量は約430gである。

## X V 凹石 (第80図35~39、第81図40~43・写真図版68)

凹石としての機能以外に磨石、敲石としての機能をもつもの(40~42)がある。35~37・42は破損品である。自然礫が用いられるので形状は種々異なるが、偏平楕円形のもの、棒状のもの、厚みある不整楕円状のものなどに分けられようか。凹みは一面又は両面に、多数の打痕の複合によってつくられ、摺鉢状、浅皿状を呈し、1個もつもの、数個が連なるもの又は数個が隣りあい広がり呈するものがある。偏平楕円形状の38・39は整形のためと思われる研磨痕、擦痕をもつ。35~39・43は表裏に凹みをもつもの、40~42は一面に凹みを、他面に磨面をもち41はさらに一端に敲打痕をもつものである。40・42・43は石質が両峰石安岩山熔岩である。

#### XVI 磨石類 (第81図44~49、第82図、第83図64~68・写真図版68・69)

磨面または擦痕面をもつものを一括したもので、他に凹み、打痕をもつものが多い。44~47・49~54は全体に丸味をもつ円盤状、扁平楕円体状及び球体状のもので、47を除き磨面の滑らかさに差はあるが全面に磨面をもつものである。46は片面に、49は側面に強い磨面があり、53は中央部に浅い凹みをもつ。47は2面にのみ磨面をもつものである。48はほぼ全面に磨面をもつ角柱状のもので一面の中央に凹み、一端には打痕をもつ。55~62は破損品も含まれるが、棒状のもので片面又は両面に磨面及び打痕をもつものであり、55・57は上下の両端にも打痕がある。64~66は断面が三角形の稜の1~2側縁に擦痕をもつもので、65は上端と下端に打痕をもつ。63・67・68は扁平な礫の表裏に磨面をもつ。

#### XVII 石刀 (第83図70~72・写真図版69)

70・71は破損品である。69は表裏及び柄の部分は擦り出しによって加工されているが、強く自然の形状を残すものである。71も表裏面に加工が施されるが造りは粗雑である。70は全面に擦り出しの加工がなされ、薄手に且つ反り身に造られる。

#### XVIII 石皿 (第84図73~81、第85図82~89・写真図版70)

完形のもの1点で、他は全て欠損品、破片である。大きくは、周縁部を調整し形を整えるもの(73・74・75・81・84・88)と自然礫をそのまま使用するものがあり、周縁を整形するものは縁の造り出しをするものが多い。面の使用は、片面と両面がある。73は方形の造りをもち表面に数個の凹みをもつもの、83は表面に数条の抉り及び側面に半円状の抉りをもつものである。84は完形品で形状は三角形を呈し、表裏の別なく同程度の頻度で使用され大きく湾曲している。一面に浅い溝状の凹みをもっている。石質は軟らかい白色細粒凝灰岩である。

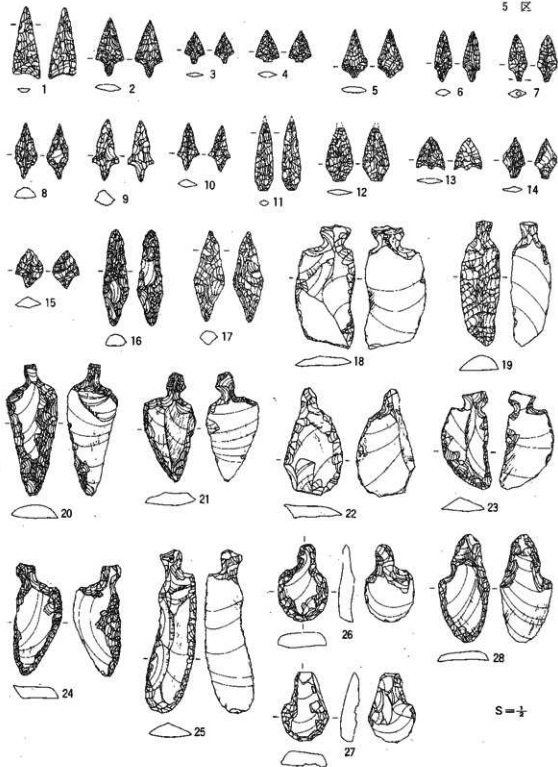
#### XIX 砥石 (第85図90・91・写真図版70)

多面使用のものである。90は3面を使用面とするもので、磨面及び細い溝状の痕跡を多くもつもので石質は閃輝石安山岩熔岩である。91は表裏と両側面を使用するもので、使用面は大きく内湾を呈している。石質は砂質凝灰岩である。

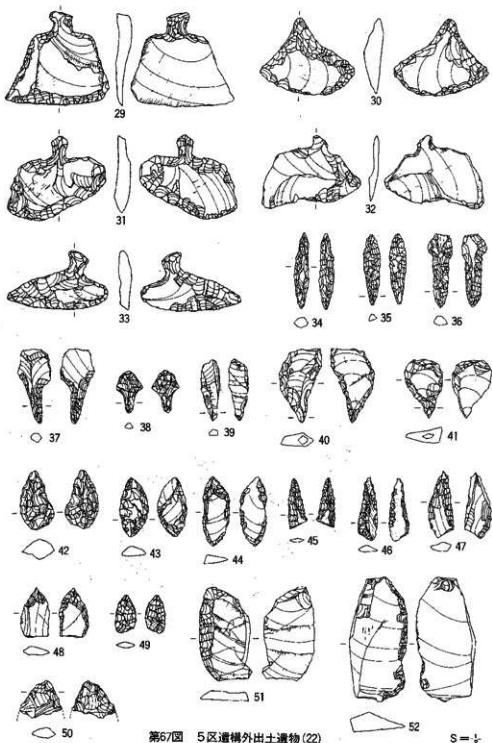
#### 4. 石製品 (第83図72・写真図版69)

遺構外から小円盤状のもの1点の出土である。表裏及び周辺側面に擦り出しによって調整されているもので、石質は角閃石英安山岩質浮石で、計測値は径4.3cm×3.7cm×幅1.0cm・重さ3.7gである。

5 区



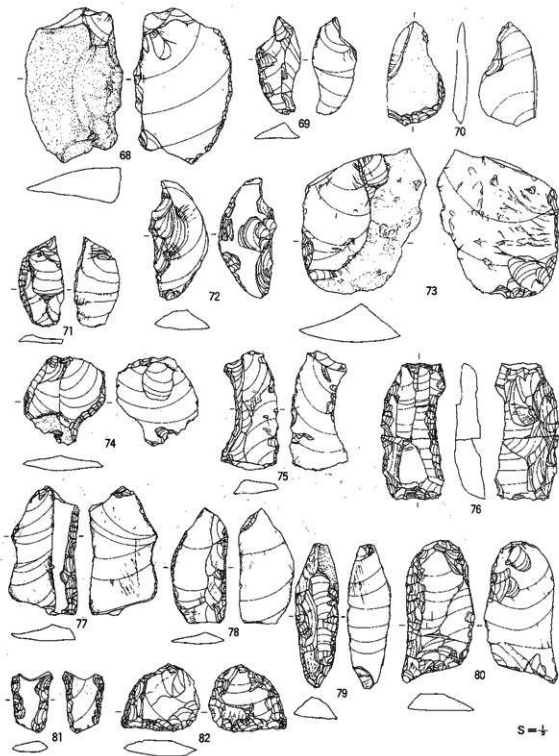
第66图 5区遺構外出土遺物(21)



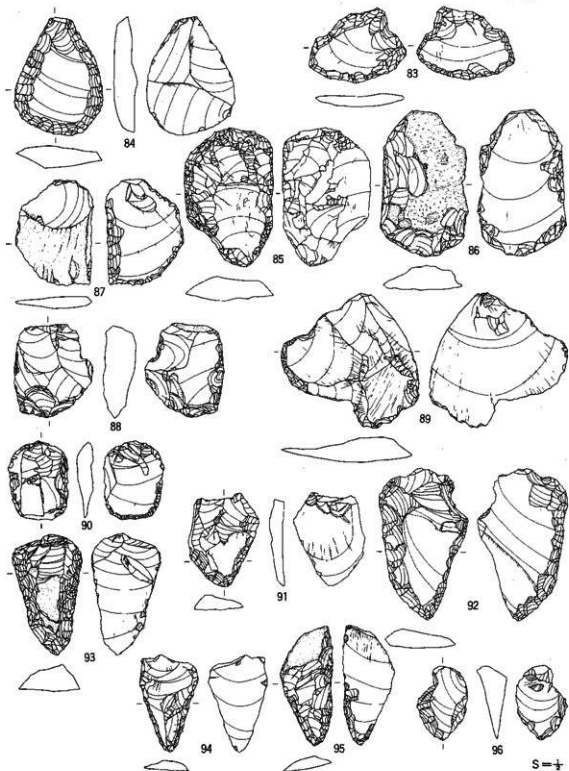
第67图 5区遺構外出土遺物(22)



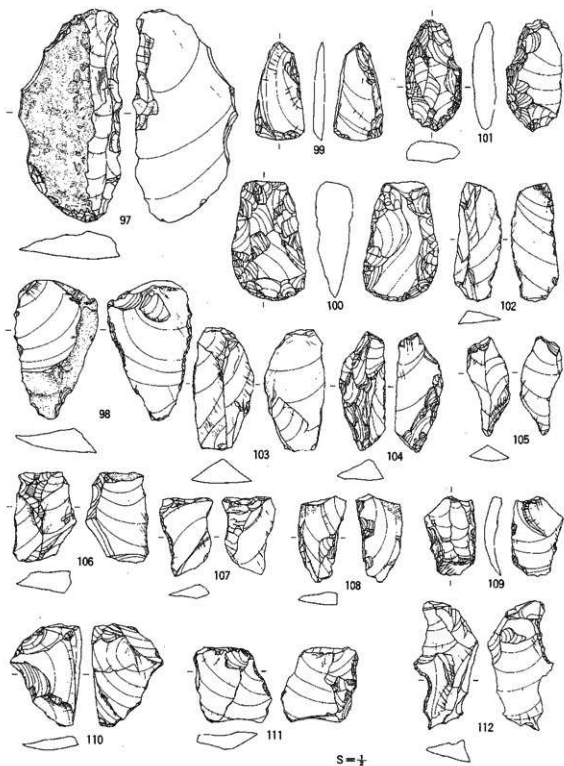
第68图 5区遺構外出土遺物(23)



第69图 5区遺構外出土遺物(24)

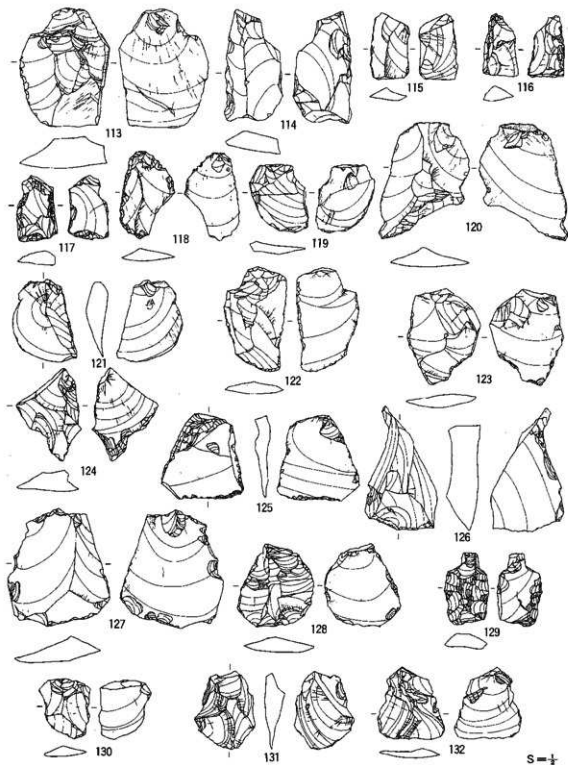


第70图 5区遺構外出土遺物(25)

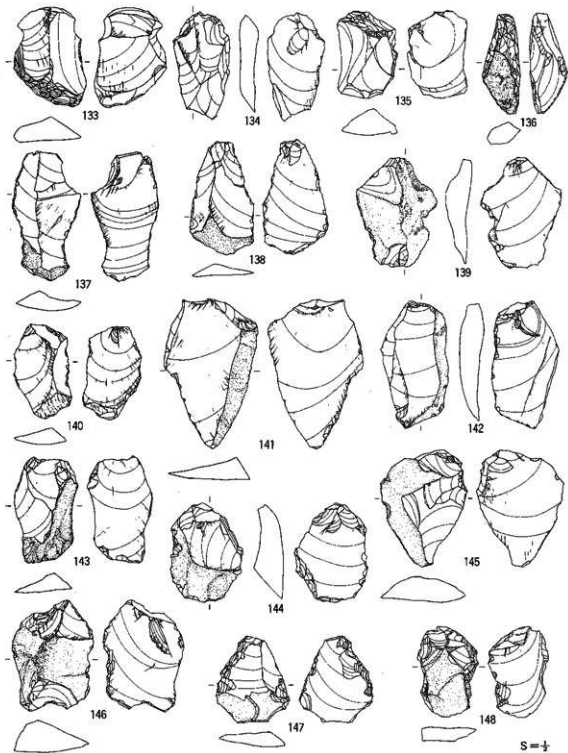


第71图 5区遺構外出土遺物(26)



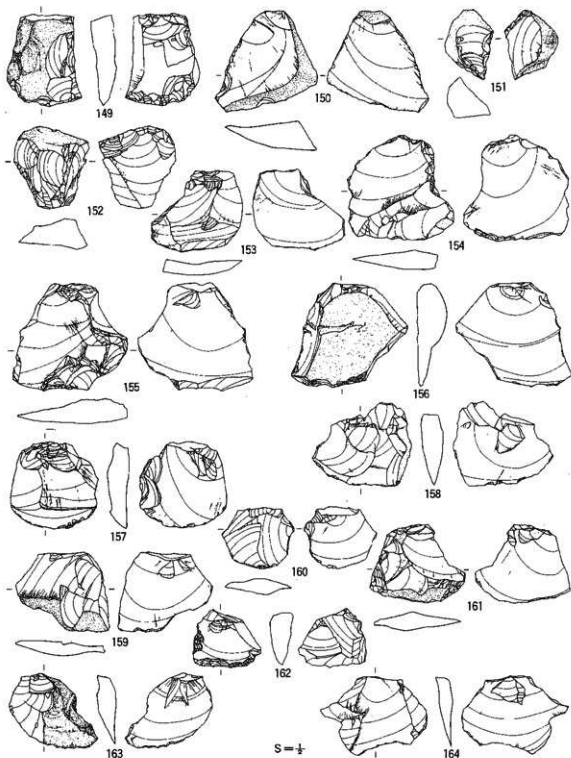


第72图 5区遺構外出土遺物(27)

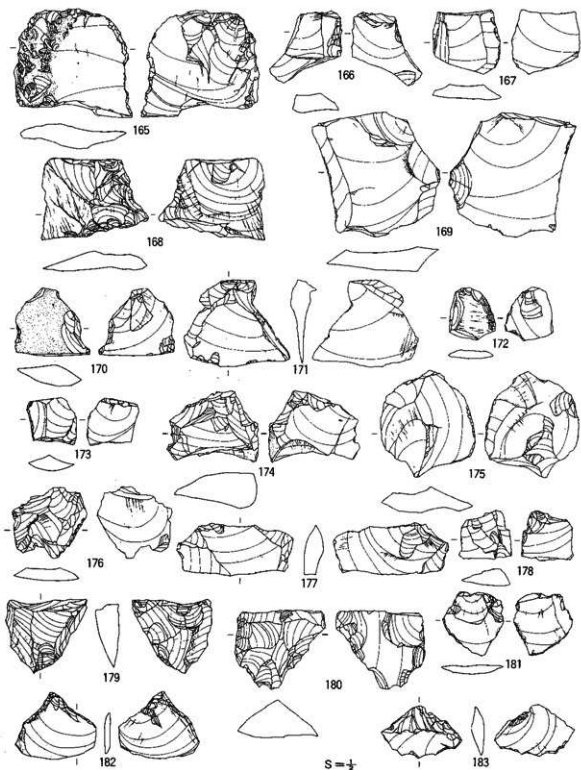


S=1

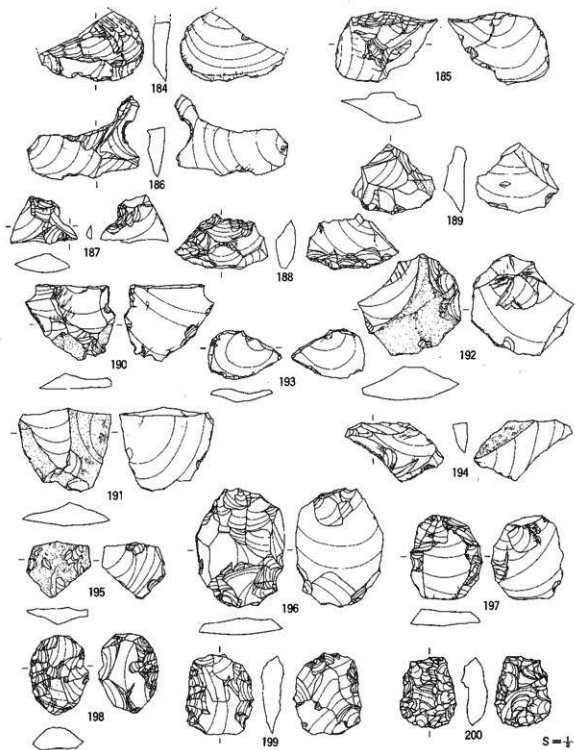
第73图 5区遺構外出土遺物(28)



第74图 5区遺構外出土遺物(29)

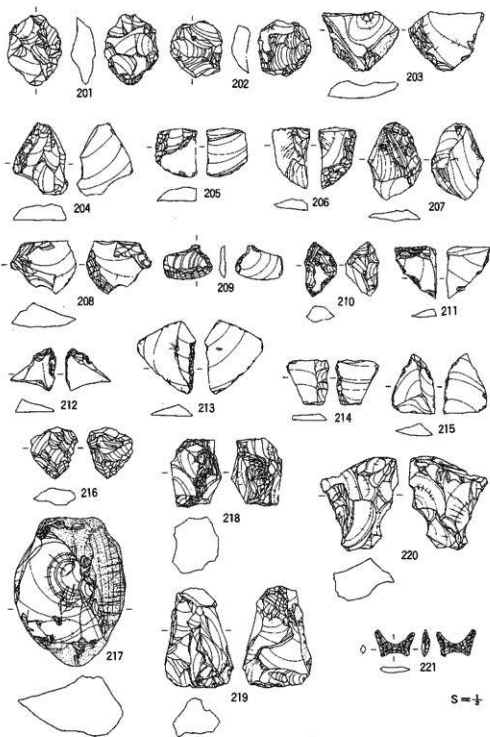


第75图 5区遗構外出土遺物(30)

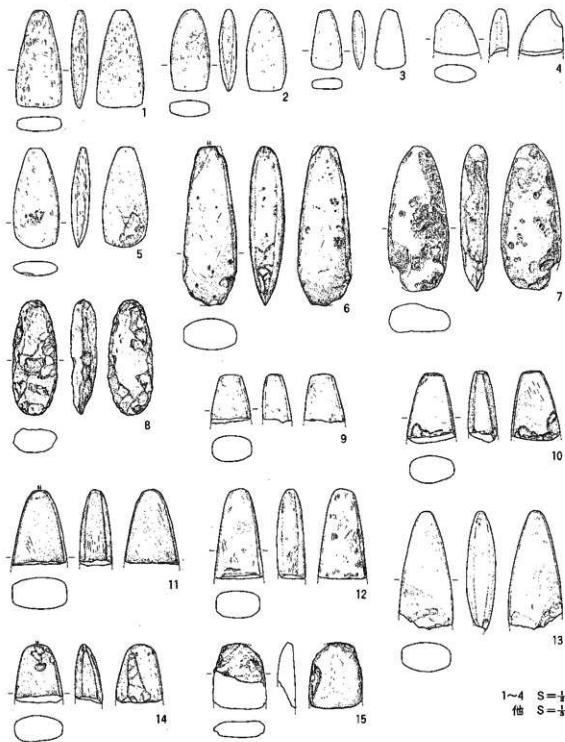


第76图 5区遺構外出土遺物(31)

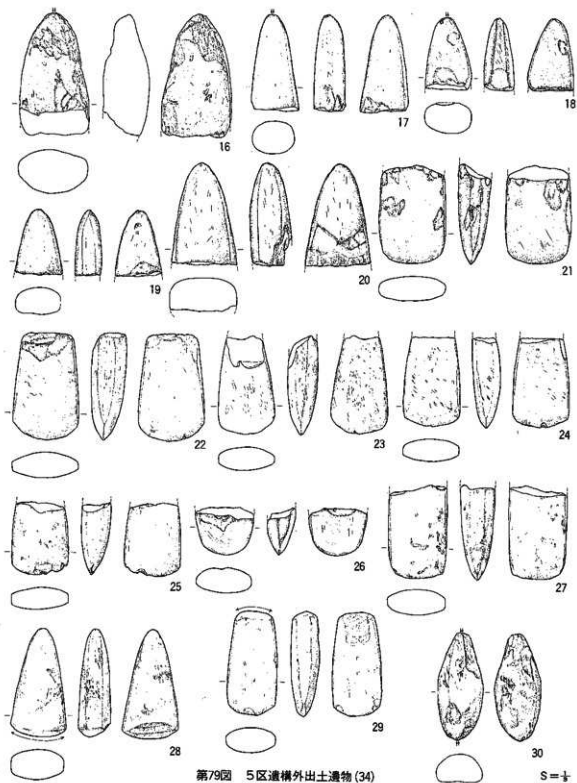
S-1



第77图 5区遺構外出土遺物(32)



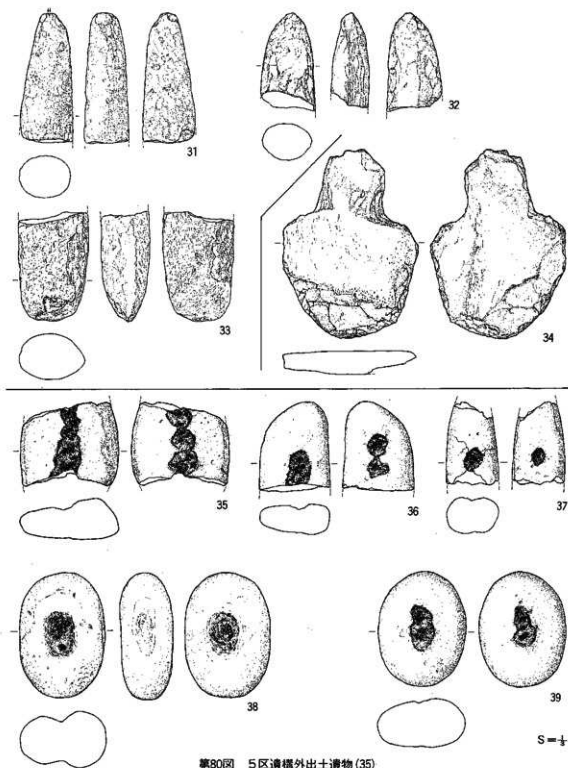
第78図 5区遺構外出土遺物(33)



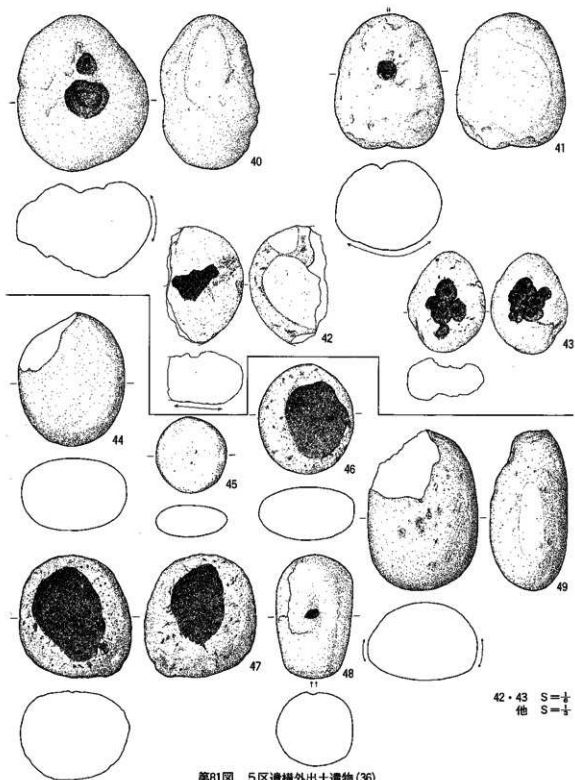
第79图 5区遺構外出土遺物(34)

S=1

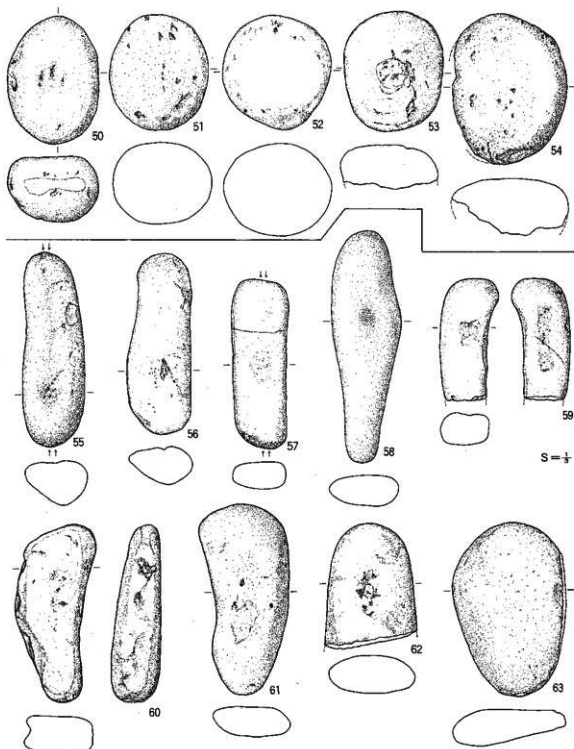




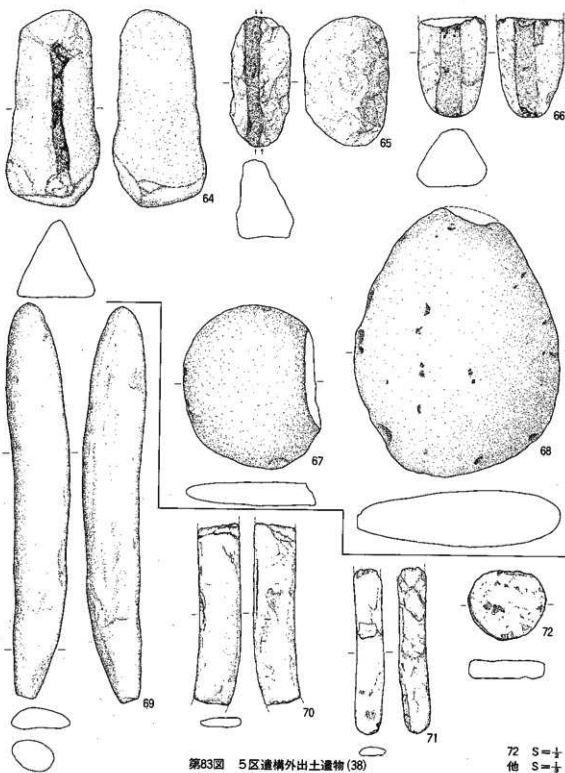
第80图 5区遺構外出土遺物(35)



第81图 5区遗址外出土遗物(36)

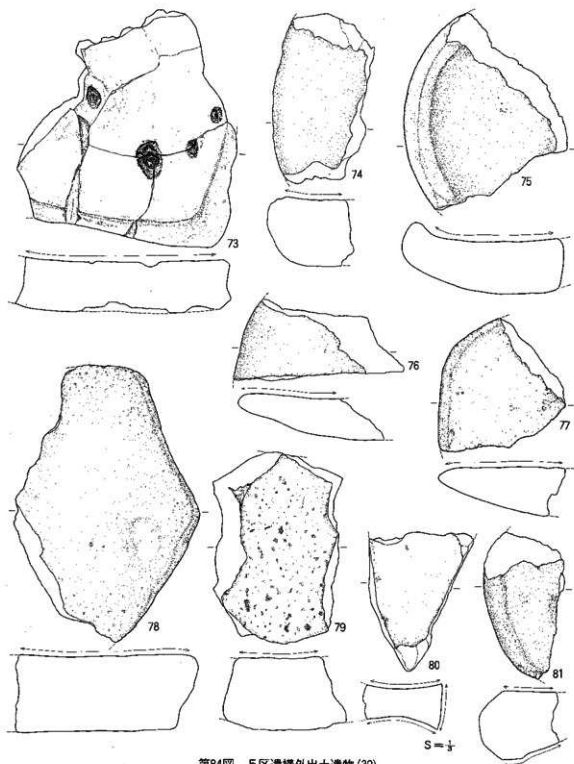


第82图 5区遺構外出土遺物(37)

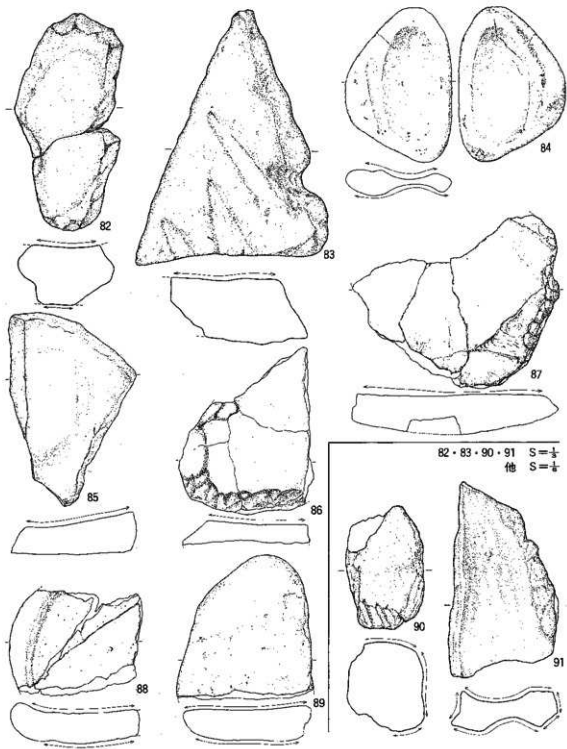


第83圖 5区遺構外出土遺物(38)

72 S=十  
他 S=十



第84图 5区遗物外出土遗物(39)



第85图 5区遺構外出土遺物(40)

## IV. ま と め

## 1. 遺 構

## (1) 縄文時代竪穴住居址

5区では23棟の竪穴住居址が検出されており、これらは縄文時代後期・晩期のものである。3区に寄った西側地域に8棟、中央部に8棟、東側の地域に7棟が位置している。このうち、縄文時代晩期に位置づけられるもの7棟、縄文時代後期に位置づけられるもの14棟である。ここでは時期の判明するものについて、時期ごとにその特徴を簡単にまとめることとする。

## 縄文時代後期住居址

14棟のうち、後期前葉に位置づけられるもの6棟 (VII Mb-2・VII Mc・VII Md-2・VII Mg・VII Na-1・VII Ne-1)、中葉に位置づけられるもの4棟 (VII Lc-3・VII Lf・VII Mb-1・VII Mf-1)、後葉に位置づけられるもの2棟 (VII Le-2・VII Me)、前葉～中葉に位置づけられるもの2棟 (VI Mn・VII Mf-2) である。このうち8棟が調査区中央部に位置する。

形態・規模 楕円形を呈するものも一部存在するが、多くは円形を呈し、床面規模が径5.5m程度のもの3棟、径3m以下のもの1棟で他は径3.4～4.2mの範囲に含まれるもので、小形のものが多い。

柱穴 柱穴及び柱穴状小ピットが検出されたもの8棟で他は検出されていない。8棟のうち柱穴配置がほぼ明らかなものは3棟 (VII Mb-2・VII Na-1・VII Ne-1) で、他は不明である。VII Mb-2住は小形の住居址で、北側の壁沿いに3基、南壁近くに2基が配置される構築、VII Na-1住は壁沿いに配置され、五角形状の主柱穴配置の構築であろう。VII Ne-1住は壁沿いに4基配置されるものであろう。

炉 地床炉をもつもの7棟、数個の礫が配置されるもの(配石炉)4棟、石囲炉3棟である。これらの炉は、住居址の中央に位置するものが少なく、傾向として南側又は南東側に片寄って構築されるものが多い。一部にはVII Lc-3住のように西側に寄るもの、VII Le-2住のように東方に片寄った構築もみられる。VII Ne-1住では地床炉が2基検出されている。

## 縄文時代晩期住居址

検出された7棟は晩期中葉から後葉に位置づけられるものである。これら7棟のうち、西側地域に位置するものが5棟 (VII Lc-1・VII Lc-2・VII Le-1・VII Ld・VII Lg)、東側に位置するもの2棟 (VII Md-1・VII Ne-2) である。西地域での偏在がみられるが5区そのものが沢に面した狭い区画であり、東側と西側とで地形的に大きな差異はない。

縄文後期住居址と重複するもの3棟 (VII Le-1・VII Md-1・VII Ne-2)、拡張関係にあるもの2棟 (VII Lc-1・VII Lc-2) である。

**埋土** 埋土上部に十和田a降下火山灰と鑑定されている淡黄色の火山灰が5～10cmの厚さで堆積していたもの3棟(VII Lc-1・c-2、VII Le-1)である。

**形態・規模** 拡張したVII Lc-1住は径6m程の不整楕円形を呈すが、他のものはほぼ円形を呈し、径5m位のもの(VII Le-1)、径4m位のもの(VII Md-1)、径3m位と小形のもの(VII Ld)があり、縄文後期の住居址との差異は特に認められない。

**柱穴** VII Lc-1住では16基の柱穴状ピットが検出されているが主柱穴配置は明確でない。

**炉** 住居址のほぼ中央に位置し、円形石囲炉をもつもの4棟、石囲炉は外径60cm規模のもの、90cm規模のものがある。

## (2) 弥生時代竪穴住居址

調査区西側の南端部で一棟(VII Lk住)検出されている。平面形は円形で、3区の住居址と比較し規模は径3.9mと小形である。埋土上部に十和田a火山灰が、隅丸方形の広がりを呈し断面ではレンズ状に堆積し最大20cmの層厚があった。主柱穴は4基で炉を中心として台形状に配置されている。炉は遺構のほぼ中央にあり「こ」の字状に礎が埋置され、中央に土器が埋設されている。住居址の時期は出土遺構から判断し弥生時代前葉と考えられる。

## (3) 炉址・焼土遺構

5区では炉址が1基、焼土遺構19基の計20基が検出されている。地域別では西側地域で5基、残り15基は全て中央部の西寄り及び南寄りに位置している。炉址(VII Lg)は、外径約30cmと小形のもので、円形に礎が埋置される。炉の内外からは焼土は検出されていない。

焼土遺構は径20cm程度のものから径1.2m程の広がりを持つものなど、広がりや程度及び形状は様々であり、それに伴い焼成の度合いにも種々みられる。

遺構に伴い遺物が出土しているものは8基あるが、縄文粗製土器や石器等であり、所属時期を明確にし得るものではない。周辺の遺物の出土からみると、中央部のグリットVII Mに位置する遺構は縄文時代後期に位置づけられると思われる。

焼土遺構には礎が配置されるものも(VII Mj)があるが、柱穴、ピット等の付随する施設は検出されていない。

## (4) ピット

中央部の南寄りに位置し1基検出されている。開口部3.7m×2.9mの楕円形を呈するものである。底面からの遺物の出土はなく所属する時期は不明である。



### (5) 埋設土器

西側の東端部から検出されている。粗製の深鉢を正立斜位に据えてあり、口縁部は東側を指している。土器外面の一部には煤の付着が認められる。土器は周辺の縄文時代後期に属する住居址から出土したものと胎土、焼成などが近似することから後期に属するものと思われる。

## 2. 遺物

### (1) 土器

5区の遺構内外出土の土器は、縄文土器、弥生土器である。これらについて、概略を以下に記述する。

#### 縄文土器

縄文土器では、中期・後期・晩期のものが出土している。これらの土器の分類と、比定されるまたは併行関係にあると思われる土器型式についてまとめると、以下のとおりであろう。

第Ⅲ群土器は縄文時代中期の土器であり1・2類は大木9式、大木10式に比定されるであろう。

第Ⅳ群土器は縄文時代後期の土器であり1～6類は門前式、堀之内Ⅰ・Ⅱ式、十腰内Ⅰ式等に併行するもの、7類は加曾利ⅡB式に比定されるものであろう。8類の羽状縄文及び刻み列をもつ土器は十腰内Ⅱ～Ⅳ式と相当の時期幅、形式幅をもつものと思われ細分はされた。9類は十腰内Ⅴ式、10類は十腰内Ⅵ式、宮戸Ⅲb式に比定されるものであろう。

第Ⅴ群土器は縄文時代晩期の土器で、1類は大洞B式に、2類は大洞B-C式に比定され、3類は大洞C<sub>1</sub>式に、4類は大洞C<sub>2</sub>式に比定されるであろう。5類は大洞A'・A式に属するものを一括した。

#### 弥生土器

第Ⅶ群土器は弥生式土器で、出土点数は少ないが、前葉のものと後葉のものがみられる。

1類A～Cは前葉の八起島式に、2類・3類は後葉の天王山式に比定されるものであろう。

### (2) 土製品

土製品は、遺構内から鐔形土製品1点、遺構外から中空土偶6点、円盤状土製品9点を含め計23点の出土である。これらのものは大半が縄文時代後期に属すると思われるが、共伴する土器が明確にされず所属時期の不明なものが多い。

### (3) 石器

5区から出土した石器等は、遺構内から出土したものは201点、遺構外から出土したものは311

点の合計512点を図化した。石器組成(器種分類)は遺構内、遺構外での差異は特に認められない。全体に占める割合は、石鏃6.8%、石匙7.3%、搔削器類15.3%、不定形石器33.8%、石斧8.9%、磨石7.9%、石皿6.8%であり、これらの石器で全体の約9割を占めている。6区では何点かの石ペラ状石器が出土していること、5区では石斧の出土点数がやや少ないことを別にすれば、5区と6区での石器組成に類似性がみられる。本遺跡が、岩手山の南東部に位置する関係上、石器の素材は岩手火山及びその周辺部または奥羽山地に求められている。出土した石器の石質でみると剥片石器では奥羽山地を産地とする硬質泥岩、珪質泥岩系のものが73.8%を占め、礫石器では、遺跡周辺も産地に含まれる岩手火山系の両輝石安山岩、両輝石安山岩熔岩が43%を占め、主として石皿、磨石、凹石として用いられている。素材の供給源を北上山地とするものは、ごく少数であるが、石斧の約3割は北上山地のものである。特異なものとして、刃部の形状が円形を呈する石匙(縄文時代晩期と思われる)及び異形石器が、遺構外から出土している。

#### (4) 石製品

遺構内から5点、遺構外から1点の計6点出土している。円盤状、球状石製品3点、その他独鈷石状のもの、凹みをもつもの、全面が研磨されたものである。

独鈷石状のものは両輝石安山岩で両端が硬質なもので、自然に形成されたものを遺跡に搬入した可能性もある。全面が研磨されているものは石質が玉髄で、きれいな流紋をもつものである。他は、長さまたは径が4cm以下と小形のものである。

表1 円盤状土製品一覧表

No.	出土地点	計 測 値				構成	土 色	備 考
		長さ(cm)	径 (cm)	厚さ (mm)	皿き (K)			
1	Ⅷ Me II 下	4.1	4.3	1.0	17.8	もろい 細砂・石英砂混入	7.5YR8/4 浅赤褐色	横位および斜位の平行波線文
2	Ⅷ Me II	4.4	3.6	3.0	19.6	良 砂 細砂・石英砂混入	7.5YR7/4 濃い褐色	横位・斜線の波線文
3	Ⅷ Me II 下	4.3	4.4	0.8	20.1	良 砂 細砂多い	7.5YR7/4 濃い褐色	横位の波線文
4	Ⅷ Me II	3.6	3.7	1.0	14.6	もろい 細砂多い	7.5YR6/7 浅赤褐色	縦位の波線文
5	Ⅷ Me 表層	3.6	3.8	0.6	14.8	良 砂 細砂多い	7.5YR6/6 浅赤褐色	L R 横波線
6	Ⅷ Li II 下	3.7	3.7	0.9	14.0	良 砂 細砂混入	7.5YR7/5 濃い褐色	L R 横波線
7	Ⅷ Li 表層	3.8	4.0	0.7	11.7	良 砂 細砂混入	7.5YR6/3 浅赤褐色	R L 横波線
8	Ⅷ Li II 下	5.6	6.2	0.7	26.7	良 砂 細砂混入	7.5YR6/6 褐色	L R 横波線
9	Ⅷ Li II	5.4	5.6	0.7	27.1	良 砂 細砂混入	7.5YR7/6 褐色	L R 横波線 口縁部破片

表2 縄文・弥生時代竪穴住居址一覧表

( )の数字は推定値

No	遺 蹟 名	周 圍	写真図版	平 面 形	規 模 (m)		伊 址	生 穴 状 ピット	時 期	備 考
					開 口 部	床 面				
1	VI Lc-1	2	2	不整形	6.5×6.1	6.9×5.7	石礎伊	16	晩期中葉～後葉	VI Lc-2住と重複
2	VI Lc-2	2	3	楕円形	6.0×(5.0)	5.7×(4.5)	石礎伊		晩期中葉～後葉	VI Lc-1住と重複
3	VI Lc-3	7	3・4	不整形	6.0×(7.1)	5.5×(6.5)	地床伊	-	後期中葉	VI Lc-1, 2住の 重複
4	VI Ld	9	5	円形	3.5×3.35	3.2×3.05	石礎伊	1?	晩期中葉	
5	VI Le-1	10	5・6	円形～楕円	(5.9)×5.7	(5.5)×5.1	石礎伊	?	晩期後葉	VI Le-2住の上位
6	VI Le-2	14	6・7	円形	6.1×6.0	5.5×5.3	石礎伊	11	晩期後葉	VI Le-2住の上位
7	VI Lf	16	8	楕円形	4.65×4.2	4.2×3.75	地床伊	5	後期中葉	
8	VI Lg	17	9	円形	4.1×4.0	3.7×3.7	石礎伊	-	晩期	
9	VI Lk	18	10	円形	4.2×4.2	3.9×3.9	土器埋没伊	6	弥生初葉	
10	VI Ma	20	11	円形	4.2×(4.2)	3.9×(3.9)	地床伊	-	後期前葉～中葉	
11	VI Mb-1	21	12	円形	4.4×4.3	3.7×3.6	配石伊	2	後期中葉	小ピット1基
12	VI Mb-2	23	13	楕円形	3.1×2.85	2.8×2.6	地床伊	5	後期前葉	小ピット1基
13	VI Mc	24	14	楕円形	3.9×3.6	3.7×3.4	配石伊	-	後期前葉	
14	VI Md-1	25	15	円形	4.2×4.1	4.0×3.9	なし	-	晩期中葉	VI Md-2住と重複
15	VI Md-2	27	16	楕円形?	4.2×(3.6)	3.8×(3.3)	石礎伊	-	後期前葉	VI Md-1住と重複
16	VI Me	28	16・17	円形	4.6×4.3	4.0×3.7	配石伊	4	後期後葉	
17	VI Mf-1	30	17・18	円形	4.0×3.85	3.8×3.7	配石伊	1	後期中葉	VI Mf-2住と重複
18	VI Mf-2	32	18	円形	3.8×3.5	3.4×3.3	地床伊	-	後期前葉～中葉	VI Mf-1住と重複
19	VI Mg	33	19	円形?	3.3×(3.0)	3.0×(2.8)	配石伊	-	後期前葉	VI Mf-2住と重複
20	VI Na-1	34	19・20	円形	4.2×(3.9)	3.9×(3.6)	地床伊	4	後期初葉～前葉	VI Na-2住と重複
21	VI Na-2	36	21・22	円形	4.1×4.0	3.8×3.65	地床伊	6	晩期?	
22	VI Ne-1	34	20・21	楕円形	3.7×3.3	3.5×3.1	地床伊	5	後期前葉	VI Na-1, e-2住 と重複
23	VI Ne-2	37	22・23	円形	3.95×3.85	3.75×3.7	地床伊	5	晩期	VI Na-1住と重複
24	VI Ng	38	23	楕円形?	3.1×(3.5)	2.8×(3.4)	不明	?	晩期?	

表3 土器一覽表(1)

〔 〕に測定値、( )に推定値

No	器 種	回 号	発 見 年	出 土 地 点	寸 法			文 様 と 刻 文 方 法	分 類	備 考	
					口徑cm	底径cm	底厚cm				
1	鉢	3-1	29-1	甕 Le-1 (埋土下)	20.2	(16.3)	-	5	平行沈線、斜縄文(L,R)	V	内外面に條付書
2	蓋	3-2	29-2	# 埋土(下)	(7.0)	(10.0)	-	φ5	無文、下部刻印部に刻印工字文	V	
3	鉢	3-3	29-3	# 灰函	11.0	12.6	6.2	5	斜縄文(L,R)	VI	
4	蓋	3-4	29-4	#	-	(10.0)	-	5	尖頂斜状沈線文+粘帶	IV	
5	小形鉢	2-5	29-5	# 灰函	-	(4.3)	3.4	5	無文	VI	
6	蓋	3-6	29-6	# 埋土(下)	-	(4.3)	(6.0)	6	下部1/3部突起+蓋印文、斜縄文(L,R)	V	
7	鉢	3-7	29-7	# 埋土	15.9	(23.5)	-	5	斜、横縄文(L,R)	VI	
8	鉢	3-8	29-8	# 灰函	16.2	23.6	7.7	5	斜縄文(L,R)	VI	内外面に條付書
9	小形台付鉢	5-1	30-23	甕 Le-2 (埋土下)	8.2	(6.0)	-	6	疑似工字文、斜-横縄文(L,R)	V	内外面に條付書
10	小形鉢	5-2	30-24	# 埋土(下)	7.3	(5.5)	-	4	平行沈線、斜縄文(L,R)	VI	
11	台付鉢	5-3	30-25	# 埋土(下)	15.0	(9.2)	-	5	平行沈線、斜縄文(L,R)	V	断面欠損、條付書
12	鉢	5-4	30-26	# 埋土	11.3	12.9	5.4	5	疑似工字文、斜縄文(L,R)	V	
13	鉢	5-5	30-27	# 埋土	18.3	20.2	7.4	7	斜縄文(L,R)	V	内外面に條付書
14	深鉢	5-6	30-28	# 埋土(下)	(20.9)	(10.0)	-	6	斜縄文(L,R)	VI	條付書
15	深鉢	5-7	30-29	# 埋土(下)	32.0	(12.0)	-	7	横、斜縄文(L,R)	VI	條付書
16	蓋	9-1	31-62	甕 Ld 灰函	3.3	8.3	1.9	4	無文	V	円盤形土器
17	小形浅鉢	11-1	31-79	甕 Le-2 (埋土上)	8.5	3.0	3.0	5	無文	VI	内外に異なる行書
18	小形浅鉢	11-2	31-79	# 灰函	10.5	4.2	2.0	4	無文、小突起	VI	
19	小形鉢	11-3	31-80	#	3.7	7.5	-	4	北縁垂形文	VI	底部に円孔有り
20	鉢	11-4	31-74	甕 Le-1 (埋土下)	-	(5.0)	5.4	5	斜縄文(L,R)	VI	全体に條付書
21	台付鉢	11-5	31-67	# 埋土(下)	14.0	8.6	5.4	5	疑似工字文、斜縄文(L,R)	V	條付書
22	蓋	11-6	31-71	# 埋土(下)	3.0	(7.4)	-	5	無文、上部に疑似工字文	V	
23	鉢	11-7	31-73	# 埋土(下)	-	(7.0)	-	5	斜縄文(L,R)	VI	
24	台付鉢	11-8	31-68	# 灰函	14.8	14.6	6.7	4	疑似工字文	V	
25	小形鉢	11-9	31-72	# 埋土	(8.2)	(6.8)	3.8	3	平行沈線、斜縄文(L,R)	V	
26	深鉢	11-10	31-75	# 埋土	-	(6.2)	(7.1)	5	斜縄文(L,R)	VI	内面に條付書
27	台付鉢	11-11	31-69	# 灰函	19.9	(8.7)	-	5	疑似工字文、横縄文(L,R)	V	断面欠損
28	深鉢	11-12	31-77	# 埋土(下)	-	-	-	8	横縄文(L,R)	VI	條付書
29	鉢	11-13	31-76	# 埋土(下)	14.6	16.2	6.6	5	斜縄文(L,R)	V	内外面に條付書
30	台付鉢	11-14	31-70	# 灰函	20.8	12.9	9.2	5	疑似工字文、断面円孔	V	断面円孔
31	ミナチヤウ鉢	14-1	32-101	甕 Le-2 (灰函)	2.4	4.4	1.6	3.5	無文	VI	
32	小形鉢	14-2	32-102	# 灰函	8.5	3.0	3.0	5	無文	VI	
33	蓋	14-3	32-103	# 埋土	5.6	(10.0)	-	5	無文	VI	
34	蓋	14-4	32-104	# 灰函	-	(11.3)	4.6	6	斜縄文(L,R)	VI	條付書
35	鉢	14-5	32-105	# 灰函	11.5	11.7	3.0	4	平行沈線、粘帶	IV	内外面に條付書
36	鉢	14-6	32-106	# 灰函	15.6	14.0	4.3	5	垂縄文、粘帶	IV	内外面に條付書
37	深鉢	15-10	32-110	# 埋土	(24.6)	(12.8)	-	6	多縄文(L,R)	VI	條付書
38	深鉢	15-11	32-111	# 灰函	(37.6)	(15.7)	-	7	斜縄文(L,R)	VI	條付書
39	鉢	16-1	32-115	甕 Lf 在	-	-	-	-	羽状縄文	IV	
40	鉢	16-2	32-116	# 埋土	-	(4.3)	6.2	5	斜縄文(L,R)	VI	
41	蓋	16-3	32-117	# 埋土	7.9	-	-	5	凸形刻印文		
42	小形浅鉢	17-1	32-123	甕 Lg (埋土中)	(9.2)	2.4	-	4	無文	VI	
43	小形鉢	17-2	32-124	# 埋土(下)	8.5	7.9	6.3	8	無文	VI	條付書
44	鉢	17-3	32-125	# 埋土(中)	(10.8)	(8.7)	-	4	疑似工字文	V	内外面に條付書

表4 土器一覧表(2)

( )は発見地、( )は埋存地

No	器種	器高cm	口径cm	底径cm	口縁高cm	口縁径cm	底径mm	文様と施文方法	分類	備考
45	小形直形鉢	18-1	33-132					刷毛文	V	
46	小形鉢	18-2	33-133					刷毛文(L,R)	VII	
47	鉢	18-3	33-134					刷毛文、平行波線	VII	内外面に刷毛文
48	深鉢	18-4	33-135					刷毛・刷毛文(L,R)	VII	
49	鉢	18-5	33-136					平行波線、刷毛文(L,R)	VII	
50	鉢	20-1	35-147					刷毛文、刷毛文	IV	
51	鉢	21-1	36-148					刷毛文、刷毛文、刷毛文(L,R)	VII	埋存地
52	鉢	21-2	36-149					刷毛文(L,R)	VII	
53	水	25-1	38-161					刷毛文による刷毛工文字	VII	刷毛文の刷毛文
54	深鉢	25-2	38-162					刷毛文、平行波線、刷毛文(L,R)	VII	埋存地
55	深鉢	25-3	38-163					刷毛文、平行波線、刷毛文(L,R)	VII	埋存地
56	深鉢	25-4	38-164					刷毛文、平行波線、刷毛文(L,R)	VII	埋存地
57	深鉢	26-5	38-165					刷毛文、平行波線、刷毛文(L,R)	VII	内外面に刷毛文
58	深鉢	26-6	38-166					刷毛文、平行波線、刷毛文(L,R)	VII	埋存地
59	鉢	26-7	38-167					刷毛文	VII	
60	横形直形鉢	28-1	38-196					刷毛文	IV	
61	鉢	28-1	37-245					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	
62	鉢	33-19	38-258					刷毛文	V	
63	鉢	36-1	38-270					刷毛文、刷毛文(L,R)	V	埋存地
64	口土器?	36-2	38-271					刷毛文	V	
65	鉢	36-3	38-272					刷毛文(L,R)	VII	内外面に刷毛文
66	鉢	37-1	38-273					刷毛文、刷毛文(L,R)	V	内外面に刷毛文
67	深鉢	42-1	39-287					刷毛文(L,R)	VII	刷毛文の刷毛文、埋存地
68	深鉢	42-1	39-289					刷毛文(L,R)	VII	埋存地
69	深鉢	46-1	44-1					刷毛文、刷毛文	III	刷毛文の刷毛文
70	深鉢	46-2	44-2					刷毛文、刷毛文	III	刷毛文の刷毛文
71	深鉢	46-3	44-3					刷毛文	III	刷毛文の刷毛文
72	深鉢	46-4	44-4					刷毛文、刷毛文	III	埋存地
73	鉢	46-5	44-5					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	
74	深鉢	46-6	44-6					刷毛文	III	刷毛文の刷毛文
75	深鉢	46-7	44-7					刷毛文(刷毛文)	IV	内外面に刷毛文
76	深鉢	46-8	44-8					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	内外面に刷毛文
77	深鉢	47-9	45-9					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	埋存地
78	深鉢	47-10	45-10					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	
79	深鉢	47-11	45-11					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	埋存地
80	深鉢	47-12	45-12					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	
81	鉢	47-13	45-13					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	
82	深鉢	47-14	45-14					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	埋存地
83	深鉢	47-15	45-15					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	内外面に刷毛文
84	鉢	47-16	45-16					刷毛文、刷毛文(L,R)	IV	
85	鉢	48-17	46-17					刷毛文	V	埋存地
86	鉢	48-18	46-18					刷毛文、刷毛文(L,R)	V	
87	鉢	48-19	46-19					刷毛文、刷毛文(L,R)	V	内外面に刷毛文
88	鉢	48-20	46-20					刷毛文、刷毛文(L,R)	V	埋存地

表5 土器一覽表(3)

( ) は推定値、( ) は保存庫

No	器 種	図 番 号	写 真 番 号	出 土 地 点	寸 法			文 様 と 装 文 方 法	分 類	備 考	
					口徑cm	高さcm	底径cm				
89	鉢	48-21	46-21	VI Na-II	13.3	6.6	-	5	変形平蓋状文(原本文、新編文(L,R))	V	
90	鉢	48-22	46-22	VI Li-II	18.0	7.3	4.4	6	雲形文、新編文(L,R)	V	抽射孔
91	鉢	48-23	46-23	VI Ne-II	22.0	(7.4)	-	5	平行波線+斜目文、新編文(L,R)	V	
92	鉢	48-24	46-24	VI Mf-II(下)	-	(7.9)	-	5	斜交列点文、新編文	V	抽射孔
93	鉢	48-25	46-25	VI Mg-I	22.6	(8.0)	-	5	工字文	V	
94	鉢	48-26	46-26	VI Le-II(下)	21.4	(7.5)	-	5	変形丁字文、新編文(L,R)	V	
95	甕	49-27	47-27	VI Lg-II	-	(5.5)	4.5	4	平行波線、粘層突起	V	片取り
96	鉢	49-28	47-28	VI Lj-灰土	23.5	(8.7)	-	5	斜交工字文、新編文(L,R)	V	底付着
97	鉢	49-29	47-29	VI Lg-II	18.7	(8.9)	-	6	平行波線、波線文(L,R)	V?	内外面に底付着
98	右付鉢	49-30	47-30	VI Mg-II	-	(5.8)	9.8	5	平行波線+波線刻目日文	V	
99	甕	49-31	47-31	VI Le-灰土	8.2	(10.9)	-	6	平行波線(疑似工字文)、点文	V	
100	甕	49-32	47-32	#-灰土	-	(10.2)	9.4	6	無文		灰土と同じであらう。
101	鉢	49-33	47-33	VI Lh-II(下)	18.1	(6.9)	-	5	新編文(L,R)、横位波線	V	内外面に底付着
102	鉢	49-34	47-34	VI Le-灰土	-	(8.0)	-	6	波線文(L,R)、#	V	底付着
103	鉢	49-35	47-35	VI Ld	-	(17.6)	-	6	新編文(L,R)、#	V	内外面に底付着
104	深鉢	50-26	48-26	VI Mc-無題	(21.5)	(20.7)	-	9-10	横位波線、踏車文	V	底付着
105	鉢	50-27	48-27	VI Mk-II(下)	12.0	(6.7)	-	6	口部に方形凹溝、横編文(L,R)	VI	
106	鉢	50-28	48-28	VI Na-II(下)	18.9	18.2	8.4	5	原形深鉢、編織文(L,R)	VI	蓋部に不揃い、底付着
107	深鉢	50-29	48-29	VI Na-II(下)	24.0	(23.5)	-	8	帯編文、新編文(L,R)	VI	
108	鉢	50-40	48-40	VI Na-II	18.0	(13.6)	-	6	帯編文、斜+新編文(L,R)	VI	底付着
109	深鉢	50-41	48-41	VI Mg-II	26.0	(10.4)	-	5	帯編文、新編文(L,R)	VI	底付着
110	深鉢	50-42	48-42	VI Ma-II(下)	21.0	(20.7)	-	6	凹線部展文+原形深鉢、雲形編織文	VI	
111	深鉢	50-43	48-43	VI Mc-II	22.8	(11.4)	-	5	華山状文	VI	抽射孔、内外面に底付着
112	深鉢	50-44	48-44	VI Lg-II(下)	23.6	(16.4)	-	5	羽状編織文	VI	底付着、抽射孔有り
113	深鉢	51-45	49-45	VI Ld-II(下)	25.0	33.0	9.7	7	斜編文(L,R)	VI	
114	深鉢	51-46	49-46	VI Ne-II	21.6	(25.5)	-	6	斜編文(付加糸)	VI	
115	深鉢	51-47	49-47	VI Mg-II(下)	32.6	(17.6)	-	6	斜編文(L,R)	VI	内外面に底付着
116	深鉢	51-48	49-48	VI Mg-無(上)	43.4	(33.6)	-	6	斜編文(L,R)	VI	抽射孔、底付着
117	鉢	51-49	49-49	VI Mn-II~III	13.5	32.2	7.7	7	斜編文(L,R)	VI	
118	鉢	51-50	49-50	VI Na-II(下)	17.0	(13.7)	-	6	口縁無文、新編文(L,R)	VI	内外面に底付着
119	深鉢	52-51	50-51	VI Mg-II	23.8	(25.5)	-	6	口縁無文、新編文(L,R)	VI	底付着
120	鉢	52-52	50-52	VI Mf-II(下)	12.0	(5.3)	-	4.5	斜編文(L,R)	VI	
121	鉢	52-53	50-53	VI Lh-灰土	16.7	(4.9)	-	6	斜編文(L,R)	VI	
122	深鉢	52-54	50-54	VI Na-II	-	(10.0)	6.6	5	斜編文(L,R)	VI	内外面に底付着
123	鉢	52-55	50-55	VI Lh-II(下)	-	(24.2)	(8.6)	5	斜編文(L,R)	VI	内外面に底付着
124	深鉢	52-56	50-56	VI Mb-II(下)	34.8	(16.5)	-	6	点文	VI	底付着
125	小形鉢	52-57	50-57	VI Nl-無(上)	8.4	8.3	4.6	4	点文	VI	
126	浅鉢	52-58	50-58	VI Lg-II	18.6	6.6	3.6	6	点文	VI	
127	鉢(ミニユズ鉢)	52-59	50-59	VI Mf-II(下)	5.5	6.5	2.4	5	点文	VI	
128	甕	52-60	50-60	VI Li-II	-	(9.8)	2.4	5	点文	VI	
129	鉢	52-61	50-61	VI Na-II	-	(6.0)	7.2	6	点文	VI	
130	甕	61-298	59-298	VI Ne-II	24.4	(14.8)	-	5	波線編織文(L,R)	VI	

(注) 複製土器で口径20cm以上のものを採録した。(破片のものについては推定口径で判断した)

口径以下の口径18cm以下のものについて小形と付した。(破損しているものは推定口径で判断した)

表 6 石器・石製品一覧表(1)

( )は保存庫

No.	区 版 号	写 真 号	器 種	出 土 地 点	大 小 寸 法				石 質	産 地	備 考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	直径 (mm)			
1	4-20	40-300	石 鏃	Ⅱ Lc-1住埋土(中)	3.2	1.7	0.6	1.6	瑠璃岩	摩石西部・中新統	
2	4-21	40-301	〃	〃 床上	2.6	1.2	0.5	1.0	〃	〃 〃	
3	4-22	40-302	〃	〃 埋土(中)	3.4	1.3	0.6	1.7	硬質泥岩	〃 〃	
4	4-23	40-303	〃	〃 床上	3.0	1.9	0.6	1.6	硬質泥岩	摩石盆地西南域・中新統	
5	4-24	40-304	〃	〃 埋土(中)	3.1	2.1	0.7	4.2	凝灰質砂岩	摩石西部・〃	
6	4-25	40-305	〃	〃 埋土	(2.6)	1.0	0.6	1.5	玉髓	産地不詳	
7	8-12	40-325	〃	Ⅱ Lc-3住埋土(下)	3.0	1.6	0.5	1.5	硬質泥岩	摩石盆地西南域・中新統	
8	12-26	40-331	〃	Ⅱ Lc-1住埋土(上)	2.3	1.1	0.5	0.9	硬質泥岩	摩石西部・〃	
9	12-29	40-332	〃	〃 埋土(中)	4.2	2.0	0.6	4.4	凝灰質中粒凝灰岩	摩石盆地西南域・〃	
10	15-12	41-330	〃	Ⅱ Lc-2住埋土(下)	2.9	1.9	0.4	1.5	瑠璃岩	摩石西部・〃	
11	17-3	41-380	〃	Ⅱ Lg 住埋土(中)	3.1	1.0	0.5	0.9	凝灰質中粒凝灰岩	摩石盆地西南域・〃	
12	17-10	41-381	〃	〃 埋土(中)	2.2	1.2	0.3	0.7	瑠璃岩	摩石西部・〃	
13	24-9	42-390	〃	Ⅱ Mc 住床上	1.7	0.8	0.3	0.3	黒曜石	摩石小赤沢・〃	
14	31-11	42-400	〃	Ⅱ Mf 1住床上	2.1	1.2	0.3	0.7	〃	〃 〃	
15	33-9	43-421	〃	Ⅱ Mg 住埋土(下)	3.2	2.2	0.7	2.4	硬質泥岩	摩石西部・中新統	
16	35-12	43-427	〃	Ⅱ Na-1住埋土(下)	4.2	1.1	0.5	1.8	瑠璃岩	〃 〃	
17	35-13	43-428	〃	〃 床上	3.7	1.6	4.5	2.1	〃	〃 〃	
18	42-5	43-435	〃	Ⅱ Mc 埋土	2.1	1.2	0.3	0.5	黒曜石	摩石	
19	60-1	61-1	〃	Ⅱ Ma-II(下)	4.0	1.5	0.5	1.8	硬質泥岩	摩石西部・中新統	
20	60-2	61-2	〃	Ⅱ Lk-III	3.2	1.6	0.4	1.2	玉髓	産地不詳	
21	60-3	61-3	〃	Ⅱ Mf-II(上)	1.7	1.1	0.3	0.3	〃	〃	
22	60-4	61-4	〃	Ⅱ Lg-II	1.8	1.3	0.4	0.7	〃	〃	
23	60-5	61-5	〃	Ⅱ Me-III(上)	2.7	1.4	0.3	0.9	硬質泥岩	摩石西部・中新統	
24	60-6	61-6	〃	Ⅱ Lg-II	2.6	0.9	0.4	1.0	凝灰質泥岩	北上山地・古生界	
25	60-7	61-7	〃	Ⅱ L-III	2.6	1.1	0.5	0.9	鉄石英	岩手火山周辺・第四系	
26	60-8	61-8	〃	Ⅱ Lb-III	3.1	1.2	0.6	1.7	硬質泥岩	摩石西部・中新統	
27	60-9	61-9	〃	Ⅱ Mg-II	3.4	1.5	0.8	1.7	凝灰質硬質泥岩	〃 〃	
28	60-10	61-10	〃	Ⅱ Ma-II(下)	2.6	1.2	0.4	0.8	玉髓	産地不詳	
29	60-11	61-11	〃	Ⅱ Mf-III	(3.8)	1.0	0.5	1.6	凝灰質硬質泥岩	摩石西部・中新統	
30	60-12	61-12	〃	Ⅱ Lg-III	(2.9)	1.5	0.3	1.4	凝灰質泥岩	摩石盆地西南域・〃	
31	60-13	61-13	〃	Ⅱ Me-III	1.8	1.6	0.3	0.7	玉髓	産地不詳	
32	60-14	61-14	〃	Ⅱ Lg-III	2.2	1.3	0.3	0.9	〃	〃	
33	60-15	61-15	〃	Ⅱ Ne-II	2.1	1.5	0.3	1.2	凝灰質泥岩	北上山地・古生界	
34	60-16	61-16	〃	Ⅱ Lk-III	5.3	1.4	0.8	5.7	凝灰質硬質泥岩	摩石西部・中新統	
35	60-17	61-17	〃	Ⅱ Md-II(下)	5.0	1.7	1.1	7.1	玉髓	産地不詳	
36	8-13	40-226	石 匙	Ⅱ Lc-3住埋土(下)	3.8	6.1	0.9	14.3	瑠璃岩	摩石西部・中新統	變形
37	9-5	40-229	〃	Ⅱ Ld 住床上	7.0	4.0	1.1	25.2	〃	〃 〃	變形

表7 石器·石製品一覽表(2)

( ) 日現存值

No	図版 番号	写真 番号	器種	出土地点	計 測 値				石 質	産 地	備 考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
38	12-30	40-333	石 匙	VI Le-1 住繩上 (上)	3.1	4.3	0.9	9.0	凝灰質珪質泥岩	宇石西部・中新統	鏡形
39	15-13	41-351	"	VI Le-2 住繩上 (下)	5.0	3.4	0.35	6.7	硬質泥岩	"	鏡形
40	15-14	41-352	"	" 繩上 (下)	3.5	6.2	1.2	39.2	珪質泥岩	"	鏡形
41	15-15	41-353	"	" 繩上 (下)	3.9	5.3	0.6	10.8	"	"	"
42	16-8	41-358	"	VI I 住繩上(中)	2.8	6.4	0.7	9.9	"	"	"
43	22-11	41-376	"	VI Mb-1 住繩上 (下)	7.0	3.4	0.9	25.0	"	"	鏡形
44	29-14	42-399	"	VI Me 住繩上(下)	6.7	3.2	0.9	13.9	"	"	"
45	31-12	42-404	"	VI Mf-1 住繩上	4.2	(7.2)	1.2	20.4	"	"	鏡形
46	31-13	42-405	"	" 求上	2.8	3.5	0.7	5.5	凝灰質珪質泥岩	"	"
47	31-14	42-406	"	" 求上	6.9	3.2	0.8	16.5	"	"	鏡形
48	31-15	42-407	"	" 繩上 (下)	6.5	3.5	1.1	23.6	珪質泥岩	"	"
49	32-10	43-412	"	VI Mf-2 住繩上 (下)	3.0	5.6	0.8	13.9	玉髓	産地不詳	鏡形
50	32-11	43-413	"	" 繩上 (下)	4.5	(5.2)	0.6	11.3	硬質泥岩	宇石西部・中新統	"
51	32-12	43-414	"	" 繩上 (中)	4.8	2.3	0.4	4.5	珪質泥岩	宇石盆地西海城・	鏡形
52	32-13	43-416	"	VI Mf-2 住繩上 (下)	5.2	3.2	0.9	11.3	凝灰質珪質泥岩	宇石西部・	"
53	32-14	43-417	"	" 繩上	5.7	4.1	0.3	8.3	硬質泥岩	"	"
54	32-17	43-415	"	" 繩上 (下)	7.8	2.6	0.6	12.4	凝灰質珪質泥岩	"	"
55	35-14	43-429	"	VI Na-1 住繩上 (下)	5.4	6.7	0.9	26.3	硬質泥岩	"	鏡形
56	35-15	43-431	"	" 繩上 (中)	3.9	3.6	0.6	9.1	玉髓	産地不詳	"
57	42-5	43-442	"	VI Mf-6 繩上	4.1	5.6	0.7	13.3	珪質泥岩	宇石西部・中新統	"
58	66-18	61-18	"	VI Le-III(上)	6.8	3.3	0.7	14.4	硬質泥岩	"	鏡形
59	66-19	61-19	"	VI Ke-1 繩頭	6.9	2.2	0.9	11.7	"	"	"
60	66-20	61-20	"	VI Mc-II(下)	7.3	2.8	0.8	16.4	珪質泥岩	"	"
61	66-21	61-21	"	VI Lg-II(下)	5.1	2.9	0.7	9.4	凝灰質珪質泥岩	"	"
62	66-22	61-22	"	VI Lk-1 繩頭	6.0	3.3	0.9	15.4	珪質泥岩	北上山地・古生界	"
63	66-23	61-23	"	VI Mf-III(下)	5.4	2.8	0.8	11.6	珪質泥岩	宇石西部・中新統	"
64	66-24	61-24	"	VI Mo-II(下)	6.2	2.6	0.7	12.5	凝灰質珪質泥岩	"	"
65	66-25	61-25	"	VI Mc-III(上)	9.0	2.8	0.9	18.4	硬質泥岩	"	"
66	66-26	61-26	"	VI Ma-II(下)	4.3	3.8	0.9	9.8	凝灰質珪質泥岩	"	"
67	66-27	61-27	"	VI Mj-II	3.8	2.6	0.9	9.1	玉髓	産地不詳	"
68	66-28	61-28	"	VI Mh-II	6.0	2.9	0.9	13.3	凝灰質珪質泥岩	宇石西部・中新統	"
69	67-29	61-29	"	VI Mc-III(上)	5.2	5.8	0.7	16.5	硬質泥岩	"	鏡形
70	67-30	61-30	"	VI Mg-II(下)	4.3	5.3	1.0	15.9	珪質泥岩	"	"
71	67-31	61-31	"	VI Lg-II(下)	4.7	5.5	0.9	18.6	玉髓	産地不詳	"
72	67-32	62-32	"	VI Mn-II-III	4.0	5.6	0.6	10.8	硬質泥岩	宇石西部・中新統	"
73	67-33	62-33	"	VI Mj-II(下)	3.2	5.6	0.9	9.5	凝灰質珪質泥岩	"	"
74	6-19	40-316	石 鏃	VI Le-2 住繩上 (下)	4.0	1.1	0.8	4.9	珪質泥岩	宇石盆地西海城・中新統	"



表 8 石器・石製品一覧表(3)

( )は現存種

No	洞 層 号	写 真 号	器 種	出 土 地 点	計 測 値				石 質	産 地	備 考
					長さ(m)	幅 (cm)	厚さ(m)	重さ(g)			
75	15-17	41-354	石 鏃	Ⅷ Lc-2 住埋土(下)	4.5	2.2	0.5	2.6	玉髓	産地不詳	
76	67-34	62-34	石 鏃	Ⅷ Mc-II (下)	4.2	0.8	0.6	1.8	玻璃質流紋岩	礫石盆地西南域・中新統	
77	67-35	62-35	〃	Ⅷ Mg-II (下)	4.0	0.9	0.8	2.3	硬質泥岩	礫石西部・〃	
78	67-36	62-36	〃	〃-II	4.1	1.4	0.8	3.5	〃	〃・〃	
79	67-37	62-37	〃	Ⅷ Lh-II	4.2	1.9	0.9	4.7	〃	〃・〃	
80	67-38	62-38	〃	Ⅷ Me-II	2.4	1.5	0.8	1.5	玻璃質流紋岩	礫石盆地西南域・〃	
81	67-39	62-39	〃	Ⅷ Lg-II	3.4	1.1	1.1	3.1	硬質泥岩	礫石西部・〃	
82	67-40	62-40	〃	Ⅷ Lg-II	4.1	2.4	0.7	6.4	珪質泥岩	〃・〃	
83	67-41	62-41	〃	Ⅷ Lg-II	3.3	2.2	0.9	5.2	〃	〃・〃	
84	4-26	40-306	火礫石片	Ⅷ Lc-1 住埋土(下)	2.5	1.3	1.1	3.0	硬質泥岩	〃・〃	
85	17-11	41-362	〃	Ⅷ Lg 住埋土(中)	4.5	2.0	0.7	8.0	凝灰質硬質泥岩	〃・〃	
86	20-9	41-375	〃	Ⅷ Mn 住埋土(上)	2.6	1.9	0.8	3.3	珪質泥岩	〃・〃	
87	67-42	62-42	〃	Ⅷ Lg-総掘	3.3	1.9	1.2	4.5	玻璃質流紋岩	礫石盆地西南域・〃	
88	67-43	62-43	〃	Ⅷ L-総掘	2.3	1.6	0.6	3.0	輝綠凝灰岩	北上山地・古生界	
89	67-44	62-44	〃	Ⅷ Lg-II	3.5	1.5	0.6	3.1	珪質泥岩	礫石西部・中新統	
90	67-45	62-45	〃	Ⅷ Lg-II	(2.8)	1.1	0.3	0.8	硬質泥岩	〃・〃	
91	67-46	62-46	〃	Ⅷ Lh-II	3.5	1.1	0.4	1.4	輝綠凝灰岩	北上山地・古生界	
92	67-47	62-47	〃	Ⅷ Lg-総掘	2.7	1.4	0.5	2.7	玉髓	産地不詳	
93	67-48	62-48	〃	Ⅷ Mg-II (下)	2.7	1.6	0.5	2.0	〃	〃	
94	67-49	62-49	〃	Ⅷ Lh-実探	2.1	1.2	0.3	0.6	凝灰質硬質泥岩	礫石西部・中新統	
95	67-50	62-50	〃	Ⅷ Lf-II	(1.9)	(2.3)	(0.6)	3.0	玉髓	産地不詳	
96	4-27	40-307	鎌形磨礫	Ⅷ Lc-1 住埋土(中)	5.1	2.4	0.9	10.0	硬質泥岩	礫石西部・中新統	複刀状
97	4-28	40-308	〃	〃 埋土	3.4	2.6	0.7	4.7	燧石类	群手火山周辺・第四系	歯牙状
98	4-29	40-309	〃	〃 床上	5.3	3.0	0.9	9.4	〃	〃・〃	〃
99	5-20	40-317	〃	Ⅷ Lc-2 住埋土	3.3	3.1	0.9	10.1	濃綠色粗粒凝灰岩	礫石西部・中新統	複刀状
100	5-23	40-320	〃	〃 埋土	3.6	3.1	0.8	11.2	硬質泥岩	礫石西部・〃	複刀状
101	6-14	40-327	〃	Ⅷ Lc-3 住埋土(下)	7.2	5.2	1.1	56.0	粘板岩	北上山地・古生界	歯牙状
102	9-6	40-330	〃	Ⅷ Ld 住埋土	3.4	3.2	0.9	20.9	硬質泥岩	礫石西部・中新統	複刀状
103	15-31	40-334	〃	Ⅷ Lc-1 住埋土(下)	4.8	3.3	1.2	16.6	珪質泥岩	礫石西部・中新統	複刀状
104	12-32	40-335	〃	〃 埋土(下)	3.7	3.5	0.8	11.7	〃	〃・〃	〃
105	12-33	40-336	〃	〃 埋土	4.1	3.2	0.7	10.8	凝灰質中粒凝灰岩	礫石盆地西南域・〃	歯牙状
106	12-34	40-337	〃	〃 埋土(下)	4.3	3.8	1.1	16.3	粘板岩	北上山地・古生界	〃
107	12-37	40-339	〃	〃 埋土(下)	4.8	2.7	0.6	8.9	凝灰質硬質泥岩	礫石西部・中新統	複刀状
108	17-12	41-363	〃	Ⅷ Lg 住埋土(中)	4.2	2.2	0.4	4.0	珪質泥岩	〃・〃	複刀状
109	19-12	41-368	〃	Ⅷ Lk 住埋土(下)	4.1	5.7	1.2	18.3	硬質泥岩	〃・〃	複刀状
110	20-6	41-372	〃	Ⅷ Mn 住埋土(下)	3.5	4.6	1.0	13.5	凝灰質珪質泥岩	〃・〃	尖頭刀状
111	20-7	41-373	〃	〃 埋土(中)	3.2	5.6	1.2	18.0	凝灰質硬質泥岩	〃・〃	複刀状

表9 石器·石製品一覧表(4)

No.	図版番号	写真番号	器種	出土地点	計測値				石質	産地	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)			
112	20-8	41-374	浜前跡家	VI Ma 住埋土(中)	4.6	3.0	0.6	11.5	玉髄	産地不詳	鎌刀状
113	22-12	41-377	#	VI Mb-1 住埋土(下)	4.4	2.0	0.9	13.7	硬質泥岩	宇石西部・中新統	#
114	23-9	42-384	#	VI Mb-2 住埋土	6.1	3.4	1.0	17.2	#	#	#
115	24-10	42-385	#	VI Mc 住埋土	5.3	2.5	0.6	8.6	凝灰質硬質泥岩	#	尖頭刀状
116	24-11	42-386	#	# 埋土(F)	4.2	2.5	1.0	8.8	#	#	鎌刀状
117	25-9	42-392	#	VI Md-1 住埋土	3.3	3.2	0.7	10.7	硬質泥岩	#	尖頭刀状
118	25-12	42-395	#	# 床上	7.9	8.3	1.7	95.0	粘板岩	北上山地・古生界	鎌刀状
119	29-16	42-400	#	VI Me 住埋土(下)	5.9	2.5	0.7	18.4	凝灰岩質中粒凝灰岩	宇石盆地西南域・中新統	鎌刀状
120	31-16	42-408	#	VI Mf-1 住埋土(下)	7.5	7.4	1.0	55.1	凝灰質硬質泥岩	宇石西部・#	#
121	31-17	42-409	#	# 床上	6.5	5.3	1.0	26.3	凝灰質硬質泥岩	#	#
122	32-10	43-422	#	VI Mg 住埋土(F)	5.0	2.7	0.9	12.5	硬質泥岩	#	尖頭刀状
123	32-12	43-423	#	# 埋土(F)	8.0	4.3	0.9	27.8	凝灰質硬質泥岩	#	鎌刀状
124	33-13	43-425	#	# 埋土(F)	9.0	8.2	1.0	85.0	#	#	#
125	35-28	43-434	#	VI Ne-1 住埋土	7.1	2.3	1.3	49.3	地質泥岩	#	尖頭刀状
126	37-8	43-438	#	VI N Ne-2 住埋土	7.8	5.3	0.9	26.1	硬質泥岩	#	鎌刀状
127	37-9	43-439	#	# 床上	3.7	3.15	0.9	12.9	凝灰質泥岩	宇石盆地西南域・#	#
128	42-11	43-443	#	VI Ml 焼土	4.8	7.2	1.1	43.5	地質泥岩	宇石西部・#	鎌刀状
129	47-51	42-51	#	VI Ne-II	5.2	2.9	0.6	32.6	凝灰質地質泥岩	#	鎌刀状
130	47-52	42-52	#	VI Mf-II(下)	7.6	3.1	1.2	26.6	#	#	#
131	48-53	42-53	#	VI Lk-表探	6.0	2.4	0.9	14.5	地質泥岩	#	#
132	48-54	42-54	#	VI Mf-II(下)	6.5	2.6	0.5	8.9	#	#	#
133	48-55	42-55	#	VI Mb-II	5.5	3.2	0.7	9.2	凝灰質硬質泥岩	#	#
134	48-56	42-56	#	VI Nf-II(下)	4.9	6.4	0.8	20.2	粘板岩	北上山地・古生界	#
135	48-57	42-57	#	VI L-表探	4.5	2.8	0.9	12.6	凝灰質硬質泥岩	宇石西部・中新統	#
136	48-58	42-58	#	VI Mg-II(下)	3.8	5.5	0.5	8.4	凝灰質硬質泥岩	#	#
137	48-59	42-59	#	VI Ml-照像	4.2	4.1	1.4	17.6	地質岩質凝灰岩質泥岩	宇石西部・#	#
138	48-60	42-60	#	VI Mp-照像(L)	6.2	7.8	1.2	57.3	硬質泥岩	宇石西部・#	鎌刀状
139	48-61	42-61	#	VI Lh-II(下)	3.7	5.4	1.0	15.1	地質泥岩	#	#
140	48-62	42-62	#	VI Ne-II	4.3	6.3	1.2	30.0	凝灰質硬質泥岩	#	#
141	48-63	42-63	#	VI M-II	3.2	5.4	1.3	13.2	地質岩質凝灰岩質泥岩	宇石西部・#	#
142	48-64	42-64	#	VI Mf-II(下)	4.6	6.0	1.2	32.7	凝灰質硬質泥岩	宇石西部・#	#
143	48-65	42-65	#	VI L-II	5.4	4.9	1.7	36.9	硬質泥岩	#	鎌刀状
144	48-66	42-66	#	VI Mb-II(下)	7.6	4.1	0.9	31.3	凝灰質硬質泥岩	#	#
145	48-67	42-67	#	VI Lh-II	7.5	4.3	1.8	50.3	硬質泥岩	#	#
146	49-68	42-68	#	VI Nf-II(下)	5.3	8.5	1.9	90.2	地質岩質凝灰岩質泥岩	宇石西部・#	#
147	49-69	42-69	#	VI Mc-II(下)	5.3	2.5	0.8	7.9	硬質泥岩	宇石西部・#	#
148	49-70	42-70	#	VI Ld-II	5.8	3.1	0.9	15.6	硬質泥岩	#	#

表10 石器・石製品一覽表(5)

No	図版 番号	写真 番号	器種	出土地点	計測値				石質	産地	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
149	69-71	63-71	燧石刮削	YH I-船渠	5.0	2.5	0.6	7.3	硬質泥岩	宇石西部・中新統	曲刀状
150	69-72	63-72	#	YH Mg-II(F)	6.6	3.2	1.1	19.0	硬質燧岩	#・#	#
151	69-73	63-73	#	YH N-I(T)	8.0	6.7	2.3	120.0	燧岩	北上山地・古生界	#
152	69-74	63-74	#	YH Mh-粗砂	4.9	4.5	0.8	16.0	硬質燧岩	宇石西部・中新統	#
153	69-75	63-75	#	YH Lg-表探	6.5	3.2	0.8	20.5	硬質燧岩	#・#	#
154	69-76	63-76	#	YH Mj-II(F)	7.5	3.5	1.6	42.7	硬質泥岩	#・#	#
155	69-77	63-77	#	YH Mj-II(F)	7.1	3.9	1.2	27.2	硬質燧岩	#・#	#
156	69-78	63-78	#	YH Mo-II(F)	6.3	3.0	0.6	10.6	硬質泥岩	#・#	鏡刀状
157	69-79	63-79	#	YH Ne-II	7.9	2.3	1.2	20.4	硬質泥岩	#・#	#
158	69-80	63-80	#	YH Lo-II(F)	7.8	4.0	1.1	29.6	硬質燧岩	#	#
159	69-81	63-81	#	YH Ml-II	3.3	2.3	0.7	4.7	凝結燧岩類燧岩	宇石西部・#	#
160	69-82	63-82	#	YH Lg-II(F)	3.7	4.3	0.9	14.8	硬質泥岩	宇石盆地西南域・#	#
161	70-83	63-83	#	YH Ne-II	4.1	4.1	1.0	20.4	#	#・#	#
162	70-84	63-84	#	YH Ma-II(F)	6.5	4.9	1.3	42.0	凝結燧岩類燧岩	宇石西部・#	#
163	70-85	63-85	#	YH Ne-II	7.6	4.9	1.3	58.9	玉髓	産地不詳	#
164	70-86	63-86	#	YH Li-II	7.9	4.8	1.7	70.4	燧岩	宇石西部・中新統	#
165	70-87	63-87	#	YH Md-II(F)	5.8	4.3	0.7	18.6	硬質泥岩	#	#
166	70-88	63-88	#	YH Lg-II	5.2	4.3	1.7	33.9	燧岩	宇石盆地西南域・#	#
167	70-89	63-89	#	YH Mg-II	7.4	7.5	1.3	69.0	硬質泥岩	宇石西部・#	#
168	70-90	63-90	#	YH Mb-II(F)	4.3	3.3	1.0	16.3	燧岩	#・#	#
169	70-91	63-91	#	YH Mg-II	5.1	3.9	0.8	17.6	硬質燧岩	#・#	尖鋭刀状
170	70-92	63-92	#	YH Mc-II(F)	8.3	4.9	1.4	44.8	燧岩	#・#	#
171	70-93	63-93	#	YH Li-表探	6.6	3.8	1.7	38.9	#	#・#	#
172	70-94	63-94	#	YH Lk-表探	5.3	3.2	0.8	10.7	硬質燧岩	#	#
173	70-95	63-95	#	YH L-表探	6.5	2.8	1.0	14.4	凝結燧岩類燧岩	宇石西部・#	#
174	70-96	63-96	#	YH L-表探	4.0	2.8	1.3	9.8	燧岩	宇石西部・#	#
175	71-97	63-97	燧石・ 黄鉄石	YH Ma-船渠	11.6	5.7	1.7	100.6	硬質泥岩	#・#	#
176	71-98	63-98	#	YH Lk-船渠	7.7	4.6	1.5	28.2	硬質燧岩	#・#	#
177	12-38	40-339	石<少 状器	YH Le-1住棟土 (中)	6.5	2.7	1.0	21.1	燧岩	#・#	#
178	23-12	42-380	#	YH Mb-2住棟土 (中)	9.9	5.4	2.3	95.0	硬質燧岩	#・#	#
179	26-10	42-394	#	YH Md-1住棟土	7.3	3.5	1.6	37.7	燧岩	#・#	#
180	71-99	63-99	#	YH Lg-船渠	5.4	2.7	0.8	13.5	玉髓	産地不詳	#
181	72-106	63-106	#	YH Mg-II(F)	6.6	6.1	2.0	61.7	硬質燧岩	宇石西部・中新統	#
182	71-101	63-101	#	YH Mb-II(F)	6.1	3.0	1.3	25.5	硬質燧岩	#・#	#
183	4-96	40-310	不定形 石器	YH Le-1住棟土 (下)	3.1	4.0	1.0	16.6	燧岩	#・#	#
184	4-31	40-311	#	# 堆土 (下)	3.3	4.7	0.9	14.6	燧岩	#・#	#
185	4-32	40-312	#	# 床上	3.4	1.7	1.2	4.5	凝結燧岩類燧岩	宇石西部・#	#

表11 石器・石製品一覧表(6)

No	加 番 号	原 番 号	寄 附 号	器 種	出土 地 点	測 量				石 質	産 地	備 考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
186	4-33	40-313	不定形 小石	群 器	VI Lc-1位埋土 (下)	3.8	4.2	0.9	70.5	凝灰質硬質地岩	宇石西部・中新統	
187	4-34	40-314	#	#	埋土 (下)	4.0	3.0	0.9	7.3	凝灰質硬質地岩	#	#
188	4-35	40-315	#	#	埋土 (中)	6.2	3.3	1.0	19.3	#	#	#
189	6-21	40-318	#	#	VI Lc-2位埋土 (下)	5.2	6.3	1.4	34.5	硬質地岩	#	#
190	6-22	40-319	#	#	埋土 (下)	2.7	5.2	1.0	13.6	#	#	#
191	6-24	40-321	#	#	埋土 (下)	3.8	4.9	0.8	11.0	#	#	#
192	6-25	40-322	#	#	埋土 (下)	7.1	4.0	0.6	17.9	#	#	#
193	6-36	40-323	#	#	床土	5.5	3.1	0.9	20.8	凝灰質硬質地岩	#	#
194	6-37	40-324	#	#	床土	3.2	4.0	0.95	12.0	硬質地岩	#	#
195	8-16	40-328	#	#	VI Lc-3位埋土上	6.0	5.2	0.35	23.2	凝灰質硬質地岩	#	#
196	12-35	40-340	#	#	VI Lc-1位埋土 (下)	2.0	2.2	0.6	2.8	硬質地岩	#	#
197	12-36	40-341	#	#	埋土 (上)	1.8	3.0	0.5	3.0	凝灰質硬質地岩	#	#
198	12-39	40-342	#	#	埋土 (下)	2.0	2.3	0.6	2.8	#	#	#
199	12-40	40-343	#	#	埋土 (下)	2.4	2.7	0.7	2.4	硬質地岩	#	#
200	12-41	40-344	#	#	埋土 (中)	5.3	3.0	1.2	18.0	凝灰質硬質地岩	#	#
201	12-42	40-345	#	#	埋土 (中-下)	7.0	4.1	1.4	37.9	黄砂状黄質中粒凝灰岩	宇石盆地西南域・#	
202	12-43	40-346	#	#	埋土 (下)	5.9	4.6	1.2	28.4	凝灰質硬質地岩	宇石西部・#	
203	12-44	40-347	#	#	埋土 (中)	4.5	3.1	0.6	7.9	玉髓	產地不詳	
204	12-45	41-348	#	#	埋土	3.5	5.6	1.0	17.9	硬質地岩	宇石西部・中新統	
205	12-46	41-349	#	#	埋土 (下)	3.2	3.8	0.9	9.7	結核岩	北上山地・古生界	
206	15-18	41-355	#	#	VI Lc-2位埋土 (下)	9.3	1.5	0.4	1.6	玉髓	產地不詳	
207	16-7	41-357	#	#	VI Lf位埋土(上)	2.2	3.2	0.6	4.5	硬質地岩	宇石西部・中新統	
208	16-9	41-359	#	#	埋土(中)	7.9	4.7	0.9	42.6	硬質地岩	#	#
209	17-13	41-364	#	#	VI Lg位埋土上	3.3	2.5	0.8	6.2	条状形黄中粒凝灰岩	宇石盆地西南域・#	
210	17-14	41-365	#	#	埋土(中 ~下)	6.0	3.7	0.8	10.1	凝灰質硬質地岩	宇石西部・#	
211	17-15	41-366	#	#	埋土(中)	4.2	2.4	0.7	7.1	黄砂状黄質中粒凝灰岩	宇石盆地西南域・#	
212	19-13	41-369	#	#	VI Lk位埋土(中 ~下)	3.4	4.8	1.1	14.8	硬質地岩	宇石西部・#	
213	19-14	41-371	#	#	埋土(中)	6.7	4.6	1.0	26.8	凝灰質硬質地岩	#	#
214	19-15	41-370	#	#	埋土(中 ~下)	2.5	2.6	1.1	6.1	#	#	#
215	22-13	41-378	#	#	VI Mb-1位埋土 (中)	6.7	4.6	1.8	57.8	硬質地岩	#	#
216	22-14	41-379	#	#	埋土 (上-中)	3.6	3.8	1.1	15.3	凝灰質硬質地岩	#	#
217	22-15	41-380	#	#	埋土 (下)	3.7	2.3	0.6	5.8	凝灰質硬質地岩	#	#
218	22-16	41-381	#	#	埋土 (下)	5.0	3.4	0.9	9.2	硬質地岩	#	#
219	22-17	41-383	#	#	埋土 (上-中)	8.0	6.0	1.1	58.5	#	#	#
220	23-10	42-387	#	#	VI Mb-2位埋土 (下)	3.3	3.7	1.1	9.9	基岩質硬質地岩	宇石盆地西南域・#	
221	23-11	42-384	#	#	埋土 (下)	6.1	3.9	1.1	35.1	硬質地岩	宇石西部・#	
222	24-12	42-391	#	#	VI Mc位埋土(下)	4.9	5.1	2.0	32.3	#	#	#

表12 石器・石製品一覧表(7)

No	採集 番号	写 真 番 号	器 種	出 土 地 点	計 測 値				石 質	産 地	備 考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
223	26-11	42-393	小石	Ⅷ Md - 1 住居上	4.6	4.9	0.8	16.1	硬質泥岩	宇石西部・中新統	
224	27	42-396	*	Ⅷ Md - 2 住居上 (中～下)	5.1	3.4	0.6	13.5	流紋岩質中粒凝灰岩	宇石盆地西南域・*	
225	27-9	42-397	*	" 埋土 (中～下)	4.3	4.7	1.2	32.9	硬質泥岩	宇石西部・*	
226	27-10	42-398	*	" 埋土 (中～下)	6.6	4.8	1.1	40.4	珪質砂岩	*・*	
227	29-15	42-402	*	Ⅷ Me 住居上(F)	3.9	3.4	0.4	6.6	*	*・*	
228	29-17	42-401	*	" 埋土(F)	3.7	4.1	1.2	24.5	*	*・*	
229	31-18	42-419	*	Ⅷ Mf - 1 住居上	4.6	5.0	1.2	22.7	*	*・*	
230	31-19	42-417	*	" 塚上	4.2	4.0	7.0	10.5	凝灰質泥岩	宇石盆地西南域・*	
231	32-15	43-418	*	Ⅷ Mf - 2 住居上 (中)	3.6	2.5	0.4	4.0	凝灰質硬質泥岩	宇石西部・*	
232	32-16	43-419	*	" 埋土 (下)	3.2	3.5	0.4	6.2	*	*・*	
233	32-18	43-420	*	" 塚上 (中)	5.4	6.0	0.8	19.9	*	*・*	
234	33-11	43-424	*	Ⅷ Mg 住居上(F)	3.7	2.5	0.5	3.4	流紋岩質中粒凝灰岩	宇石盆地西南域・*	
235	35-16	43-430	*	Ⅷ Na - 1 住居上 (下)	7.8	6.3	2.0	94.0	輝石安山岩	高平山・*	
236	36-4	43-432	*	Ⅷ Na - 2 埋土 (下)	4.2	2.5	0.7	6.9	珪質泥岩	宇石西部・*	
237	36-5	43-433	*	" 埋土 (中～下)	5.4	3.9	0.6	15.4	*	*・*	
238	37-7	43-439	*	Ⅷ Ne - 2 住居上 (中～下)	4.4	3.6	0.6	15.5	硬質泥岩	*・*	
239	37-10	43-441	*	" 埋土 (中～下)	7.3	4.4	1.3	36.8	*	*・*	
240	42	43-436	*	Ⅷ Mb - 3 埋土	2.1	3.3	0.7	2.45	凝灰質泥岩	宇石盆地西南域・*	
241	42-8	43-437	*	Ⅷ Mf - 3 埋土	3.0	2.7	0.4	4.2	硬質泥岩	宇石西部・*	
242	44-5	43-445	*	Ⅷ Mf ビット埋土 (中)	5.0	4.6	1.3	26.15	流紋岩質中粒凝灰岩	宇石盆地西南域・*	
243	71-102	63-102	*	Ⅷ Ne - III	6.5	2.6	1.1	14.2	土層	墓地不詳	
244	71-103	64-103	*	Ⅷ N1 - II (F)	6.7	3.3	1.3	28.2	硬質泥岩	宇石西部・中新統	
245	71-104	64-104	*	Ⅷ Lf - II	6.3	2.5	1.2	16.5	鉄石英	御手火山周辺・*	
246	71-105	64-105	*	Ⅷ Lh - 棺屋	5.4	2.4	0.9	6.9	珪質泥岩	宇石西部・*	
247	71-106	64-106	*	Ⅷ Lg - II	4.9	3.5	1.2	19.8	*	*・*	
248	71-107	64-107	*	Ⅷ Mj - II	4.2	2.9	1.1	9.7	硬質泥岩	*・*	
249	71-108	64-108	*	Ⅷ Mf - II	4.7	2.5	0.6	8.8	赤紅岩質粘板状凝灰岩	宇石西南部・*	
250	71-109	64-109	*	Ⅷ Lg - II (F)	4.3	2.8	0.7	6.7	珪質泥岩	宇石盆地西南域・*	
251	71-110	64-110	*	Ⅷ Mb - II (F)	5.6	3.9	1.1	22.2	凝灰質硬質泥岩	宇石西部・*	
252	71-111	64-111	*	Ⅷ Na - II (F)	4.1	4.3	0.8	14.7	硬質泥岩	*・*	
253	71-112	64-112	*	Ⅷ Me - II (F)	7.0	3.6	1.3	24.9	珪質泥岩	*・*	
254	72-113	64-113	*	Ⅷ Mn - II ~ III	6.5	5.0	1.7	59.3	硬質泥岩	*・*	
255	72-114	64-114	*	Ⅷ Lf - II (F)	6.2	3.2	1.3	27.1	*	*・*	
256	72-115	64-115	*	Ⅷ Nb - II	3.7	2.2	0.8	5.4	*	*・*	
257	72-116	64-116	*	Ⅷ Lf - 棺屋	3.4	2.0	0.9	6.3	珪質泥岩	*・*	
258	72-117	64-117	*	Ⅷ Lk - 表掘	3.6	2.3	0.8	7.5	玉髓	墓地不詳	
259	72-118	64-118	*	Ⅷ Ma - II (F)	4.8	3.1	0.8	8.0	凝灰質泥岩	宇石盆地西南域・中新統	

表13 石器・石製品一覽表(8)

No	図版 番号	写真 番号	器種	出土地点	計測値				石質	産地	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
260	72-119	64-119	玉石 VIL J - II		3.8	3.3	0.5	5.7	瑠璃岩	宇石西部・中新統	
261	72-120	64-120	#	VII Mg - II (F)	6.4	5.0	1.5	33.1	#	#	#
262	72-121	64-121	#	VII Mb - II (F)	4.5	3.6	1.2	13.6	凝灰質瑠璃岩	#	#
263	72-122	64-122	#	VII Mb - II (F)	5.7	3.5	0.8	16.7	瑠璃岩	#	#
264	72-123	64-123	#	VII Mf - 4 焼土	3.3	4.0	0.9	15.5	瑠璃岩	#	#
265	72-124	64-124	#	VII Mj - II (F)	5.1	3.7	1.2	14.3	#	#	#
266	72-125	64-125	#	VII Mc - III (上)	4.7	4.5	0.8	14.3	#	#	#
267	72-126	64-126	#	VII Mg - II (F)	6.9	4.0	1.7	39.4	凝灰質瑠璃岩 灰岩	宇石西部・#	
268	72-127	64-127	#	VII Ld - 粗粒	6.5	5.5	1.5	45.4	凝灰質瑠璃岩	宇石西部・#	
269	72-128	64-128	#	VII Ne - II (中 下)	4.5	4.3	0.8	14.3	瑠璃岩	#	#
270	72-129	64-129	#	VII Lj - 奥探	3.8	2.4	1.9	7.4	瑠璃質微結晶 灰岩	宇石地西南部・#	
271	72-130	64-130	#	VII Mb - II (F)	3.3	2.9	0.8	6.8	瑠璃岩	宇石西部・#	
272	72-131	64-131	#	VII Lk - 粗粒	4.3	3.3	1.1	11.4	凝灰質瑠璃岩	#	#
273	72-132	64-132	#	VII Lk - 粗粒	4.0	3.7	1.3	10.6	#	#	#
274	73-133	64-133	#	VII Ne - II	5.5	4.0	1.8	36.1	凝灰質瑠璃岩	#	#
275	73-134	64-134	#	VII Mg - II (F)	5.9	3.1	1.0	18.1	瑠璃岩	#	#
276	73-135	64-135	#	VII Mg - II (F)	4.8	3.4	1.6	3.6	瑠璃岩	#	#
277	73-136	64-136	#	VII Lb - II (F)	5.5	2.1	1.1	11.7	凝灰質瑠璃岩	#	#
278	73-137	64-137	#	VII Lj - II	7.2	3.8	1.1	21.4	瑠璃岩	#	#
279	73-138	64-138	#	VII Mj - II	6.3	3.4	0.9	16.2	瑠璃岩	#	#
280	73-139	64-139	#	VII Mj - II	6.0	4.4	1.3	24.9	瑠璃岩	#	#
281	73-140	64-140	#	VII Lj - 奥探	5.1	3.2	0.9	12.4	凝灰質瑠璃岩	#	#
282	73-141	64-141	#	VII Md - II (F)	8.2	5.2	1.4	45.3	瑠璃岩	#	#
283	73-142	64-142	#	VII Ld - 粗粒	7.0	3.7	1.3	29.4	凝灰質瑠璃岩	#	#
284	73-143	64-143	#	VII Mg - II	5.9	3.5	1.1	26.8	瑠璃岩	#	#
285	73-144	65-144	#	VII Kf - II	5.5	4.0	1.6	33.3	凝灰質瑠璃岩	#	#
286	73-145	65-145	#	VII Lk - II	6.4	4.8	1.4	36.9	瑠璃岩	#	#
287	73-146	65-146	#	VII Mf - II	6.2	4.5	2.6	45.5	瑠璃岩	#	#
288	73-147	65-147	#	VII Lf - II	4.8	4.1	0.8	13.7	瑠璃岩	#	#
289	73-148	65-148	#	VII Lk - 粗粒	5.0	3.2	1.3	14.7	瑠璃岩	#	#
290	74-149	65-149	#	VII Me - 粗粒	5.1	4.1	1.2	31.9	瑠璃岩	#	#
291	74-150	65-150	#	VII Mc - II (F)	5.6	5.6	1.5	33.9	#	#	#
292	74-151	65-151	#	VII Lp - 粗粒	3.8	2.7	1.8	15.4	凝灰質瑠璃岩	#	#
293	74-152	65-152	#	VII Ni - II (F)	4.5	4.2	1.2	23.6	凝灰質瑠璃岩 灰岩	宇石西部・#	
294	74-153	65-153	#	VII Lg - II (F)	4.4	5.0	0.8	16.4	凝灰質瑠璃岩	宇石西部・#	
295	74-154	65-154	#	VII Lk - 奥探	5.8	5.8	1.3	32.9	#	#	#
296	74-155	65-155	#	VII Lk - 粗粒	5.9	6.3	1.3	39.4	#	#	#

表14 石器・石製品一覽表(9)

No	図 版 番 号	写 真 号	器 種	出 土 地 点	計 測 値				石 質	産 地	備 考
					長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
297	74-156	65-156	不定形器	Ⅷ Mf-II	5.8	6.4	1.6	49.0	埴貫泥岩	等石西部・中新統	
298	74-157	65-157	#	Ⅷ Mb-II(F)	4.7	4.8	1.2	28.4	凝灰質硬質砂岩	#・#	
299	74-158	65-158	#	Ⅷ Mj-II	4.6	5.5	1.3	27.2	凝灰質硬質砂岩	#・#	
300	74-159	65-159	#	Ⅷ Ma-II(F)	4.4	5.1	0.8	15.4	硬質泥岩	#・#	
301	74-160	65-160	#	Ⅷ Lk-II	3.3	3.8	0.9	10.0	#	#・#	
302	74-161	65-161	#	Ⅷ Mf-II	4.3	5.2	1.4	20.8	#	#・#	
303	74-162	65-162	#	Ⅷ Ma-II(F)	3.2	3.7	1.1	13.0	玉髓	産地不詳	
304	74-163	65-163	#	Ⅷ Mf-II	4.1	4.8	1.0	13.6	硬質泥岩	等石西部・中新統	
305	74-164	65-164	#	Ⅷ Lf-II	4.3	5.9	0.7	13.4	埴貫泥岩	#・#	
306	75-165	65-165	#	Ⅷ Mn-II(F)	5.8	6.4	1.5	53.0	軟石英	等石火山周辺・第四系	
307	75-166	65-166	#	Ⅷ Na-II(中)	3.9	3.8	0.9	11.0	凝灰質硬質砂岩	等石西部・中新統	
308	75-167	65-167	#	Ⅷ Mf-II(F)	3.5	3.7	0.8	11.6	硬質泥岩	#・#	
309	75-168	65-168	#	Ⅷ Mp-Ⅱ(上)	4.4	5.8	1.1	29.2	埴貫泥岩	#・#	
310	75-169	65-169	#	Ⅷ Nl-II(F)	6.7	6.9	1.3	37.8	凝灰質硬質砂岩	#・#	
311	75-170	65-170	#	Ⅷ Me-II(F)	3.6	4.0	1.1	14.6	凝灰質硬質砂岩	#・#	
312	75-171	65-171	#	Ⅷ Mc-II(F)	4.7	5.7	0.7	15.7	#	#・#	
313	75-172	65-172	#	Ⅷ Mf-II(F)	2.8	2.5	0.4	3.6	#	#・#	
314	75-173	65-173	#	Ⅷ Ll-粗鱗	2.5	2.7	0.9	5.5	軟石英	等石火山周辺・第四系	
315	75-174	65-174	#	Ⅷ Lc-粗鱗	3.9	5.0	1.9	31.0	凝灰質硬質砂岩	等石西部・中新統	
316	75-175	65-175	#	Ⅷ Na-II(中)	5.7	5.1	1.7	35.0	硬質泥岩	#・#	
317	75-176	65-176	#	Ⅷ Lh-II	3.8	4.0	1.3	14.7	#	#・#	
318	75-177	65-177	#	Ⅷ Lk-粗鱗	2.8	6.3	1.0	20.2	埴貫泥岩	#・#	
319	75-178	65-178	#	Ⅷ Mb-Ⅱ(上)	2.6	2.8	0.8	5.7	凝灰質硬質砂岩	#・#	
320	75-179	65-179	#	Ⅷ Nl-II(F)	4.9	4.4	1.3	19.8	玉髓	産地不詳	
321	75-180	65-180	#	Ⅷ Na-II(中)	4.3	4.9	2.0	33.5	玻璃質流紋岩	等石盆地西南域・中新統	
322	75-181	65-181	#	Ⅷ Ne-II	3.4	3.3	0.7	4.9	硬質泥岩	等石西部・#	
323	75-182	65-182	#	Ⅷ Mc-Ⅱ(上)	3.6	4.3	0.5	6.4	埴貫泥岩	#	
324	75-183	65-183	#	Ⅷ Mf-II(F)	2.8	4.3	0.8	6.1	凝灰質硬質砂岩	#・#	
325	76-184	66-184	#	Ⅷ Nm-II(F)	3.8	5.7	0.8	15.1	凝灰質硬質砂岩	#・#	
326	76-185	66-185	#	Ⅷ Lh-粗鱗	3.8	5.5	1.6	26.1	埴貫泥岩	#・#	
327	76-186	66-186	#	Ⅷ Ne-II	4.5	6.1	1.2	14.5	#	#・#	
328	76-187	66-187	#	Ⅷ Le-粗鱗	2.6	3.6	1.0	6.6	凝灰質硬質砂岩	#・#	
329	76-188	66-188	#	Ⅷ Lf-粗鱗	3.1	5.1	1.2	14.9	#	#・#	
330	76-189	66-189	#	Ⅷ Lf-粗鱗	3.6	4.5	1.2	15.5	凝灰質硬質砂岩	#・#	
331	76-190	66-190	#	Ⅷ Me-粗鱗	4.1	4.1	1.9	15.5	#	#・#	
332	76-191	66-191	#	Ⅷ Mx-II(F)	4.5	5.0	1.2	23.8	#	#・#	
333	76-192	66-192	#	Ⅷ Lf-粗鱗	5.5	6.6	1.8	46.2	#	#・#	

表15 石器・石製品一覽表(10)

( )は現存地

No	図 番 号	写 真 番 号	器 種	出 土 地 点	計 測 値				石 質	備 考	
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
334	76-193	66-193	不 定 形 器	VII Na - II(下)	2.6	4.0	0.7	6.8	硬質泥岩	堺市西南部・中新統	
335	76-194	66-194	〃	VII Lg - 粗燧	3.3	5.3	1.0	12.3	凝灰質硬質泥岩	〃	
336	76-195	66-195	〃	VII Ni - II(中 下)	3.0	3.5	0.8	8.2	凝灰泥岩	〃	
337	76-196	66-196	〃	VII Le - 黄燧	6.5	4.8	0.9	35.5	凝灰質硬質泥岩	〃	
338	76-197	66-197	〃	VII Mf - II(上)	4.6	3.9	1.3	18.3	硬質泥岩	〃	
339	76-198	66-198	〃	VII Lf - II	4.3	3.2	1.1	15.9	凝灰泥岩	〃	
340	76-199	66-199	〃	VII Ne - II	4.3	3.7	1.4	21.0	凝結色凝灰質泥岩	堺市西南部・〃	
341	76-200	66-200	〃	VII Ni - 粗燧	3.9	3.0	1.4	10.5	凝灰質硬質泥岩	堺市西部・〃	
342	77-201	66-201	〃	VII Lg - 黄燧	3.9	3.0	1.3	12.7	硬質泥岩	〃	
343	77-202	66-202	〃	VII Ld - II(下)	5.1	2.9	0.9	8.8	珪質泥岩	〃	
344	77-203	66-203	〃	VII Lj - III(上)	3.3	4.2	1.0	14.0	玉髓	産地不詳	
345	77-204	66-204	〃	VII Mf - II	3.9	3.0	0.9	10.8	珪質泥岩	堺市西部・中新統	
346	77-205	66-205	〃	VII Mg - II(下)	2.6	2.2	0.9	5.7	凝灰質硬質泥岩 凝灰質硬質泥岩	堺市西南部・〃	
347	77-206	66-206	〃	VII Ne - II	3.4	2.1	0.8	5.0	〃	〃	
348	77-207	66-207	〃	VII Mg - II(下)	4.3	2.9	0.8	7.8	凝灰質硬質泥岩	堺市西部・〃	
349	77-208	66-208	〃	VII Me - II	2.9	3.6	1.3	12.8	凝灰質泥岩	堺市盆地西南部・〃	
350	77-209	66-209	〃	VII Ni - II(下)	1.9	2.65	0.4	1.7	鉄板片	北上山地・古生界	
351	77-210	66-210	〃	VII Lg - 黄燧	3.0	1.8	0.9	3.9	凝灰質泥岩	〃	
352	77-211	66-211	〃	VII Li - III(上)	2.9	2.3	0.6	3.2	硬質泥岩	堺市西部・中新統	
353	77-212	66-212	〃	VII L - 黄燧	2.3	2.5	0.7	2.9	凝灰質硬質泥岩	〃	
354	77-213	66-213	〃	VII Lg - 粗燧	4.0	3.2	0.7	5.9	硬質泥岩	〃	
355	77-214	66-214	〃	VII Mg - II(上)	3.5	2.3	0.4	3.5	凝灰質硬質泥岩	〃	
356	77-215	66-215	〃	VII Mg - II(下)	3.3	2.4	0.8	4.1	硬質泥岩	〃	
357	77-216	66-216	〃	VII Ni - II(下)	2.8	2.6	1.0	6.5	玉髓	産地不詳	
358	15-16	41-356	石積石器	VII Le - 2 住床上	6.3	4.8	5.7	210	〃	〃	原石
359	22-18	41-382	〃	VII Mb - 1 住床上 (下)	11.3	8.5	9.5	790	凝灰質硬質泥岩	堺市西部・中新統	原石
360	33-14	43-426	〃	VII Mg 住床上(下)	9.8	7.9	6.8	620	硬質泥岩	〃	原石
361	17-17	41-367	石 杖	VII Lg 色燧土(中)	9.5	5.9	7.3	444	玉髓	産地不詳	
362	44-4	43-444	〃	VII Mf ビット 燧土 (中)	6.9	7.8	2.3	115	凝灰質硬質泥岩 凝灰質硬質泥岩	堺市西南部・中新統	
363	77-217	66-217	〃	VII Lg - II(下)	8.1	6.1	4.3	220	珪質泥岩	堺市西部・〃	
364	77-218	66-218	〃	VII Mf - II	3.7	2.7	5.1	40.5	硬質泥岩	〃	
365	77-219	66-219	〃	VII Mf - II	5.5	3.7	2.1	46.5	〃	〃	
366	77-220	66-220	〃	VII Lg - II(下)	5.1	4.3	2.3	38.7	珪質泥岩	〃	
367	77-221	66-221	異形石器	VII Ld - 黄燧	1.5	2.1	0.3	0.6	〃	〃	
368	6-28	30-41	磨製石器	VII Le - 2 住床上	12.8	4.5	3.0	150	凝灰質硬質泥岩	北上山地・古生界	
369	6-29	30-42	〃	〃 住床上	15.5	4.2	3.1	320	凝灰質泥岩	堺市西南部・中新統	



表16 石器・石製品一覧表(II)

( )は埋蔵品

No	遺 跡 番 号	寄 真 番 号	樹 形	出土地点	引 綫 図				石 質	産 地	備 考
					長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ(g)			
370	6-31	30-43	磨製心斧	VI Le-3 生土上 (下)	11.7	3.7	2.4	225	粘板岩ホルンブルス	北上山地・古生界	
371	8-17	31-58	※	VI Le-3 生土上	14.4	3.7	2.4	5.1	緑色粗肉燧石質灰岩	磐石西南部・中新統	
372	8-15	31-59	※	埋土 (下)	(9.7)	(0.7)	(0.6)	3.2	濃緑色細粒凝灰岩	磐石西南部・※	
373	13-47	32-94	※	VII Le-1 生土上	(4.6)	(3.5)	1.9	42.3	粗粒玄武岩	磐石西南部・※	
374	13-48	32-95	※	床面	(7.1)	4.2	2.3	100	角閃石英安山岩	磐石池田東縁部・※	
375	26-13	35-189	※	VIII Md-1 埋土上	(6.4)	3.9	2.3	105	※	※	
376	28-18	36-211	※	VIII Me 埋土上 (下)	(4.3)	3.4	1.8	43	緑色粗肉燧石質灰岩	磐石西南部・※	
377	29-19	36-212	※	埋土 (下)	8.5	3.4	1.1	50.4	緑緑色燧石質下枝岩	北上山地・古生界	
378	32-19	32-236	※	VIII Mf-2 埋土上 (下)	(4.2)	3.1	1.4	24.2	緑色粗肉燧石質灰岩	磐石西南部・中新統	
379	35-17	38-226	※	VIII Na-1 埋土上 (中～下)	(2.9)	2.3	1.2	13.3	濃緑色細粒凝灰岩	磐石西南部・※	
380	78-1	67-1	小形磨製心斧	VIII Me-II	5.3	2.5	0.8	18.3	濃緑色粘板岩	北上山地・古生界	
381	78-2	67-2	※	VIII Lg-II (下)	3.5	2.1	0.9	15.8	※	※	
382	78-3	67-3	※	VIII Ne II (中)	3.2	1.7	0.6	6.6	粘板岩ホルンブルス	※	
383	78-4	67-4	※	VIII Mf-II (下)	(2.4)	2.4	1.0	8.3	粗砂質凝灰岩	磐石西南部・中新統	
384	78-5	67-5	磨製心斧	VIII Na-II (下)	8.2	3.7	1.5	65	粘板岩ホルンブルス	北上山地・古生界	
385	78-6	67-6	※	VIII Mf-II	13.8	4.3	2.8	260	粗粒玄武岩	磐石西南部・中新統	
386	78-7	67-7	※	VIII Mb-II (下)	11.8	4.9	2.3	223	※	※	
387	78-8	67-8	※	VIII Mf-II (下)	9.5	3.6	2.1	105	濃緑色粘板岩	北上山地・古生界	
388	78-9	67-9	※	VIII Lh-II (下)	(4.0)	(3.4)	2.1	44.6	粗粒玄武岩	磐石西南部・中新統	
389	78-10	67-10	※	VIII Mb-II (下)	(5.7)	4.0	2.3	80	※	※	
390	78-11	67-11	※	VIII Mb-II (下)	(6.0)	4.5	2.6	132	※	※	
391	78-12	67-12	※	VIII Mn-II (下)	(7.4)	4.0	2.2	115	※	※	
392	78-13	67-13	※	VIII Mb-II	(9.7)	4.4	2.3	142	緑色粗肉燧石質灰岩	※	
393	78-14	67-14	※	VIII Ne-II (下)	(4.9)	3.9	2.1	56.9	※	※	
394	78-15	67-15	※	VIII Mf-II (下)	(5.4)	(4.4)	1.4	46.7	凝灰質チャート	北上山地・古生界	
395	79-16	67-16	※	VIII Lg-II (下)	(19.9)	5.7	3.7	275	単緑色粘板岩	※	
396	79-17	67-17	※	VIII Me-粗粒	(7.8)	3.7	2.4	120	緑色粗肉燧石質灰岩	磐石西南部・中新統	
397	79-18	67-18	※	VIII Lg-II (下)	(5.9)	3.7	2.5	76	濃緑色細粒凝灰岩	磐石西南部・※	
398	79-19	67-19	※	VIII Me-II	(5.4)	3.8	2.2	57	緑色粗肉燧石質灰岩	磐石西南部・※	
399	79-20	67-20	※	VIII Md-II	(8.3)	5.3	(2.7)	203	※	※	
400	79-21	67-21	※	VIII Mn-III (上)	(8.0)	5.3	2.7	163	※	※	
401	79-22	67-22	※	VIII Ld 粗粒	(8.7)	5.4	2.7	210	※	※	
402	79-23	67-23	※	VIII Me-II	(7.9)	4.6	2.5	116	斜長石質凝灰岩	※	
403	79-24	67-24	※	VIII Mf-II (下)	(7.3)	4.6	2.2	139	粗粒玄武岩	※	
404	79-25	67-25	※	VIII Ma-II (下)	(5.9)	4.6	2.3	110	※	※	
405	79-26	67-26	※	VIII Ne-粗粒	(3.8)	4.8	2.2	44.9	濃緑色細粒凝灰岩	磐石西南部・※	
406	79-27	67-27	※	VIII Mf-II (下)	(7.5)	4.8	2.8	175	粗粒玄武岩	磐石西南部・※	

表17 石器・石製品一覧表(2)

( )は発行済

No	図版番号	写真番号	器種	出土地点	計 測 値				石 質	産 地	備 考
					長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
407	79-28	67-28	磨製石斧	VII Lk-II	8.8	4.5	2.5	150	新収岩ヘルンフェルス	北上山地・古生界	
408	79-29	67-29	"	VII Mn-II(下)	8.4	4.0	2.4	145	緑色絹糸麻織成	宇石西南部・中新統	
409	79-30	67-30	"	VII Mb-II-III	8.7	3.7	2.2	106	凝灰質チャート	北上山地・古生界	
410	16-10	33-121	打製石斧	VII Lf 住棟土(下)	(9.1)	6.7	3.3	300	角閃石英安山岩	宇石盆地東部・中新統	
411	80-31	67-31	"	VII Ma-細網	(10.6)	4.3	3.5	233	暗緑色角閃岩	北上山地・古生界	
412	80-32	67-32	"	VII Me-粗網	(7.7)	4.4	2.7	142	淡緑色凝灰岩	"	
413	80-33	67-33	"	VII Lf-II(下)	(8.6)	5.8	4.0	320	アルコース砂岩	"	
414	80-34	68-34	石 斧 状 器	VII Mj-II(下)	15.5	11.0	1.9	425	淡緑色凝灰質千枚岩	"	
415	9-7	31-66	凹 石	VII Ld 住棟土(上)	8.6	10.5	4.8	375	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・第四系	
416	37-11	38-279	"	VII Ne-2 住棟土	11.7	7.4	4.7	679	角閃石英安山岩燻岩	岩手火山・"	磨石費用
417	42-2	39-288	"	VII Mb-3 燻土	3.3	4.0	1.4	29.5	凝灰岩質中粒凝灰岩	宇石盆地西南部・中新統	
418	80-35	68-35	"	VII Ne-II(中～下)	6.3	8.1	3.1	270	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・第四系	
419	80-36	68-36	"	VII Md-II(下)	(7.2)	5.9	2.5	180	"	"	
420	80-37	68-37	"	VII Mn-II	(6.6)	5.4	3.0	140	"	"	
421	80-38	68-38	"	VII Mg-II(下)	10.3	7.1	4.6	475	"	"	
422	80-39	68-39	"	VII Mg-III(上)	9.5	7.2	4.0	415	"	"	
423	81-40	68-40	"	VII Lf-II(下)	12.6	10.6	7.2	1,060	角閃石英安山岩燻岩	岩手火山・"	
424	81-41	68-41	"	VII Lk-II(下)	10.9	8.8	7.2	1,050	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・"	
425	81-42	68-42	"	VII Lf-II(下)	18.9	(12.6)	8.6	1,420	角閃石英安山岩燻岩	岩手火山・"	
426	81-43	68-43	"	VII Ne-II	16.4	12.7	6.8	979	"	"	
427	4-36	29-29	磨 石	VII Lc-1 住棟土	11.0	9.2	7.8	1,140	石英英安山岩	宇石南部・中新統	磨石費用
428	4-27	29-21	"	燻土(下)	7.5	7.1	5.2	430	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・第四系	
429	8-18	31-60	"	VII Le-3 住棟土	9.1	7.0	1.6	180	白色細粒凝灰岩	宇石西南部・中新統	板状
430	13-49	32-96	"	VII Le-1 住棟土(下)	6.4	6.2	4.9	340	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・第四系	
431	15-19	33-112	"	VII Le-2 住棟土	7.5	6.3	6.5	439	"	"	
432	15-20	33-113	"	" 床上	9.6	8.6	4.8	535	"	"	
433	17-16	33-131	"	VII Lg 住棟土(下)	10.0	8.2	4.6	506	"	"	
434	19-17	34-144	"	VII Lk 住棟土	11.5	10.3	6.2	1,115	"	"	
435	20-11	34-151	"	VII Mn 住棟土(下)	(7.3)	3.4	2.3	87	赤状岩質粗粒凝灰岩	宇石西南部・中新統	
436	27-11	36-197	"	VII Md-2 住棟土	(8.1)	6.8	4.0	265	石英燻岩	北上山地・中生界	
437	31-21	37-226	"	VII Mf-1 住棟土(下)	20.1	4.9	3.7	530	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・第四系	磨石・磨尾をもつ
438	35-31	38-269	"	VII Ne-1 住棟土	(6.7)	(3.7)	3.9	98	"	"	
439	37-12	38-280	"	VII Ne-2 住棟土	10.4	6.8	7.8	675	石英英安山岩	宇石南部・中新統	石製(?)
440	37-13	38-281	"	VII Ne-3 住棟土(中～下)	5.0	2.2	2.0	35.6	赤状岩質中粒凝灰岩	宇石盆地西南部・"	
441	43-13	39-297	"	VII Me 燻土	9.6	7.6	4.4	490	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・第四系	
442	42-10	39-295	"	VII Mj 燻土	5.2	1.4	2.0	20.2	赤状岩質中粒凝灰岩	宇石盆地西南部・中新統	
443	81-44	68-44	"	VII Ld-II(下)	10.9	8.6	5.8	800	角閃石英安山岩	岩手火山周辺・第四系	

表 18 石器・石製品一覧表(3)

( )は残存数

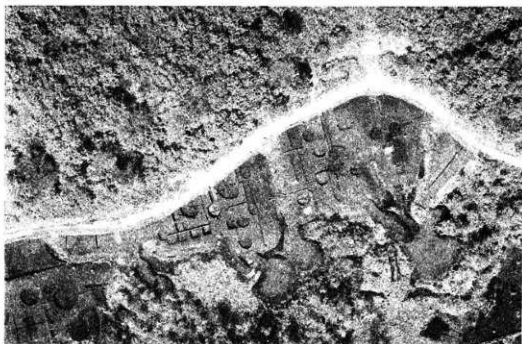
No	図版 番号	写真 番号	器種	出土地点	計 測 値			石 質	産 地	備 考	
					長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)				重さ(g)
444	81-45	88-45	磨石	VII L-Ⅰ	6.2	5.7	2.5	135	細砂質凝灰岩	磐石西南部・中新統	
445	81-46	88-46	〃	VIII Ne-Ⅱ	9.0	7.8	4.3	415	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・第四系	
446	81-47	88-47	〃	VIII Li-粗粒	10.0	9.1	7.2	860	〃	〃	〃
447	81-48	88-48	〃	VII Mp-Ⅱ(上)	10.1	6.2	5.9	350	〃	〃	〃
448	81-49	88-49	〃	VIII Mj-Ⅱ	13.1	8.9	6.3	995	〃	〃	〃
449	82-50	88-50	〃	VII Mp-Ⅲ(上)	10.4	7.5	5.3	590	〃	〃	〃
450	82-51	88-51	〃	VIII Lh-Ⅱ	9.4	8.1	6.6	720	〃	〃	〃
451	82-52	88-52	〃	VIII Me-Ⅱ	9.2	8.8	7.6	84.0	〃	〃	〃
452	82-53	89-53	〃	VII Mp-Ⅲ(上)	9.8	8.0	(3.7)	430	〃	〃	〃
453	82-54	89-54	〃	VIII Lh-Ⅱ(下)	12.5	(9.3)	(4.6)	595	〃	〃	〃
454	82-55	89-55	〃	VIII Mc-Ⅱ(下)	15.9	5.1	3.6	430	粗粒玄武岩	磐石西南部・中新統	
455	82-56	89-56	〃	VIII Mk-粗粒	14.7	5.2	3.0	380	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・第四系	
456	82-57	89-57	〃	VIII Mb-Ⅱ-Ⅲ	13.8	4.4	2.2	290	粗砂質凝灰岩	磐石西南部・中新統	
457	82-58	89-58	〃	VII Ne-Ⅱ(下)	18.9	5.7	2.5	306	〃	〃	〃
458	82-59	89-59	〃	VIII Nf-Ⅱ(下)	10.0	4.9	2.6	225	粗粒玄武岩	〃	〃
459	82-60	89-60	〃	VIII Na-Ⅱ(中)	14.4	5.8	3.0	1,390	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・第四系	
460	82-61	89-61	〃	VIII Ne-Ⅱ(下)	15.5	7.1	2.5	395	粗粒玄武岩	磐石西南部・中新統	
461	82-62	89-62	〃	VIII Mf-Ⅱ(下)	(9.7)	7.5	3.1	390	〃	〃	〃
462	82-63	89-63	〃	VIII Ni-Ⅱ(下)	14.2	9.3	3.9	545	輝石母岩	北上山地・古生界	
463	83-64	89-64	〃	VIII Me-Ⅱ(下)	16.0	7.2	6.3	775	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・第四系	
464	83-65	89-65	〃	VII Kf-粗粒	10.8	4.9	6.5	500	粘板岩	北上山地・古生界	
465	83-66	89-66	〃	VIII Mj-粗粒	8.1	5.6	4.7	315	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・第四系	
466	83-67	89-67	閃輝石 母岩	VII Ne-Ⅱ(下)	13.2	10.7	1.9	470	細砂質凝灰岩	磐石西南部・中新統	
467	83-68	89-68	〃	VII Md-Ⅱ(下)	22.0	15.8	4.5	2,325	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・第四系	
468	6-30	30-44	敲石	VIII Lc-2住棟上 (上)	13.2	6.5	4.5	616	〃	〃	〃
469	13-52	32-99	石 刀	VIII Le-1住棟上 (下)	22.2	7.2	2.0	510	淡緑色凝灰質千枚岩	北上山地・古生界	
470	35-29	38-267	石 剣	VIII Ne-1住棟上 (下)	(5.8)	(5.0)	1.8	61	粘板岩	〃	〃
471	83-69	89-69	石 刀	VII Lf-Ⅱ	32.3	5.2	2.5	440	淡緑色凝灰質凝灰岩	磐石西南部・中新統	
472	83-70	89-70	〃	VII Md-Ⅱ(上)	(14.7)	2.3	0.8	99	粘板岩	北上山地・古生界	
473	83-71	89-71	〃	VIII Mj-Ⅱ	(13.5)	2.2	0.7	50	淡緑色凝灰質千枚岩	〃	〃
474	4-38	23-22	石 皿	VIII Lc-1住棟上	40.5	24.0	9.3	9,000	凸状片質閃輝石凝灰岩	磐石西南部・中新統	
475	6-32	30-45	〃	VIII Lc-2住棟上	(16.5)	29.3	5.6	2,420	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・第四系	
476	8-19	31-60	〃	VIII Lc-3住棟上	(9.8)	(6.4)	3.3	185	閃輝石安山岩	磐手火山・〃	
477	13-50	32-97	〃	VIII Le-1住棟上	(18.2)	(16.7)	5.8	1,770	閃輝石安山岩	磐手火山周辺・〃	
478	13-51	32-98	〃	〃 燻土 (上)	(12.7)	(7.3)	(7.8)	1,030	〃	〃	〃
479	13-53	32-100	〃	〃 燻土 (下)	27.2	15.0	6.2	2,390	閃輝石安山岩	磐手火山・〃	
480	15-21	33-114	〃	VIII Le-2住棟上	25.6	21.8	4.5	4,940	石英安山岩	磐石南部・中新統	

表19 石器・石製品一覧表04

( )は推定値

No.	河原番号	発掘番号	器種	出土地点	計測値				石質	産地	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
481	16-11	33-177	石皿	VII Lf 住地土(下)	(27.0)	(15.6)	4.8	3,496	岡輝石安山岩	岩手火山周辺・東四手	
482	23-19	34-183	〃	VII Mb - 1 住地土(中)	23.2	15.5	9.7	4,330	岡輝石安山岩燻物	岩手火山・〃	
483	22-20	34-182	〃	〃 住地土(下)	(13.4)	(20.3)	5.7	815	〃	〃	
484	23-13	35-172	〃	VII Mb - 2 住地土	28.5	19.9	9.6	5,830	岡輝石安山岩	岩手火山周辺・〃	
485	29-20	36-213	〃	VII Me 住地土	(8.7)	16.8	4.3	1,140	〃	〃	
486	29-21	36-214	〃	〃 住地土(下)	(13.3)	18.6	2.2	520	〃	〃	
487	31-20	37-225	〃	VII Mf - 1 住地土(下)	14.1	6.2	1.8	225	〃	〃	
488	37-14	38-282	〃	VII Ne - 2 住地土(中・下)	15.2	14.7	2.1	600	〃	〃	
489	43-12	39-296	〃	VII Lh 焼土	11.9	7.8	3.0	230	岡輝石安山岩燻物	岩手火山・〃	
490	43-14	39-298	〃	VII Me 焼土	(13.5)	(8.9)	7.5	600	〃	〃	
491	84-73	70-73	〃	VII Mb - II(下)	(16.8)	(17.2)	4.1	1,530	白色細粒凝灰岩	岩手西南部・中新統	
492	84-74	70-74	〃	VII Mf - II	13.7	7.5	9.3	770	岡輝石安山岩燻物	岩手火山・東四手	
493	84-75	70-75	〃	VII Na - II(下)	15.5	13.3	4.3	985	〃	〃	
494	84-76	70-76	〃	VII Lk - II	(14.0)	(6.5)	3.3	355	岡輝石安山岩	岩手火山周辺・〃	
495	84-77	70-77	〃	VII Lf - III燻	10.5	19.2	4.6	322	岡輝石安山岩燻物	岩手火山・〃	
496	84-78	70-78	〃	VII Lf - II	(22.5)	(15.2)	6.1	3,130	岡輝石安山岩	岩手火山周辺・〃	
497	84-79	70-79	〃	VII Me - II(下)	(15.5)	(10.6)	9.8	1,265	岡輝石安山岩燻物	岩手火山・〃	
498	84-80	70-80	〃	VII Ne - II	(11.4)	8.3	5.7	290	〃	〃	
499	84-81	70-81	〃	VII Lf 燻物	(12.0)	(6.4)	5.6	340	〃	〃	
500	85-82	70-82	〃	VII Lh - II(F)	(17.4)	(8.2)	4.7	510	角閃黒曜母花崗岩	北上山地・中世帯	
501	85-83	70-83	〃	VII Na - III燻	(19.9)	(15.0)	4.2	1,385	石英安山岩	岩手南部・中新統	
502	85-84	70-84	〃	VII Lk - II(下)	25.0	17.3	4.0	1,300	白色細粒凝灰岩	岩手西南部・〃	
503	85-85	70-85	〃	VII Lx - III(上)	30.4	26.5	6.0	4,369	珪質凝岩	岩手西部・〃	
504	85-86	70-86	〃	VII Lk - II	25.6	22.0	3.5	2,930	岡輝石安山岩	岩手火山周辺・〃	
505	85-87	70-87	〃	VII Lf - II(下)	32.7	26.5	6.5	5,940	〃	〃	
506	85-88	70-88	〃	VII Ma - II(下)	(21.0)	(17.0)	4.9	2,160	角閃石英安山岩質浮石	岩手南西部・〃	
507	85-89	70-89	〃	VII Mb - II(下)	(23.5)	22.3	5.7	3,190	岡輝石安山岩	岩手火山周辺・〃	
508	8-33	30-46	中高石皿	VII Lc - 2 住地土	14.0	10.9	8.3	1,360	〃	〃	
509	29-16	34-143	碇石	VII Lk 住地土(中・下)	10.7	8.5	6.4	285	岡輝石安山岩燻物	岩手火山・〃	
510	44-3	39-292	〃	VII Mf ネット焼土(中)	(9.0)	6.6	1.8	83	白色細粒凝灰岩	岩手西南部・〃	
511	85-90	70-90	〃	VII Na - III燻	10.0	6.3	7.3	336	岡輝石安山岩燻物	岩手火山・〃	
512	85-91	70-91	〃	VII Me - II	16.0	8.7	2.9	495	珪質凝灰岩	岩手西南部・〃	
513	37-15	39-283	碇石	VII Ne - 2 住地土	10.4	4.4	2.8	170	岡輝石安山岩	岩手火山周辺・〃	
514	20-10	34-151	打製石	VII Mn 住地土(下)	3.9	2.9	1.1	23.0	玉髓	産地不詳	
515	20-18	38-257	打製石製品	VII Na - 1 住地土	2.4	2.5	2.2	19.6	珪質中粒凝灰岩	岩手盆地河内城・中新統	
516	25-30	38-268	打製石製品	VII Ne - 1 住地土	3.2	3.5	6.8	12.4	珪質凝灰岩	北上山地・古生帯	
517	42-4	38-289	打製石製品	VII Mb - 2 焼土	3.3	4.0	1.4	19.5	珪質中粒凝灰岩	岩手盆地河内城・中新統	
518	83-72	69-72	打製石製品	VII Ma - II(下)	3.7	4.3	1.0	3.7	角閃石英安山岩質浮石	岩手南西部・〃	

## 5 区写真図版



5区空中写真

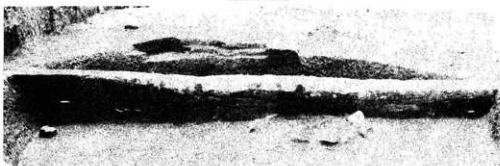


5区近景(東から)

写真図版 1 5区空中写真・近景



遺物出土状況



断面

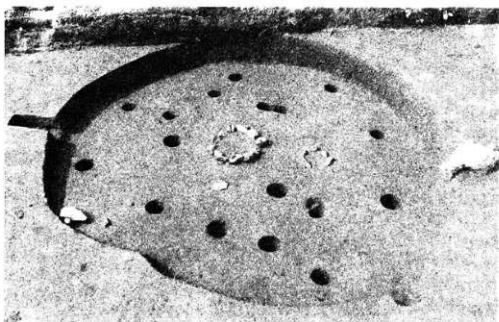


炉址断面

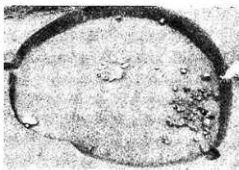


土器出土状況

写真図版2 VIIc-1住居址



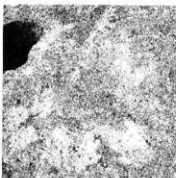
ⅦLc-2住居址完損



ⅦLc-2住居址遺物出土状況



ⅦLc-2住居址炉址断面



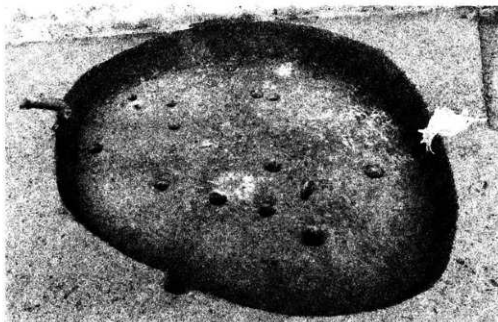
ⅦLc-3住居址炉址



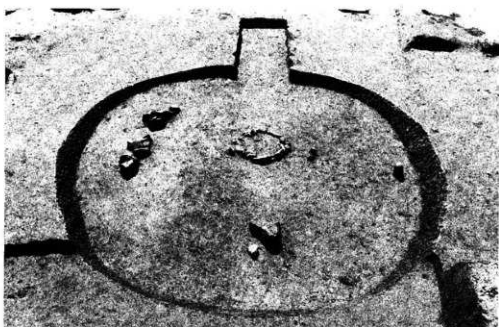
ⅦLc-3住居址炉址断面

写真図版3 ⅦLc-2・ⅦLc-3住居址





Ⅷ Lc-3 住居址完観



Ⅷ Ld 住居址遺物出土状況

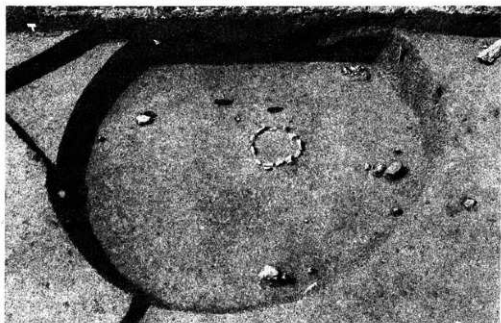
写真図版 4 Ⅷ Lc-3・Ⅷ Ld 住居址



VII Ld 住居址断面



VII Ld 住居址炉址断面



VII Le-1 住居址遺物出土狀況

写真図版5 VII Ld・VII Le-1 住居址



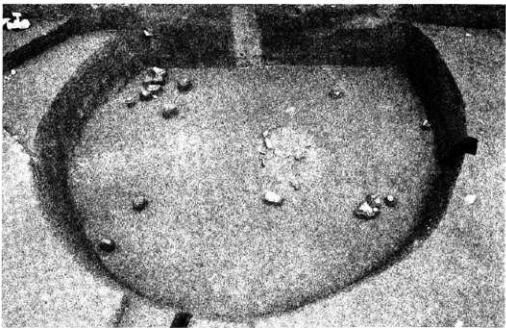
ⅤLe-1住居址断面



ⅤLe-1住居址土器出土状況



ⅤLe-1住居址炉址断面

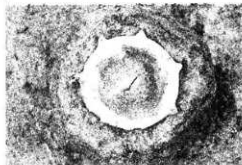


ⅤLe-2住居址遺物出土状況

写真図版6 ⅤLe-1・ⅤLe-2住居址



断面



土器出土状況



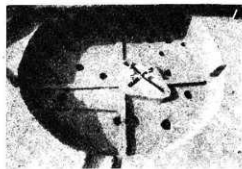
炉址



土器出土状況

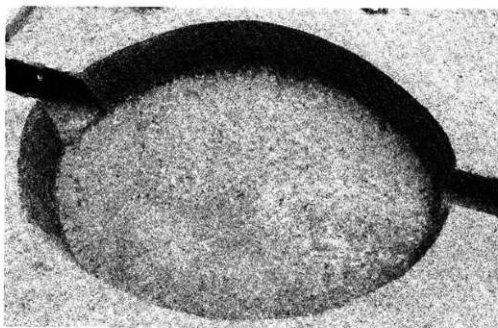


炉址断面

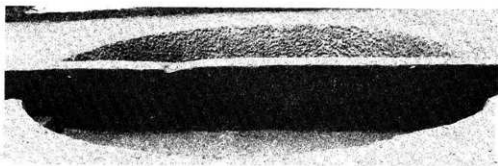


柱穴配置

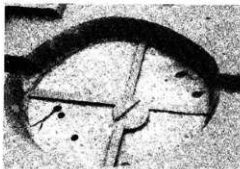
写真図版7 VIIe-2住居址



完掘



断面

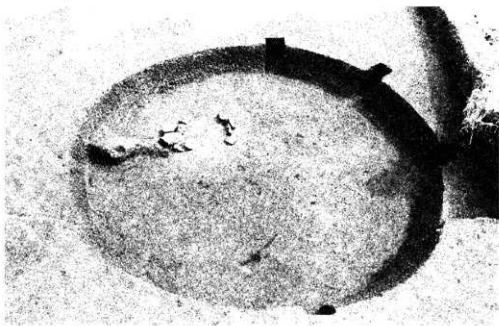


柱穴配置

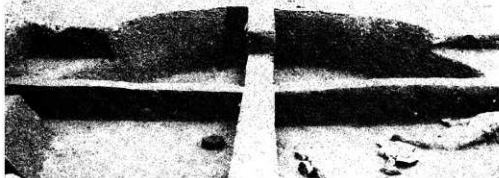


炉址断面

写真図版8 W L f住居址



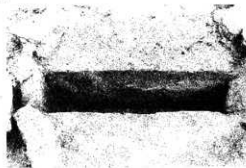
完器



断面

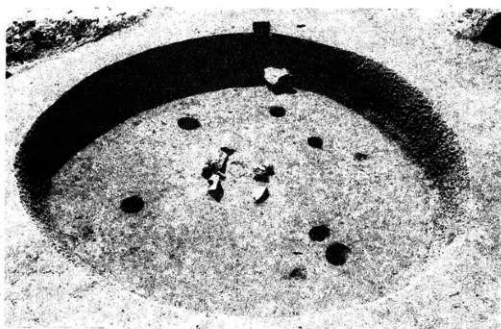


炉址

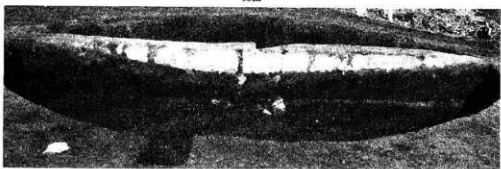


炉址断面

写真图版9 ⅡLg住居址



完備



断面

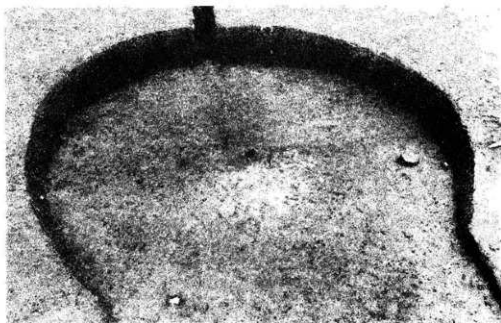


炉址



炉址断面

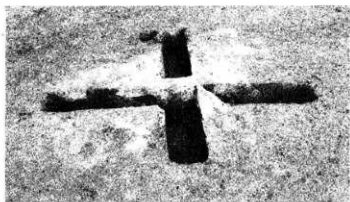
写真図版10 VII k住居址



完備



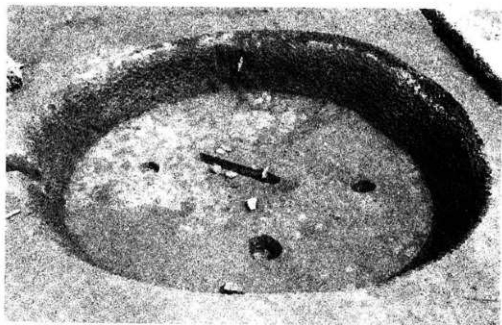
断面



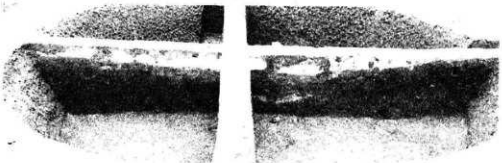
炉址断面

写真図版11 VIMn住居址





完備

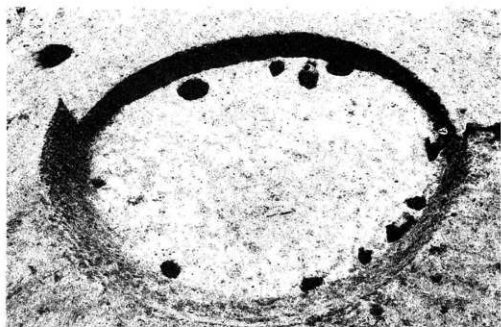


断面



炉址断面

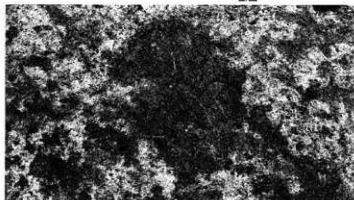
写真図版12 ⅡMb-1 住居址



完備

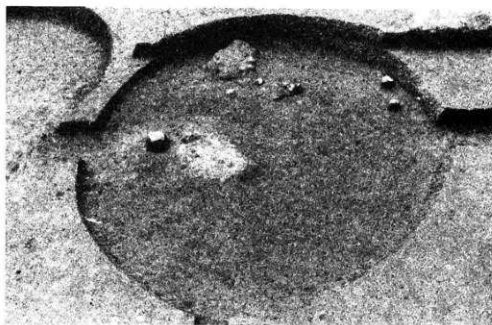


断面



炉址

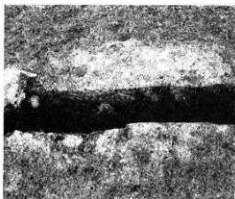
写真図版13 VII Mb-2住居址



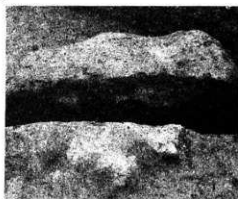
完備



断面

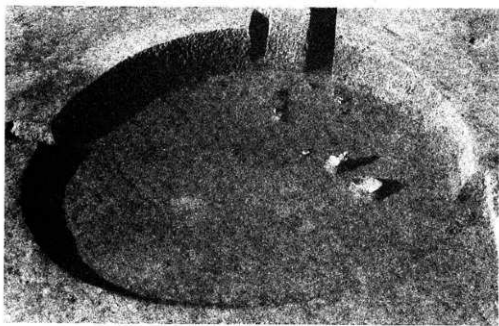


炉址断面



炉址断面

写真図版14 ⅧMc住居址



完標



断面

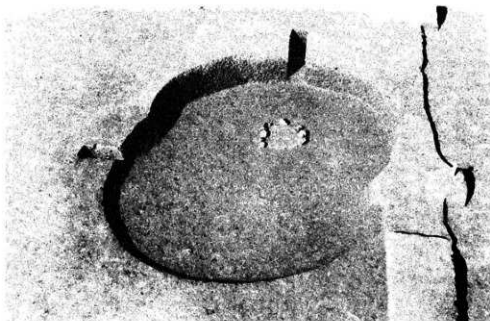


遺物出土状況

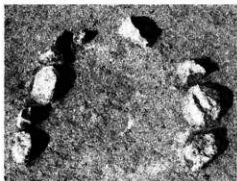


土器出土状況

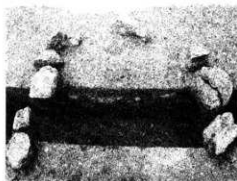
写真図版15 VII Md-1 住居址



ⅤMd-2住居址完攝



ⅤMd-2住居址炉址



ⅤMd-2住居址炉址断面



ⅤMe住居址断面

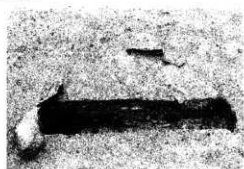
写真図版16 ⅤMd-2・ⅤMe住居址



ⅦMo住居址实照



ⅦMo住居址柱穴配置

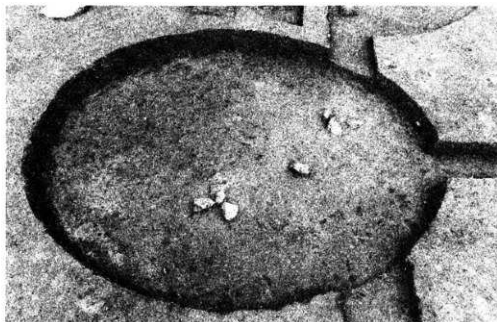


ⅦMo住居址炉址断面

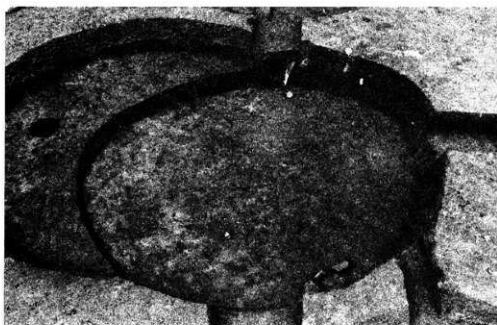


ⅦMf-1住居址断面

写真图版17 ⅦMo·ⅦMf-1住居址

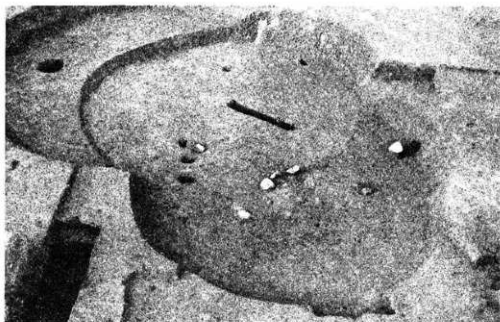


VMf-1住居址完掘



VMf-2住居址完掘

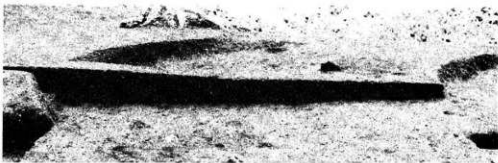
写真図版18 VMf-1・VMf-2住居址



ⅥMg住居址实掘



ⅥMg住居址炉址断面



ⅥNa-1住居址断面

写真图版19 ⅥMg·ⅥNa-1住居址



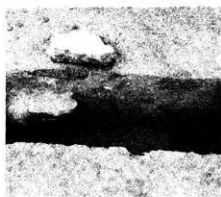


VII Ne-1 住居址完掘

VII Ne-1 住居址完掘



VII Ne-1 住居址ピット断面

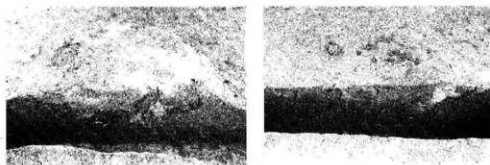


VII Ne-1 住居址伊豆断面

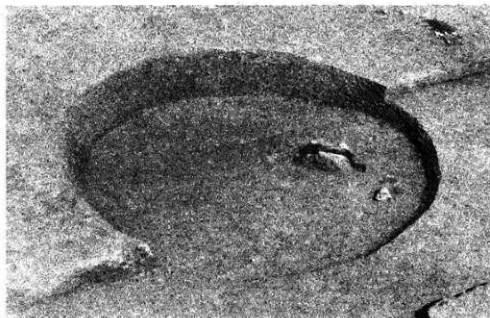


VII Ne-1 住居址断面

写真図版20 VII Ne-1・VII Ne-1 住居址



Ⅶ Na-1 住居址炉灶断面



Ⅶ Na-2 住居址完掘

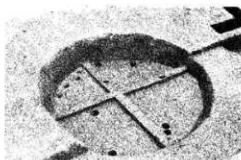


Ⅶ Na-2 住居址断面

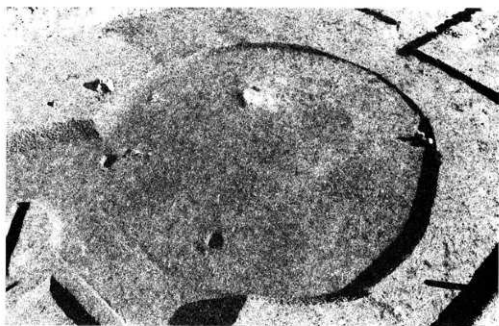
写真图版21 Ⅶ Na-1・Ⅶ Na-2住居址



Ⅶ Na-2住居址炉灶断面



Ⅶ Na-2住居址柱穴配置



Ⅶ Ne-2住居址完掘

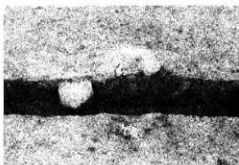


Ⅶ Ne-2住居址断面

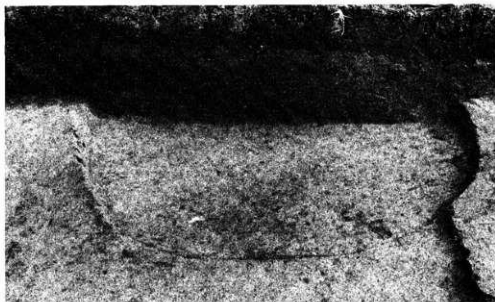
写真图版22 Ⅶ Na-2 · Ⅶ Ne-2住居址



Ⅵ Ne-2 住居址遺物出土状況



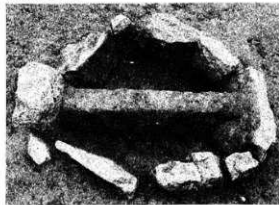
Ⅵ Ne-2 住居址炉址断面



Ⅵ Ng 住居址実照

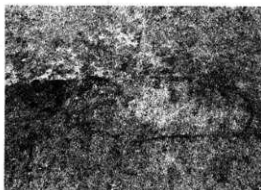


Ⅵ Lg 炉址

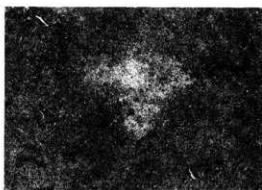


Ⅵ Lg 炉址断面

写真図版23 Ⅵ Ne-2・Ⅵ Ng住居址・Ⅵ Lg 炉址



VI L i 焼土



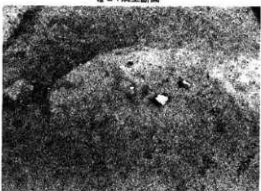
VI L i-1 焼土



VI L i 焼土断面



VI L i-1 焼土断面



VI L h 焼土



VI Mn 焼土

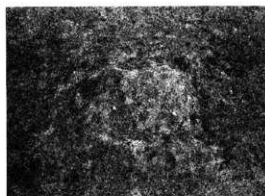


VI L h 焼土断面

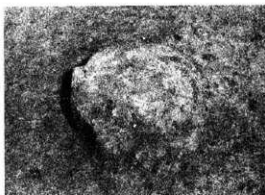


VI Mn 焼土断面

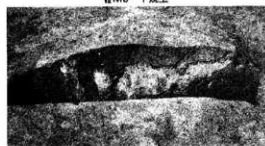
写真図版24 焼土遺構(1)



ⅣMb-1 烧土



ⅣMb-2 烧土



ⅣMb-1 烧土断面



ⅣMb-2 烧土断面



ⅣMb-3 烧土



ⅣMe 烧土

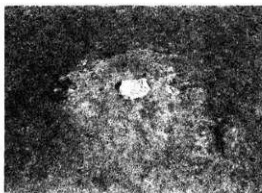


ⅣMb-3 烧土断面

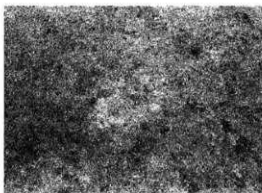


ⅣMe 烧土断面

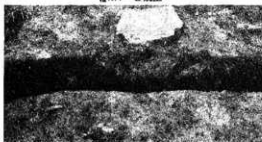
写真图版25 烧土遺構(2)



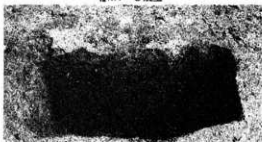
甬Mf-2 烧土



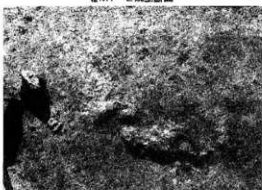
甬Mf-3 烧土



甬Mf-2 烧土断面



甬Mf-3 烧土断面



甬Mf-4 烧土



甬Mf-5 烧土



甬Mf-4 烧土断面



甬Mf-5 烧土断面



V Mf-6 烧土



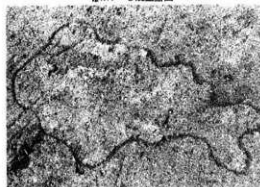
V Mg-1 烧土



V Mf-6 烧土断面



V Mg-1 烧土断面



V Mg-2 烧土



V Mj 烧土



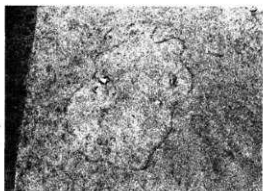
V Mg-2 烧土断面



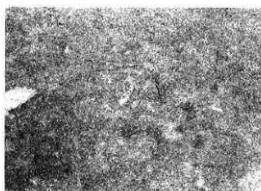
V Mj 烧土断面

写真图版27 烧土构造(4)





冪Mb-4 焼土



冪Mf-1 焼土



冪Mb-4 焼土断面



冪Mf-1 焼土断面



冪Li-2 焼土断面



冪Mfピット



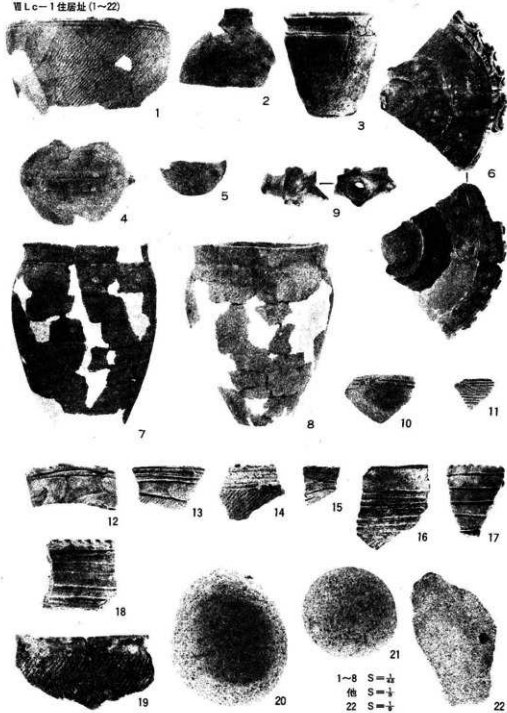
冪Li 埋設土器



冪Mfピット断面

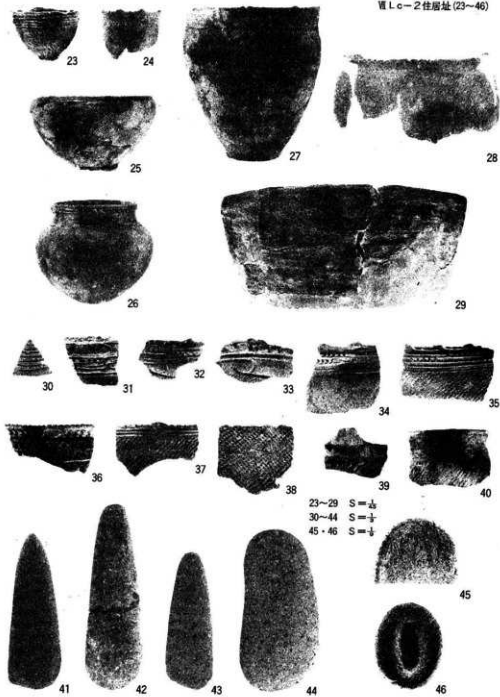
写真図版28 焼土遺構(5)・ピット・埋設土器

W Lc-1 住居址 (1~22)

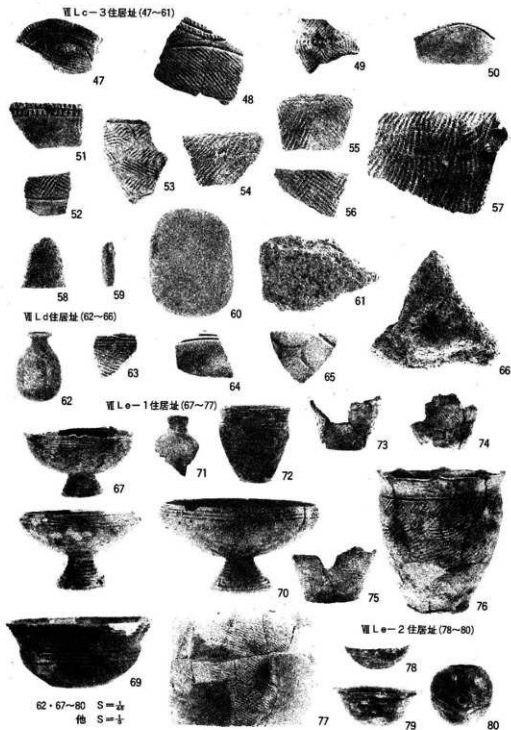


写真図版29 5区遺構内出土遺物(1)

Ⅴ Lc-2住居址(23~46)

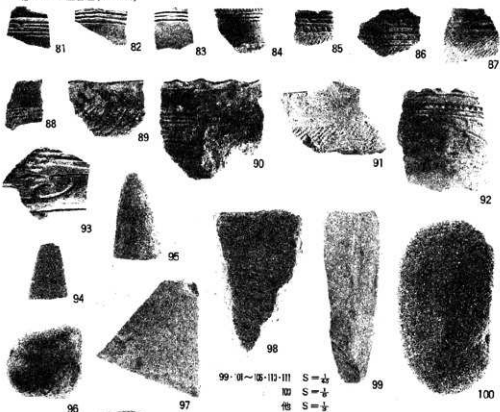


写真図版30 5区遺構内出土遺物(2)

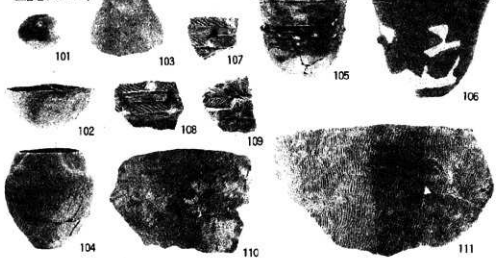


写真図版31 5区遺構内出土遺物(3)

VI Le-1 住居址(81~100)



VI Le-2  
住居址(101~111)



写真図版32 5区遺構内出土遺物(4)

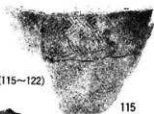
Ⅱ L e-2 住居址(112~114)



112



114



115

Ⅱ L f 住居址(115~122)



113



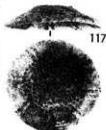
119



121



122



117



118



120

Ⅱ L g 住居址(123~131)



123



125



126



128



129



124



127



130



131

Ⅱ L k 住居址(132~142)



132



134



135



136



133



138



139



140



141

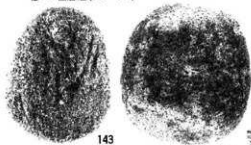


142

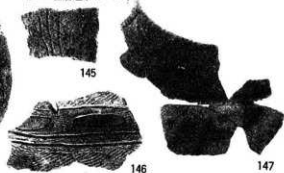
114-122 S =  $\frac{1}{4}$   
 115-124-136 S =  $\frac{1}{2}$   
 他 S =  $\frac{1}{2}$

写真図版33 5区遺構内出土遺物(5)

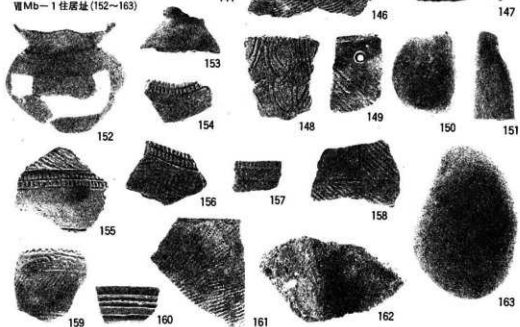
ⅤL'住居址(143·144)



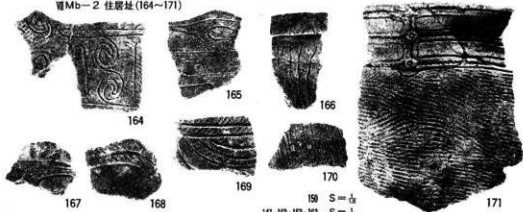
ⅤMm住居址(145~151)



ⅤMb-1住居址(152~163)



ⅤMb-2住居址(164~171)



150 S =  $\frac{1}{4}$   
147·152·153·163 S =  $\frac{1}{4}$   
他 S =  $\frac{1}{2}$

写真图版34 5区遺構内出土遺物(6)

ⅡMb-2 住居址(172)



172

ⅡMc 住居址(173~180)



173



174



175



176



177



178



179

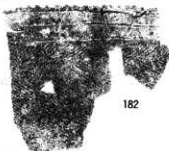


180

ⅡMd-1 住居址(181~189)



181



182



186



183



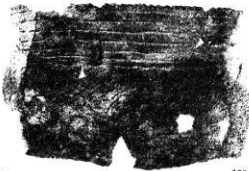
184



185

173~180-184-185-186 S=十  
佐 S=山

187



188

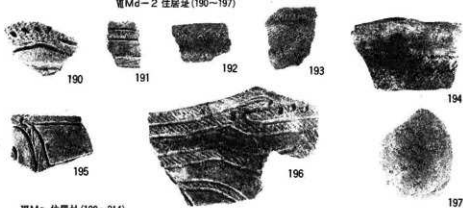


189

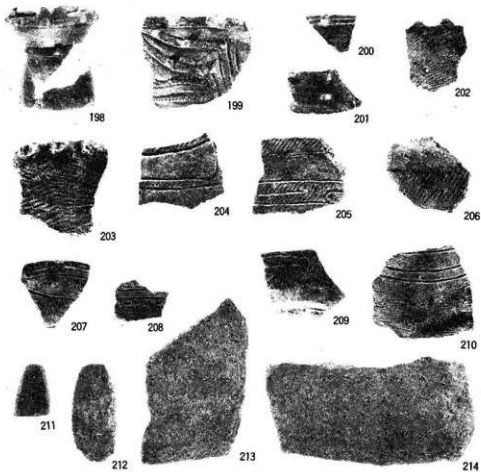
写真図版35 5区溝内出土遺物(7)



ⅧMd-2 住居址(190~197)



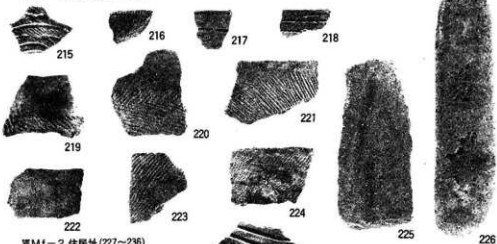
ⅧMe 住居址(198~214)



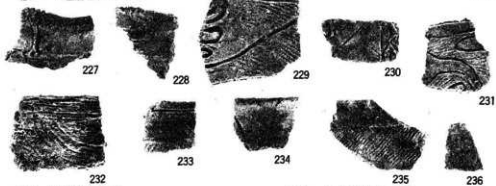
Ⅷ・Ⅷ1~Ⅷ4 S=△  
他 S=+

写真図版36 5区遺構内出土遺物(8)

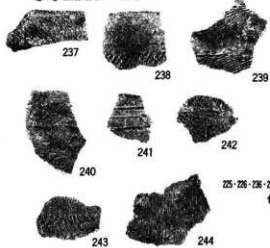
## ⅡMf-1 住居址 (215~226)



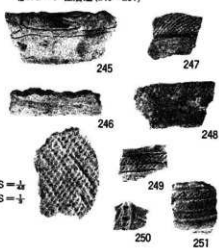
## ⅡMf-2 住居址 (227~236)



## ⅡMg 住居址 (237~244)



## ⅡNa-1 住居址 (245~251)



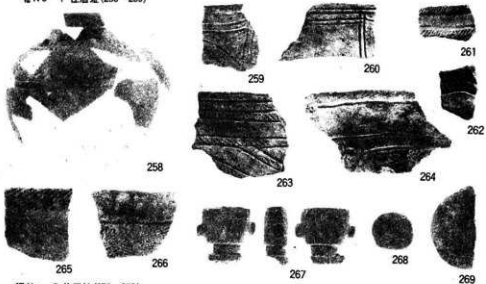
25・26・27・28 S =  $\frac{1}{2}$   
他 S =  $\frac{1}{4}$

写真图版37 5区遺構内出土遺物(9)

Ⅴ Na-1 住居址 (252~257)



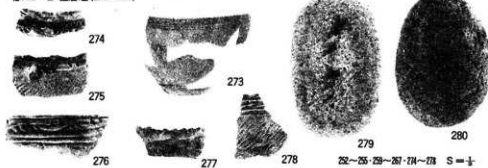
Ⅴ Ne-1 住居址 (258~269)



Ⅴ Na-2 住居址 (270~272)



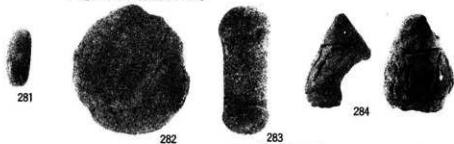
Ⅴ Ne-2 住居址 (273~280)



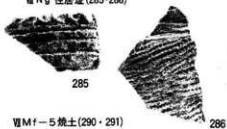
25~26・28~29・74~75 S=十  
他 S=点

写真図版 38 5区遺構内出土遺物(10)

ⅤNe-2 住居址(281~284)



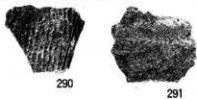
ⅤNg 住居址(285・286)



ⅤMb-3 焼土(287~289)



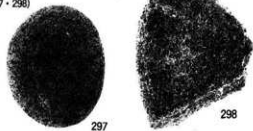
ⅤMf-5 焼土(290・291)



ⅤMfピット(292~294)



ⅤLh 焼土(296)

ⅤMe 焼土  
(297・298)

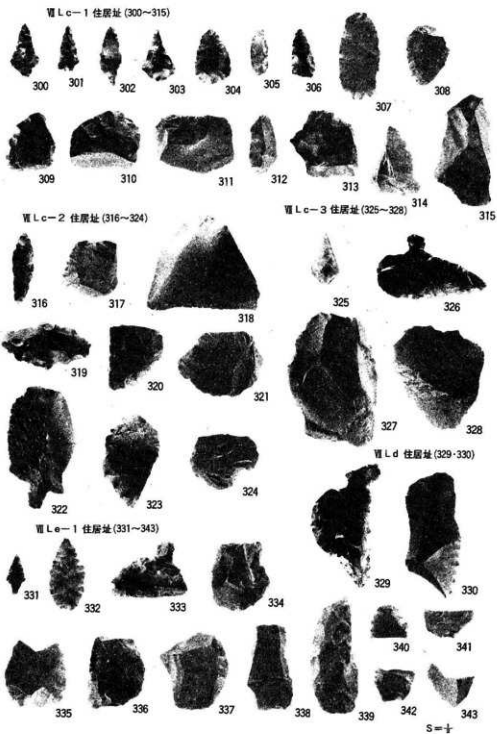
ⅤMj 焼土(295)



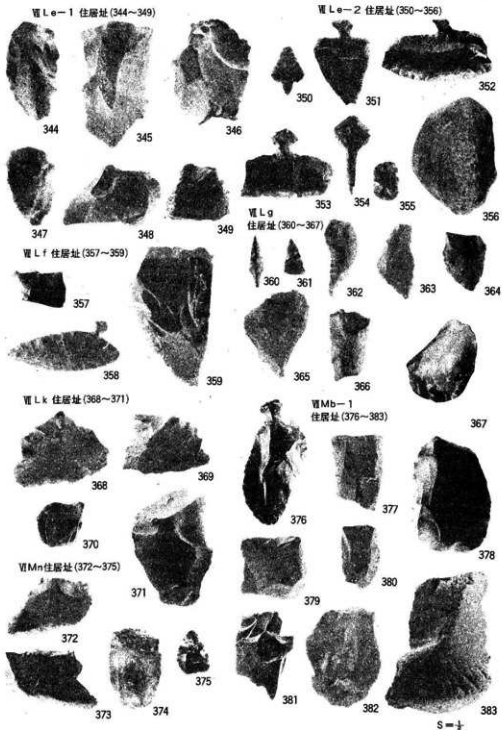
ⅤLd 埋設土器

287・288・289 S=土  
他 S=土

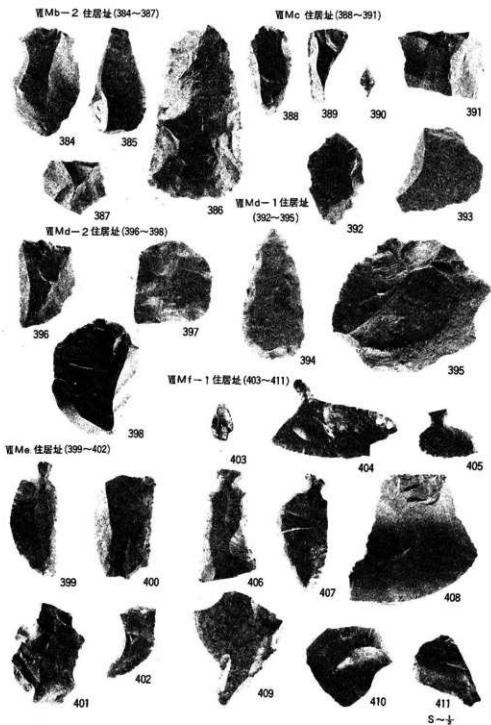
写真図版39 5区遺構内出土遺物(11)



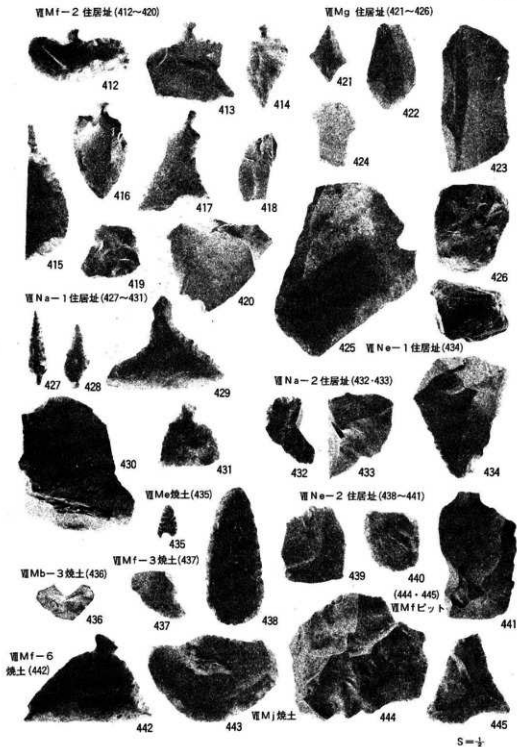
写真図版40 5区遺構内出土遺物(12)



写真图版41 5区遺構内出土遺物(13)



写真图版42 5区遺構内出土遺物(14)



写真図版43 5区遺構内出土遺物(15)





写真図版44 5区遺構外出土遺物(1)



9



10



11



13



12



14

13 約S=十  
他 約S=△

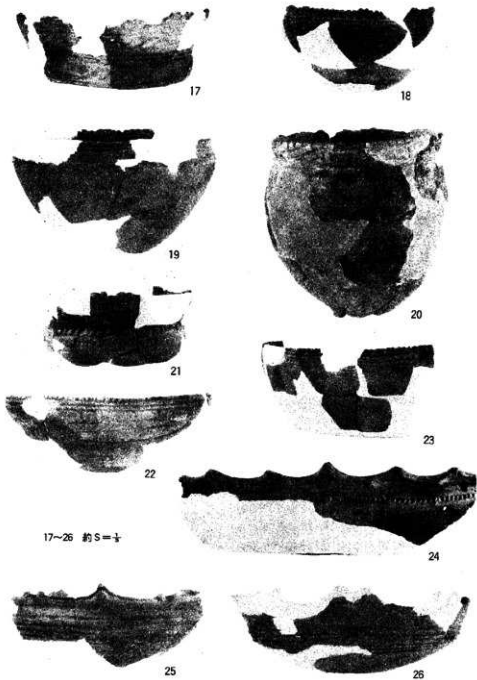


15

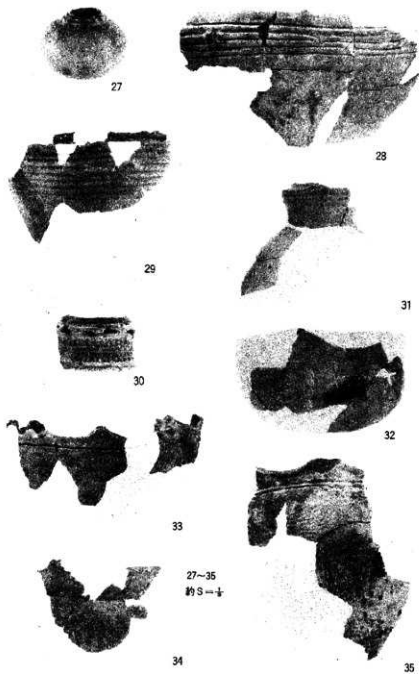


16

写真図版45 5区遺構外出土遺物(2)



写真图版46 5区遺構外出土遺物(3)



写真図版47 5区遺構外出土遺物(4)



36



37



38



39



40



41



42



43

36~44  
約S=古



44

写真図版48 5区遺構外出土遺物(5)



45



46



47



49

45-50  
約S=1/4

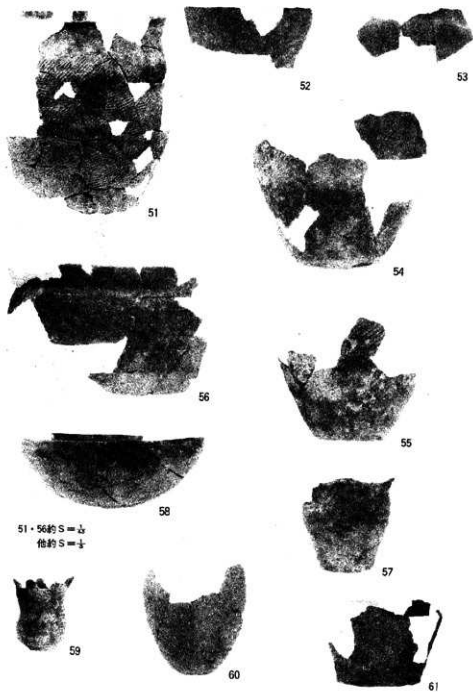


50

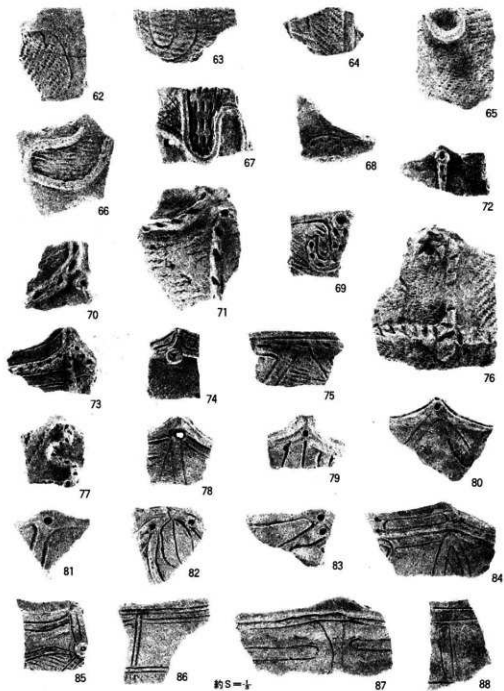


48

写真図版49 5区遺構外出土遺物(6)

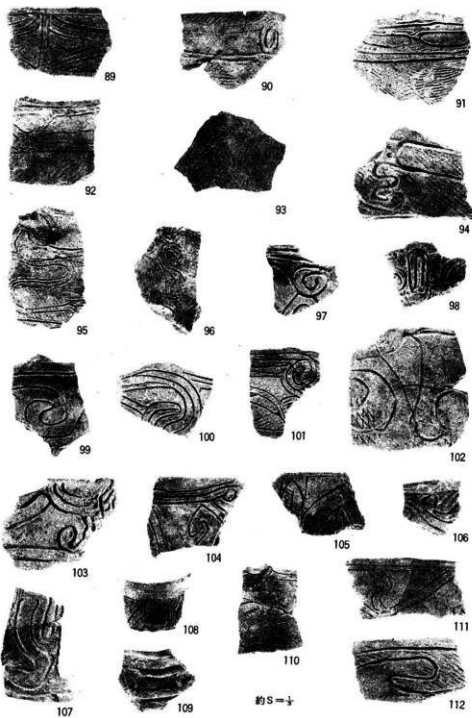


写真图版50 5区遺構外出土遺物(7)

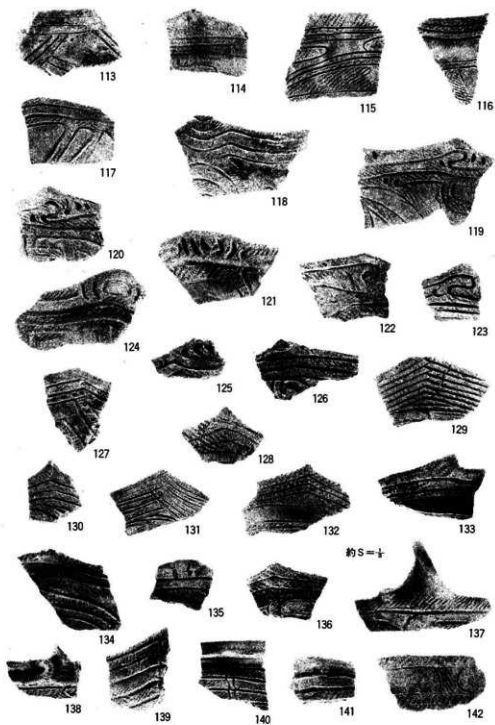


写真図版51 5区遺構外出土遺物(8)

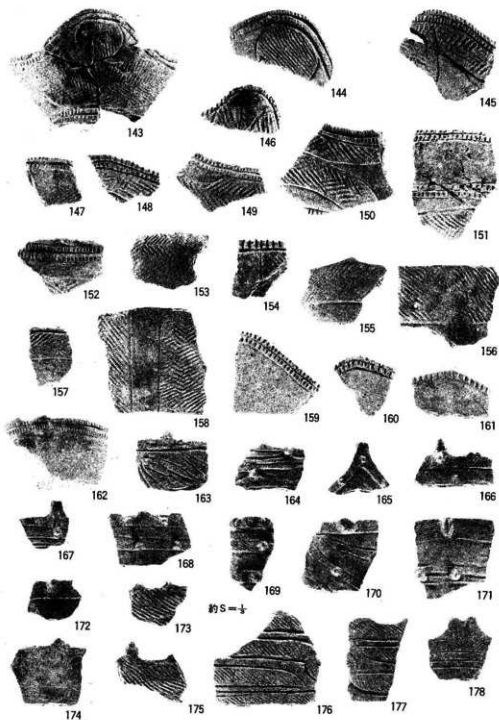




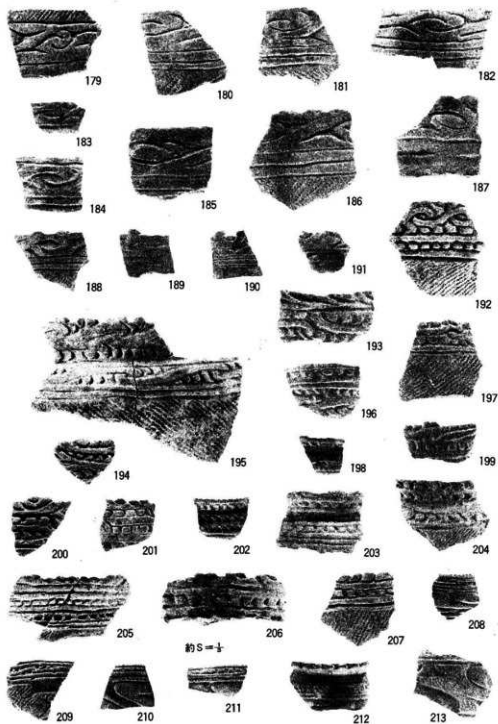
写真図版52 5区遺構外出土遺物(9)



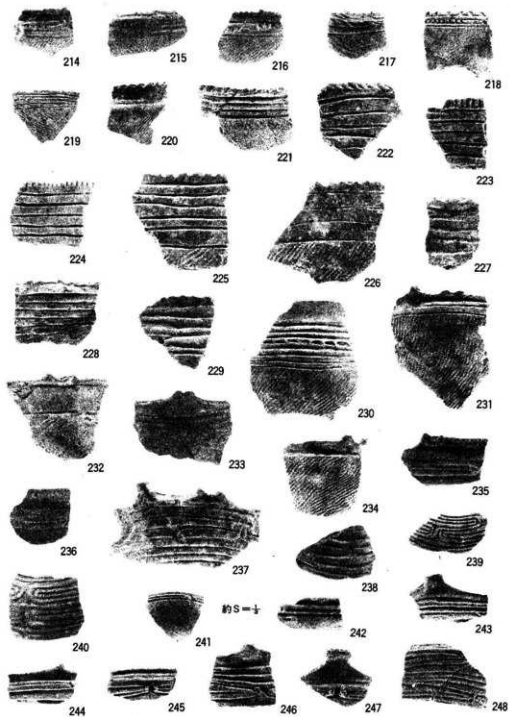
写真図版53 5区遺構外出土遺物(10)



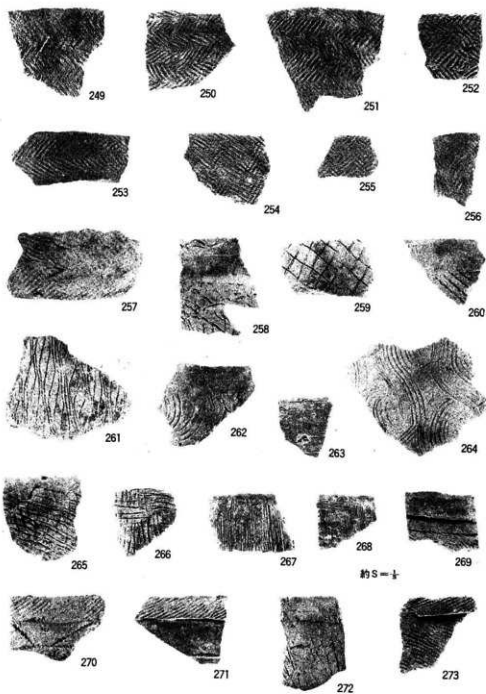
写真図版54 5区遺構外出土遺物(11)



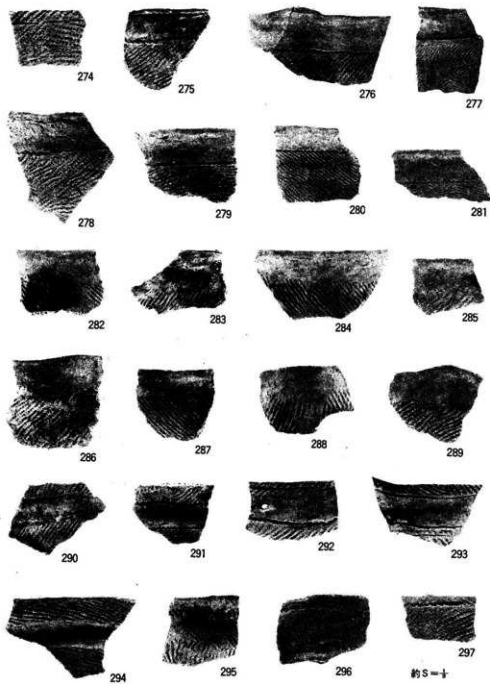
写真図版55 5区遺構外出土遺物(12)



写真图版56 5区遺構外出土遺物(13)



写真図版57 5区遺構外出土遺物(14)



写真図版58 5区遺構外出土遺物(15)



298



299



300



301



302



303



304



305



306



307



308



309



310



311



312



313



314



315



316

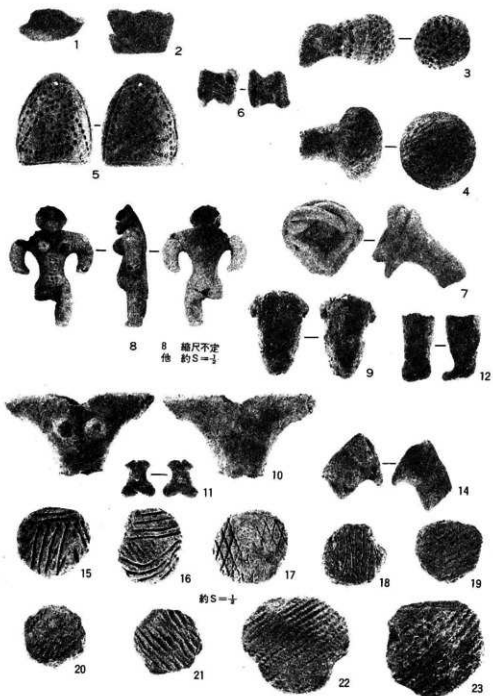


317

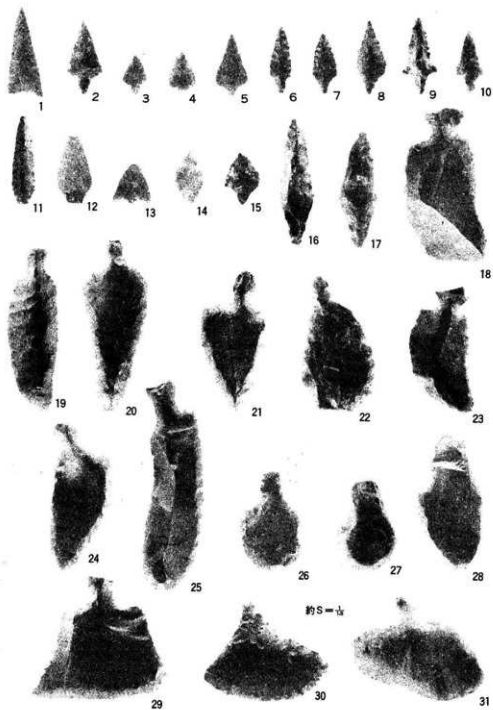
約S—十

写真図版59 5区遺構外出土遺物(16)

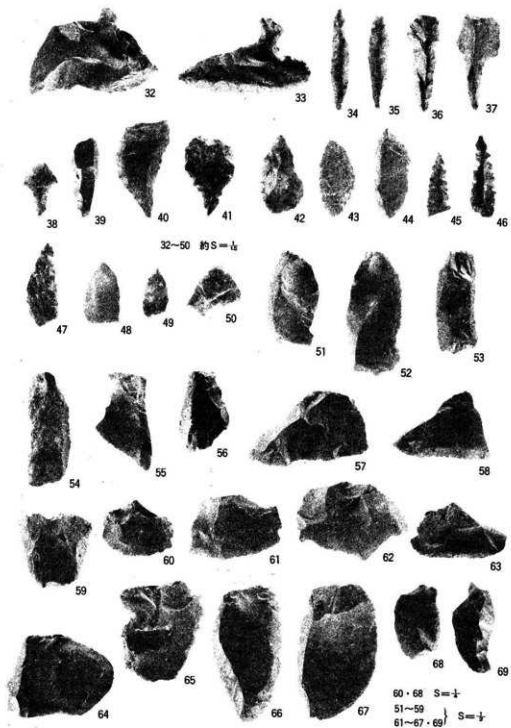




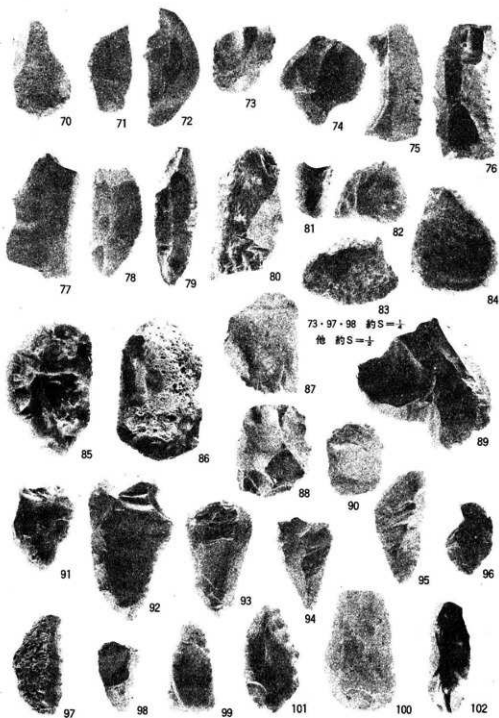
写真図版60 5区遺構外出土遺物(17)



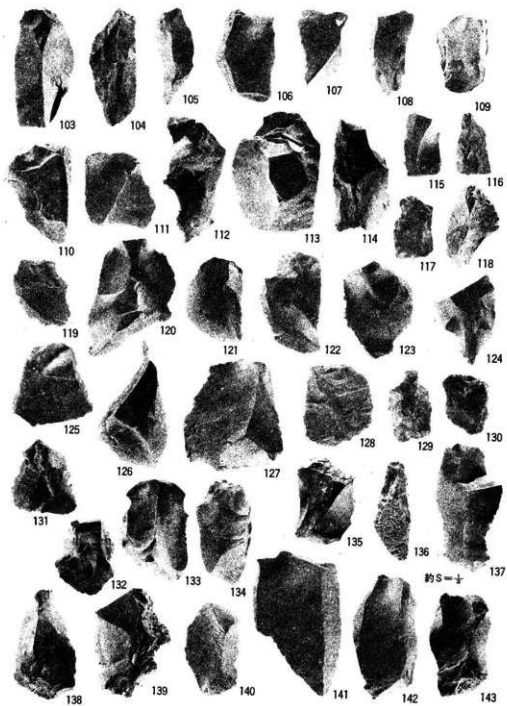
写真図版61 5区遺構外出土遺物(18)



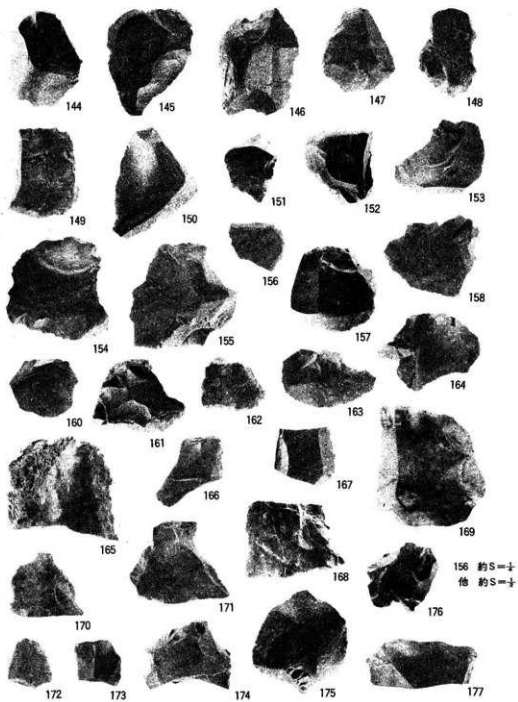
写真图版62 5区遺構外出土遺物(19)



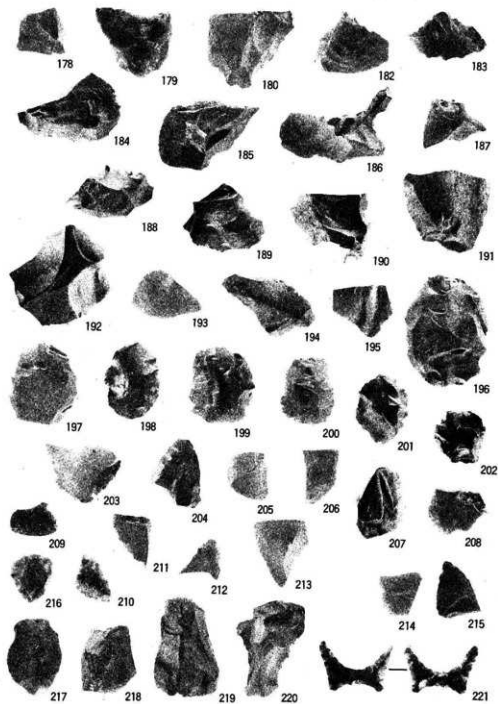
写真図版63 5区遺構外出土遺物(20)



写真図版64 5区遺構外出土遺物(21)

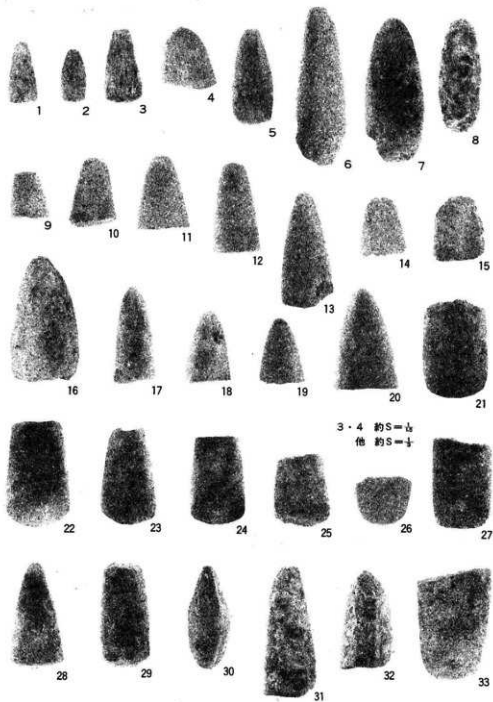


写真图版65 5区遺構外出土遺物(22)



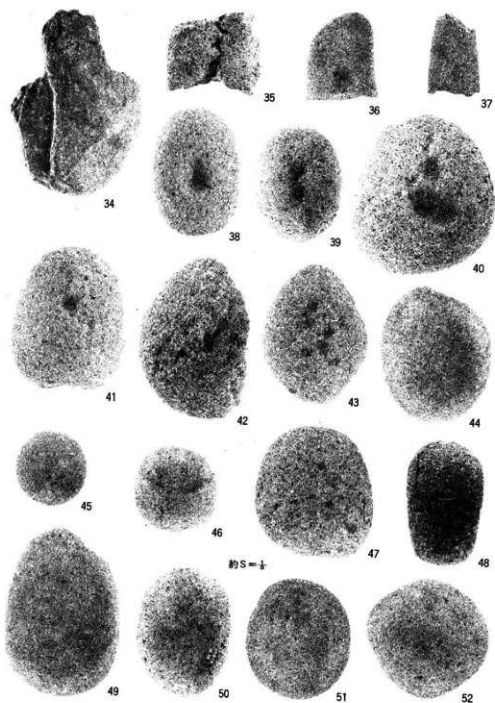
写真图版66 5区遺構外出土遺物(23)

約S=1/1

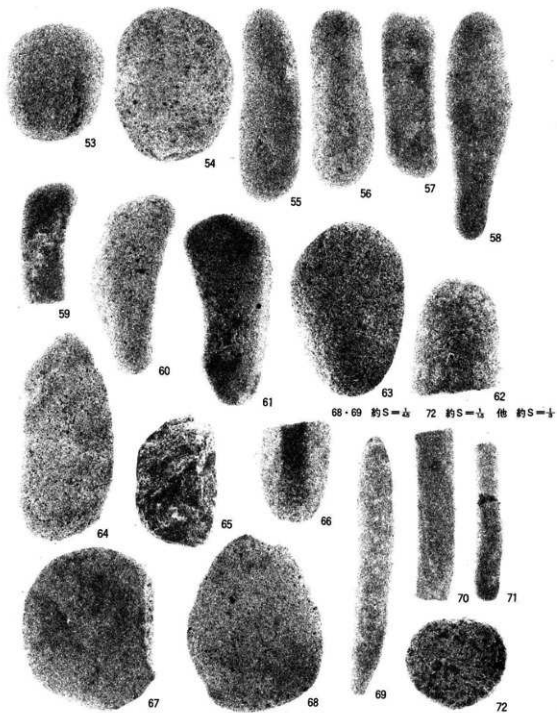


写真図版67 5区遺構外出土遺物(24)

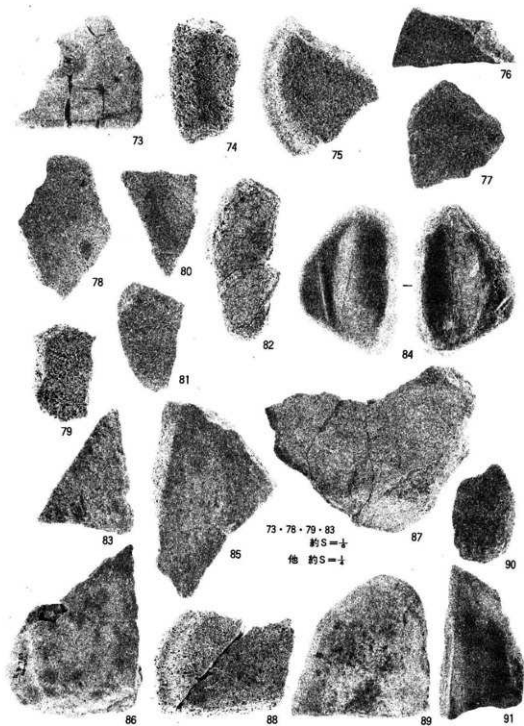




写真図版68 5区遺構外出土遺物(25)



写真図版69 5区遺構外出土遺物(26)



写真图版70 5区遺構外出土遺物(27)